恵迪

恵迪百年記念号
（通刊第７号）

初代恵迪寮舎（北海道開拓の村保存展示）

2007年

恵迪寮同窓会

JR
JR東日本グループ

エコ・シンフォニーをごいっしょに。

子供のころからある風景を、
きれいな空気のある環境を、
ずっとずっと守りたい。
ＪＲ東日本はCO_2の排出を減らすために、
省エネルギー車両の導入を進めています。
たとえば、世界初のディーゼルハイブリッド鉄道車両※。
鉄道がもっと環境と調和するように、
私たちにできることがあります。

※小海線で営業運転しています。（愛称名「こうみ」）

くらしに響きを。ＪＲ東日本グループ

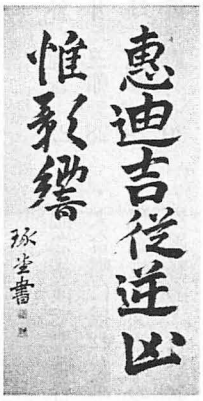
祝 北大恵迪寮百年

佐藤　静子さん書

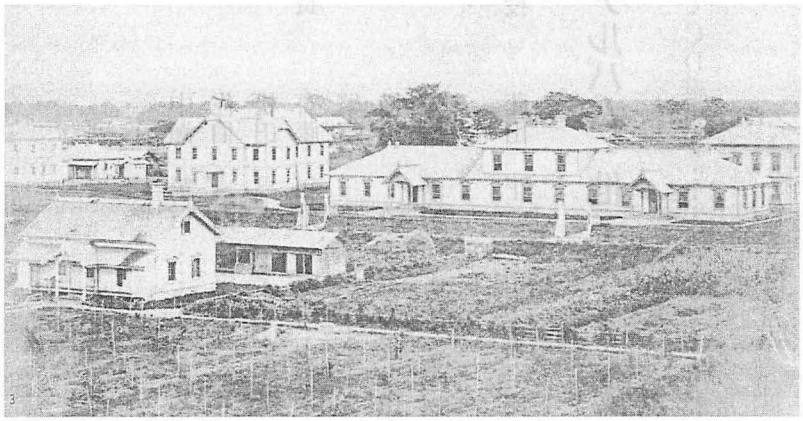
佐藤昌介は札幌農学校第１期生、卒業後に母校の職員となったが1882年（明治15）に渡米し、ジョンズ・ホプキンス大学に学んでドクター・オブ・フィロソフィーの学位を得て1886年（明治19）に帰国した。同年札幌農学校教授となり、当時の農学校の縮小廃止論に抗して学校の再編拡大に奔走した。1891年（明治24）校長心得、1894年（明治27）校長となり以後東北帝国大学農科大学長、北海道帝国大学総長を歴任して、４学部を擁する総合大学にまで育て上げた。

自身も恵迪寮の前身である寄宿舎で学生生活を送り恵迪寮の発展にも力を注いだ佐藤昌介の略歴を以下に記す。

北大初代総長　佐藤昌介



佐藤昌介初代総長揮毫の「恵迪吉」から



札幌農学校宿舎（1876～1903）

恵迪百年記念号〔通巻七号〕目次

扉

特集1
恵迪寮百年記念に寄せる

祝　北大恵迪寮百年　佐藤昌介総長　恵迪寮同窓会会長　中瀬　篤信……4
式辞　地球人としての自覚を　北海道大学総長　佐伯　浩……6
祝辞　恵迪寮百年を祝って　北海道大学連合同窓会会長　松田　昌士……7
祝辞　百二十年・百年から次のステージへ　北海道大学連合同窓会副会長　齊藤　和雄……8
祝辞　毎日楽しく過ごした寮生活　恵迪寮同窓会名誉会長　繁富　一雄……9
祝辞　継続は力なり　恵迪寮同窓会代表幹事　横山　清……13
恵迪寮百年記念寄贈寮歌「不老の青春」　作詞作曲　千川　浩治……14

記念特別講演
新渡戸稲造を育てた札幌農学校の教育　北海道大学獣医学研究科教授　藤田　正一……15

グラビア
北の空に大地に満ちる恵迪魂（百年記念祭）東日本寮歌祭アルバム　他……17

特集2
百年記念祭報告

恵迪寮百年記念祭報告（銘板も新たに威風堂々と歌碑・ＯＢと現役手取り合ってＣＤ誕生）……23
恵迪百年記念祭に取り組んで
・全面的に成功した喜び　厚谷　純吉　27
・寮歌ＣＤ制作に当たって　新井　三郎　28
・歌碑「都ぞ弥生」改修工事始末記　山崎　克彦　29
・三つの感謝と感動の記念祭　白浜　憲一　30
・今後の事務局のあり方　渕上　玲子　31
・記念講演で悪戦苦闘　八重樫幸一　32
・大合唱に揺れたエルムの森　千川　浩治　33
・現寮生と交流深めた記念祭　高橋　洋一　34
・疾風怒濤！大寮歌祭　谷口　哲也　34
・恵迪寮万歳・記念祭万歳　木村　正博　35
百年記念事業「醸金者ご芳名録」

特集3

青春の百年／同窓生回顧文拾遺

・恵迪寮百周年に思う　富士野昭典　40
・家族五人「恵迪」と強い絆　芝垣　美夫　41
・恵迪寮訪問記　横平　弘　42
・ラグビースピリッツ　萩原　昇　43
・札幌農学校出身麻布中学清水校長の思い出　小沢　久弥　45
・恵迪寮とわが親父　玉置　和宏　48
・脱皮　坂本富士郎　49
・寮歌は時代と共に歌い方が変わる　三河　勝彦　50
・恵迪寮の猩紅熱事件と背景　河合　正泰　51
・恵迪寮寮歌よ永遠なれ　中村　陽三　54
・寮のストームの音を懐かしく憶う　宍戸　昌夫　55
・エッセイとお願い　青田　昌秋　56
・昭和二十八年～昭和二十九年　平野　亮輔　58
・恵迪寮を購入した話　高井　宗宏　61
・恵迪寮の不思議　藤岡論君夫人　藤岡真知子　63
・恵迪寮歌考　金　武彦　66
・ウィア　アルバイテン　梶浦　政男　68
・入寮から東京寮歌祭まで　安藤　俊春　70
・吾が人格形成の坩堝・恵迪寮の出会い　喜多　祐荘　71
・寮務委員長として苦労　吉見　一郎　72
・剣道など充実した毎日　河合　惣吾　74
・悠々自適？　湯浅　亮　75
・醒めよ迷いの夢醒めよ　高橋　昭雄　76
・防雪林　小林　大二　77
・食堂にあったオルガン　千坂　邦弘　79
・S上S　岡本　敏一　80
・「都ぞ弥生」と私との縁　小篠　守正　81
・座標軸～文化大革命に翻弄された人生　佐藤　一正　82
・思い出の中の恵迪寮　小池　秀正　85
・ぼう洋の海と寮歌CD制作　前野　紀一　86
・寮生活の思い出～恵迪寮百分の一　浦谷　義博　87
・太平洋戦争直前の恵迪寮　杉村　興作　89
・昭和三十五年座談会「北大における恵迪寮の立場」（昭和三十三年入寮生の皆さん）　90
話題あれこれ
①スチュークラーク夫妻が来日　101
②台風で倒れたポプラ　次々と楽器に　102
③恵迪OB渡辺　興亜氏が講演　103
初夏　小沢　久弥　104
講演題目「流氷」　青田　昌秋君（昭三十三年入寮）　105
Ⅷ南鷹次郎総長揮毫「恵迪寮」看板　110
第十一期総会報告　新会長に横山清、代表幹事に白浜憲一氏就任　111
各支部報告、東日本支部活動史、他　115
新商品：都ぞ弥生オルゴール、寮歌CD、ポストカード他　121
北大百三十年・恵迪寮百年史　122
百年記念事業協賛の企業広告等　138
俳句
平十八年開識社
恵迪寮文化財
同窓会通信
恵迪グッズ販売
恵迪寮年表
協賛広告
編集後記

式辞

地球人としての自覚を！

恵迪寮同窓会・会長　中瀬篤信（昭和26年入寮）

会場にお集まりの恵迪寮同窓の諸君、そしてまたご多忙のところご参会頂きましたご来賓の皆様、恵迪寮百年　おめでとうございます。

本日、恵迪寮命名百年記念祭の式典に、北海道大学総長佐伯　浩先生、そして北大連合同窓会副会長・齋藤　和雄様がご来臨下さり有難うございます。真に光栄とするところでございます。

ご承知の如く　明治九年七月、マサチューセッツ農科大学学長のウイリアム・S・クラーク博士が招かれ、初代教頭となり、その開校式において「崇高なる大志（lofty ambition）を胸中に呼び起こし、国家社会において重要な役割を果たして欲しい」と述べ、本学の教育の亀鑑を定められたのであります。

明治三十八年四月：北十条西七丁目に南北二棟の新寄宿舎が完成し、この寄宿舎に名前を付けようじゃないかの声に、明治四十年（一九〇七）四月、四書五経の「書経」の「迪に恵えば吉し」の言葉から「恵迪寮」と命名され、又、最初の寮歌「一帯ゆるき」が誕生、爾来、今年が丁度百年の記念すべき年となったのであります。

恵迪寮と命名されるや、寮はまるで生き物のように息づき、毎年作られる寮歌と新しい催しがクラーク先生の教えに基づく開拓精神を涵養し、揺るぎない伝統を作り上げていったのです。明治四十五年には、寮歌「都ぞ弥生」が誕生、北の自然をおおらかに歌い上げ、単に恵迪寮生にとどまらず、全国の学生の詩情を養いました。

昭和六年十一月、北十七条西八丁目に四棟からなる二代目の恵迪寮が完成。この寮舎は、昭和五十八年、現在の第三代目の恵迪寮が出来るまでの約五十年にわたる激動の時代に大きな役割を果たしました。即ち、満州事変の拡大、第二次世界大戦、学徒動員、恵迪の仲間達の戦死、そして敗戦。戦後の食糧難時代を潜り抜け、安保反対から津波のように襲った学生運動の嵐の中で、我らが恵迪寮は、明治三十二年以来の自治の砦を頑なに守りぬいたのです。

有為転変の世情の中で、寮友とは夜昼なく激論を交わし、互いに切磋琢磨し、困難な或る時には寮歌を歌って己を鼓舞し、悲しみにあっては友と肩を寄せ慰めあい、恵迪の館はまさしく若者の魂の揺籃でありました。

昭和五十六年、北大当局が、老朽化した恵迪寮舎を取り壊すと知

ったOB達は、旧寮舎の開拓村への一部保存、寮名の継承、寮歌作成の継続を目標として、昭和五十八年、全国的な恵迪寮同窓会を立ち上げ、これらの目標を見事に達成したことは既にご承知の通りであります。

今般、恵迪百年記念祭を開催するに当たり、恵迪寮同窓会の最も懸念しておりました「都ぞ弥生」の歌碑の修復を果たし、そしてまた、クラーク先生の肖像画や佐藤昌介初代総長の書など十数点に及ぶ貴重な恵迪文化財を大学当局が管理して頂くことが決まり、胸を撫でおろす思いでおります。いずれ時と場所を得て、学内に一括展示されることを切に希望いたします。

さて、昭和五十八年（一九八三）四月、雪の結晶の六棟から成る新しい恵迪寮が発足、既に二十四年を経過し、古き伝統を継承しながら新しい寮歌や新しい行事も生まれ、現在、女子学生や大学院生、海外留学生をも含む可能性の大きい恵迪寮となっています。特に留学生諸君と親しく交流することにより、それらの国々の風俗や文化を深く学びとることが出来ます。これは世界に貢献するための第一歩です。

人類に貢献した一人にアルベルト・シュヴァイツアーを思い出します。神学者でもあり、医師であった彼は、仏領赤道アフリカのランパレネで恵まれない人々のために医療活動を行ったのでありますが、そうした行動の根源となったのは、彼がボア川を遡った際、大きな夕日が、天も地も、生きとし生けるもののすべてを真っ赤に包み込んだ自然の営みの荘厳さに打たれreverentia vitae『生命への畏敬』と深く感じ入ったのでした。Ehrfurcht von dem Leben 生命への限りない畏敬の念が彼の行動の原点となったのでした。

さて、一九九二年の北大の入学式の告示の中で、総長広重　力先生は『崇高な大志（lofty ambition）を持つ者が抱く内なる畏敬の念、それは、わが北大の恵迪寮寮歌「都ぞ弥生」の一節、『さやめく甍に久遠の光、厳かに北極星を仰ぐかな』に彷彿として現れている』と述べており、広重先生は、吾らが在る悠久なる宇宙に対する畏敬の念、ひいては生命への畏敬の念を寮歌の中に読み取り、学生諸君に教示されたのでした。

現今、世界に広がる地域紛争、そして地球温暖化による思いもかけない大きな災害、人も動物も植物も総てが生命の危機に曝されています。二十一世紀は、人為的に地球が壊れかかっている時代なのです。今や、個人個人が、こうした地球規模の問題に対する責任を自覚し、生きる時代が来たのです。この時代に如何にあるべきかを考え、選択し、創造する、そうした主役となるべき人間を育てる坩堝、それが伝統ある我が恵迪寮なのです。恵迪百年記念の式典にあたり、現役寮生にこうした地球人としての自覚を強く望むものであります。

結びに、北海道大学総長佐伯先生を始めご来賓の各位に、そして恵迪寮百年祭開催にご協力くださった北海道大学当局、現役の寮生諸君、そして同窓会の諸氏に心からのお礼を申し上げ、そしてまた、この恵迪寮百年の節目を超え新たな世紀に向かって、なお栄え行く我らが寮を誇らずやと申し述べ、恵迪寮百年記念式典の式辞と致します。

平成十九年九月吉日

恵迪寮百年を祝って

北海道大学総長　佐伯　浩

明治九年（一八七六年）に、札幌農学校が開校してから今年で一三二年目を迎えたことになります。札幌農学校が北一条から現在のキャンパスに移転した二年後の明治三十八年に、現在の文系学部・研究科の近くに寄宿舎が建てられ、明治四十年（一九〇七年）に、当時の予科の漢文助教授であった新居敦二郎により「恵迪寮」と命名されましたが、この時より、今年が百年目という記念すべき年に当ります。その後、現在の高等教育機能開発総合センター西側に移転し、昭和七年一月に開寮式が実施されました。昭和五十八年（一九八三年）、建物の老朽化により、キャンパス北西部に新たに管理棟を中心に六つの宿泊棟を放射状に配置し、雪の結晶を想起される鉄筋コンクリート造りの新生「恵迪寮」が建設され、現在に至っています。このように、寮はキャンパスの北西方向へ向かって二度場所を替えたことになります。最初のころは本科生と予科生が同居していたそうですが、大正中期には九割以上が予科生であったそうです。

この恵迪寮では、毎年、寮生により寮歌が創られていますが、特に明治四十五年度の寮歌「都ぞ弥生」は、北大の在学生や卒業生はもとより、広く多くの人々に歌われていて、我々北大出身者にとっては誇りでもある名曲でありますし、本州から北大に憧れて、津軽海峡を青函連絡船で来道したものにとっては、「津軽の滄海の」も、心に残る歌であります。

私自身は恵迪寮への入寮が叶わず、今は廃寮となっている芳俊寮に約一年半住みましたが、夏休みで友人の帰省中には恵迪寮にもぐり込み、大変お世話になった思い出があります。

昭和三十年代以降、学科増による学生増により、寮で生活する学生の割合は減少しているものの、若い時代に寝食をともに生活した仲間の絆は強く、生涯の友を持つことができることを、うらやましく思います。

今、北海道大学は、さらなる国際化が求められていますし、そのためには海外から優秀な留学生が本学を目指して集まってくるような環境を創らねばなりません。そのためには、教育・研究面での高度化とともに、学生生活支援のための留学生のための寮の充実も重要な課題となっています。

この度の、恵迪寮創立百周年を、心よりお慶び申し上げますとともに、学生支援を目的に設立しました「フロンティア基金」への御協力を切にお願い申し上げます。

120年・100年から次のステージへ

北海道大学連合同窓会会長　松田昌士

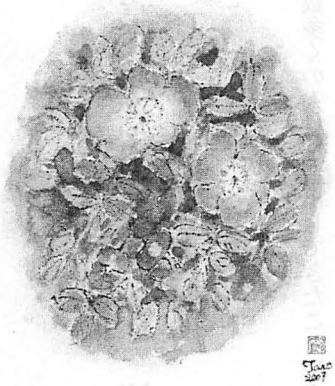
恵迪寮百周年、おめでとうございます。

私は寮生ではありませんでしたので、恵迪寮の想い出を語る立場ではありませんが、北大は幼い頃からの私の遊び場でした。私の家は北大病院前にあり、夏は木登りをしたり、蝉をとったり、構内の小川でトンギョ漁りをしたり、冬は坂でスキーもしました。北大内の沼では、母に食べられるセリと毒ゼリの見分け方を習ったりもしました。

長兄も北大の卒業生でしたので、よく寮生が我が家に食事をしに来ました。私も寮にはたびたび遊びに行ったことがありましたが、よくぞこんな不潔の代名詞のような所で学べるものだと感心したものです。もっともわが友は、あそこではほとんど勉強などしていなかったように思います。しかし、青春時代における北大生のシンボルとしての位置付けとして、多くの逞しいというか頑固なリーダーを生み出した、北大生らしい寮で在った事は素晴らしいことだと思います。

ところで、ご承知の通り、北大は国立大学法人となりました。これは、極めて中途半端な運営形態であると思いますが、既にスタートした以上、北大が発展するように努力しなければなりません。折から、日本は少子化に向かい、さらに人口が減少し始める時に入ります。大学の質を高めないと潰れてしまう可能性があります。北大といえどもその例外ではありません。つまりは、大学の存在をかけた競争が始まっていると言うことです。この危機感をＯＢも含めて共有するところから前途が拓けると思います。

北海道大学が札幌農学校のように教育と研究に秀でた多くの人材を輩出したように先人に学んでゆくことを願ってやみません。北海道帝国大学発足と共に、札幌農学校寄宿舎は帝大予科恵迪寮と銘して百年になります。百年の伝統がいや輝きますことを願い祝辞といたします。（なお、百年記念式典には北海道大学連合同窓会・副会長の齊藤和雄さんに出席いただきました。）



ハマナス

次の百年に向かって発展を！

北海道大学連合同窓会副会長　齋藤和雄

さて、このたび北大恵迪寮が百年祭を開催するに当たって、ご出席の皆様には感激ひとしおと心からお祝い申し上げます。

青春時代を謳歌し、多くの友人と出会い、社会性の醸成に役立った寮生活は、大学での研鑽とは違った意味で、一回りも二回りも大きな人間形成に役立ったことは、寮生活を行った皆様の一人一人が強く感じておられることと思います。青春時代のほんの一時の寮生活がこんなにもかけがえのない人生に役立つ影響を与えるものかと感嘆せざるを得ないと思います。

そして「都ぞ弥生」を始めとする、毎年発表された北大恵迪寮寮歌は全国の大学生に親しみ歌われ、又、恵迪寮祭は札幌市民に広く親しまれてきました。

近年、情報化社会を迎えて人と人との交わりがうつろになる傾向の中で、人と人の絆を暖かい心で満たすことの必要性が叫ばれています。恵迪寮の生活は、それを可能にし、百年間の中で斯界のリーダーとして社会に貢献した数多くの人材を輩出してきたことに心から敬意を表したいと存じます。

次に、連合同窓会について触れさせて頂くことをお許し頂きたいと存じます。現在連合同窓会は十五の学部等同窓会と二十五の地区同窓会、計四十の同窓会で構成されています。会員は約九万人と数えられています。会長はＪＲ東日本株式会社相談役の松田昌士です。設立の趣旨は、学部、学科の枠を超えた同窓生が、広く相互の情報を共有し、社会連携を通じて、北大の存在価値をいっそう高めるため全学的拠点を結成する。となっています。

北の地にあってややもすると、遅れがちな北海道大学をバックアップできればよいとの願いと同窓の絆をより強固なものにしたいと考えて、一昨年発足致しました。この中で多くの恵迪寮出身者がご活躍されております。そして、このような社会への貢献は寮が存続する限り続くと信じております。

今日の百年祭を契機として、同窓生に支えられながら、寮が次の百年に向かって歩みだし、益々のご発展をされることを衷心より祈念してお祝いの言葉と致します。

二〇〇七年九月二十二日

毎日楽しく過ごした寮生活

恵迪寮同窓会名誉会長　繁富一雄（昭和6年入寮）

北海道帝国大学予科恵迪寮創基百年を迎えるこのめでたい日に、卒業生代表として祝辞を述べる機会を得、誠に欣快に堪えないところである。去る六月十二日より胆嚢炎にて三ヶ月入院、手術したので車椅子で失礼する。

私は昭和六年四月十八日北海道帝国大学予科の学生として入学を許可された。顧みれば今から七十六年前の事である。北海道大学は、終戦までは北海道帝国大学と呼ばれており、学生は大変誇りを持っていた。私は北海道生れの北海道育ちで、北海道が大好きである。数ある旧制高校の中で北大予科に一番入りたいと思っていた。旧制高校もNo Schoolとして一高～八高、その他にもたくさん旧制高校はあった。秀才はこぞって旧制の高校を選んでいた。北大予科の受験場に入った時、この教室は五十人入りだった。北海道帝国大学予科の受験は十八人に一人という激しい競争率で、この部屋から三人きり合格できない状況なので、大変心細い思いをした。

北海道帝国大学は、その起源を日本最初の近代的大学として、明治九年（一八七六年）八月十四日に設立された札幌農学校に遡ってみると、米国から招請されたクラーク博士は札幌農学校の開校式にあたって、学生達にlofty ambition（高邁なる大志）をと語ったと書いた書物もあったが、吾々がストームでやるbe ambitious boysが最もふさわしいと思う。

三月十八日の発表日には、母が見に行って合格が知らされ、一家中大喜びをした。補助に受験した小樽高等商業学校ももちろん合格した。私は四月十八日が入学式との通知を頂いたので、早目に四月十三日札幌駅に着いた。ところが駅の構内に、汚い服装をして手拭いを腰に、やぶれた帽子をかぶった予科生がたくさんいて、その中の一人の予科生から、私に「お前は繁富でないか?」と声をかけられ、「ハイ、そうです。」と答えたところ、私のリュックサックを奪い取るようにして、「お前は庭球部に入る事になっている。俺について来い。」と言って、大学の近くにある下宿につれて行かれた。

私は、菊池寛の受験生の手記などを読んでいたので、寮に入りたい、このような下宿に入りたくないと言ったところ、北大の恵迪寮は明治時代のもので、今年で新しく建て直すので、秋にならないと完成しないという話でがっかりした。

さっそく、翌日から中央コートに引っ張り出され、コートの修理を手伝った。ようやく四月十七日にコート修理は完成したが、四月十八日の入学式が終わってからコート開きをする予定になっていたところ、突然、四月十七日の夜に三十㎝以上の雪が降って、中央講堂の入学式が終わってもテニスの練習は始められなかった。

一週間程してようやくコートが使えるようになったので、テニスの練習が始まった。私は軟式テニスの選手であったので、硬式のボールは難しく苦労をしたが、少しずつ打てるようになった。予科の授業は午前八時三十分に始まり、午後は二時三十分～三時三十分で終わるので、授業が終わりしだいコートに駆け付けて、先輩の為にネットを張り、練習の用意をするのが一年生の習わしになっていた。中学時代は最高学年の五年生であったから、こんな事バカバカしくてやってられないので、テニスの練習はサボりがちになり、上級生から「繁富は練習をサボる。」と言われたので、「私は北海道帝国大学にわざわざテニスをやる為に入学したのではない。吾が貴重な青春を、予科三年間で悔いのないように過ごす為に入学したのだ。」と言い返してやって、あまりテニスの練習には行かず、親しい友達と土曜は学校を欠席して、近郊の山小屋に一泊して二日間を楽しむ為に出かけたり、五月には暖かい日に学校を休み、ゾンメルシー（夏スキー）を裸ですべって楽しい時間を過ごした。天候の良い日は北大の植物園のローンに寝ころがり、恵迪寮歌を歌ったり、旧制高校の寮歌も歌い、充分に満足した毎日を送った。

予科の夏休みは、七月十日～九月十日の二ヶ月あったので旭川に帰り、旭川市役所の土木課の製図を書くアルバイトをした。

恵迪寮は毎日が実に楽しく、一年は夢のように過ぎ、二年目に定山渓旅行という一日泊りの行事があり、平岸街道の林檎畑を通り抜け、定山渓ホテルまでマラソンだった。夜はホテルで自前の隠し芸をし、一晩楽しむ旅行だった。

寮から平岸の林檎畑を通る時、林檎を勝手に取って食べるが持ち主に叱られないので不思議と思っていたが、三年目に寮の委員になって初めてわかった。トラックにたくさんお菓子を積み込んで、林檎畑の持ち主に一軒一軒立ち寄って御礼を言うのが委員の仕事であると知らされ、それで百姓は文句を言わないという事がわかった。

定山渓旅行で憶えた恵迪寮数え歌が、寮生の毎日を知る一番の近道であると思い紹介する。

車椅子でお祝いを述べる繁富名誉会長

恵迪数え歌

一、一ツトセ
　人も良く知る札幌の
　ここは北大の恵迪寮
　ソイツア豪気だね

二、二ツトセ
　褌一ツのストームも　素面（シラフ）じゃ
　しもせぬさせもせぬ　ソイツア豪気だね

三、三ツトセ
　見たか聞いたか北大の　恵迪寮生の飲みっ振り
　ソイツア豪気だね

四、四ツトセ

止（ヨ）せば良いのに酒を飲み
金のないのも知らぬ顔　ソイツア豪気だね

五、五ツトセ
何時も学校じゃ沈没し　落第するのも何のその
ソイツア豪気だね

六、六ツトセ
難し問題も気にしない　一夜作りのカンニング
ソイツア豪気だね

七、七ツトセ
七ツ不思議のある処　星のある夜に雨が降る
（窓から小便）　ソイツア豪気だね

八、八ツトセ
やさしい処なぞありゃしない
恵迪寮には熊が住む　ソイツア豪気だね

九、九ツトセ
此処らで止めとけ　もう一度　落第すれば
凱旋（＊放校）だ　ソイツア豪気だね

十、十トセ
時は三時か未だ早い　並べた銚子が十三本
ソイツア豪気だね
（七は新しい寮になってから無くなった）

北大には公爵、侯爵、伯爵、子爵、男爵の華族の子弟の多いのには驚いた。戸田子爵は私達庭球部同期の友人だった。又、仙台の伊達公爵の子孫も北大の農学部におり、家来をつれて馬に乗って大学に通ったと聞いている。

そうこうしているうちに三年目の二学期になり、九月十日担任の先生より六十点以下のコンデ発表があったが、私は一科目も六十点以下はなく、低空飛行ながら落第する心配もない。独乙語と数学だけは、学部に行ってから必要なので勉強しておいた。三年目の高等数学は、一高―東大卒業の銀時計組優等生の渡辺先生だった。成績発表の時、「北大予科には一高生でもできないと思って出した問題を全部できた秀才がいる。繁富君だ。」私は低空飛行なので、余り聞いていないところを隣の友人につつかれた。「お前の名前だ。」と言われ、ビックリして立ち上がった。「勉強のできる奴が可愛い、繁富君は是非先生の下宿に来い。」と言われ、運動シーズンの終わった十月末に、先生のところに伺った。先生も下宿は汚くしており、一緒に掃除をして夕食をごちそうになり、その後も時々伺って二学期、三学期は全部百点だった。

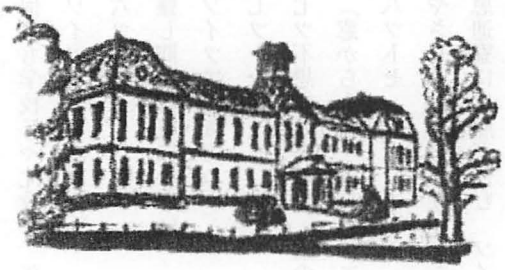
禍福は糾へる縄の如しという諺があるが、全くその通りで十日も経過しないうちに、北海道帝国大学現職の高岡熊雄総長先生から、北海道帝国大学予科青葉萬六予科長に電話があり、予科工類三年の繁富一雄をすぐ総長のところによこすように、との事。青葉萬六予科長はさっそく学校を調べたところ、学校には来ていない事がわかり、恵迪寮に飛んで来て、私達総務委員六人が学校をサボって各運動部の予算や遠征費の調査をして、後始末をしているところだった。そこで青葉萬六予科長にどえらく叱られて、「総務委員は予科桜星会を代表する者で、学校を欠席してまでやれとは言っていない。特に繁富君は、高岡総長先生が探しておられるので、すぐ本部の総長室に行け。」と言われて、総長室に飛んで行った。今も私の脳裡に焼き付いているが、赤い絨毯の上を恐る恐る総長先生のところまで歩いて行き、丁寧に礼をしたところ、「そこにかけたまえ。」と言わ

れて、椅子に腰かけて小さくなっていた。「君のお父さんから手紙が来て、二年末の春休みも三年の夏休みも家に帰っていない。何の連絡もないとの事。君は今日も学校を休んで、恵迪寮で予科桜星会の仕事や、寮の仕事をやっている由、予科長から報告があった。今晩は私の家に来なさい。一緒に食事をしながら話をしよう。」との事だった。その日の夜は、総長の御自宅でごちそうになった。「予科三年間は一科目もコンデは取っていないので落第する事はありませんが、学部に行き、一番行きたい機械科に入れるか否か、これから寮を出て、二学期、三学期を頑張ります。」と申し上げて、ようやく総長先生と総長の御令室様の御了解を頂いた。高岡熊雄総長先生とは親戚に当るので、私達の結婚も仲人をつとめて下さった。

学部に入ってからは毎日五時間くらいより寝ないで、予科時代と打って変って勉強をした。御陰様で北大の機械科から十期まで一人も採用してくれなかった日立製作所日立工場に入社する事ができた。日立製作所は月給九十円（一般七十円～八十円最高）、半期の賞与は一年分でズバ抜けた待遇だった。

以上をもって祝辞とする。

平成十九年九月二十二日

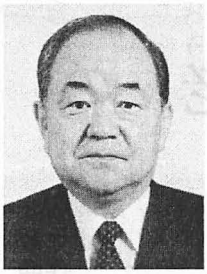


大寮歌祭での祝盃

継続は力なり

代表幹事　横山　清（昭和31年入寮）

恵迪寮百年記念祭は周到な計画と同窓諸兄の物心両面にわたる協力と関係各位の御協賛により大成功裡に終了いたしました。有難うございました。



本誌記念号は記念行事の集大成であり次なる二百年記念祭への道標となる役割を担っています。

戦前から積極的に活動されてきた関東恵迪会をはじめ恵迪寮出身者が抱く愛寮の精神は学窓を出ても衰えることなく、あらゆる分野で高い評価を受けております。

しかし百年の歳月は永いのか将又、短いのか…この間に寮舎そのものが、三代目となり予科時代、新制大学教養部時代ともに男子の寮生のみであったものが、今や、一年生から大学院生、女子学生、留学生が起き臥しを共にする総合的学寮に変容し、旧制高等学校の縁を偲ぶすべもないと嘆く意見も少なくありません。

時は移り世は変れど恵迪寮の伝統は、自治と自尊の精神を基盤に、青春の灼熱の時を共有し、弾けるような精神の昂揚と煩悶が熱い友情を育み続けています。

都ぞ弥生の作曲者、赤木顕次氏が来札されたのは昭和三十二年でした。都ぞ弥生の誕生から四十五年後のことです。この年の寮歌〝花繚乱の〟（前島一淑作）は五十年を閲しています。昭和五十九年、中曽根首相が北大訪問のおり『北大に独特のイメージがある。一種のロマン。恵迪寮…「都ぞ弥生」は私も知っている』と語られた。学生の反応はクールで自分達はロマンに惹かれてきたわけでなく、学内でも蛮カラぶりや強烈な個性の発揮は年々薄れている旨の発言がありました。総理は「そういう風調を慨嘆にたえんと思いませんか」といったそうです。（岩沢健蔵著　北大歴史散歩より）私達の考え方も中曽根首相的な色合いに近いかも知れませんが、当時の学生も社会人として活躍している現在は豊かな才能と個性を充分発揮されているでしょう。

恵迪寮同窓会が発足して四半世紀、私達は酒に酔って街頭でストームを繰り返したり、放歌高吟の時代を懐かしんでいるのではありません。寮生活の混沌の中で「人とは何か」「自然とは何か」を考え終生の友を得た人間力培養の源流を大切に守り育てたいのです。その為にも同窓会を維持継続しなければなりません。思い出すまでもなく耳の底から鳴ってくる寮歌を歌い続けましょう。

最後に平成生まれも含め現寮生の底力に感動！女子同窓生の気くばりに感謝、そして全同窓メンバーの情熱に感激です。恵迪寮よ永遠に!!

北海道大学恵迪寮命名百周年記念寄贈寮歌

~~旧仮名文~~

不老の青春

作歌
作曲　千川浩治 君 ~~(昭和40年入寮)~~

一

三代に亘りし　恵迪寮　歴史も経りて　一世紀
祝うは嬉し　この寮に　団欒も楽し　記念祭

二

歳を重ねて　恵迪は　自今は女子　男子らは
高邁なりし　理想など　日夜に励み　探求むなり

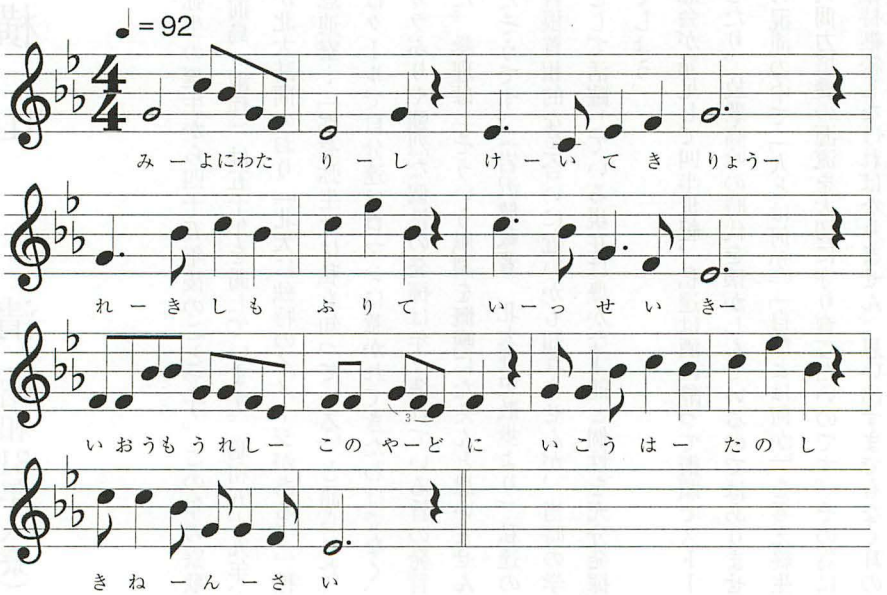
三

拓きたる野は　ビルの谷　創成川の　柳　何処
憩いとなりし　楡ポプラ　若木に伝う　紳士道と

四

世にも希なる　楽しみは　魂に触れし　若き日の
共に過ごせし　思い出を　寮友らと語る　この時ぞ

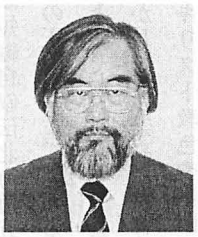
五

始皇夢むは　千万世　我らが寮歌は　永遠に
歌い継がれて　尚創り　不老の青春を　歌わなん

開寮百周年記念特別講演

新渡戸稲造を育てた札幌農学校の教育

北海道大学獣医学研究科教授　藤田正一（昭和38年入寮）

来札十五年前、奴隷制度をこの地上から払拭したいとして南北戦争に出征したクラーク博士は南北戦争時に北軍が大義としたアメリカ独立宣言の「自由平等、自主独立の精神」とピューリタンの「弱者の側に立つ博愛の精神」を学生の教育に持ち込んだ。教師は生徒にYoung gentlemen（紳士諸君）と呼びかけて彼らの個を尊重し、校則をBe gentleman（紳士たれ）の一言として自由のうちに、自主独立の精神と自律的な個の確立による人格の完成を促し、自由には責任の伴うことを自覚させた。午前中の授業に加え、午後は勤労を課し、勤労には報酬を与えて正当な報酬の卑しからざるを教え、聖書に基づく真理と正義の教育をし、弱者救済の視点を教えた。保身に走らず、堂々と正義を主張できる不屈の個が札幌農学校の教育精神により涵養された。このような確固たる個の確立がクラーク博士の教育の基本であった。



クラーク博士の燃える教えと人間性、そしてその精神は教えを受けた学生たちの心に大きな志の松明を燈した。明治初年、多数のお雇い外国人が日本の高等教育に当たったが、彼ほど学生の心をつかんだ人物は他にはいない。わずか八ヶ月の滞在で大きなインパクトを学生たちに与えてクラーク博士は農学校を去った。残る彼らを指導したのは、やはりクラーク博士から大きな影響を受けたクラーク博士の米国人教え子たちである。若い彼らが教授として、弟ほどしか年齢の違わない日本人学生たちを指導したのである。五十歳のクラーク博士とはまた違った影響力があったものと思われる。彼らはクラーク博士が去った後も長く滞在し、親しく学生達を指導した。

人格の完成を目指す人間教育を教育の基本としたこの学校から、戦前戦後を通じて国際舞台で最も活躍し世界から尊敬された人物、新渡戸稲造、世界的思想家内村鑑三、明治のベストセラー「日本風景論」を著し、開かれた愛国心・国粋主義を唱え、いずれの国もその国独自の優れた国粋がある。お互いの国粋を尊重しつつ、対等に対峙すべきであると主張し、鹿鳴館に代表されるような明治の極端な欧化策を批判した志賀重昂、札幌農学校以来、幾多の大学存立の危機を跳ね返し、北海道大学へと成長させた北大の父・佐藤昌介、百年後の今もハリケーン・カトリナ被害の修復に彼の技術が使われた清きエンジニア廣井勇、戦前、ジャーナリストとして国の植民地政策を厳しく批判した石橋湛山（元首相）に強い影響を与えた大島正健など、人格も実力

も立派な堂々たる日本人が輩出された。

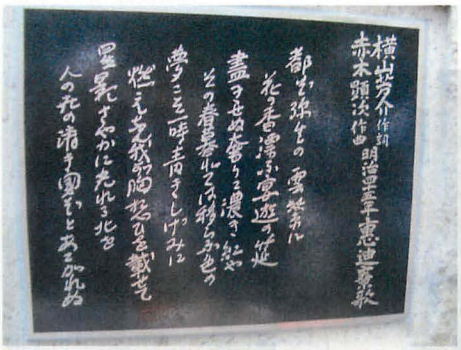
北大の歴史を振り返ると、札幌農学校は官が建てた学校でありながら、順調に発展を遂げる他の官立大学とは対照的に、幾度となく廃校の危機に瀕する。確立された確固たる個を持ち、権力にも堂々と異論を唱えることの出来る人物を多数輩出したが故のことである。「僕らの学校を出た若い者で、時の政府に反対したものがある。それが気に食わないといふのでそんな学校は一層つぶしてしまへということになったのだそうだ。」（佐藤昌介『短編自叙伝北海道五十年』）。校長佐藤昌介の正論の主張とやむを得ぬ妥協とで、ことごとくその危機を乗り越えて学校は残った。しかし、その崇高な教育精神は転換を迫られた。キリスト教色や自由・自主独立の精神の涵養、人間を造るというリベラルな教育方針が薄らいでゆく。それはあたかも、新渡戸稲造、内村鑑三の弟子たち、即ち、札幌農学校の教育精神に強い影響を受けた人々により作成された旧教育基本法に対する行政の仕打ちを髣髴とさせる。旧教育基本法も強い個を作る人格教育が基本理念にあった。

初期の札幌農学校の教育が転換を迫られた結果、大学は大きくなったが、輩出される人材はこのようなありさまであると言う内村鑑三の嘆きが北大創基五十周年のおりに新聞に寄稿した文書に見て取れる。「明治の初年において、私どもが北海道について抱いた理想は、はなはだ高いものでありました。（中略）しかしながら札幌の地が学生を養成するのに最も良き地であるかは、今は大いなる疑問であります。天然的に最も恵まれたる札幌は今や官僚化され、商人化されて学生生活を送るには、はなはだ悪い所となりました。札幌が出したものは多数の従順なる官僚、利益にたけたる実業家、または温良の紳士であります。しかれども、正義に燃え、真理を熱愛し、社会人類の為に犠牲たらんとする人物は一人も出しません。積極的の大人物ではありません。進んで善事を及ぼさんと致しません。主として消極的の人間であります。私はクラーク先生の精神は札幌に残っているとは思いません。残っているのは先生の名であります。しかし、それだけのことであります。先生の自由の精神、信仰は今の札幌にはありません。札幌は先生のボーイズ・ビー・アンビシャスの広い意味において、これを知りません。」

ボーイズ・ビー・アンビシャスの北大の解釈：「金銭や私利私欲のためではなく、人が名声と呼ぶはかないものに対してでもなく、知識や正義や、人々の向上に尽くすために、そして、人としてのあるべき完成された姿に到達できるように、青年よ大志を抱け。」（一九一五年「北大略史」サンフランシスコ万博で配布）

北の空に大地に満ちる恵迪魂！

百年記念祭



新装なった歌碑「都ぞ弥生」

北海道大学前総長　中村睦男氏の書

歌碑「都ぞ弥生」改修除幕式

「都ぞ弥生」献歌
除幕式参加の横山芳介ご親族と赤木顕次ご息女（左端）

歌碑「都ぞ弥生」贈呈式
佐伯北大総長（左）と中瀬恵迪寮同窓会会長

満ちる恵迪魂！

記念講演をする藤田正一教授

恵迪百年記念式典　黙祷

中央ローンに「都ぞ弥生」がこだました一万人の大合唱

クラーク会館前で恵迪寮史を販売する現寮生

全員肩組み大合唱

中央ローンに集った人々

北の空に大地に
――百年記念祭

現寮生、ＯＢ、応援団との交流会

北大交響楽団によるクラシック演奏

肩組み合って……

「大寮歌祭」で歌うＯＢら

応援団のエールで寮歌祭も大団円

「モツラ」のおばさんを囲んで三十年代、四十年代入寮のＯＢ

ポストカードの原画伊藤画伯の作品オークション

東日本支部主催の寮歌祭の思い出写真集

2004年「茨城美浦陸平」寮歌祭

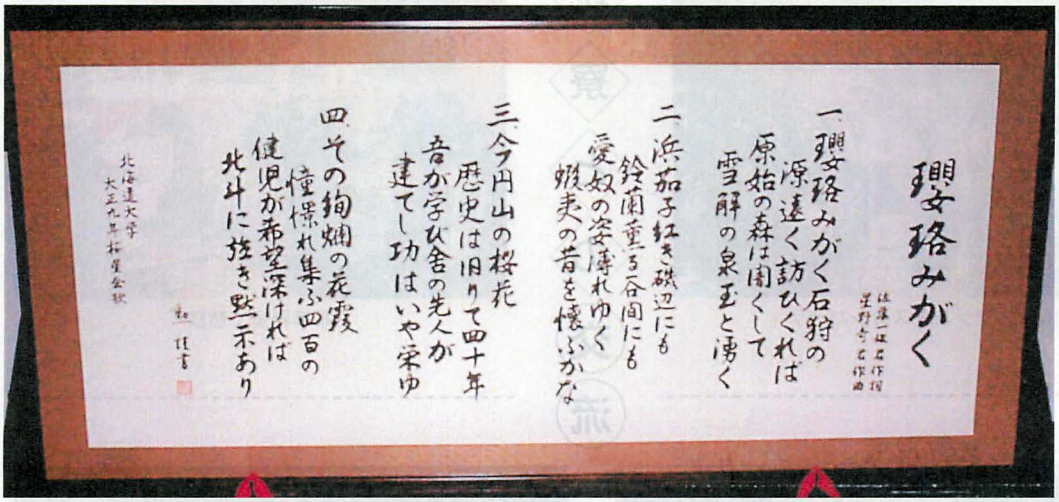
1994年「第3回東日本大会」横浜
氷川丸船上

2006年東日本大会「大寮歌祭」（東海大学交友会館）

1997年「第4回東日本大会」
浜松町・芝弥生会館

2001年「瓔珞みがく」揚額式典（山梨大月市）

写真提供者　長谷川　久（昭和32年入寮）　坂下　節子（平成19年入寮）



2002年「都ぞ弥生」生誕90周年　静岡寮歌祭

観　桜　会

大通公園噴水前でストーム

寮　祭

壇上で声高らかに…

OB・現寮との交流

円山公園でジンギスカンパーティ

寮事務室で懇談

メーンイベント・檄文披露

現寮生の大合唱

恵迪寮百年記念祭報告

特集2

朝から夜までびっしり続くスケジュールに活気あふれ

風薫る秋空の下、つどう老若男女……。

恵迪寮百年記念祭は平成十九年九月二十二日、北大クラーク会館、北大中央ローン、京王プラザホテルなどをメーン会場に、午前十一時から午後九時過ぎまで行われた。前日の大雨とうって変わり、恵迪精神をイメージするような青空。時折心地よい秋風も吹く絶好のコンディションのなか、多彩な催しに一日中酔いしれた。

◇歌碑「都ぞ弥生」除幕式◇

記念祭は歌碑「都ぞ弥生」改修除幕式と寄贈式からスタート。北十八条の旧恵迪寮近くに銘板などを新しく改修した歌碑の前で行われた。恵迪寮の緑の陣羽織に白はちまきをキリリとしめた威風堂々のいでたちのOBを始め、駆けつけた市民、報道陣らざっと三百人が参加。「都ぞ弥生」作歌者・横山芳介君の三女・川内純子さん、作曲者・赤木顕次君の二女・赤木万里子さんら子、孫七人も来賓として招かれた。

山崎克彦君（32年入寮）の司会でスタート。紅白の六本の引き綱を来賓の横山、赤木両親族と佐伯浩北大総長、中瀬篤信恵迪寮同窓会長らが引くと、かけられてあった白い布の下から立派に改修された歌碑が姿を現し、すかさず現役の応援吹奏団が高らかにファンファーレ。

続いて歌碑を北大に贈る寄贈式が行われ、中瀬同窓会会長から目録を受け取った佐伯北大総長が「これから先、きちっと維持、管理に全力を尽くします」と約束した。このあと「都ぞ弥生」の献歌があり、OB、現役生ら全員が肩を組んで合唱。原始の森に響きわたった。

◇恵迪百年記念式典◇

このあと会場をグラーク会館に移し、恵迪寮同窓会第十一期総会を開いたのに続き、大講堂で恵迪百年記念式典を行った。寮OBの女子・渕上玲子君（平成8年入寮）の司会でまず物故者に対し全員が黙祷。最初に中瀬同窓会会長が式辞を述べ、恵迪寮の生い立ちから現在に至るまでの歴史をたどった後「現役寮生は地球人としての自覚を」と結んだ。

続いて佐伯北大総長が「私は寮には入れなかったが、恵迪寮には大変お世話になった」と祝辞を述べ、齋藤和雄北大連合同窓会長も「寮が次の百年に向かって歩みだし、ますますのご発展をされることを祈念します」とお祝いのことばを述べた。

このあと、寮歌のCDを作っていただいた北大合唱団OB会会長の平川明久様とポストカードの絵を書いて下さった画家の伊藤太郎様に感謝状が贈られた。

続いて同会館で記念講演があり、北大獣医学研究科教授の藤田正一さん（38年入寮）が「新渡戸稲造を育てた札幌農学校」とのタイトルでスライドを使いながら新渡戸が遠友夜学校を育てたことなどを話した。

◇一万人で歌う「都ぞ弥生」◇

クラーク会館から青々と芝草が茂る中央ローンに移動。待望の「一万人で歌う『都ぞ弥生』」が午後三時過ぎから始まった。応援団員、大会実行委員らがローンの一段と高い所に陣どり、太鼓を合図にまず「都ぞ弥生」の斉唱。一番から五番までを大声で歌った。続いて校歌「永遠の幸」「津軽の滄海の」など

を次々と披露した。

会場には初め五百人くらいが集まったが、蛮声を聞きつけた市民らがあちこちから集まり輪がふくらみ、最終的には八百人近くになった。配られた歌詞カードを見ながら、時には肩を組み、時には手拍子。セーラー服の女子高生は応援団員の異様な姿に目をまるくしながら仲間入りした。終わった時あるOBは「感激のあまり、涙が出た」と感想をもらしていた。

◇OB、現役寮生の交流会◇

引き続き応援団員を先頭に現役寮生とOBが農学部前の芝生に移り、青いビニールシートにすわり、弁当とカンビールでくつろいだ。現役寮生だけでも七十人余りが参加。シートにすわり切れず、草むらに陣どる寮生や立ち飲みするものも。元応援団顧問の山元周行さんも飛び込みで出席。興に乗り始めると「一万人の都ぞ弥生」で満足できなかったらしく「地はなごやかに」を皮切りに次々と立ち上がって蛮声をふるった。

◇北大交響楽団の演奏会◇

一方、クラーク会館大講堂では北大交響楽団による「都ぞ弥生」とドヴォルザーク「交響曲第九番・新世界より」が演奏された。五百人余り入る会場は立ち見が出るほどの満員。司会進行役の井口光雄君（28年入寮）が「北大交響楽団は大正十年以来の伝統を持ち学生団体として初めて文部大臣表彰を受けた」などと紹介。

指揮者の川越守さんが登壇すると満場から拍手が起きた。もの静かに始まった曲は弦楽器の荘重な流れに、管楽器の力強い響きが加わり、場内を魅了した。

◇大寮歌祭◇

祭り最大のイベント「大寮歌祭」は会場を京王プラザホテルに移して午後六時から始まった。

白浜憲一君（40年入寮）の開会宣言で幕をあけた。来賓の恵迪寮同窓会名誉会長の繁富一雄君（6年入寮）が車いすにすわりながら「寮生活は毎日楽しく、一年があっという間だった。大きな心の財産を生んでくれた寮を忘れることができない」と祝辞を述べると、会場から大きな拍手が起きた。

千川浩治君（40年入寮）の発声で全員が肩を組み「都ぞ弥生」を五番まで斉唱。立食形式（年輩のOBはいす席）のパーティーがなごやかなムードでスタートした。その中で高井宗宏君（31年入寮・同窓会副代表幹事）の力作「恵迪百年」のビデオが上映された。クラーク博士についての話から始まり、昔の時計台、恵迪寮に掲げられた横山芳介、赤木顕次両君の名札など、初めて見る人も多いなつかしい写真やムービーがアドリブ入りで写された。

続いてポストカード原画のオークションが始まった。新井三郎君（32年入寮）がセリ人となり、オオバナノエンレイソウ、旧中央図書館、旧恵迪寮の原画が次々にセリに出され、安いものでも六千円、最高は五万円でセリ落とされ、会場はやんやの喝采。

また、40年以後入寮のOBにはなつかしい「モツラ」（モツ入りラーメン）のおばさん、鈴木トクさんも壇上で紹介され「八十歳を過ぎても元気に生きています。私が温かいごはんを食べられたのは寮生達がモツラに通ってくれたおかげです」と挨拶。会場は大拍手で最高の盛り上がりとなった。

待ちに待った大寮歌祭は22年入寮者による「藻岩の緑」が皮切り。「タンネの氷柱」「魔神の呪」「時潮の波の」などが各年代ごとに壇上で披露され、最後は「別離の歌」でしめくくり。ラストは名物のストーム。全員が肩を組み、足を上げて歓喜にひたった。

会場には昭和三十年代の恵迪寮会計係をしていたポンコこと旧姓河合遼子さん（現・西森遼子さん）もわざわざ高知県から駆けつけた。また、なつかしい顔を見つけ、抱き合って喜んだり、記念写真をとるなど、なごやかなムードが夜おそくまで続いた。

銘板も新たに威風堂々と

歌碑「都ぞ弥生」よみがえる

北大の校歌とも並び称され、日本三大寮歌の一つ「都ぞ弥生」。この偉大なる寮歌を永遠に残そうと、「都ぞ弥生」の歌碑が、北大生誕百年を記念して二代目恵迪寮の南側に広がる原始の森の中に建立されたのは昭和三十二年九月のこと。

あれからちょうど半世紀、白御影石の石碑は風雨にさらされ薄汚れ、碑文の判読もままならない。構内の道路拡幅工事のあおりを受けて雑木林の片隅に埋もれ、まさに歌碑は泣いていた。

改修された歌碑と山崎克彦君

この惨状に、かつて歌碑建設期成会の下で、歌碑の寄付集めに奔走した当時の恵迪寮委員長・横山清君（S31年入寮）や応援団の高井宗宏君（S31年入寮）ら心ある有志が、百年記念祭事業の一環として大規模な改修工事を提案。むろん「〝都ぞ弥生〟の歌碑がどこにあるか分からない」と嘆いていた同窓会OBも同じ気持ちだ。

設計担当者は、OBの専門知識を生かして地元大手の建設会社に長く勤務した建築学科出身の山崎克彦君（S32年入寮）に白羽の矢が立った。

山崎君はデザイン設計・工法から北大当局との折衝、工事業者への発注まで一手に引き受け、計画も順調に運ぶかに見えたが、歌碑の移転、掘削工事に伴い、ある問題点が浮上した。

新しくなった銘板

北大構内全域が文化財保護法の「埋蔵文化財包蔵地」の指定を受けており、埋蔵文化財がないと分かるまで着工が出来ないのだ。「埋蔵文化財も大切だが、われわれにとって寮歌はそれ以上の宝もの」。そんな気持ちが天に通じたのか、市教委立会いの掘削調査では何ら遺物が発見されず、杞憂に終わった。

改修工事の主な内容は、地盤沈下していた歌碑本体をかさ上げするため台座の新設と、これまでの黒御影石の彫り込み文字だった銘板を、合金板のエッチングによる浮かし文字に替えることだ。

山崎君は、いかに安く、長持ちし、風格のあるものを作ることに腐心。特に新しい台座に使用した安山岩系の岩石は、何度も現物を見て決めたという。薄青みを帯び、滑らかで光沢があり、何よりも優れているのは亀裂がないため水分の浸透にも強く、歌碑をいつまでもがっちり支えてくれることだろう。

関東地方に大きな被害をもたらした台風九号一過の九月九日、最後に残っていた銘板の取り付け作業が行われ、恵迪寮関係者悲願の歌碑が全容を現した。

高さ約一・七メートル、幅約二メートル。構内にある数多い石碑の中で決して大きなものではないが、寮歌の伝統と精神、そして誇りを凝結させて威風堂々とそびえ立つ。

ＯＢと現役、手取り合って

恵迪寮歌集のＣＤ誕生

明治四十年の「一帯ゆるき」から平成十四年の「蒼天へ」まで、校歌「永遠の幸」を含む三十三曲を収録した寮歌集のＣＤが完成した。恵迪寮歌が初めて公式にレコード、ＣＤ化された北大百年記念（昭和五十一年）から数えて実に三十年ぶりだ。

前回収録された曲のいくつかが、合唱〝デューク・エイセス、伴奏〟東芝レコーディング・オーケストラなどプロの手を借りているのに対し、今回のＣＤは、北大合唱団ＯＢ会のアカペラによる生粋の〝メードイン・北大〟である。しかも、四十数人のメンバーの中に、指揮を執った副会長の三河勝彦君（Ｓ29年入寮）ら十二人もの恵迪寮出身者が加わり、名実ともに百周年を飾るふさわしい最高の記念品となった。

アカペラで寮歌を吹き込む北大合唱団ＯＢ会

制作過程で、新井三郎君（Ｓ32年入寮）をキャップとするＣＤ制作委員会を悩ましたのが明治四十年以来、桜星会歌や開寮記念歌などを含め百曲もある名だたる寮歌の中でどの曲を選ぶかという問題である。何しろ新井委員長以下六人の委員の平均年齢は六十歳前後。戦前、戦後の寮歌はすんなり決定したものの、昭和五十年代以降に生まれた寮歌などは、もっとも若い長谷川健君（Ｈ7年入寮）を除いて誰も口ずさんだことがないという。

こうした難題を解決してくれたのが寮歌普及委員会の寮生たち。支部幹事会後行った選考会に全寮歌を収録したラジカセ持参で出席してもらい、ＯＢたちが知らない最近の寮歌について彼らの意見を聞いた。制作委員の中には、自ら寮歌を作った長谷川君や西雪弘光君（Ｓ40年入寮）もおり、自薦他薦、喧々諤々の論議が渦巻く中、収録曲が決定した。

そしてＣＤ収録が五月十二、十三日の二日間、手稲区宮の沢のエルム楽器「エルムホール」で行われた。それまでに六回も特訓を重ねてきたものの、午前十時から午後五時過ぎまで延べ十四時間の長丁場を伴奏なしで歌うのはさすがに体力を消耗する。ディレクターのダメだしも相次いだが、「後世に残る名盤を作ろう」というみんなの気持ちが最後に見事なハーモニーとなってホールに流れた。

企画から完成まで紆余曲折をたどったＣＤ制作だが、恵迪寮の百年もの歴史と伝統が作り上げた結実といえよう。

恵迪百年記念祭に取り組んで

―実行委員の熱い想い

今回の「恵迪百年記念祭は大成功のうちにぶじ終わった。この大事業に対し、長い人では一年以上も前からさまざまな準備に駆け回り、難問、苦問と取り組んできた裏方（実行委員）は今、充実感と感激、あるいはさまざまな方々への感謝の念にひたっている。その中から記念祭の行事に取り組んだ十人に、熱い想いをつづってもらった。

全面的に成功した喜び

恵迪百年記念祭実行委員長代理　厚谷純吉（昭和30年入寮）

「再来年は恵迪寮が命名されて百周年になる」と副代表幹事の高井君が発言した。そして明治四十年（一九〇七）は札幌農学校が東北帝国大学農科大学になった年でもあると。北大では特に行事を考えてはいないことも付け加えた。ある会議の席である。それから平成十九年（二〇〇七）には恵迪寮百年記念の行事を行うということは皆の共通の意識となった。さてその内容はとなるといろいろな思いが語られた。その第一は北大開基八十周年を記念して建立された「都ぞ弥生の碑」が五十年の年月を経て今は見るも無残な状態にあること、これをぜひ修復したいと建立に携わった横山代表幹事が熱意を込めて語る。また、恵迪寮に伝わってきた佐藤昌介総長の書や食堂に掲げられていたクラーク博士の肖像画などの文化財とも言うべき物品の保存についてこれらを管理してきた高井君が話す。私は恵迪寮の歴史と共に作り続けられてきた寮歌のCDをぜひ作製したいと考えた。今では北大の入学式・卒業式に演奏される「都ぞ弥生」でありながら歌詞を知らない北大生が多数を占めていると聞き我々恵迪寮OBだけでなく多くの人たちが聞いて「寮歌はいいな」と思えるような寮歌のCDを作りたかった。平成十八年には実行委員会が結成され、これらのことを実行することになった。

また、私は九月二十二日の記念式典を担当することとなったが、この式典を百年の歴史を振り返るだけでなく恵迪寮のこれからの百年へのスタートとも考え恵迪寮の現状である女子学生の活躍を表現したいと考え渕上玲子君（平成8年入寮）に司会進行をお願いし快く受けてもらえた。私としてはきわめて満足した状態で式典に臨めた。「恵迪百年記念祭」を全面的に成功裏に終らせることができて喜びをかみしめている今日である。

寮歌ＣＤ制作に携わって

寮歌ＣＤ制作委員長　新井三郎（昭和32年入寮）

今回の恵迪百年記念事業の目玉として、最初に取り上げられたのが、歌碑改修と寮歌ＣＤ制作でした。理事会では事業として実行されることが早々と決定されました。完成された時点を考えると、二つの事業とも後世に残る立派なものです。

しかし、ＣＤ制作は大変な事業と直感しました。それは私がある合唱団に所属（そのため制作委員にさせられた）しており、この道について多少の知識があったからです。寮歌を歌い続けてきた経験からすると、大勢で歌って寮歌というものです。ＣＤに収めるには、どうしてもボリューム感のある斉唱が要求されます。結局、誰にどこで歌ってもらうかの問題が浮上します。

ＣＤ制作提案者の厚谷先輩には、北大合唱団ＯＢ会に依頼するという腹案がありました。この発想が幸運と相まって、ＣＤ完成までに漕ぎ着けたと言っても過言ではないと思っています。

物事には当方の都合があれば、相手にもそれなりの都合があるものです。前述した幸運というのは当方の都合と相手の都合が本当にこの期間しかないと言うところで一致し、当方の依頼を引き受けてもらえたことです。

北大合唱団ＯＢ会の中には、寮歌を練習・指揮してくださった、能力の高い三河勝彦（Ｓ29入寮）先輩が元気でおられ、また、我が恵迪寮同窓会のメンバーが居て、積極的に応援してくれたことも大きな幸運と思っています。

苦労話といえば、三十三曲の選曲が遅れ、北大合唱団ＯＢ会平川会長をイライラさせたこと、収録日が決まったのにその日の録音ホールが確約できず脂汗をかいたこと等などたくさんありますが、完成されたＣＤを見ると、感激で楽しくさえ思えるのが不思議です。

最後に、ＣＤ制作委員として協力してくれた佐藤博昭君（Ｓ39年入寮）、西雪弘光君（Ｓ40年入寮）、長谷川健君（Ｈ7年入寮）に感謝申し上げます。

歌碑「都ぞ弥生」改修工事始末記

歌碑改修事業執行責任者　山崎克彦（昭和32年入寮）

平成十九年九月二十二日は私にとって記念碑的な日となりました。私のことはさしおいて、会長以下、百年事業実行委員長、同副委員長、同委員、佐藤静子さん、現寮生の皆さん、その他の関係者の皆様が成し遂げた百年事業への意気込みと素晴らしい成果に心から敬意を示したいと思います。私にとりましても長い一年有余でした。

歌碑は私が入寮した昭和三十二年に建立さ

れました。竣工式には赤木顕次さんが出席され、歌碑の回りでストームをしたのを懐かしく思い出しております。爾来半世紀、歌碑は当時の面影からは程遠く、薄汚れて碑文の判読も難しく、基盤の大部分は土に埋もれ、雑草と小木の中で悄然と佇んでおりました。私が横山代表幹事から相談を受け、高井副代表幹事に案内されて現地を訪れたのは昨年の夏のことでした。代表幹事からは寄付を募ることになるが、時節柄それは期待する額には程遠いだろうとの話を受け、費用を押さえる設計と適切な石材探しに多くの時間を費やしました。

私の設計に対する基本的なコンセプトはどっしりと安定した存在感を示すこと、そして少なくとも百年のライフサイクルを持たせたいと願ったことです。幸い台座には耐候性に適う安山岩系の石材が見つかり、価格もリーズナブルとあって、即採用を決定しました。碑文の銘版は既に五十年以上の実績を大通公園で示す合金版を使うことも最終的に決めました。

以上の要素を取り入れた設計案を携えて、北大施設部を訪れ協力を要請したのですが此処に難問が待ち構えておりました。即ち北大構内は文化財保護法で言う埋蔵文化財包蔵地に指定され、工事は市の教育委員会の試掘立会いを得て、文化財の存在が確認できない場合を除いて工事の着手は出来ないとの事でした。今年六月二十一日運命の試掘があって、

「都ぞ弥生」歌碑前で挨拶する恵迪寮同窓会の横山清代表幹事

埋蔵物無し、着工ＯＫとなって、その夜は一人で祝杯をあげました。

工事はその後何の障害もなく九月十五日に完成しました。有名な米国の設計家ライトをイメージして台座の水平線を強調したつもりですが、皆様から特にお褒めの言葉も不満の言葉もありませんので、手前味噌ながら私としては当初の設計目的はほぼ達成されたと思っております。余談ですが、寄付金がこれほど集まったのには驚きました。先にそれを知っていたならもっと豪華なものを設計したかったと思います。

ともあれ式典は最高の天気に恵まれ、佐伯北大総長、佐藤芳介氏ご息女、赤木顕次氏ご息女の列席を得て、北大応援吹奏団、現応援団、恵迪寮ＯＢ、現寮生等合わせて凡そ三百名が集い、無事に除幕式、寄贈式は終了し、歌碑は存在感を以って改修されたと自己満足をしております。微力ではありましたが、記念事業に参加できたことに感謝致します。そしてこれほどの寄付を贈っていただいた皆様にはどのように感謝をすべきでしょう。ただ有難うございましたと申し上げるしか言葉がありません。

中央ローンと古河講堂

三つの「感謝」と「感動」の記念祭

恵迪百年記念祭副実行委員長　白浜憲一（昭和40年入寮）

記念祭前日午後八時頃、雨足が強くなる中クラーク会館大集会室に、当日の準備物を運び込んだ。「雨よ、明日の分も降り落ちろ！」と叫びつつ、私の記念祭は終わった。

祈りが通じたのか、朝から天空を突き抜けるような青空が広がった。頭の中には当初の予想以上の参加申し込み延べ人数四百名を超える同窓生と現寮生・一般市民の人々の興奮した歓喜の顔が駆け巡った。

午前九時半からの実行委員会結団式には、東日本支部と西日本支部の役員の方々も加わって頂いた。全国恵迪寮同窓会が一つになった瞬間である。午前十一時歌碑「都ぞ弥生」改修除幕式で記念祭の幕が切って落された。その後は、時間との戦いであったが、ハプニングもなく滞りなく六つのプログラムは流れるように進行し、最後の「大寮歌祭」大ストームで締めくくられた。

記念祭を通し私が手に入れた、三つの「感謝」と「感動」を記す。

「感謝」の一つは、今年還暦を迎えた私がこの年齢で百年記念祭というビッグイベントに取り組むという幸運に巡り合い、貴重な体験や新しい出会いがあったことです。また、此処に至るまでの同窓会の基礎を築かれた草創の諸先輩たちの情熱的且つ献身的な活動に対し、二つ目の「感謝」をささげます。三つ目は、恵迪寮の名を付け、寮歌継承の礎を作られた古の大先輩たちへの深い「感謝」の念であります。

また、今回の記念祭には、数知れない多くの感動のドラマがありました。私の「感動」の一つ目は、何といっても「一万人で歌う『都ぞ弥生』」で老若男女が和合し醸し出した時空の美です。また、同期の友や数知れないその他の方々との出会いの感動がありました。さらに、記念祭成功のために額に汗し、労を厭わず、貴重な時間を削って頂いた、ピュアで献身的な人々への人間としての感動であります。

言葉には言い尽くせないほどたくさんの「感謝」と「感動」が心地よく私を包み込み、記念祭は終りました。

記念祭万歳！永遠の恵迪寮万歳！

▼佐藤静子さんの献身的支えに感謝、感謝……

最後に、恵迪寮同窓会の「守り姫」佐藤静子さんに感謝する八重樫幸一君（S41年入寮）の文章を掲げ、彼女に対する深い感謝の意を表します。

恵迪寮同窓会HP「談話室」9／23投稿文

事務局の佐藤静子さんに感謝！！

メイン会場をクラーク会館とし、九月二十二日に挙行された「恵迪百年記念祭」も無事終わり、実行委員会の末席に名を連ねた者としてホッとしているところである。

この記念祭は、どうやら同窓会役員が当初想定していた参加人数、協賛金を遥かに上回るものとなった。恵迪に対する熱き想いの表れであり、嬉しい悲鳴である。

一方で、事務局の仕事をお願いしている佐藤静子さんにとっても、別な悲鳴があった。締切日を過ぎても参加申込みの葉書が続々到着するため参加者が確定できず、したがって参加者名簿の確定版の作成や京王プラザホテルでの卓割りが、記念祭開催日の前日になる

までできず、窮地に立たされていたのである。

小生なんぞは、事態がそこまで深刻だとは露も知らず、九月十五日（土）の実行委員会で決定された、記念祭前日の二十一日（金）十五時に同窓会事務局がある（株）ラルズ本社に「参加者に配布する角二封筒への袋詰め作業」のために馳せ参じた。ところが状況は前述のとおりであり、到着後直ちに封入作業というわけには行かなかった。

一連の作業が終わり、現物をクラーク会館と京王プラザホテルにそれぞれ搬入したのは大雨の降る午後八時少し前であった。

それまでも、同窓会の事務局の仕事をお願いしていた佐藤静子さんが懸命に記念祭の準備作業に当たっていたのは承知していたが、恵迪同窓会の事務作業の量が明らかに一人の人の限界を超えつつあったことまでは承知していなかった。彼女も本来の社長秘書としての仕事をしながら、同窓会事務局の仕事も兼任しており、多忙極まりない状況であったに違いない。

クラーク会館に記念祭に使用する現物を搬入した後、搬入漏れがないかどうか確認するため、S40年入寮白浜北海道支部長、H8年入寮渕上女史と小生の三人がラルズ本社に戻り、作業現場として使った同社の地下にある図書室に行き佐藤静子さんともども四人で点検をし、搬入漏れがないことを確認した。

その後、帰宅すべく地下から一階へ向かうため階段を登っている途中、佐藤静子さんの目からいく筋かの涙があふれ、ほの暗い階段ではあったが、目が涙で光っていた。この涙が、何を意味するかを我々は聞けなかった。しかし、我々同窓会の輝かしい恵迪百年記念祭も、佐藤静子さんのような献身的な支えがあってこそ成り立っていることを知らされた思いがした。

献身的で万事控えめな佐藤静子さんは、自らを誇る人ではないだけに、たまたまその場に居合わせた小生が、同窓会諸兄にその光景をお伝えし、諸兄ともども佐藤静子さんに深い感謝の念を表すべきを思い、本談話室に投稿した次第である。

佐藤静子さん!!ありがとー!!

今後の事務局のあり方について

記念式典担当・HP管理者　渕上玲子（平成8年入寮）

恵迪百年記念祭にご参加、お手伝いいただいた皆さん大変お疲れ様でした。九月二十二日当日は、一年がかりで作った打ち上げ花火が素晴らしく上がった感じで、手作りの感動を共有した百年記念祭でした。

今回は記念式典の司会という大役を仰せつかりながら、事前に十分な準備もできずほぼぶっつけ本番という大変お見苦しい状態でしたが、皆さんの温かい心でもってなにとぞお許しいただきたく思います。

準備については、私事になりますがちょうど一年前から仕事が旭川になりまして、札幌での諸々の打ち合わせにはなかなか出席できなかったこともあり、事務局の佐藤マネジャーにはいろいろとご負担をかけたと思います。同窓会の電話応対や書類作り、会計などの事務局業務は現在佐藤マネジャーがほぼ一手に引き受けておられます。以前は私も同じ

職場だったので同窓会については何かとお手伝いすることもできましたが、ちょうど百年記念祭の準備が始まった一年前に異動になりましたので、その間の忙しさは〝超〟が付くものだったと思います。

このようなことは佐藤マネジャーだから出来たのであり、同窓会としてはこれが当たり前に今後とも続けられると思ってはいけないと思います。今は名簿管理でも会計管理でもパソコンを使ってできる時代です。会員の方の中にはそれらの方面に長けている方もおられるのではないかと思います。現に私も同窓会のホームページ管理については札幌から原稿をメールしていただき、旭川から更新しています。今後事務局業務についても、その方面に長けた会員が自宅や職場で空いた時間を利用して分担できるような体制にならないか、今後ぜひ考えていく必要があるのではないでしょうか。またそのへんの知恵（作業でなく）を現寮の〝若き力〟に求めてもいいと思います。

次の百五十年記念祭に向けて同窓会が「going concern（ゴーイング コンサーン）」していくよう、これからまた着実に土台を固めていくことがこれからの同窓会のやるべきことになると思います。

記念講演（兼開識社）で悪戦苦闘

「記念講演」執行責任者　八重樫　幸一（昭和41年入寮）

講演会を行う場合、まず「講師」を誰にお願いするかを考える。恵迪寮のOBで、かつ札幌農学校を語れる方が望ましいと密かに考えていた。

恵迪百年記念祭実行委員会（以下、実行委員会という）の会合の席上、どなたからか「獣医学部の藤田教授」がいいのではとの話が出た。寮にいたことがあり、応援団長（第54代）もやっていた。大学では副学長や北大総合博物館長もされていたとのことである。聞けば、ご本人の内諾も得ているとのこと。これで講師は決まりである。

次は「演題」である。クラーク先生については、これまでも多くの機会に語られてきた。恵迪寮命名百年の趣旨から、我々の先人である新渡戸稲造について語ってもらい、その足跡を振り返ることにより、今を見つめ直し、今後の生きる指針にしたいとの思いがあった。実行委員会の席上で、その旨を話し、了解を得られたので、藤田先生と打ち合せをし、「新渡戸稲造を育てた札幌農学校」に決定した。

三つ目の「会場」については、クラーク会館大講堂に決まっていた。問題は、講演その他の諸行事に使用する機材についてであった。

機材の借り主は藤田先生になっていただいたが、その申込書を見ると、記念祭当日使用する会場ごとに細かく分かれており、急遽実行委員会の白浜副本部長と打合せせざるを得ない破目になった。機材の申込みを終えたが、なお講演で使用するプロジェクターについての不安が残り、記念祭前日に藤田先生と試し写しを行った。悪戦苦闘したが、スクリーンへの投影に成功し、胸をなでおろした。

講演については、一時間少々という短い時間

ながらも藤田先生の周到なご準備もあり、新渡戸稲造の足跡を理解できたのではないかと思っている。これを今後の生き方にどう反映させるかは、我々一人ひとりにかかっている。

大合唱に揺れたエルムの森

「一万人で歌う都ぞ弥生」執行責任者

千川浩治（昭和40年入寮）

北大中央ローンを埋め尽くしての「都ぞ弥生」大合唱を計画した。出来るだけ多くの参加を得て、恵迪百年を祝いたいとの思いである。

まず、百年記念祭のビラを五、〇〇〇枚作ってもらった。それを皆で手分けし、それぞれ、手づるのあるところで配布した。たとえば、行きつけのスナック、オール北大ゴルフコンペ、道庁農政部、北大博物館等。また、開催一週間前、現役恵迪生の手助けを受け北大関係者を対象に、北大正門をはじめすべての出入り口でビラまきを行った。札幌市民に対しては、高橋陽一（30年入寮）木村正博（41年入寮）、千川（40年入寮）の実行委員が大通公園でビラを配った。

当日、心配していた天候は、我々の想いが天に通じたのか、秋雨前線の合間の快晴。クラーク像裏のローンの木々を利用して、幟、旗は現役の応援団、応援団ＯＢの藤原伸也君らが整えてくれた。「都ぞ弥生」「永久の幸」「瓔珞みがく」「津軽の滄海の」「蒼空高く翔らんと」の五曲を、全国津々浦々より参加の恵迪寮同窓生諸兄と現恵迪寮生並びに札幌市民約八〇〇人で大合唱した。取材のための報道関係者各社がつめかけた。

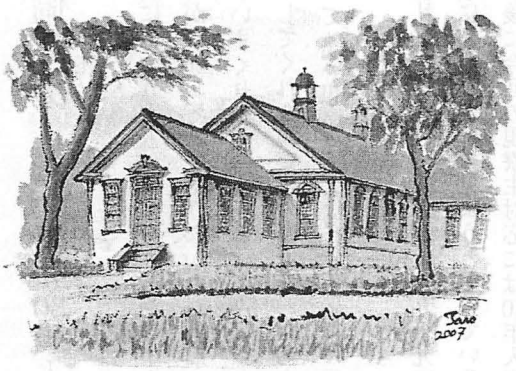
その中で、札幌静修高校の放送部は全国大会への出陳のため、との取材もあって、恵迪寮は「皆に愛されているのだ」と感じた。

記者から「一万人」と銘打った理由の求めがあったので、冒頭挨拶で、「一万人」とは、恵迪寮百年において、同じ釜の飯を食った寮生一万有余の想いを指してのもの、と説明し、理解が得られた。

三十分の時間内で収まるかと心配したが、順調に進行し、エルムや芝や小川の天然の舞台での八〇〇名による寮歌の大合唱は爽快且つ壮大で、全世界唯一、北大構内でしか実施できない。

「いつの日か再度開催しよう」との欲求が生じた。

大きな感動を伴った「一万人で歌う「都ぞ弥生」」であった。



旧中央図書館

現寮生と交流深めた記念祭

現寮交流会執行責任者　高橋陽一（昭和30年入寮）

「一万人の都ぞ弥生」の成功には応援団を含めた現寮生の多数の参加が重要な要素と考えた。そこで一年ほど前から現寮生への積極的な働きかけを開始した。例えば現寮で企画される観桜会、寮祭、寮歌祭などには可能な限り参加をして、発言の機会を得ては九・二二への現寮生諸君の参加を訴えた。しかし、今年（07年）四月頃までは現寮生の大きな関心は来年（08年）の第百回恵迪寮祭にあり、命名百年記念祭への認識はイマイチの印象であった。更に気になったのは、この期間は寮生の大半が帰省中とのこと。しかし、何とか百名位の動員を期待して動き回った。現寮役員を通じて在寮生向けのビラを配布してもらったり、現寮の寮歌普及委員会ビヤガーデンへの差し入れや寮歌合唱への積極参加等を通じて現寮生にも九・二二への機運が盛り上がって来た。

当日は思ったより現寮生の参加は少なかったようだが汚い正装？の応援団を含めて特に声の大きな男女学生（現寮以外もいた）が約七十人参加して「一万人の……」で重要な役割を果たしてくれた。

その後、農学部前のレクゾーンで開いた交流会には約五十人の男女寮生と約二十人の同窓生が参加し、歌い足りなかった新旧の寮歌を歌いまくり制限時間の五時半に散会した。参加してくれた現寮生の今も変わらぬ意気に触れて熱い想いに満たされたひと時であった。

答礼として一〇・二六からの九十九回恵迪寮祭に是非出かけて見ようと思っている。

最後に今回の現寮生対応には40年入寮大隈君、41年入寮木村君の尽力が多大であったことを特記する。

疾風怒涛！大寮歌祭

「大寮歌祭」執行責任者　谷口哲也（昭和48年入寮）

大寮歌祭会場の京王プラザホテルホールは熱気で溢れていた。会場定員をはるかに超える三百有余名の参加者の見守る中、開会宣言により大寮歌祭の幕は切って落とされた。

開会セレモニーの後、厳かに「都ぞ弥生」が斉唱され、そして祝杯があげられた。

慌しい準備期間であったが、皆が力を一つに集めて当日に至った。ことに恵迪寮同窓会事務局の佐藤静子さんは業務多忙にもかかわらず、実施に必要なデータの整理から備品の準備までのすべてを行って下さった。この場を借りて、厚くお礼を申し上げたい。

寮歌高唱が始まり、雰囲気は最高潮となった。百年の歴史を物語るように、次々と登壇する同窓生は二十歳代から八十歳代までと幅

広い。

今回の実施にあたっては、若手ＯＢの手助けが心強かった。在学中の者、大学院生、そして三十歳代の社会人と、これまで寮同窓会とは馴染みの薄かった諸君が積極的に参加してくれたことは、これからの同窓会の明るい手ごたえになったと思う。

楽しい時間は瞬く間に流れ去り、別離の刻限が来た。名残を惜しむ歌声の後に、「醒めよ迷いの夢醒めよ」の声が随所からあがり、大ストームでフィナーレとなった。再会を約する朋友あり、一期の別れを告げる老輩あり。

私の浅学菲才から不手際は多々あったが、成功裏に大寮歌祭を挙行することが出来たのは、ひとえに諸先輩方のご指導ご鞭撻並びに叱咤激励によってである。ここに深く感謝申し上げるとともに、今後ともご厚誼を賜りたいとお願い申し上げる次第である。

「恵迪寮万歳、百年記念祭万歳」

歌碑除幕式と現寮交流会担当

木村正博（昭和41年入寮）

六月、届いた支部ニュースに第一回恵迪夏祭り（ビール会）の記事が目にとまり八月四日、狸小路ライオンでの祭りに参加した。百年記念祭への関わりはすべてそこから始まった。四月、三十八年間勤務した青森県を離れ、古里北海道での生活が始まって間もない頃だ。

恵迪寮……、それは私の魂のふるさとだ。私がいま在るのは寮で過ごした二年の日々があるからだ。私は高校を出るのに四年かかった。第一志望は地元室蘭工大であり、北大は全く念頭になかった。教師も同級生も驚くほとんど奇跡のような合格、それでも入学する気はなかった。父が北大進学を強く勧めてくれ、やっとその気になったが何の準備も出来ていない。とりあえず寮へ入ろうと思うが、入寮願書が手元に無い。あわてて申し込んだら既に締め切ったという。しかし、昭和四十年入寮生による入寮銓衡委員会のすごさはここからだ。速達で入寮願書を送ってくれて、とりあえず名前と最小限の事項を記入して大至急返信せよ、という。私が昭和四十年入寮生に感謝し感謝してやまないのはこの故である。かくして私は入寮し、大学教育を受けることができたのだ。

さて、このたびの百年記念祭実行にわずかでも関わることができたことには光栄、幸福以外の言葉が見あたらない。

九月二十二日、秋晴れの百年記念祭の一日、同窓生の、現寮生の心の底から満足しきった晴れ晴れとした表情、そしてかくも胸を熱くする寮歌、これは一体なんなんだろうか。寮生活者でないとたぶん理解できないであろう。

この三月で職を退いたいま、これからの私の時間の一部は私に人生を授けてくれた恵迪寮に割き、恩返ししていくつもりである。我らが恵迪寮万歳、その誉れは永劫に。我らが百年記念祭万歳、その栄光は千載に。

醵金者ご芳名簿

恵迪寮命名百年を期して企画された「恵迪百年記念事業」は、本誌別掲記事の通り９月22日の記念祭と歌碑「都ぞ弥生」改修を始めとする記念事業が盛大に、かつ滞りなく進められ、残すところ書額等文化財の北海道大学寄贈（展示法について大学で審議中のため）と総括決算のみとなりました。

本会は、これら事業ために恵迪百年記念委員会および同実行委員会を結成し、皆さまに「恵迪百年記念事業への協賛お願い」をお届けしたところ、実に１千名近い会員各位および会社・組織等のご理解が得られ、募金目標の一千万円を超える浄財が寄せられました。恵迪百年記念事業か滞りなく進められたのも、「恵迪寮」をこよなく愛される皆さまの絶大なるご理解とご支援の賜物であり、総括決算前ではありますが、各位に対して厚く御礼申し上げます。

以下には、拠金戴いた会員各位および会社・組織等のご芳名（敬称略）を列記し、領収のご報告に代えさせて戴きます。本当に有り難うございました。

恵迪百年記念委員会
　会　長　中瀬　篤信（現恵迪寮同窓会名誉会長）
恵迪百年記念事業実行委員会
　委員長　横山　　清（現恵迪寮同窓会会長）

【昭和３～23年入寮】

（S03）本田 章、（S04）久葉 昇、（S05）吉見 一郎、滋賀 秀明、（S06）岡田 重治、加藤 百一、繁富 一雄、（S07）飯塚 馨、雨宮 義文、近藤 秀夫、滋賀 秀正、岡本 敏一、一柳 貞子（ご遺族）、（S08）末永 美隆、木村 一郎、荻野 辰夫、（S09）音羽 博次、河合 正恭、伊藤 三郎、（S10）鳥居 精一、内田 武彦、河合 惣吾、矢田 一、宍戸 昌夫、近藤 忠雄、中岡 章、佐藤 正八、（S11）吉野 照蔵、飯島 まり子（ご遺族）、（S12）湯沢 誠、千野 純之、今村 昌耕、松本 照男、野原 博、青木 清、（S13）岩淵 忠男、大屋 善延、金子 黎一、飯村 茂雄、吉田 敬一、安達 泰、児玉 清臣、鷺山 重也、杉村 興作、（S14）富田 信之、尾崎 克平、駒田 盈郎、武田 泰明、竹村 伸一、西口 栄一、小林 寿太郎、中 郁子（ご遺族）、江口 医院（ご遺族）、廣瀬 守直（ご遺族）、米田 縫（ご遺族）、（S15）宮野 美宏、（S16）松本 武夫、木全 幹雄、仲村 参郎、上平 林作、小川 周三、坂野 馨嵯男、田島 安之助、鈴木 英世、後藤 守、伊東 健、山下 昿登、田中 弘温、青木 眞一、村山 正郎、清水 由次、塩田 敬司、（S17）手塚 悳、渡辺 啓吾、坂本 富士郎、堀江 晋次郎、松代 平治、田中 明、北澤 馨、森 敬、村林 仁郎、樋田 成二、木村 等、小篠 守正、高澤 務、小林 教佑、池田 政晴、小沢 久弥、手島 正博、渡辺 文治、山田 康（ご遺族）、（S18）佐藤 豊、大森 浩、中畑 孝彦、若宮 明、安井 勉、青木 惟和、若盛 宗雄、福田 富夫、小野 昌信、河野 文弘、佐々木 忍、藤沢 経光、渡辺 勝也、常葉 隆道、平岩 正司、（S19）山中 正文、内田 一郎、山田 嘉治、山岸 稔、箸蔵 敏郎、中西 三郎、四方 英四郎、加藤 誠、熊谷 義雄、酒井 藤樹、本間 政治、橋本 達文、寺井 幸夫、泉田 和輝、渋谷 富業、東 吾一、（S20）長谷川 襄二、岩田 広吉、寿時 史郎、宮坂 正昭、森 昭、安田 昭三、牟田 悌三、井上 勇、飯田 博、伊藤 英一、岸 達夫、清水 哲也、寿時 史郎［住所不明］、武井 忠夫、新沼 奎彦、林田 照明、村井 幺乙、吉村 誠治、村野 順三、熱田 博司、上田 進、佐藤 弘次、高橋 一雄、多田 邦雄、富士野 昭典、谷川 弘、弘田 幸裕、石川 政幸、大関 幸一、中村 勝美、中島 武敏、碇 康彦、（S21）伊藤 益義、飯田 幾太郎、石金 昌晴、石坂 實、板谷 實、佐藤 博、清水 矩基雄、十亀 昭雄、竹内 惟義、鳥居 昌男、中島 通雄、西田 恒夫、能勢 誠夫、橋本 博治、馬場 隆、平田 保、松井 紀和、村上 忠司、森 博正、（S22）藤井 義彦、須藤 修方、石田 初一、大橋 雄穴、小野 泰雄、藤田 正文、本間 均、有波 敏明、鈴木 昭、吉岡 昭、市川 比良久、杉本 辰夫、中西 久二、野村 琥、鈴木 倫敦、菊地 直之、堀井 洵、高木 富士男、船戸 裕、庄野 秀哉、（S23）阿部 洋七郎、荒木 正勝、安西 洋一、伊藤 洋二、伊東 嘉弘、猪又 稔、今井 四郎、上野 雄靖、皆川 正男、延与 三知夫、大野 雅二、沖田 比呂志、奥村 純一、加藤 精司、岸部 繁俊、木脇 祐宗、黒田 治、源馬 琢磨、児島 仁、小林 一司、佐々木 幸弘、佐藤 哲、澤山 豊、鈴木

精華、鈴木 博之、瀬戸 賢太郎、高野 祐吉、高橋 裕哉、高橋 康昭、中村 秀、野崎 政一、平野 鶴男、藤永 薫、藤野 俊郎、藤原 昇治、古谷 健太郎、本間 一一、見沢 俊明、村山 正、安井 尚、山本 悟郎、脇川 康夫、和田 一明

【昭和25～34年入寮】

(S25) 石上 勇、一戸 昭、岩佐 孜、上山 英一、岡富 峻、小野 求、大畠 義矩、柏尾 稔、鎌田 等、工藤 信彦、熊谷 真記、厨川 昭二、見城 卓、小森 昭、櫻田 満之、佐藤 之郎、佐山 峻、須田 直之、田村 久仁夫、垂水 治、筒井 澄、富永 巌、中島 光男、中光 良之、中村 陽三、西田 信也、西田 誠、戸次 英一、星 利夫、松野 拓、山田 幸四郎、山本 忠志、(S26) 川村 潤一、菊地 弘明、木下 栄三、高木 任之、橋本 秀之、羽染 一男、本間 義紀、木村 正、川俣 良一、久門 雅史、澤井 寿一、澤 正雄、米田 昌弘、三野 昇、岡本 勝群、小坂 利幸、佐久間 哲郎、白松 幸爾、中嶋 利男、沼田 久、八剱 吉文、近岡 貞志、飯沼 副夫、坂橋 尚、上条 一昭、河原 克美、小久保 隆正、佐久間 勉、笹谷 宜志、澤田 昭志、清水 邦昭、千葉 馨、辻山 昌佑、二川 義昭、増子 忠恕、三上 進、水庭 久尚、山里 満、米山 忠雄、樋口 忠幸、吉井 誠、斎藤 宏、佐々木 清一郎、澤井 壽一、布川 欣一、平石 修、溝口 博、室田 昌幸、青山 和嗣、市田 篤郎、後藤 義治、高須 重家、中瀬 篤信、(S27) 大園 雍彦、川元 功、木原 槙一、久保 喜一、小久保 和孝、小寺 義彦、佐藤 道郎、松浦 博、澤井 広之、重山 哲明、島田 寛、鈴木 尚、千田 哲生、瀧澤 浩、俵 浩治、土田 実、出口 廣志、中楠 潤、中澤 邦春、羽田野 六男、藤倉 孝夫、星野 正、松崎 貞夫、村田 忠臣、守下 光越、山本 信雄、横平 弘、吉村 洋吉、平澤 峻、(S28) 井口 光雄、岡部 満雄、熊井 清昭、鈴木 慶紀、武田 良一、増田 清岩、村山 幹夫、倉持 允昭、河辺 傑、小泉 守、斉藤 実、酒井 義広、須賀 正太郎、鈴木 恭一郎、鈴木 日出男、高根 仟、高柳 良直、多田 和夫、照井 義彦、永井 真司、馬場 利郎、平野 亮輔、船越 一幸、宮内 久元、宮澤 寛、横溝 幸治、吉岡 秀明、(S29) 荒木 武夫、有田 敬、市川 茂、大谷 章、小口 洋右、岡部 賢二、加藤 法愷、河村 英夫、河野 明男、輿石 甫、佐藤 昌弘、塩谷 雄、篠原 猛、清水 喜三男、鈴木 勝男、高橋 長幹、高畑 正、武久 愼、田中 久弘、田村 達堂、中田 徹、藤村 稔彦、外園 邦彦、増田 定雄、松田 博市、三河 勝彦、村上 一良、八重樫 福治、我妻 榮、渡邉 正吾、高橋 秀一、清野 忠紀、井本 逸夫、(S30) 秋野 豊明、厚谷 純吉、安間 荘、伊東 孝、大石 英恒、大津 雅彦、大西 敞、岡田 広司、川嶋 恒二、菅野 浩、倉沢 俊次、小池 睦雄、小出 精、佐藤 裕、斉藤 進、佐藤 貴夫、桜井 充三、笹尾 琢磨、末永 義圓、曾我 照光、多賀 春雄、高木 哲郎、高橋 陽一、茅根 愛二、塚本 茂樹、土屋 晴男、手塚 巌、鉄川 昭、富永 祐二、中川 迪夫、早川 福利、林田 均、細川 秀人、本間 邦夫、丸山 玉樹、水島 典弘、宮田 富士夫、宮本 昇三、幸 健一郎、村上 明、村瀬 哲、本橋 勉、森松 良光、盛山 真行、矢島 敏克、山田 斌、山本 弘二、山本 二夫、(S31) 石橋 健、今野 勝介、浦崎 永徳、永楽 謙五、太田 徹、小笠原 孝之、岡田 弘、岡本 希八郎、河西 邦夫、梶浦 政男、加藤 秀一、兼古 潔、亀貝 一義、刈谷 純一、川原 幸則、工藤 宏、九里 謙一、久保 治良、河野 民雄、小林 征、坂本 博、桜庭 慎吾、佐藤 治、佐藤 允克、菅野 祐治、鈴木 潤一郎、高井 宗宏、新妻 敏男、西沢 郁夫、萩原 荘平、長谷川 孝太郎、長谷川 廣、樋口 正毅、福永 典之、二川 哲雄、干場 一正、穂積 清雄、堀 泰晴、前島 一淑、森元 昌輔、柳田 信吉、山下 貴正、山田 時夫、横山 清、渡辺 宏、(S32) 浅井 卓、新井 三郎、安齋 隆、石川 舜、石間戸 宗明、大西 吉武、大野 純暉、岡 利雄、小笠原 軍治、加藤 勝久、河村 征治、工藤 恭一、小林 大二、小林 三樹、小林 豊、斉藤 能久、笹井 清二郎、滋野 三樹、柴野 直行、島袋 全功、下村 正彦、関谷 日出夫、高野 豊、滝川 明宏、館林 桂三、田中 信義、玉置 和宏、次田 練次郎、筒井 公、寺崎 晃、大山 斉、加藤 武、渡邉 誠、徳永 英二、轟 明、和 孝雄、橋本 龍智、原 邦男、彦坂 忠俊、深谷 勲、星野 英二、堀 義彦、三島 史朗、山崎 克彦、山中 義正、湯浅 亮、吉田 康夫、和田 厚、見上 彪、北古味 雄、神 英樹、(S33) 若松 幹男、神谷 忠孝、住吉 幸彦、飯塚 進、藤波 富次、中村 晴彦、冨田 房男、牧野 俊一、五十嵐 功、間中 俊夫、平岡 義博、大橋 弘士、小野里 坦、金成 則彦、神田 栄夫、壁矢 恵行、小坂 昌道、清水 忠司、阪元 兵三、千坂 邦弘、中田 邦雄、野崎 恭弘、藤田 光雄、平野 誠、伊藤 洋一、松山 哲三、増井 淑郎、湯浅 康司、山近 則夫、尾郷 賢、伊藤 亮太郎、小笠原 良之、桶 直義、北野 博、佐藤 策郎、茂木 博、城田 昌良、山田 正幸、若山 喬史、水野 健一、榊原 勝昭 (ご遺族)、西森 遼子 (ご遺族)、(S34) 安間 元、阿竹 宗彦、石田 倹二、小泉 恭三、大堀 正幸、大久保 泰宏、太田 博視、亀谷 秀生、河

田 千脇、黒川 武、工藤 哲也、金 俊彦、佐藤 満旗夫、弓削 照孝、高橋 洋介、田村 栄、田畑 卓爾、田中 耕平、竹内 光夫、遠山 博史、中川 清吾、内藤 拓、西 紀昭、西村 清、野末 秀俊、古谷 修、藤沢 和二郎、松村 米紘、松本 威、前野 紀一、真間 孝之、森田 英之、佐藤 裕

【昭和35～44年入寮】

(S35) 青木 由直、井上 隆夫、上江洲 安宏、葛西 章、河部 光広、河村 日佐男、菊地 寛、五味 知久、佐久間 利夫、神野 一弥、鈴木 興三、梅原 文夫、多田 雅文、藤谷 常夫、山之内 久義、中山 嵩、中町 昭道、中山 貞夫、中井 新二、沼田 隆、能勢 敏壽、米沢 勝衛、関根 忠雄、(S36) 石津 晴夫、板橋 菊二、上野 八郎、宇田川 礼一、衛藤 正敏、小野 俊一、木野 紀、國中 拓、黒沢 厚基、斎藤 国和、佐々木 孝一、三戸 猛義、塩谷 優、武川 恒也、伊達 崇秀、中村 慶治、萩原 昇、千代田 尭汎、富樫 幸雄、西田 泰典、福井 徹也、六宗 一征、渡邉 勝彦、(S37) 石川 戡、石本 征一、伊藤 博夫、今井 久雄、岩佐 直明、江向 直美、大木 捷利、大沢 勝次、梶山 泰嗣、浦口 勝美、北川 恭三、金 武彦、篠田 悠一、新蔵 利男、田口 光彦、中川 晃、根岸 嗣治、根岸 正充、福田 紀之、藤井 洋治、向山 征哉、森井 仁、両角 三春、(S38) 秋野 隆英、猪狩 久一、伊藤 靖久、福田 康浩、氏平 増之、大岩 旭一郎、荻窪 利昭、沖田 紘昭、小野 剛、尾見 仁一、貝野 洋、片桐 政司、楠美 清彦、小長井 奎幸、斎藤 勝則、佐藤 市雄、佐藤 史夫、谷 邦人、土屋 進、広瀬 済、福田 安生、松本 光正、(S39) 五十嵐 章、伊藤 昌彦、魚山 和春、岡田 恵、春日 清一、菊間 征司、金 正出、上戸鎖 邦雄、佐竹 正治、佐藤 忠昭、佐藤 博昭、佐藤 八雷、佐野 幸規、椎名 春彦、芝垣 美男、清水 弘之、寺岡 和彦、友弘 力、外山 清高、鳥潟 肇、長浜 秋良、西陰 研治、西田 昭夫、西田 猛、平野 修、浜島 正幸、林 仁、山田 秀司、吉田 健、関口 光雄、(S40) 飯田 晏久、石村 義典、上坂 佳則、大隈 昭二、大野 泰熙、小黒 数人、嘉数 光一郎、神代 登、川島 泰晴、今 繁、嶋田 憲一、篠原 克行、白浜 憲一、菅原 義男、高 彰、武市 博、千川 浩治、千田 忠男、中村 冨士男、西雪 弘光、前田 利孝、前田 政範、溝渕 俊雄、三亀 和雄、宮前 匡雄、(S41) 阿武 和夫、飯本 丈夫、糸井 武、鈴木 博史、入江 和彦、采 孟、浦谷 義博、勝山 真吉、神川 一俊、北村 晴夫、木田 猛、木村 正博、佐々木 茂雄、鶴江 豊、長尾 武士、中出 善三、中山 康、堀江 保雄、宮西 義一、八重樫 幸一、柳平 寛幸、山田 淨二、山田 良弘、吉澤 境、(S42) 秋谷 精一、板倉 一、井出 秀三、加藤 浩二、河原 一夫、御子柴 耕也、酒井 健司、高野 輝彦、畑 博、古谷 雄二、(S43) 阿部 一九夫、伊藤 誠一、及川 章、大平 友三、川瀬 重雄、小池 秀正、稲葉 廣次、佐藤 義則、高橋 克彦、中村 廣治、牧野 孝、皆川 吉郎、村上 昭男、中村 一孝、(S44) 植松 高志、坂倉 雅夫、多田 勝、谷口 幸三、鶴渕 精一、寺村 博行、中島 治夫、中前 博昭、畑原 純治、藤田 彰美、村松 憲治、山崎 芳行、山下 悟、山城 雅明、米澤 安衛、渡辺 雄三

【昭和45～57年入寮】

(S45) 小原 隆夫、松浦 昇、村本 昭市、有馬 光之、吉田 守男、藤長 恭常、園山 俊浩、小竹森 政幸、浅井 定美、田村 博昭、吉沢 武治、山内 泰雄、青砥 澄夫、五十嵐 優、安藤 俊春、矢嶋 啓司、伊藤 正朗、松村 千春、川村 直之、(S46) 丹上 正安、長久保 敏雄、児島 博、景山 博文、上岡 晴人、切本 清和、酒井 正人、鈴木 康仁、三田 悌一、中尾 博巳、吉田 次夫、(S47) 安達 輝政、蝦名 雅章、小川 肇、亀井 滋、大林 雅彦、佐藤 文雄、富樫 辰志、福永 徳三郎、西尾 覚、長谷川 裕正、増島 篤、水野 弘康、表 芳弘、横山 孝、(S48) 阿久沢 豊、江本 永二、大林 正章、神保 重孝、関川 哲夫、平 和俊、高橋 勲、谷口 哲也、中紙 麦平、宮崎 譲、山本 郁夫、(S49) 浅井 満、岡本 茂樹、香取 秀明、佐藤 守、柴野 悦男、津田 祐吾、松田 博嗣、中島 圭一、中井 正人、(S50) 遠藤 洋一、小木 聡、鹿田 幸年、(S51) 石川 隆雅、太田 勝一、小川 弘行、小林 次郎、石川 隆雅、塩井 孝、仲井 邦彦、乗松 修司、安田 健治、若目田 篤、(S52) 朝倉 仁樹、浦口 宏二、上谷 誠司、川村 信也、田子 真、高橋 浩、渡部 洋一、(S53) 在原 正人、家村 明宏、川島 大幸、木下 勝義、渋谷 正志、竹田 幸宏、田中 勇、田中 利明、中田 泰央、濱田 俊政、清水 太、(S54) 岩崎 宏志、宇原 久、小林 雅之、三条 克彦、高橋 昭雄、日向 尚、三浦 史洋、吉野 宣彦、(S55) 應地 広久、亀山 敏、榊原 悟志、町村 尚、(S56) 阿保 雅幸、石川 隆二、田邊 弘一、加藤 克、平井 健二郎、折橋 英行、(S57) 内田 修、海谷 正道、栗田 成裕、五関 一博、中田 朋之、林田 薫、伏島 康男、堀田 圭一、武藤 晴達、山根 隆志、森川 高志

【昭和58～平成入寮他】

(S58) 石関 正弘、河村 智志、久保田 鋼、日比 幸人、藤本 康男、(S59) 呉 敦、高橋 広樹、(S60) 小池 清峰、坂岡 桂一郎、(S61) 檜垣 直幸、(S62) 森 敏彰、(H1以降) 川上 昌弘、菊地 晶裕、佐野 将義、千葉 雅彦、西村 真人、渕上 玲子、松本 真介、植村 敬一、小田 和美

【寮OB外拠出金御芳名】

鍵和田 忠男、小菅 高之、丹治 道彦、大公一郎［㈱アラタ名誉会長］、樋口達夫［㈱大塚製薬社長］、横川義昭

(以上984名)

【中間決算の概要】

特別会計「恵迪百年記念事業」の平成19年10月12日現在の収支は、次の通りであり、皆さまの絶大なご協力により収支が合償うと見込まれます。事業報告および決算報告は、本会理事会に報告して承認を受けます。心からの御礼を申し上げます

(収入の部) 総　収　入：16,527千円

主な内訳：醵金：10,447千円［984名］、広告収入見込額：2,280千円［企業・組織の醵金、広告頁参照］、オルゴール他記念グッズ完売時見込額：3,800千円、等

(支出の部) 現在迄の支出：13,685千円

主な内訳：記念祭事業費：1,956千円、記念事業費見込額：9,409千円［会誌恵迪刊行費の追加頁差額および文化財の寄贈展示経費未計上］、運営費：2,320千円、等

［物故鬼籍全名］

入寮年区分	口数別醵金者数		
	計	1～2口	3口以上
S3～S15	56	47	9
S16～S23	179	152	27
S25～S29	174	155	19
S30～S35	242	209	33
S36～S40	122	109	13
S41 以降	203	195	8
その他	8	－	－
総　計	984	867＋α	109＋α

拠金者の分類結果

恵迪寮百周年に思う

富士野　昭　典（昭和20年入寮）

［恵迪］

恵迪寮は明治四十（一九〇七）年、札幌農学校の寄宿舎を「恵迪寮」と命名して発足し、今年が百周年に当たる。寮名「恵迪」は当時北大予科の作文を担当されておられた、漢学者湘香新居郭二郎先生が提示された猶興、有隣、有恒、恵迪、の四文字から明治四十年四月二日の寮名委員会で『恵迪』が採択され、同年四月八日の記念祭で披露されたことは、既に恵迪諸氏ご承知の通りである。

［William Smith Clark］

明治新政府は明治二（一八六九）年蝦夷島を北海道と改め、北海道の開拓と防衛のため、新たに開拓使を設けることとした。新設開拓使は北海道への移民を募ると同時に、開拓事業の指導者を養成するため、東京芝の増上寺に開拓使学校を開設した（明治五年）。この学校は明治八年八月札幌に移転し、札幌農学校と称することとなった。

かねてから新天地北海道の開拓には、米欧の文明の導入が有用であると考えておられた黒田清隆開拓使長官は、その風土が北海道と類似しており、軍歴も持つことをも考慮して、当初から熱意を示していた米国マサチューセッツ州立農科大学校のWilliam Smith Clarkを北海道に新たに設ける農学校の責任者（校長）として招聘することとした。クラークは日本側の任期二年という案に対し「私は他人が二年要する仕事は一年で完了する」と高言し、事実一年でその成果を上げた。北大のキャンパスには、当時の学生達の実地指導用に開拓された学校農園が、今もその面影を残している。

新設した札幌農学校は、明治九年八月十四日に開校式を行った。クラーク学長は従来の学生心得を全廃し、〝Be Gentleman〟の一句のみの校則を定めた。

明治十年四月十六日、クラーク学長は見送りの農学校生に〝Boys, be ambitious !〟と叫ぶなり、鞭を馬腹にあて、行ってしまわれたと、見送った学生達は、語っている。

［再び恵迪］

寮名に「恵迪」が掲げられた経緯は冒頭に記したが、最後に「恵迪」の意義について、私なりの考え方を述べておきたい。

「恵迪」の原典は中国の古典五経（易経・詩経・書経・春秋・礼記）のひとつ書経と伝えられており、「恵迪」の原典となった一節は、『恵迪吉、従逆凶。惟影響（迪に恵へば吉にして、逆に従えば凶なり。惟れ影響たり）』と言われている。私は引用元とされている書経の一節では吉と凶とが一対として使われており、当時の天界思想とを併せて考えれば私はこの一節は自らの迪は自らの力で切り開くという「恵迪魂」の根元「自主自立」の道を示唆したものと考えている。

恵迪の友よ、自らの分を弁え互譲（協調）を忘れることなく（Be Gentleman）、弧高に傲ることなく衆愚に溺れることなく、貴き野心を培い（Be Ambitious）共に手を携え、しっかり前を向いて歩き続けようではないか。

家族5人「恵迪」と強い絆

芝垣美男（昭和39年入寮）

昭和三十九年四月、北海道の地方都市の公立高校を卒業したての私が、何やら恐ろしげな恵迪寮の玄関口に佇んでから、もう四十三年になろうとしている。

恵迪寮一〇〇年の歴史の中で、国内外で活躍している一万数千人を超える恵迪寮同窓生全員が、自分こそが「恵迪寮魂」を継承していると自負しているに違いない。しかし、恵迪寮一〇〇年の歴史の中で、私ほど北海道大学恵迪寮と固い絆で結ばれた者はいないと密かに自負している。

まず私は恵迪寮在寮当時、「落語研究会」の旗揚げを呼びかけ、それに呼応した寮生の島田俊夫君らの協力で「北海道大学落語研究会」が正式に設立されたのである。以来同研究会は現在まで脈々と受け継がれ、本年現役会員が全国大学落語競演会で、見事準優勝に輝くまでになり嬉しい限りである。私自身、現在「室蘭落語長屋大家」更には「北海道素人落語協会会長」として、大学卒業後も、北海道内外で落語口演を続けている。

更に室蘭地方在住者の恵迪寮同窓生に呼びかけ、北海道内で最古の、地方在住者同窓生の集い「室蘭恵迪会」が発足した。

更に数年前、入寮四十年を記念して、三十九年入寮同期の佐竹正治君、四十年入寮の白浜憲一君らと呼びかけ、三十九年四十年入寮の同窓組織「恵迪３９４０会」が発足し、当時の在寮生が通い続けた恵迪寮近隣の屋台ラーメン屋亭北軒（通称モツラ）の女主人鈴木トクさんを特別招待し、全国から駆けつけた仲間と感動的な宴を催した。

そして私を北海道大学恵迪寮と固い絆で結ばれていると自負する由縁は、私の家族にある。私の妻は、私と同じ法学部の同級生であり、私が二十五歳で弁護士を開業し、郷里の北海道室蘭市で法律事務所を開設して以来、現在まで事務員として私をサポートしてきた。私達夫婦には三人の娘がいるが、その娘達の名前が実は皆「恵迪寮」に由来するのである。

娘達の名前は、長女「さや香」・二女「はな乃」・三女「なの香」。いずれも、本年一〇〇年を迎える北海道大学恵迪寮の明治四十五年度寮歌「都ぞ弥生」の一番の歌詞から戴いたものである。強調して申し訳ないが、恵迪寮一〇〇年を迎え、恵迪寮同窓生一万数千人を超える中で、娘三人の名前を寮歌「都ぞ弥生」の歌詞から命名した者は、私一人に違いないであろうと確信している。

私は、寮歌「都ぞ弥生」を歌うたびに、恵迪寮一〇〇年の歴史と伝統の素晴らしさに涙しそして我が三人の娘達の幸せな人生を心から願うのである。

夜更けに、星またたく故郷の天を一人仰ぎ、「明日は人生の旅なれば」（大正六年寮歌魔神の呪六番最終節）を歌った若き日を思う。

星去り、時移ろうとも、夢にも忘れぬその名こそ、我が青春の「恵迪寮」。

恵迪寮訪問記

横平　弘（昭和27年入寮）

去る四月二十二日（日）夕刻に現・恵迪寮を訪問する機会があって、その一部を初めて知った。

目ざす建物は原始林のかなたにあって、北大のキャンパス内とは思えない僻地の感じであるが、その裏側はすぐ石山通りに面していて、交通は不便ではないようである。

A・B・C・D・E各五階建くらいの五棟が中心部（共用棟）から放射状に配置されており、外観はスマートで五十五年前に入寮した我が恵迪寮（木造二階建て四棟並列）とは別世界の感じである。

玄関とおぼしき扉を開けると、あまりきれいとは言えない十畳間ほどの事務室があり、そこで接待された。その隣りのホールになっている共用棟で丁度数十人の寮生が集って寮歌の合唱をしていた。その中に女子寮生が何人か混在しており、初めのうちは何とも奇異な感じを受けた。歌詞の一部分を除き、総体的に歌のテンポは当時よりは早くなっており、これも時代の変化を感じさせる。

現在の収容寮生数は学部生四〇〇人、大学院及び留学生一〇〇人、計五〇〇人（このうち女子学生二～三割）で、第二八八期執行委員会が「寮務・炊務・会計」の三部制で運営している。寮務部では、現在でも経済的に困難な学生が多いため、アルバイトのあっせんをしているとのことである。この他、「文化活動常任委員会」があり、新入寮生歓迎コンパの企画なども受け持つようである。

食事は各部屋ごとで取ることになるため、大食堂は無いとのことで、丁度食事の時間帯に遭遇したため、事務室で寮生と同じ夕食をご馳走になった。カレーも結構な味であったが、ライスも本物のキララ397を大釜で炊き上げたばかりのせいか、これまた最高級の味で、いつもひもじい思いの我が恵迪寮時代には経験できなかった満足感を覚えた。これこそが我が世代の、「浦島太郎の心境」であった。

食事をしながら委員の寮生と恵迪寮の現況や寮生気質などについて若干話し合った。やはり個室でないため、自分本位の勉学や生活ができない悩みをもつ寮生も潜在しているようで、これは我々OBも経験した古くて新しい問題であるようだ（寮のアパート化）。しかし当時に比べて学生運動も少くなって外見は平和的であり、寮内も和やかな雰囲気が感じられた。また今回の非公式訪問に対しても好意的であったように思われた。

これを機会に今後はOBと現役との交流によって、恵迪寮の良き伝統を後輩に深く理解させ、それを末永く引継ぐ手立てを考えていきたい。

大変ご多忙のところ、応待された寮務部委員・今田達哉君（文学部二年）、炊務部委員・堤悠里子さん（医学部保健学科二年）、その他の委員・諸君に深謝するとともに、恵迪寮の今後の発展を祈念します。

ラグビースピリッツ

萩原　昇（昭和36年入寮）

北海道大学ラグビー部創基八十周年記念行事が二〇〇四年（平成十六年）八月二十八、二十九日に行われた。初日にはOB会・北菱クラブの総会が遠友学舎で開かれた。遠友学舎には初めて訪れたが、キャンパス内の昔の北十八条の通りがトンネルになり、西側の市街地と繋がっていた。遠友学舎は北十八条の通りに面していたクラーク牧舎の牧場の所に作られていた。この通りは、恵迪寮から電車通りへの道で、日曜日毎に、美香保のラグビーグラウンドへ徒歩で通った舗装のない道路であった。四十二年前のゆったりとした時間の流れる札幌の街が思い出された。

北大ラグビー部は、恵迪寮の中で一九二四年（大正十三年）創基呱々の声をあげ、一九二五年（大正十四年）に予科桜星会（現在の体育会）ラグビー部を創部、以来八十年有余の歴史をもっている。恵迪寮は予科の一年生から三年生が生活していたが、十余名のラグビーの愛好者が練習を始めたのがきっかけで予科ラグビー部がつくられた。

予科ラグビー部は正に北海道にラグビーを普及するフロンティアであった。そして、恵迪寮は、「物理的にも精神的にも予科ラガー部員の拠り処であり、ラグビー部の育ての親とも言える存在であった」（金子黎一北菱第四代会長・昭和十三年入寮、「創基八十周年を祝う」）

OB会・北菱倶楽部は十年後の一九三五年（昭和十年）に誕生し、会誌『北菱』の創刊号を発刊している。毎年一回の発行の努力が重なり、二〇〇三年（平成十六年）までの四十八冊の会誌が総会の会場に展示された。この会誌は、北大ラグビー部の八十年の歴史であるとともに、恵迪寮生の歴史でもあり、恵迪精神の継承の歴史でもある。そして、現在もラグビー部が旧恵迪寮跡の横に確保され、恵迪精神と八十年間の青年の汗が北大キャンパスに沁みこんでいる。

『北菱』第二号（一九三九年）には、大学文武会部長がラグビー部に挨拶文を載せ「友情の貴さ、有難さ」について語っている。「さて、友情は、相互の理解から生まれる。相互の理解を培うものは、共同の忍苦とその忍苦から生まれた、共同の限りない愉悦とである。一つの大きな名の下に、一つのボールを追って、忍苦と、愉悦とを共にした人達が固く結ばれるのは自然である。」現在にも、通ずる名文である。

『北菱』第七号（一九四四年）は、「戦局は日に日に苛烈深刻の度を加えつつある」中で発行され、旅順など前線にいるラグビー部員と札幌のラグビー部員とがお互いに近況を伝え合う手紙の交換文集の様になっている。今年の正月三日、イーストウッド監督・渡辺謙主演の映画『硫黄島からの手紙』を見ていたから、第七号の抄録を再読しながらも、共感して涙が出てきた。

北大ラグビー部の総会の後、会場を道庁の隣のホテルポールスター札幌に移して、祝賀会が行われた。祝宴の最後には、正に老若男女一六六名が大広間一杯に円陣を組み、「都ぞ弥生」と「北海道大学ラグビー部部歌」を

斉唱した。

北海道大学ラグビー部部歌

一九三四年　作詞　坂井　稔（一九三一年入学）
　　作曲　飯田　毅（一九三二年入学）
　　採譜　佐藤　博（一九四六年入学）

一．黄塵はるか　隔てたる
　ここ北溟の　原始林
　巣立ちし　若き荒鷲の
　意気ぞ満てる　フェアプレイ
　見よ　意気の　北大予科ラガー
　ファイト　ファイト
　ファイト　ファイト　ファイト
　オンワーズ　ヴィクトリー

二．残陽西に　茜して
　五彩の雲の　はゆるとき
　ダーク・グリーンの　若武者の
　熱ぞ満てる　フェアプレー
　見よ　熱の　北大予科ラガー
　ファイト　ファイト
　ファイト　ファイト　ファイト
　オンワーズ　ヴィクトリー

　このラグビー部部歌を作詞・作曲された坂井・飯田先輩は、共に昭和七年度（一九三二年）入寮である。ダーク・グリーンは、北大ラグビー部の伝統のジャージーの色である。フェアプレーが強調されているのは、クラーク博士の「紳士たれ」の教えを具現化したものと思う。

　バブル景気の土地高騰とその後のバブル崩壊後の惨状のことを「第二の敗戦と同じである」と『大日本帝国の生と死　天皇と東大』（文藝春秋社　二〇〇五年十二月発刊）の著者立花隆が語っている。『国家の品格』の著者藤原正彦は、『文藝春秋　平成十九年一月号』で『特別寄稿　驕れる経済人よ、猛省せよ　国家の堕落』で、バブル崩壊後の「市場原理主義を軸とした構造改革」を批判している。市場原理主義によって、日本農業は壊滅し、我が国の美しい田園は荒廃し、日本の誇る文学を初めとする芸術や文化、数学を初めとする基礎科学の基盤が弱体化すると警告を発している。同感するとともに、学生スポーツの基盤も弱体化すると思う。

　映画『北の零年』の主演女優吉永小百合は大のラグビーファンとして有名であるが、『家庭画報　平成十八年三月号』の「第三回吉永小百合私自身　ラグビーフリーク」の中でラグビーの魅力について語っている。ラグビーの初観戦は中学一年生の時で、東京帝国大学ラグビー部出身の叔父が秩父宮ラグビー場のニュージーランド対日本の試合のレフリーとして笛を吹いたからだったという。そして、故宿沢広朗・元ラグビー日本代表監督と対談し、二〇一五年のワールドカップの日本招致にむけ盛り上げたいという。

　ラグビーというスポーツの発祥は、一八二三年十一月イギリスのパブリック・スクールの一つ、ラグビー校でのフットボールの試合中のエリス少年によるハプニングを基にしているといわれている。（『ラグビー』大西鉄之助著　旺文社昭和三十七年発行）その頃の日本では、一八二一年、北海道を含めた正確な伊能忠敬の『大日本沿海輿地全図』が完成した。北海道は、日本全土の四分の一を占める大地である。夏の北海道に世界中のラガーが集まる夢を見ている。クラーク精神、恵迪魂、ラグビー・スピリットには、共通するものがあり、再び広くアピールすることが求められている時代になったと思う。

札幌農学校出身の麻布中学校清水由松校長の思い出

小沢久弥（昭和17年入寮）

（元）北海道大学農学部　髙松正信教授

麻布中学校　第２代清水由松校長

昭和十六年十二月八日の眞珠湾攻撃と共に日米戦争が始まり、その翌年の昭和十七年三月、東京で北大予科の入学試験が行われて、私は無事合格することが出来た。

戦争の眞最中でもあり仲々大変な時期ではあったが、幸いなことに、私が卒業した麻布中学校（現麻布学園）の当時の清水由松校長が、札幌農学校（明治十七年度）出身の大先輩であったことと、更にまた、麻布中学校出身で、また、札幌農学校（明治三十四年）出身でもある髙松正信先輩が、当時の北大農学部教授として大学にいらっしゃったことも重なり、私は北大予科と、そして恵迪寮の新しい生活に無事入ることが出来たわけであるが、この御二人に対しては今でも感謝の気持ちでいっぱいである。

また、髙松正信先輩は、恵迪寮寮歌第一号の明治四十年「一帯ゆるき」の作曲者でもある。

実は先日、麻布中学校の同期会（昭和十七年卒、第四十七期）が、東京の「ホテル日航東京」で行われ私も出席したが、その席上皆で当時の思い出を語り合う中で、清水由松校長に対する尊敬と感謝の気持ちが余りにも大きい事に、今更のように驚くとともに、その人間性の偉大さに対して、改めて深い感銘を覚えた次第である。

◎清水由松校長の人間形成

清水由松校長は一八六五年（慶応元年）福井県敦賀に生まれ、十三歳の時に上京、東京一致英和学校にて英語を学ぶとともにキリスト教に感化され、一八八四年（明治十七年）念願の札幌農学校に入られるのである。

一八八八年（明治二十一年）札幌農学校卒業と同時に、同じ札幌農学校の第一期生（明治九年度）である渡瀬寅次郎が校長の水戸尋常師範学校に教諭として招かれる。

その後ミッションスクールの長崎活水学校にも勤務された後、丁度その頃、幕臣であった江原素六先生が明治新体制のもとに創立された麻布中学校（最初は東洋英和学校中学科と称した）の、教頭として懇望されて赴任することになる。時に一八九五年（明治二十八年）、清水由松が三十歳の頃である。

清水教頭は江原初代校長の高邁なる精神のもと、校長の良き片腕として盡され一九二二年（大正十一年）に江原校長がお亡くなりになるまで全力で疾駆され、校長の跡を継いで第二代校長になられるのであるが、校長になられてからも江原精神を徹底して引継がれ、高邁崇高な遺風を提唱されて、一九四二年（昭和十七年）までの約二十年間実践躬行の範を示されたのである。

昭和十七年十二月七十七歳で校長職を退かれて名誉校長となられたが、昭和二十一年にはその教育に対する功労により貴族員議員に勅選されるのである。

今世間では、麻布中学校（現麻布学園）が所謂進学校の一つとして注目されているが、私達卒業生の思い出としては決してガツガツと勉強ばかりに励んだと云う記憶は全く無く、寧ろのんびりと自由気儘に学生時代を過すことが出来たと云うのが皆の一致した印象である。

余りにも自由闊達な校風である為に、ひと

大正６年４月28日、麻布中学校初代校長
江原素六先生が北大を訪ねられた時の記念写真（前列中央）

頃はその卒業生の中には芸能人になる人が多く、例えば、フランキー堺とか、小沢昭一であるとか、牟田悌三、神津善行、または、最近亡くなった仲谷昇等が卒業生であることが良く話題になったものであるが、最近は寧ろ、現役の衆議院議員の数が多い事も先日の同期会で話題になった程である。

例えば既に故人ではあるが、橋本龍太郎とか、福田康夫、与謝野馨、平沼赳夫、丹羽雄哉、谷垣禎一、中川昭一等は皆麻布中学校の卒業生であり、今正に政界の眞只中で活躍中の人達ばかりである。

勿論、このような卒業生達は特に偉い人というわけではないが、皆それぞれ、一つの個性を持って自己主張を貫き通していらっしゃる方々ばかりである事は確かであろうと思う。

清水校長は、初代校長の江原素六先生の跡を継いで、教頭時代及び校長時代の合せて約五十年間を、麻布中学校の育成一筋にその一生を捧げられ、正に今日の麻布学園の基礎を基かれたと云っても決して過言ではなかろうと思う。

是は或いは私だけの思い込みであるかも知れないが、少年時代にキリスト教に感化され、念願の札幌農学校に入学し、そして卒業され

た後に、麻布中学校の教育一筋にその一生を捧げられ、今日此のように個性豊かな人材を多勢世の中に送り出されたことは、大変な功績であったものと思われる。

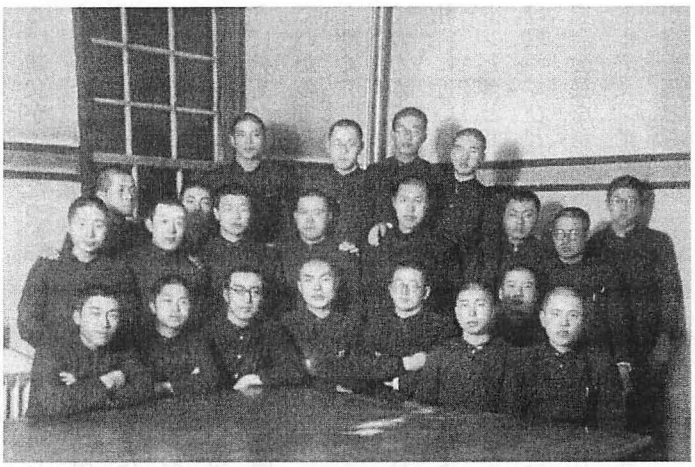
正に、札幌農学校のクラーク博士の「Ｂｅｇｅｎｔｌｅｍａｎ」の精神を、そのまゝ麻布中学校の教育の指針として、生かされたのではなかろうかと思われてならないのである。

◎教育の改正について

近頃新聞やテレビでは、国会に於ける教育基本法改正の審議の模様が毎日のように報道されている。

私達戦争時代を生きて来た者にとっては、戦争時代の軍国主義の思想は当然否定されなければならないが、今日の若者達の心に根付いている、極端な「個人主義」と云うか、相手の事を構わぬ「勝手気儘」な思想だけは決して許されるものではなく、今後断じて改正して行かねばならぬ課題の一つであろうと思う。

此の法律は戦後の占領下に制定されたものであり、軍国主義の放棄は当然としても、同時に、それまでの日本古来の美しい風習まで破壊してしまう結果になってしまった事は、


第７期幹事会（昭和18年）（腰かけている右から３人目が筆者）

誠に残念の極みと云わざるを得ないのである。

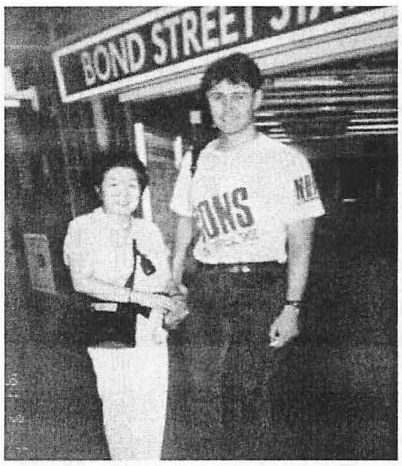
今世の中では毎日のように、親子間の人殺しや、いじめや自殺等の忌まわしい事件や、或いはまた、地方行政の官製談合等の不祥事件が相次いで起きているが、これ等も総て、他人の事は一切構わないと云う、極端な「個人主義」の結果であろうと思う。

またひところ新聞紙上を賑わした、耐震強度偽装の姉歯秀次の件、ライブドアの堀江貴文の件、そして村上ファンドの村上世彰の件等の問題も、正にこの教育の歪みに起因するものと云わざるを得ないであろう。

本来ならばこれまでにない優秀な頭脳の持主である筈なのに、肝心な人間性が欠如したまゝにいきなり学問の世界に入ってしまった為に、このような残念な結果になってしまったのでは無かろうかと、誠に惜しい気がしてならないのである。

これが若しも私達が経験して来たように、恵廸寮のような人間修養の生活を経た後に、学問の道に入る事が出来たならば、世の中に対してどれ程大きな貢献が出来たであろうと残念で堪らない思いである。

「美しい国へ」と云う安倍総理の言葉があるが、先ずは「美しい心の国」になりたいものである。



ロンドンの親切な青年（1991年）

私は嘗て「一生の宝」とも云える貴重な体験をした事がある。

それは十数年前であるが、家内と二人でヨーロッパに旅行した時の事である。

ロンドンの或る地下鉄の駅の小店の前で、何かキャラメルを買おうとしたが、生憎小銭が無く困っていた時に、突然後の頭の上から手が伸びて来て、その小銭を差し出す人がいたのである。

振りむくと若いイギリスの青年が、「どうぞその小銭を使って下さい」と云う仕草をしながら笑っているので、驚いて御礼の挨拶をしたが、その青年は寧ろ当り前の事をしただけという顔をしているので、もう一度びっくりしてしまったわけである。

日本に果してこのような青年が居るだろうかと、一瞬淋しい思いをしたのも事実である。

何時の日か日本にも、このように人の痛みを理解する、暖かい心の青年が生れて来るように努力する事こそ、我々今生きている者の責任であるとつくづく思う次第である。

（第七期（指導部長）幹事）

恵迪寮とわが親父

玉置和宏（昭和32年入寮）

十八歳になったばかりでまだ頭が丸坊主の田舎の高校生が恵迪寮の玄関をくぐったのは昭和三十二年の四月の半ばを過ぎていた。他の学生より遅かったのは補欠だったからである。親父が一緒だった。僕より親父が嬉しそうだった。足を踏み入れたのは中寮の一階の部屋で落書だらけでまことに汚い部屋だった。だがそこにはこの世に生を受けて初めてのリバティ（自由）が無限に広がっているように見えた。部屋は若者の希望の匂いに満ちていたのである。

親父が帯同したのは彼が入寮に一役買ってくれたからである。出身高校が道内で比較的札幌に近いほうだったからか、一次試験でストンと落とされた。その落選通知の葉書を受け取ってひどく落ち込んだ。いま北大東京同窓会会長を務めている数土文夫君（ＪＦＥホールディングス社長）は富山県の高校出身だが寮を落とされたことにひどく落胆した。いまもってその悔しさと怨念が大きかったと聞いたことがある。

僕は「北大に入ったのは恵迪寮に入りたかったからだ。もうやめて東京の大学に行く」と贅沢な駄々をこねた。

実際にそうするつもりだった。友人たちは東京の大学に合格して早くも口々に東京風を吹かしていた。それに対抗出来るのは北大そのものではなく、恵迪寮しかないと密かに心の中で決めていた。その思いがあえなく消えた時にこれは浪人だと思わざるを得なかったのである。

ある日父は我が家（果樹園）の保存用の林檎を手にぶら下げて札幌に出かけた。これはあとで聞いたのだが知り合いの前北大学長に頼みに行ったらしい。

しばらくして寮からはがきが来た。

「補欠の十一番」である。欣喜雀躍という中国語系漢字が頭でかけ巡った。むろんその世俗的なプロセスを知る由も無い。だがこれがわが人生を変えた幸運の切符だったと確信している。

個人的なことばかりで恐縮だが、父は大正時代の北海道帝大に入った。しかしその直後、実家が火事に見舞われ全焼した。弟までが焼死し残された弟妹のため中途で北大を辞めざるを得ず、旧制中学卒の資格で役人になったのだ。前学長との接点はそれだったのだろう。待望の寮生活は本当に楽しかった。頭の世界は無限に広がった。恋の真似事もしたり、若きウエルテルの悩みも満喫した。

よき友人に恵まれ尊敬すべき同室の先輩も居た。その一人が河野民雄先輩だった。部屋の彼の机の書棚にはいままで見たことのないような哲学書で埋まっていた。夜中の議論もメッチェンのことばかりではない。マルクス、ハイデッガーからカント、いやサルトルだ。煤けた部屋の天井は果てしもなく続く青臭い議論をどう理解しただろうか。僕が新聞記者としての多くの仕事で啓発された原点はあの夜中のデベートだったと信じている。

もう一人同室で命の恩人が居る。横浜で病院を開業している永楽謙吾先輩だ。一九九四年に突如がんに見舞われた。五十四歳の働き盛りの論説委員だったころである。海外の大学に家族帯同で一年間の客員教授に招聘されていた。条件も悪くないし、そろそろ将来を考える歳だ。

それだけにショックも大きかった。冷静な永楽医師のアドバイスで築地の国立がんセンターの手術を受けることになった。世界的な食道がんの名医渡辺寛先生にめぐり合ったきっかけをつくってもらったのは先輩のひと言だ。それからもう十四年になる。

この寮は僕の人生を創り育ててくれた恩人である。それは親父が導いてくれて、そこで出会った多くの寮友からいただいたものでもある。その親父は体調を急激に崩し僕が寮の二年生の終わりのころ胃がんで亡くなった。きっと本人が一番行きたかった恵迪寮に息子を入れて安心して成仏したのか。父と子の二人三脚でめぐり合った恵迪寮がまだこうして生き続けているのが本当に嬉しい。

ところで四十四年間務め昨年退いた毎日新聞社は最後の将軍の一橋慶喜が出た一橋家の屋敷跡に建っている。明治初期の東京外国語学校の跡地だ。旧江戸城の平川門の真ん前にあったこの学校ではクラークが演説し若者を札幌農学校に誘（いざ）なった歴史的な場所である。二期生の新渡戸稲造も内村鑑三もここから蝦夷地に雄飛した。青年期の日本を背負った十五、十六の若者がこの地から恵迪寮の前身である札幌の寄宿舎を目指したのだ。

一三〇年以上も前の歴史の青春ドラマに想いを巡らしながら僕はいま毎日新聞社最上階にあるレストランで生ビールを楽しむ幸せを頂いている。不思議な縁に感服する日々だ。

脱皮

坂本　富士郎（昭和17年入寮）

私が恵迪寮の門を叩いたのは今を去る六十数年前のことになりますが、嬉しいことに今年、恵迪寮発足百年を迎えるという巡り合わせ、今年八十三歳の満身創痍の身ではあるが、なんとか頑張って命永らえたお陰と、感慨無量であります。年を取ると物忘れがひどくなってつい二、三日前のことも忘れることがあるが今もって寮の情景と弊衣破帽のいで立ちで下駄音高く、寮歌を高唱して歩いた姿をはっきりと思いだせます。

私が親元を離れて、単身、リックサックを背負ってサッポロ入りしたのは昭和十七年の春、希望とともに大きな不安を抱えて寮に向かいました。入寮してみて、そんな不安なんて諸先輩の手荒い歓迎にあって吹っ飛んでしまいました。優等生たらんと意気込んできたつもりが、いきなり　馬鹿になれ！　裸になれ！　鈍才たれ！の洗礼でした。私にとっては、まさに青天の霹靂、今思えば子供から大人への脱皮のきっかけとなりました。ついでたたき込まれたのが、自治の精神と青年よ大志を抱けの精神、寮生として過ごしたこの頃の一年、二年は我が人生にとって大事なそして楽しい時だったと回想しております。

厳しい思い出の一つですが、生活部の幹事をおおせつかった当時、時は正に戦時中のことで何事も辛抱、辛抱、勝つまではの時代。特に食い盛りの青年ばかりの集団、配給の食料だけではとても足りず付近の農家にでかけては食料集めが大事な役目の一つ、夢中でやりすぎて統制違反、その筋に呼び出されてコンコンと説教されること、しばしばでした。しかし今思えば多くの方々の「寮生がんばれ」の応援を戴いた三年間でした。感謝の気持ちです。

寮生の皆さん、今の世は昔と違って右、左気遣いの多い時代と思いますが、「若さ」を武器に、大いに頑張ってください。

寮歌は時代と共に歌い方が変わる

寮歌CD制作指揮者　三河勝彦（昭和29年入寮）

明治から平成の現在に至るまで毎年新しく作られている寮歌は、歌い継がれて行く間に歌いやすく馴染みやすい形へと少しずつ変化して行くのが自然であると私は思っている。「都ぞ弥生」はその一つの例であろう。

恵迪寮が発行している寮歌集の楽譜を見ると、通常歌われている形との間に隔たりのあるものが多く存在する。原因は作曲者自身の楽譜の書き違いの場合や、寮歌集を出版する際の改版における写し違いや、さらにそれを歌う側の楽譜の読み違いによるものと思われる。

CD制作委員会が選んだ三十三曲の寮歌の録音を依頼された我々は、演奏する立場からこれまでに公にされている録音テープ、レコード、CD等の演奏を聴き、さらには恵迪寮出身者を含む我々自身がこれまで歌い続けてきた歌い方や、八十歳を越える先輩がどのように歌ったかを参考にしながら、現在出版されている楽譜を検討した。曲によっては五十年以上も前に発行された恵迪寮歌集や、古い資料に残る数字譜なども参照した。

原曲に忠実にということを基本にしながら、歌う立場から音楽としての自然な流れや、多くの人々に歌われるための歌いやすさなどを求めて部分的な修正を試みた曲もあった。そのような場合は可能な限り作曲者に連絡して曲に対する思いを聞き出し、部分修正に対する了解を求めた。さらには作詩者に対して詩のフレーズについての疑問点を尋ねたりもした。楽譜にはほとんどの場合、二番三番などの歌詞を音符に対してどのように割り付けるかの指定がないため、また漢語の読み方にルビのない場合もあったりして、これらの割り付けや読み方について、歌うメンバーからの様々な意見が出されるケースも多かった。

このような検討の結果を六回の練習で具体化して演奏し、二日間かけた録音作業の結果、CDの音源が完成した。これらの演奏は基本的には太鼓などの伴奏なしで歌われるのを想定しており、そのような場合の参考になれば幸いである。しかし最初に述べたように、これらの寮歌の歌い方は将来、さらにより良く変化して行くものと考えている。

恵迪寮の猩紅熱事件と背景

河合正恭（昭和9年入寮）

「恵廸寮史」の大正十一年度の記事に「猩紅熱事件」についての記述があるが、この事件は、当時の野球部が火元であった珍しい出来事であったので、以下、概要とその背景について記してみたい。

● 京大主催全国直轄学校野球大会

正確には、「京都帝国大学・学友会野球部主催全国直轄学校野球大会」と称し、一九一一年（明治四十四年）十二月二十九日に第一回大会が、京都一中の校庭で挙行されて三高（京都）が優勝した。

直轄学校というのは、文部省の直轄する学校のことであるが、まだ、数は少なかった。札幌農学校が一八九五年（明治二十八年）に直轄学校となった時には、帝大（東京）、東京高等師範、東京女子高等師範、東京高等商業、東京高等工業、一高（東京）、二高（仙台）、三高（京都）、四高（金沢）、五高（熊本）、山口高校、鹿児島高等中学造士館（後の七高）、東京美術学校、東京音楽学校、東京盲唖学校の十五校だけであった。

この野球大会は本邦スポーツの全国大会の第一号であった。十二月末に開催と言うのは、当時は学年初めが九月で、翌年の七月には三年生は卒業するので、夏季の実施は不可能であった。第一回大会から第九回大会（大正九年十二月）までの参加校は最高の年で十一校に過ぎなかったので、試合方式は各学校が二試合ずつ行って、二勝したチームの間で優勝を争うと言うものであった。また、第一回大会から二高の提唱で「試合の前後に、審判員を中心としてホームを挟んで選手が整列して敬礼を交わすこと」が実施された。これも、野球試合では本邦で初めてのことであった。一九二一（大正十）年度から卒業が三月、入学が四月と変わるので、大正九年の第九回大会は夏休み中の八月下旬の挙行となった。但し、この年だけは七月に卒業した旧選手の出場が認められた。出場校は十校であった。

● 京大主催全国高等専門学校野球大会

第十回大会（大正十年）は名称を「全国高等専門学校野球大会」（通称・高専大会）と改名した。大正七年の高等学校令によって、各県に新設された高等学校、専門学校（高工・高商・高農・医専など）に加え、公・私立の専門学校・大学予科にも参加を呼びかけたため、一躍十七校が参加する大会となった。北大予科野球部は、この年の春に文武会から「桜星会野球部」として独立して、この大会に初参加した。出場校が多くなったので、試合方式もトーナメント方式となり、緒戦、七月二十一日三高のグラウンドで強豪六高と対戦した。物凄く暑い日で北海勢には不運であったが、主将の緒方直行投手が好投し、延長十五回、三対二で涙を飲んだとはいえ、延長戦の大会記録を作り「北大予科強し」と其の名を揚げた。

● 猩紅熱事件

・「だるまや合宿」の猛特訓

翌大正十一年には、前年活躍した渋谷、富

安、松川は本科に進んだが、大黒柱の緒方投手は主将の重責を安達良之助に譲り専ら投手に専念、新たに丸尾・伴・山中・村本・小林らの新鋭を迎え、春季の対小樽高商戦には難なく勝利を納め、高専大会の優勝を期して元早大主将の石井順一をコーチに招いて銭湯の「だるまや」に合宿、猛特訓に入った。石井の招聘は、多分函館大洋倶楽部の久慈次郎の推薦によるものであろう。

石井の実家は湯島にあり、美津濃・玉沢と肩を並べる運動具店で、順一の少年時代には同じ湯島の大邸宅に住む岩崎彦弥太（弥太郎の孫）が時折訪ねてきて順一にキャッチボールを教えたそうである。順一は早稲田実業に進み、大正四年の第一回全国中等学校野球大会に遊撃手として出場、準決勝戦で秋田中学に敗退したが、石井はベストナインに選ばれた。早稲田大学では、小柄ではあったが、主将で三塁手、闘士溢れるプレーで人気があった。卒業後は家業を継ぐとともに実業団チーム（東京倶楽部）の世話役を勤めた。後に、ジャイアンツの王選手の圧縮バットの製作でも有名である。

北大予科のコーチに来札したのは、大学を出て早稲田実業の監督をしていた頃である。北大グラウンドに於けるコーチは連日、日没、ボールが見えなくなるまでの極めて激烈なもので、血尿をだした選手もいた程だが、守備・攻撃面の上達は著しく、石井コーチから「全国大会に於ける大飛躍の太鼓判」を押されて特訓を打ち上げ、六月三十日全員帰寮した。

・猩紅熱患者の発生

翌七月一日の夜から、主将の安達良之助を始めとして祖父江計・建部忠一・小林辰雄の四名が発熱し、同じように足腰の関節が痛むと言い出した。二日、大学病院の有馬教授の診断を受けた所、「猩紅熱（当時は法定伝染病）の疑いあり」と言うことで即刻、円山の避病院に送られることとなった。偶々、北海道ご巡行の摂政宮殿下（後の昭和天皇）が七月十一日夕刻から十四日まで札幌に滞在されると言うことで疑わしい患者は避病院に送ると言う当局の方針でもあったらしい。

北大病院には未だ隔離病棟が無かった時である。二日の正午過ぎ、患者は避病院から迎えの人力車四台を連ね、部員及び寮の委員に見送られて円山避病院に向かった。昭和十年の野球部報に、患者の一人・小林は「全く何ともいえない情けない悲壮な気持ちだった」と記し、見送った一人・丸尾は「悲しいような、滑稽のような変な心持だった」と記述している。滑稽に感じたのは、患者は半病人位にしか見えなかったからであろう。

・寮の対応と経過

委員長・斎藤善三郎、寮務部長・御手洗毅は二日の午後、藤原生徒監を訪ねて善後策を協議し、その夜に緊急舎生大会を開き、全寮生の禁足断行と四日から始まる期末試験の延期嘆願を決議した。翌三日は全寮生の健康診断及び各室内の大消毒を実施した。寮史に依ると、「四日に、又も二名の患者が出て恐怖の念全寮に漲り狼狽一方ならず」とあるが、野球部員からの感染であろうか。患者の人名の記載はない。これによって、期末試験の方は無くなったが、全運動部の夏季遠征（インターハイ出場）は辞退となった。これは、前代未聞の珍事で、野球部は他の運動部から喜ばれたり、恨まれたりもしたと言う。

禁足中の寮生は、一歩も寮外に出られず、中庭のローンの上に寝そべり天を仰ぐばかりである。委員会を開き、生徒監と相談の結果、「（一）全寮生に再診察を行い、その結果「異常なし」と認められた者は直ちに禁足を解き帰省させること。（二）一斉ではなく順々に帰省させること。（三）荷物は消毒の上輸送する。」と言うことに決まった。七月七日、北寮から解禁し、次いで南寮・中寮・新寮の

順で解禁帰省させたが、この時に未だ親元から帰省の送金を受け取っていないものが多く、この者に対しては寮から一時旅費を貸与した。

・避病院の患者

避病院に送られた四名の野球部員は入院の翌日には殆ど熱も下がり平常に近い状態となった。ところが、病院の食事は毎食、重湯と牛乳と卵ばかりで腹はすくし何ともならない。院長に掛け合っても最後は口喧嘩となるばかり。遂に、密輸を決行、在寮の伴・村本・丸尾らが面会謝絶の避病院の塀を乗り越えて、パン・ビスケットなどの入った大きな袋を病室の窓から投げ入れた。後に患者の四人は「窓下に皆んなの顔を見たあの時は涙が出るほど嬉しかった」と述懐した。

● 摂政宮殿下の北海道御巡行

摂政宮殿下はお召艦「日向」にご乗艦になり、大正十一年七月八日函館港にお入港、北海道ご巡行の第一歩を踏み出された。

殿下が函館、小樽付近のご巡行を終えて札幌に到着されたのは七月十一日の夕刻であった。お宿舎は、明治十三年に明治天皇がご巡幸の折お泊りになった由緒ある豊平館（当時は時計台の傍にあったが、昭和三十二年に中島公園に移設）であった。

翌十二日、殿下は陸軍少佐の軍服を召され、入江侍従長が陪乗・宮尾北海道庁長官の先導で道庁に赴かれ、長官の言上を聞かれた後、御謁見所にて高官に対し拝謁（単独拝謁者四十三名、列立拝謁者三〇二名）を賜った。

北大関係の単独拝謁者は次の通りである。

佐藤昌介・宮部金吾・南鷹次郎・橋本左五郎・新島善直・松村松年・高岡熊雄・八田三郎・時任一彦・星野勇三・半沢洵・青葉万六・明峰正夫・森本厚吉・佐々茂雄・東海林力蔵・三田村孝吉・ハロルドエムレーン・ハンスコーラなど。拝謁を終えられた後、ご真影奉安所の前に向かわれ松の木の植樹をなされ、次いで円山の札幌神社に御参拝、札幌控訴院、師範学校にお立ち寄りの上、一旦豊平館に戻られ昼食を摂られた。

・北大を御巡覧

午後は、珍田東宮大夫・入江侍従長を随えられ北大を御巡覧された。豊平館から大学までの沿道は人垣で溢れ、学生約千人が正門内に整列して奉迎、林学講堂前では全教職員がお迎えした。殿下は中央講堂の御座所に於いて佐藤総長から大学の沿革・現況のご説明を受けられ、更に、水産講堂の標本室・農業講堂に陳列の諸品を御覧になられ、殿下から種々御嘉門があった由である。次いで農事試験場から植物園を経て宿舎にお戻りになった。

七月十三日には、中島公園、山鼻小公園、商品陳列所、真駒内種畜場、歩兵第二十五連隊、月寒種羊場を御巡行。最終日の十四日には、帝国製麻会社、日本麦酒会社に御成りになり札幌の御巡行を滞りなく終えられて、正午、札幌駅発のお召し列車で次の御予定地・旭川に向かわれた。

● 結　文

・野球部員の退院

さて、避病院に軟禁されていた四名の野球部員は元来が重病人ではないので、無聊をかこつこと十二日間、摂政宮殿下の札幌ご出発の合図の花火が一発「ドーン」と揚がると同時に退院許可となった。建部と小林は即刻、円山二十丁目の避病院から十七丁目の電車の終点まで、ふらふらになりながら辿り着いたと言う。祖父江と安達も翌日、帰省で人の気配の全くなくなった寮に感慨無量の面持ちで着いたと言う。

・摂政宮殿下御帰還

摂政宮殿下はその後、旭川、網走、帯広、釧路、苫小牧を御巡行になり七月二十三日室蘭から御召艦「日向」にて無事御帰還になった。

・四帝大主催全国高等専門学校野球大会
高専野球大会は参加校が急に激増し、京大一校だけでは運営が不可能となり、大正十三年から「四帝大主催全国高等専門学校野球大会」と名称を改め、東北、北海道地区（東北大）・関東中部地区（東大）・関西中国地区（京大）・九州四国地区（九大）で予選を行い、各地区の優勝校で覇権を争うこととなった。
最後になったが、事件発生の折、寮生の早期帰省のため寮から貸与した代金がなかなか戻らず、次期委員はその督促・回収に随分苦労したと言うことである。

参考資料　・北大野球部報（昭和十）　北大野球部史（昭和十三）北海タイムス（大正十一・七）・恵迪寮史

恵迪寮寮歌よ！永遠なれ
―幻の少女を想い七十四歳にして、〝郭公の聲に〟を歌う―

中村陽三（昭和25年入寮）

一九五〇年四月、北大に入学し、恵迪寮入寮を希望したものの満室で直ちに入寮はできず欠員が出るまで待たされたが、緑萌えて広大な原始林に初夏の訪れを告げる郭公鳥の声がこだまする六月、入寮の願いが叶えられた。それから二年近く専門課程に進むまで恵迪寮生活を楽しませて頂いた。
当時の寮は広大な北大キャンパスの北西地域に位置し新寮を最北に北寮、中寮、南寮の四棟を廊下で結んでいた。何回かの部屋替えがあり、時に新寮の最西端に設けられたスペシャルと称する大部屋に移住して二階から壮大な原始の森を眺めて過ごした日々のことをつい昨日のことのように想起する。
夕陽が手稲の山に沈みかけ原始林の西辺に広がる大農場にその光が注ぎ始めた頃、寮内に「二本のポプラの樹の下に佇み、読書する少女の話」が噂として流れ私の耳にも聞こえてきた。夕陽の光を背に静かに読書する黒い髪の少女はどうやら北星女学校の生徒らしいという噂も伝わってきた。日頃、女の話をして尽きることがない寮生にとって、それは原始林に建つ孤高な寮舎の格好な話題となった。私もその例外ではなく夕方になるとこの噂話の信憑性を確かめるべく原始林に出て見たが二本の屹立するポプラは確かに存在していたが「読書する北星女学校生」を見ることはなかった。私にとってそれは「幻の少女」として心に残ったまま寮生活に別れを告げた。
退寮後七年を経過した一九五九年春、北大文学部社会学科を卒業した私はその「幻の少女」が通学していた北星学園高等学校（現北星学園女子中学校高等学校）に社会科教諭として就職し、幻の少女の後輩達を三十五年間にわたって教え、一九九四年春に定年退職した。
思えば、幻が現実となり三十五年間は私にとってかけがえのない日々であった。
二〇〇六年六月二日、北星女学校同窓会関

寮のストームの音を懐しく憶う

宍戸昌夫（昭和10年入寮）

東支部総会に招かれた私は在寮時代のこの話をした後で「今、札幌では郭公鳥が飛来する季節です」と話した上で五十六年前を回顧し、「郭公の聲に迷夢の夜は明けて……」を高らかに歌い、大きな拍手を受けたのであった。

思うに、わが青春の日々を顧みる時、寮友と共に肩を組み合いつつ歌い、叫んだ恵迪寮々歌の数々を忘れることができない。

ある年の北星女子高校学校祭で、〝先生、歌を！〟と頼まれると〝皆さんは北大の寮歌というと〈都ぞ彌生〉という名歌を思い出すでしょうが私はあえてこの名歌に次ぐ名歌として〟と前置きした上で昭和二十一（一九四六）年寮歌の〈時潮の波の〉を歌った。

「厳しかる道に仕へて　限りある玉緒惜しむ……」で始まるこの名歌ほど、寮生活の哀歓を見事に歌いあげている歌は他にない、と今も思う。私は一九五五年から七年間、私の畏敬する故B・D・タツカー氏が創設した札幌聖ミカエル青年寮に在寮したがこの寮が札幌聖ミカエル国際青年寮として再建され十年を経た二〇〇〇年春、記念歌として恵迪寮で歌っていた〈ストームの歌〉の三番の歌詞を借り替え歌として歌い、新寮十年を祝った。

「札幌ミカエル寮は、蝦夷ケ島　タッカー氏ビー・ハーモニアス・ボーイズ　とコチャ聖ミカエル寮の基を残し行くコチャエ　コチェエ」と。

齢七十五年を迎えた今、恵迪寮寮歌よ！永遠なれと心から祈るのみである。

（二〇〇七年四月十二日　記）

北大の卒業生が同窓会やクラス会等で集った時、最後は「都ぞ弥生」を歌って散会するのが常であるが、時に勢い余って誰かが「醒めよ迷いの夢醒めよ」と叫んで「札幌農学校は蝦夷ヶ島……」とストームを敢行することがある。肩を組み輪になって、或は一列に並んで乱舞するのである。往年恵迪寮ではわれわれはこれらを屋外ストームと称し、予科のころには小樽高商との野球戦に勝っても敗けても球場で、また街頭で肩を組んでこのストームを行なった。小樽への遠征の帰途列車内でストームをして車輪が上下に大きく振動するのを経験したことがあった。しかし本来のストームはこれではなく、寮の屋内で寮生が褌一本の裸形で手に手にスキーを持って各部屋を巡り寮生同志の親睦を図りまた激励して友情を厚くする恒例の行事をいうのである。

「札幌農学校は蝦夷ヶ島」を三番まで歌い、スキーと高下駄で床を踏み鳴らしてリズムをとりながら踊り、最後は部屋の寮生一人々々に声をかけ握手をして、また次の部屋へと「醒めよ迷いの夢醒めよ」と叫んで移り行く寮の伝統行事である。入寮して最初に経験するのが新入生歓迎ストームといい、時の委員会全員による模範ストームで、かねて聞いていたストームとはこれかと納得し、寮生としての自覚と責任を感じ喜びを味わう初体験で

エッセイとお願い

青田昌秋（昭和33年入寮）

あった。その後新入生が返礼ストームを行なうのが通例になっていて、見よう見真似で行なうのであるが、何となくスキーを床に下す仕草がちぐはぐでリズムにならないのだった。中にはスキーにつかまって両脚を同時に挙げて踊っている新入生がいて上級生の笑いの種になったこともあった。

旧制高校の寮にはストームはつきものであって、旧制中学在学中からその話を聞いていて、入寮した時、不安と期待のまじった気持で待っていたものである。筆者の兄が静岡高で弟が一高でそれぞれ寮生活を経験したので、それらの寮のストームの話を聞くと、実に乱暴で竹刀や木刀や箒などを振り廻し、バケツや洗面器を叩いて騒音を発しながら、デカンショ節を歌ったり、静高では「富士の白雪ノーエ」という所謂「ノーエ節」を高唱して乱舞するというたぐいで、時にはガラスを割ったりドアを破壊したりすることもあるという乱暴狼藉を働いたようである。後日ガラス代や修理費を請求されたという話も聞いたことがあった。他の高校も似たような字義通りのストームで、器物が破壊されたり時には怪我人が出るという事例すらあったようである。

その点わが恵迪寮のストームは実にスマートで紳士的とさえ言える洗練された営為であった。ここにも札幌農学校の伝統が受け継がれていたというべきだろうか。「ストームの歌」というのが定められているのも他の高校には例をみない点で、その歌詞もまた優雅である。三年生が予科を修了して学部へ進むため退寮する際最後の「恵みのストーム」というのが行われた。通常と違ってストームの歌の終ったあと「蛍の光」を歌って、去る者残る者ともに感激の涙で別離を惜しむ寮生活ならではのひとこまであった。

北大の卒業生の中でも恵迪寮に在寮した人でなければあのストームの味を知らない。

夜の静寂の中にスキーと高下駄と床の間に醸し出されるリズミカルな音と「ストームの歌」の歌声とのハーモニーの、えも言われぬ美しい響きを、今なおありありと思い浮べることができる。それは他の何物にも代え難い心に沁みる音であった。そのリズムカルな音が、七十年経った今もなお一夜、ベッドに入った折にふと遠くから聞えてくる思いに浸ることがある。

（二〇〇七・四・一）

がきの頃（多分中学時代）読んだ（多分）第五高等学校の寮生たちの愉快な暮らしを書いた小冊子（大分昔に出た本だと思う　探したが未だ……）、と　少し前　向井承子さんの"恵迪の男たち"が　発起の原点である。

題名も決めた。それは"恵迪の男たち"の向こうを張って"恵迪の可笑しな可笑しな男たち"という　ふざけた　おかしな懐かしい思い出話をエッセイ風に書くことである。本命の恵迪寮も消えた今、ふざけた歴史も残したくて。

いくつかは　構想　すでに頭に描いている

が……。例として、恵廸寮中寮時代の俺自身が関わった思い出の一節を（筋だけ）……。

恵廸　ふんどし物語

時代　昭和三十三～三十四年

僕は、早くに親父を亡くし、さらに原爆被災、とことんの貧乏学生として憧れの恵廸寮に転がり込んだ。貧しいながら　見知らぬ北の暮らしを気遣ったおふくろは　しばしば駄菓子や下着を送ってくれた。その中にはいつも　パッキンを兼ねた　ちり紙と　手縫いの真新しい（越中）ふんどしが数枚入っていた。九州では、パンツ卒業　ふんどしは　大人の証拠（しるし）だった。

僕の部屋は十八号室、剣道部の部屋で九州長崎産のK君、倶知安高産のF君が一緒だった。隣の十九号室も剣道部で、ここには部キャプテンのK先輩が神様の如く巣くって居られた。

剣道の稽古、猛烈に汗をかく。陰金田虫……ひりひりのキンカン……が通り相場であった。稽古着の袴の下、ふんどしは　ぶらぶらと　十分下がっていても中は見えはしない、風通しは抜群で極めて好都合である。

一度、寄贈して以来、K先輩、すっかりふんどしフアンになった。"おふくろふんどし"が来るごとに　何度か兄に渡した。ある日、K兄、青田　すまん　もう一枚ないか？……

先日やったばかりでしょう。洗って使ってくださいよ……。K先輩、ほんとに大事な物すまん！　無くしたんだ、頼む！　なあ　青田よ！

実はなー。さっき気持ちよく用を済ませた。ところが立ち上がって見たらウンコが　ブランぶらん　と　ブランコしていたんだ（恵廸の便所は暗く深かったね）。困って　そろっと紐を解いて……ヒラヒラヒラー、さようなら……

すまん　もう一枚恵んでくれ。

てな調子に整えたい。文章、文体は　山田、吉沢兄に渡したが文春ベストエッセイ集（司馬さんの大阪弁と　象が歩いたに採択された）に載せた小生の流氷の交響曲、ニラスへの旅調で統一したい。

何んとか　あの貧しくも　楽しかった時代のおかしな事件を思い出してご一報ください。あらすじを　箇条書き　にでもしてお送りいただければ小生が　アレンジ　統一　調整します。ワイフに整理させて草稿を急ぎます。

紋別での酒代を積み立てる積りでご協力ください。情報網の拡張　口コミで　広めていただければ幸いです。

てな、おかしな話を集めて　エッセイ集にしたい。二、三年掛ける積り。

箇条書きでいい　おかしな思い出話を　ご提供ください。百話ぐらい集めるのが目標です。春夏秋冬　別冊　五冊ぐらいとしたい。

捕らぬ狸の皮算用……手に入れた印税は採用された話題提供者が流氷見物にきた時の飲税とする予定。

（恵廸出版社　社主）

連絡先
〒〇九四―〇〇一三
紋別市南ヶ丘七丁目五八―九
電話　〇一五八二―四―三一四四

モデルバーン

昭和28年——昭和29年

平野亮輔（昭和28年入寮）

北海道の空は米軍の管理。青森——函館を通うリンゴ（雪の下）行商の小母さん・公園の芸能人・社長・議員等、一等から三等の部屋は異なっても、同じ時間を費して海を渡っていた。「入試よりも高い八倍の競争率を突破した貴兄に、先ずオメデトウと申し上げる……スプーン、フォーク各一丁用意のこと。北十七条西八丁目　恵迪寮　㊮2—3413……の入寮許可証と、ピカピカのバッグ、新調の皮靴で大雪丸に乗船。昭和二十八年四月十五日夕刻、入寮した。朝食のマナーの説明を受けた。購買委員の野中さんの部屋に落ち着いた。翌十六日、入寮宣誓式。二十三日、夜十時から午前〇時過ぎまで、五人三班に分かれた「洗礼」。ラーメン店からアタックして来た赤提灯を持った白衣の男を先頭に、鐘を持った男、「恵迪の骨」「恵迪の血」「恵迪の油」をそれぞれ持った五人衆が、室に侵入。電源は元を切断。真暗。「ジュゲムジュゲム」の祈りが終ると「ケイテキの血を飲め！」得体の知れぬ変な匂いの代物を「もう一杯どうだ」「ウマイダロー」次に「ケイテキの骨を喰え」特別に作った大きく長いパンを口元に押しつける。手は使わしてくれない。古いパンだから固くて歯が立たない。次に「コーベをたれよ」ケイテキの油を落す。翌朝の食堂に恵迪の骨の残骸と血の分析表有。赤玉ポートワイン・ソース・酢酸・水・胡椒・紅色粉・砂糖等々使用せりとある。二十五日は歓迎晩餐会と鈍才会。ビール四人に一本・赤飯、ビフテキ、マヨネーズ合えの馬鈴薯、鮭の煮付、菠薐草のお浸し、リンゴ一ヶ、八作一ヶの豪華献立。島学長参列。寮歌斉唱、ゆっくり二十分。宴が終ると、ステージで鈍才会。一日五十円の食費の生活、外米、プラス人造米中心のエッセン。今宵は正に夢の世界であった。

委員会中心で取仕切る、寮生活に暗雲が漂っていた。二十七年のイールズ事件で、二十八年の委員会は、旧来のバンカラの体質ではあったが、金銭に不明朗な点があった。五月二十一日午後八時より翌早朝二時過ぎまで、寮生大会が開かれた。私を含む一年目の有志委員十一名が選ばれた。不正を正す目的である。その大会の席で彼等は解散した。私は購買部の仕入係を拝命。三十四号室から購買委員室に部屋替えをした。入寮時お世話になった野中さんを追いつめた慚愧の念は今も尽きない。一本一円五十銭のゴールデンバットのバラ売り。雪印牛乳の仕入、高級品の黒糖カリン糖の計り売りの入目、等々先輩に皆教わった。高い倍率で打ち勝った入寮者の大半はゲルピンだった。玄関の左側の名札が赤に裏返り、舎監の鈴木氏から現金書留封筒を受取る。友の笑顔は皆等しく少年の純粋さを持ち合わせていた。アルバイトは籤引きで決める。成田君の大映劇場のアイスクリーム売りは一番金になった。六月十六日、彼のピンチヒッターとして出動した。「コロンビアレコード大会」青木・若山・コロンビアローズ等の出

演。幕合いに、声を出して通路を売り歩くのである。千百六十円の収入を受取った。帰り、劇場脇のテントラーメン店で夕食を摂った。寮のエッセンは短時間で終るけど、この日は時間をかけて思い切りズッペも飲んだ。美味しい店の評判だけのことはあって、久し振りに額に汗をかいた。頭の隅に、今時分、私の夕食のドッペリを誰かが食べている様子を想っていた。

六月十九日、赤痢発生。週二回の風呂は取り止めになった。北十八条の町風呂を僅かな寮生は利用した。大半は、ずぼらした。十一月全寮大会で明治神宮外苑での第一回全学連の会合に出席を取り決めた。長時間かかったが岡部君が参加する事とした。溯ること二ケ月、九月二十五日、自治庁の通達。学生の選挙権の行使問題で、寮の方針として、郷里の選管の調査をボイコットすることを取り決めた。札幌に居住している限り選挙権は札幌で行使すべきとの見解である。私も二回の反対デモに参加した。当時口ずさんでいた「北帰行」とロシア民謡「仕事のうた」のうち「死んだ親が後に残す宝ものは何ぞ……」を市中で声を大にして唄った。

昭和二十九年五月二十八日、新委員会委員長の選挙が行われた。同室の竹川君が、やってみると、立候補の相談を受けたので、責任者として事務方を手伝った。一票差で敗北した。同志のスケート部の山田・今村両君がアルバイトで利尻島へ田植に行って了った。この二票を考えると竹川君の委員長が実現していたかも知れない。私に炊務委員の話が出たが、竹川を応援した手前、固辞した。代りに新しく監査委員会の長を命ぜられた。無給である。二千五百円月額手当の委員には魅力はあったが、竹川のため「よし」とした。大きな問題が発生した。郵便預金無断引きおろし事件。柔道部の竹田君から届け出があった。最寄りの郵便局に出向き調査した。委員長の私の名刺は効果があった。協力して呉れた。不届き者の自筆入りの用紙を見せて呉れた。数字に特徴があった。教養部には数学のカリキュラムがあった。ノートを借用して調べる事は出来る。寮生以外の出入りの多い部屋である。もし筆跡が似ていても、最後は警察に持ち込まねばならない。歴史ある寮の名誉のために、竹田君に頭を下げた。ポツンと彼は私の眼を見て言った。「今度は置き場を工夫します」彼の一寸した動きに私は初めて体の不都合の部分を知った。申しわけない気持で部屋を出た。体格の勝れた柔道少年は、彼にとって一種の憧れであったのだろう。卒業後の消息は名簿には記載されてない。二十八年入寮生の中で彼が一番苦い想い出を持ち続けているのかも知れない。

ゲルピンにとって寮の飯の量は全員気にかけている。炊務長の盛りつけは抜群にうまかった。一回目はドンブリの七～八分目、微調整は二回目にある。皆一様に同量に見えた。そのスピードの早さには驚かされた。その部下に若い二人の女性がいた。四歳の女児と二人生活している佐々木さんは左眼がいつも充血していたが、可愛いかった。パチンコの景品の駄菓子を、偶にお嬢さんにプレゼントした。私の知らぬ間に敷布の洗濯をして頂いた。部屋に誰も居ない頃をを見計って届けに来て下さった。「有難う」「いつも娘がお世話になりまして」短い会話の中で真白になった品物を差しのべた彼女の両手が、年のわりに酷く荒れているのに気付いた。食器洗いは大変な作業なんだ、母子家庭の生活の苦しみを垣間見た気がして私は眼を外した。その彼女が後日「今晩九時、官舎の前の白樺の木の元に来て下さい」と食堂で囁かれた。定刻より彼女は早く来ていて、私の名前をフルネームで呼んだ。「――自衛隊の人と結婚します。」更に言葉を進めた「お世話になりました――娘は寝かせて来ました――」。最後の言葉を

私は頓馬だった。「そりゃ早く帰らなくちぁ」彼女の言葉の本当の意味を理解したのは随分後になってからで「サヨウナラ」とは言わず「行きます」の言葉を残して彼女はその場を立ち去った。その時分購買部に若い女性が夕方から勤務していた。定山渓方面の出身で、身振いするほどの美人で、いつも口元が潤んでいた。一人の寮生が毎晩北十八条のステーションまで見送っていた。多分結婚の道を進んだとおもう。九月になって竹川君が寮祭を行うと切り出して来た。時間が迫っている、二十三・二十四日。私は広告取りに走った。行きつけの早大卒のパチンコ店主、三越、五番館、エルム館、オヤキ屋、レコード店等。竹川君は寮祭の流れの原稿を書いた。「どうしても最後の一段が空白になる」「よし、じゃ即席の一篇の詩を書こう」後日作者探しでチョッピリ有名になった「怠慢児　朝の五分が　命なり」である。ブッツケ印刷だから「児」が「奴」になって了った。寮祭は一同の協力で成功した。私はレコード店で広告費の代替で、プレーヤーとレコード十枚借用し、会議室でコンサートを開いた。二人のメッチェンが私の司会ぶりにファンになったようで、舎監の鈴木氏に願い出て帰省先の住所を問い、結婚の申し出が届いた。一人は札幌を離れる日、部屋の竹川・仁木・奥村三君とは別に、ホームでの別れではなく、次の停車駅桑園まで乗車し、そこで握手した。「北海道に就職して」彼女は私の眼を覗く様にして、キッパリ言った。聡明な二人だから同窓生のフラウになっているやも知れないから、九月二十三日生れが一人。三越勤務が、あとの一人とだけ記して置く。立ち止まった想い出の中で一番光っている人である。

九月二十六日、青函連絡船上り第四便洞爺丸（四三三七トン）は定刻より遅れ午後六時四十五分、台風十五号の下、函館浅橋を出港、船客千百四十二名、乗組員百十一名を乗せ五十五メートルの突風のもと、青森に向った。実は乗客の中に、重大な会議に出席するため東京本社に向う札幌鉄道管理局のトップ級が数名いた。青森駅では接続の列車を待たしていた。北海タイムスか道新か定かでないが、私はその記事が正確に記憶にある。今出港しないと会議に間に合わないと船長は承知していた。迷い迷っての決断が午後六時四十五分。生存者乗客百五十三名、乗組員八十二名の大惨事であった。それから十年、昭和三十九年、東京オリンピックに先立って、夢の超特急が東京――新大阪間に開通した。このニュースを船長未亡人は、どう聞いたのであろうか、日本人で一番悲しい日になったに違いない。恵迪寮の想い出はいつまでも若く、いつでも笑顔で迎えてくれます。本年の一月中旬、一通の書状を受取りました。

「夫竹川忠男、昨年六月三十日、心筋梗塞、七十一歳永眠　竹川紘」九年前、入寮四十五年大会の九月十九日、支笏湖畔レークサイドホテルで歓談したのが卒業後最初で最後の出逢いになった。

「年賀状　遅れ届きし　喪主の文」

「延齢草　恵迪寮の　史（フミ）に咲く」

「あこがれし　寮歌　五月の天を突く」

――秋来――

追記　昭和二十九年九月二十七日の東京会議は新幹線ひかり、こだまの打合せだったのです。

恵迪寮を購入した話

高井宗宏（昭和31年入寮）

「大学よりも恵迪寮に育てられた」と言う人は、恵迪ＯＢの大多数を占めるであろうが、「恵迪寮を買った」と言えるのは、恐らく私ひとりであろうし、これを自慢話として詳細を述べても、今なら時効と思うので報告したい。

昭和五十六年の晩秋のことだ。教養部生の恵迪寮と学部生・大学院生用の月寒・進修・桑園・北学・楡影・有島各寮を昭和五十八年春に閉鎖して、七学寮を統合した「新々寮（学寮管理基準のレベル）」になることが表面化した。そこで昭和五十七年度は、昭和二十三～二十四年入寮の予科最終年次クラスが恵迪寮に仮宿してお別れ会を催したし、二十五～二十八年入寮生はテレビ取材をも呼びかけて恵迪寮食堂で派手なお別れ会を行った。

一方、我々二十九～三十二年入寮生は、健気にも、①恵迪寮名の継承②恵迪寮歌の継続制定③旧恵迪寮舎の移設・永久保存―の三項目を掲げて「恵迪寮よ永遠なれ」との運動を開始し、当時の有江学長に要請文を出して意見を公表すると共に、昭和五十七年八月二十一日に恵迪寮食堂で決起大会を兼ねた大パーティーを開いた。

これには多くの同期生も参加して、瀬戸山君の世話で入手困難になっていた鯨肉を堪能しながら結束を誓い合ったことが忘れられない。これら三グループの活動は、「恵迪寮同窓会」の設立に結集され、私は設立総会の議長となって「新寮がコンクリート造りの個室制では心の故郷に相応しくないから恵迪寮の名前を継承させるべきでない」という反対意見を押し切って、同窓会結成と我々の提案する綱領を議決した。この発足には、工学部精密工学科の星光一初代会長の貢献が大きかった。

当時の北大には、二人の学部長を始め多数の恵迪寮ＯＢが勤務していたが、現寮生が「自治の核心は自主独立の入寮選考にある」と主張して強力な閉寮反対闘争を行っていたため、表立って恵迪寮ＯＢを名乗る人は居なかった。しかし私は、前述の閉寮記念集会以降、同窓会の綱領を訴えて大学との交渉を担ったため、一方で恵迪寮ＯＢを公言して歩くことになった。

最初の仕事は、昭和五十八年春の寮生による寮名投票であったが、横綱大鵬にちなんだ友鵬寮などが有力候補となって競ったため、恵迪寮が優位になるまで開票を遅らせる〝違法行為〟を指示して「新寮も恵迪寮と呼称する」のが寮生の総意であるという意思を明確にさせた。しかし大学・学生部は、寮生の自主入選闘争に入寮停止で応えて争っており、恵迪寮とすれば騒動の巣窟を強化するのみと判断して認めなかった。

その少し前には、新寮の看板処理があった。大学の言う新々寮への移転は、旧寮舎があまりにも老朽化していたのでスムーズに進んだが、有江学長が書いた「札幌地区男子寮」という横一・五㍍程の大看板は、寮入口の門

塀に装着した晩に寮生の手で取り外されたのである。翌日、私は、闘争中の寮生に近い者として学生部に呼び出され、仲介を依頼されたが、恵迪でないと受け入れぬと主張すると、何と「業者の看板取付けがまずくて落下した。撤収後も掲げない」と言う闘争グループも満足する妥協が成立し、即日、寮生に落下したように見せ掛けて置かせた。この結末は、昭和六十三年九月に本同窓会が「恵迪寮」と書いた看板を作り、我々の手で玄関に揚げたこと、それ以後、大学も恵迪寮と呼称するようになったことで終結した。

寮歌の継続制定は、闘争グループも大賛成で継承されたから、恵迪寮同窓会がぶちあげた三つの綱領の内で①恵迪寮名の継承と②恵迪寮歌の継続制定は何とか整ったが、③旧恵迪寮舎の移設・永久保存には難関があった。

旧恵迪寮舎は、老朽化によって建て替えを文部省に申請してきたことから、新恵迪寮舎ができれば解体するのが当然である。実際、昭和五十八年七月の夏休みに入ったばかりの日、闘争派が気付かないように早朝から解体工事が始まり、ほぼ一日で全面解体されたのであった。

一方、わが同窓会の要望は、この旧寮舎を「北海道開拓の村」に移転して永久保存を求めるものである。開拓の村では、それまで北大施設から古川講堂（我々の時代の教養本部）を希望していたが、同窓会が「ここは北大の記念建物として永久保存を決めていて無理である。これが駄目だと北海道開拓の記念施設に北大ゆかりの建物がなくなって困るから、旧恵迪寮舎に置き換えて欲しい」と陳情して了解を得ていたから、受け入れ先の問題はなかった。

そこで学生部に譲り受けに行くと、「用途廃止によって管財課の管理」に移っていたため、見知らぬ担当者に恵迪寮同窓会の趣旨・運動綱領から開拓の村の意義等まで説明し、「ぜひとも恵迪寮舎をわけて欲しい」と熱弁をふるった。しかし、同課では、「文部省が眼の敵にする全国一の自治・恵迪寮の意向には添えない」とする役人ばかりで理解してくれないため、個人的に学長直訴をするなどで周辺を埋めてやっと交渉に着かせた。

そこまで進めても、課員たちは「老朽化した無価値の建物に価値があると認めれば会計検査院に矛盾を指摘される」、「恵迪寮同窓会と言っても個人や任意団体に渡して利益を出されると困る」などと言い募り、学長室から指示があったから話は聞くが、いずれ破談とするような聴取態度であった。さらに寮舎の解体工事は、大学が解体・撤去・整地の費用を工事業者に支払うのだから、開拓の村への移設分を残せば経費が減って利点があるはずなのに、「価値があると言うなら、幾らで評価して購入するか」などと難問を押し付けてきて、当方は恵迪寮に反感を持つ役人相手に恵迪寮の意義を説くことの難しさを痛切に感じさせられた。

あれこれ歩き回って、「交渉人は高井であるが、同窓会を代表している」、「開拓の村は寄贈建物のみを収集するから、同窓会は利益を得ない」ことなどを文書にして持ち込み交渉を再開すると、寮舎解体の入札期限が迫った（後に気付いた）ため、必要面積と残す位置等の具体案交渉に入ることが出来た。六月末日には、恵迪寮玄関部分、南寮と北寮の西端二室と階段を挟んだ特別室（実際には南寮階段が火災で損傷しているため、装飾が粗雑なものの新寮東端の階段を採用）を合わせて八〇〇平方メートルを移転させるとの結論に達した。なお、建物の西端・東端と玄関部分を組み合わせたのは、理学部前にあった初代恵迪寮舎が西向きで、居室を南に廊下を北に配置するためであり、玄関部分は再建時に南北・左右逆転して組み上げたためだ。

最終課題となった価値交渉は、同窓会に金

恵迪寮の不思議

藤岡　真知子（昭和31年入寮の故・藤岡諭君夫人）

がないことを考慮して、「開拓の村が無料の寄贈を前提にしているから無料で」とする高井と「廃棄する建物に意義を主張するからには有料で」とする管財課が対立したが、至近の事例として網走監獄の教誨室を博物館に売り渡した額が一平方㍍当たり十円と分かり、「八〇〇〇円で済むなら個人で払う」と私が八〇〇〇円を手渡して妥結させた。ところが翌日呼び出され、「支払いは国の告知書によって窓口払いとし、同時に私物化しないことを裏付ける開拓の村の受取書を提出せよ」と言われた、恵迪寮舎八〇〇平方㍍の〝個人所有〟はわずか数日で霧消した。

その後、開拓の村は、寮舎の板と柱に番号を付けて解体して現在地に移築、昭和六十年に落成してくれたばかりか、この寮舎の移転に約三億円を費やしているにも拘わらず、「同窓会の功績」と認めて知事表彰を行ってくれた。

こうして、我々の魂のふるさとである寮舎は一部にせよ保存できた。私が取り組んだ交渉は、一般企業で数多くの修羅場を潜ってきた仲間の活動に比べれば些細なことかも知れない。しかし、丸井デパートが創業時の暖簾掛け店舗を復元寄贈すると申し出ても「移転でない」として拒否されているのに比べ、こちらは粘り強く活動して北大ゆかりの建築物を「北海道開拓の村」に残せたこと、そして、これにより来年の恵迪寮（命名）百周年記念事業の証拠物件が現存できたことなど、今も満足感に浸ってニンマリとしている次第だ。

（1956〜2006年入寮50年記念誌より）

「全学連」。この言葉は懐かしい言葉です。藤岡はこの運動で北海道から東京の代々木に来て、帰りにはいつも上野駅から私の住んでいる寮に電話を掛けてきました。私は京都の山奥育ちで、私の家の隣村に藤岡の家がありました。私たちの家は家同士の交流があり、高校も同じでしたので、私達二人はよく知っている間柄でした。

上野の不忍池から本郷三丁目の方向に上がったところに私の寮がありましたから、私は藤岡から電話が来ると、よく上野まで出て行きました。

その頃は、今から四十五年ほど前の昭和三十三、三十四年ごろで、日本人は大きな男性でも身長は一七〇㌢くらいの時代でしたが、藤岡の身長は一八五㌢もありました。

「僕は栄養失調だったから、こんなに細くて身長だけが伸びたのだ」と言っていました。体重は四十八㌔だったのです。

その頃の日本には一八五㌢の体に合う既製の洋服はなく、彼はいつ会っても袖や丈の短い薄汚れた茶色のジャンパーを着ていました。このジャンパー姿は何とか見られましたが、彼がはいているズボンは、すそが十㌢くらい短くて、毛の生えている細い足首がいつも見えていました。だから私はこの足だけは、なるべく見ないようにしていました。そのこ

ろ東京の学生でこのような服装をして平気でいる人はいませんでした。でも私は北大の人はみんなこのような人なのだと思っていました。私が藤岡に会いに行くとき、

「北海道の熊さんが来たの。一緒に行く?」

と言って寮の友達を誘いました。友達も彼の変な服装を北大の人だからといって面白がり、よく一緒について来ました。

藤岡は自分で自分の姿が見えないから、そんな自分の服装のことなど気がついていないようで、いつ会っても明るく自信満々で、日本の国を自分たちで背負っているような話しぶりでした。私達はそんな彼が面白くて、よく上野駅に行き、夜行の鈍行列車が出るまで上野公園や動物園で遊びました。そしていつの間にか私は、藤岡と結婚してしまいました。

新婚の頃の私たちの会話は、彼の学生生活の話ばかりでした。

「あのころお金がなくってね。アルバイトばかりだったんだよ。コーヒーが飲みたい時はどうしたのか教えようか」

この話を聞いた時私は、あきれて口が利けませんでした。

芝生に寝転んでいると必ず知っている友達が通るので、その友達に「十円くれないか」と頼むのだそうです。友達は十円なら気軽にくれるので、通る人五、六人から貰えれば、コーヒーが飲めたのだそうです。喫茶店では、ウェートレスの女の子が、タバコの吸殻を集めておいてくれていたそうです。

「パンツが汚れると前後を反対にして、また汚れると裏返しにして、それをまた前後逆にして、どうしても汚くなったら、いつも何枚かパンツもっている奴のところに行くんだ。そこできれいなパンツをはいてくるんだ」

「北海道はみんないい奴ばかりだろう」

といって、このようなとんでもない北海道の自慢話をお酒の肴にしました。そんな彼ですから、ビールは必ずサッポロビールでした。

結婚したころ藤岡の友達がよく遊びに来ました。その頃の彼の自慢は、恵迪寮時代の友達でした。「僕の財産は友達だ。僕の自慢は友達なんだ」といって、いつも私に自分の友達のことを大威張りしました。

そのようなことをいうだけあって、いろいろな方がよく遊びに来られました。この頃の私たちの家は六畳と四畳半の小さな家でしたが、泊まっていく方もあり、一度に七人も泊まった時さえありました。

私が一番はじめにびっくりしたのは、酔っ払った勢いで、みんなが寮歌を、

「み――や――こ――ぞ……」

と、一言一言を息の続く限り思いっきり引っ張って大声で歌ったときでした。それをさも楽しそうに面白そうに歌われるのです。私は唖然として聞いてしまいました。

私の家で、お酒が入ったときの皆さんの話題は、もっぱら北大時代の恵迪寮のことでした。朝起きると部屋のタオルが凍っていたと聞いたとき、私はびっくりした記憶があります。藤岡は、布団をかぶって寝る習慣はこのときついたのだと威張っていました。

鯨のベーコンは安くて一番おいしかったとか、私の寮では食事が出るのは当然でしたが、北大の恵迪寮は食券制で、寮の食事の仕入れを自分たち学生がしていて、その仕事を引き受けると食券がただでもらえるので、みんなやったことがあると聞いて、私はなんて変な寮だと思いました。また食券が買えない時は、お腹がすいて困ったという話は、私には考えられない話でした。

みんながお腹がすいて困っているとき、獣医科の友達が死んだ象の肉をもってきてくれて、それをみんなで食べたという話で盛り上がったことがありました。象の肉の料理の仕方や、象の肉の言い表しようのないまずかった味の思い出話を、みんなで笑いながらしているのを聞いて、私は気持ち悪くなりました。

この象の肉のことは何度も話題になり、それを聞くたびに、私はいつも気持ち悪くなったものです。

あれは寒い夜のことでした。話し声がだんだん大きくなり大激論が始まりました。

「ここから先は、外に出よう」

といってみんなが立ち上がり、外で殴り合いの喧嘩が始まりそうになりました。このときばかりは、私は心臓が飛び出しそうにどきどきし、うろたえました。でもさすがに誰かがおさめて事なきを得ましたが、後で話の内容を藤岡から聞いたとき、私は可笑しくて可笑しくて、笑い転げました。その激論の内容が、「たこの足はなぜ八本か」だったのです。

今は七十代の皆様もあの頃はみんな、若い二十代の面白い青年だったのです。そのうち一人、一人結婚して家庭をもたれました。みんなに家庭が出来てからは、奥様や子供さんと一緒に行ったり来たり、家族でキャンプや旅行したり、自然に家族ぐるみの付き合いに変わっていきました。いつの間にか私たち家族は、お嫁さん同士、子供同士仲良くなって、子供たちはみんな親戚だとずっと思っていたようです。

藤岡は友達に会って帰ってくるといつも、

「僕は友達に会うと、なんだか強いエネルギーをもらう。すごい刺激を受けるんだよ」

といって、友達に会うのを何よりの楽しみにしていました。

あの日は、藤岡があと三日で五十歳になる十二月の二十三日でした。大寒波が来ていたとても寒い日でした。彼は突然、クモ膜下出血で帰らぬ人となりました。この年の夏には御巣鷹山で飛行機が墜落して、犠牲者の遺族の方々の悲しみ嘆くその気の毒な姿に、藤岡と私が一緒に涙したその年の十二月でした。

知らせを聞いた多くのお友達が駆けつけて来て、何から何まで助けてくださいました。お葬式の最後に藤岡の友達がみんな一緒に祭壇の藤岡の写真に向い、涙を流しながら大きな声で恵迪寮の寮歌を歌って彼を送ってくださいました。その歌声は式場中に響き渡り、そこにいた全員が感動させられ涙しました。

いまだに私の友人は、藤岡の話になると、この時聞いた寮歌のことを話し、北大は素晴らしい大学、大好きだと言います。全員でお葬式に来て、この寮歌を聞いた子供の高校では、この年は北大受験の希望者が急に多くなったということを後で聞きました。

私はあまり突然のことで、十八・十六・十一歳の三人の子供を横に、涙ばかりの毎日でした。

あれから二十一年の間、毎年十二月二十三日になると、藤岡のお友達がみんなで私のうちに食べ物や飲み物を持ってやって来て、子供たちに藤岡の学生時代の面白い話や失敗話などして、一日遊んでくださいました。いつの間にか、この日は私や子供たちが一年中で一番楽しみに待つ日となりました。今でも続いております。

「大学時代にね、僕たちお金がないので歩いて支笏湖に行ったんだよ。藤岡が磁石を落としやがってね。闇雲に一晩中歩いて夜が明けて周りをよく見たら、また元のところに戻っていたんだ。あの時は本当にがっかりしたよ」

「この日、山の中でね、僕たち熊に出会って大変だったんだよ。熊だとわかると、みんなそれぞれ対処の仕方に個性が出るんだ。あわてて木に登る奴、呆然として立ち止まる奴、逃げ出す奴、『熊さん。僕はまだやり残していることがあります。どうか食べないでください』と言いだす奴がいて、すごく怖かったけれど、あとから思うと面白かったよ。お前のお父さんはどうしたと思う?」

「熊はね。通り過ぎたあとの臭いがすごいんだよ」

こんな話に子供たちや私は、どんなに慰め

られ、励まされ、助けられたかわかりません。子供の進路のことも、私が「あなたのお友達の息子が、進路で困っていますよ」といって、藤岡のお友達に電話すると、すぐ子供を呼び出して話を聞き、みんなで相談して解決してくださいました。いつの間にか子供たちは、私より先に藤岡の友達に相談するようになりました。気がついたら父親を失った私の子供たちは、たくさんのお父さんに囲まれて成長していました。いろいろお世話になりました。もう息子は四十歳です。

「真知子　僕の財産は友達だよ。最高の財産だ」

私は今まで何度この言葉を思い出したでしょう。数え切れません。

藤岡にとって、自分の友達が一番頼りで、一番の誇りだったのです。藤岡を失ってあらためてこの言葉の意味がわかりました。

藤岡のこの言葉を思い出すたびに、恵迪寮の人たちに感謝しています。

恵迪寮には、このような仲間を作る何があったのでしょう。いまだに不思議な寮だったと思っています。

（1956〜2006年入寮50年記念誌より）

恵迪寮歌考

金　武彦（昭和37年入寮）

●はじめに

寮歌は明治四十年（一九〇七）「一帯ゆるき」を嚆矢とし、寮生の作詞・作曲により毎年一曲制定され、現在も継承されているのは恵迪寮だけになった。

今般の恵迪寮同窓会百年記念事業、寮歌CD制作にあたり、北大合唱団OB会に収録依頼があり、全三十三曲唄う機会を得た一人として感激している。

●曲数

平成十六年版寮歌集には一〇九曲が収められ、その内訳は次のとおりである。

①〔一九〇七〜二〇〇三〕の欠番は、昭和二十九年、三十一年、六十三年（諒闇）、平成六年、十三年の五年ゆえ、暦年寮歌は九十二曲。

②大正五年は、南寮、北寮寮歌の二曲。

③記念歌は、大正十一年（新寮）、十四年（二十周年）、十五年（創基五十）昭和六年（閉寮）、十二年（三十）、二十二年（四十）、三十二年（五十）、四十二年（六十）、五十三年（七十）、五十七年（閉寮）、五十八年（新寮）、平成十年（九十）の十二曲。

④昭和二十三年に逍遥歌、先輩寄贈歌として昭和十七年（大東亜戦争頌歌）、昭和五十一年（創基百周年に二曲）、計四曲。

なお寮歌集には、校歌、桜星会歌、部歌、応援歌、ストームの歌、水産放浪歌等も収められ、広義の寮歌を含めると一六〇曲に及ぶ。

●分類

第Ⅰ期（明治四十年〜大正十五年）二十四曲。寮歌、成長時代。「藻岩の緑」に代表される、長調のピョンコ節（2拍子の付点8分＋16分音符）が全盛。「都ぞ弥生」、「魔神の呪」、「春雨に濡る」等、名曲誕生。

第Ⅱ期（昭和二年〜昭和二十年）二十二曲。

寮歌、成熟時代。「津軽の滄海の」に代表される、短調のピョンコ節が主流となる。「別離の歌」、「タンネの氷柱」、「春未だ浅き」、「湖に星の散るなり」等の登場

第Ⅲ期〔昭和二十一年～昭和四十年〕二十一曲。

寮歌、爛熟時代。集計上は短調・4拍子が多いが、戦後を代表する「時潮の波の」、「花繚乱の」や、「茫洋の海」等、歌いつながれる名曲続出。

第Ⅳ期〔昭和四十一年～昭和五十七年〕二十二曲。

寮歌に感慨をこめて…「寒気身を刺す」短調・4拍子、「北の都は」短調・6拍子、「うす紅の」長調・4拍子、「寮友よ永遠に謳歌わん」長調・6拍子等など。五十二年間、青春の不夜城だった二代恵迪寮に、「尽きぬ名残の涙」。

第Ⅴ期〔昭和五十八年～平成十五年〕二十曲。

寮歌、新時代。恵迪寮同窓会寄贈の看板が掲げられるまでの六年の歳月を要したが、寮歌は多少の混乱あるも、制作され続ける。「我楡陵に」、「生命萌え出で」、「蒼天へ」等、良歌も誕生。音数律も変幻自在、新時代に。

●曲中に多く用いられたルビ

明治～大正は永遠（とこしえ・とわ）、真理（まこと）、希望（のぞみ）がベスト3で、明治三十三年の有島武郎の校歌「永遠の幸」に由来。

昭和二十年迄は原始林（もり）、絢夢（ゆめ、情懐・情熱（こころ・おもい）、神秘（くしび）。静寂・沈黙（しじま）。寮友（ともだち・とも）と数多く出現し、昭和四十年までは彷徨（さまよい）が加わり、昭和五十七年までは寮友・原始林が圧倒。平成は情熱（ソウル）が新登場。

憧憬（あこがれ）は「藻岩の緑」、団欒（まどい）は「我が運命こそ」、熟睡（うまい）は「魔神の呪」、北溟（きた）は「平和の光輝ける」が初発。平成には、藤村、泣菫、有明の影薄い。

●トピックス

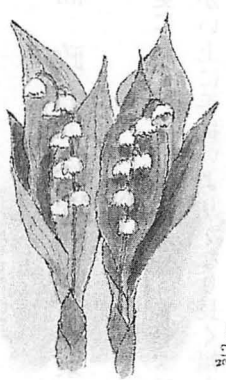
音数律八十七調は「都ぞ弥生」と、「茫々はるか」の二曲のみ。

最初の短調は大正五年の「穹蒼高く」「荒潮繞る」。大正八年「花を褥に」は長調・短調両刀使い。

昭和二十一年「時潮の波の」は、一番3拍子、二番4拍子、三番3拍子。昭和二十八年「手をとりて美しき国を」は前半ニ短調、後半へ長調。昭和三十五年「茫洋の海」は一番2拍子ニ短調、二番3拍子へ長調、三番4拍子ニ短調。

最初の6拍子は昭和六年「別離の歌」、3拍子は昭和十一年「嗚呼茫々の」。

なお女子寮生の初作曲は、平成十七年「遥かなる迪」。



スズラン

ヴィア　アルバイテン

梶浦政男（昭和31年入寮）

昭和三十一年当時、寮生の三分の一は、実家からの送金がゼロだったのではなかろうか。中には送金なしどころか、逆に故郷の家族に送金していた剛の者もいた。

国立大学の授業料は、昭和三十年、年間六〇〇〇円。三十一年には九〇〇〇円に値上げされたが、それでも月額にして七五〇円。これは、ＰＴＡ会費などを含めた当時の高校の月謝より安かった。貧乏人でも大学に行く事の出来る時代だった。

貧しき小生も大学に入ったのだが、勿論送金ゼロ、まずは食わねばならぬと講義をさぼってアルバイトに精出した。

○札幌市交通局

市電の架線とレールの間を流れる電圧、電流を計り記録する仕事だった。長さ三㍍程の竹竿の先に太い銅線の鈎がついていて、そこから延びるコードが、蜜柑箱程の大きさの籠に通じ、籠にはニクロム線のコイルの抵抗器が何本も立っていて、電圧計と電流計に接続されている。竿係と籠係、二人一組の仕事である。

毎朝、小生と寮友は市交通局の作業衣を身につけ、三㍍の竿を肩にコイルの籠を手にして大学構内を通り抜け、札幌中の市電の線路あるところを残らず歩く。

大学の正門では、登校してくる学生達が、まるで場違いの小生達を不思議そうに見てすれ違う。

たそがれ時、一日中歩き回り疲れ切った足を引きずるように、我ら二人は構内に戻ってくる。と、クラーク像の傍にさしかかった時、突然美しい調べが我らの耳を打つ。講堂から誰が吹くのか。バッハの管弦楽組曲二番のフルートソロが聞こえてくる、なかなか見事な演奏だ。北大交響楽団のメンバーだろうか。

いい気分になって聞いていたら、寮友が言った。

「大学はやっぱり金のある奴の来る所だなあ。」

○札幌電話局

最新式の電話交換機についた埃や汚れを、柔らかい布で拭うだけの単純軽労働で、ゲルトも悪くなかった。（一日、三五〇円だったか）更に良かったのは機械を拭う布で、滅法柔らかい上に手拭いよりかなり長く幅も広い。使った布は捨てようが、持ち帰ろうが自由になっていたから、小生はありがたく頂いて廃物利用する事にした。

布の端を裂いて紐を作り、布の一端に縫いつけると、たちまち越中ふんどしが出来上がる。機械の清掃には布の一部だけを使う事にしたから、油や埃で真っ黒に汚れているのはふんどしの前垂れの部分だけで、後の部分は純白で清潔この上ない。

以後大いに愛用したが、これを締めてスキーに行き、骨折してはこび込まれた病院のベッドで、若く愛らしい看護婦さんにいきなりズボンを引き脱がされた時には参った。真っ黒なふんどしの前垂れ部分が現れ、付き添って来た友人達は、クモの子を散らすように逃げ去った。

小生、真っ先に逃げ出したかったが、骨折では身動き取れぬ。じっと恥ずかしさに耐えるしかなかった。

立派なのは看護婦さん、顔色一つ変えず処

置をして去った。

小生、ふんどしの前垂れ以外の部分が純白清潔である事を、彼女に伝えたかったが、どうにも口に出来なかった。

○狂犬病予防注射

北海道で狂犬病の発生例は、今までなかったそうだが、その予防注射は実施される。その時期は市内の獣医達の書き入れ時で、一人の獣医に、四、五人のアルバイターが付いて、飼い犬のいる家を捜し、獣医を案内し、時には注射を嫌がる犬を押えつけ、料金を受け取り引き替えに証明書を手渡す。かなり割のいい仕事だったが、獣医達が一軒でも多くと競争で回るので忙しい事この上ない。おまけに、押さえつけて注射した興奮状態の雌犬に、後ろから噛み付かれて、一本しかないズボンを引き裂かれた。収支赤字。

○エクスカベイター

エクスカベイターという機械がある。巨大なディーゼル機関車にユンボのパワーショベルを取り付けたような機械で、レールの上を移動して大地を掘り起こす。

石狩川の支流の一つにこの機械が据えられ、堆積した肥沃な土を掘り出して付近の田畑に運び、豊かな農地を作る客土と呼ばれる工事が始まった。

エクスカベイターは、何キロに亙って敷かれたレールの川側を掘り進んで行く、レール際ぎりぎりまで土を掘り出すから、戻ってくるまでにほぼレールの幅ほどレールを陸側に移動させて置かねば掘る場所がない事になる。

このレールの移動が、我ら学生アルバイターの仕事だった。勿論、作業に当たるのは我々だけではなく、大勢の労務者諸氏と一つ屋根の飯場で、数週間生活を共にした。

労働は単純で、道具は六尺ばかりの鉄パイプ一本。我々全員パイプを手にして線路に沿って並んで立ち、レールの下にパイプを差し入れ、梃の応用で少々レールを浮かせ、掛け声と共に強く前方に押し出す、するとわずかながら線路が移動していく。

飯場には現場主任がいたが、実際の指揮は通称大天竜の親方という男がとっていた。

彼はジャイアント馬場に似た巨漢で、元力士だったと言うだけあって、一人で線路を持上げるほどの力持ちだった。

ある夜、我々学生が寝泊まりしている広間に、この大天竜が、ネズミの死骸のように干からびた小男を引きずるようにして現れた。

「ホレ、学生さんに聞いて見れ。嘘つきやがるとただじゃすまねえんだ。」

大天竜はそう言って、小男を座らせ、自分も側にどっかと胡座をかいた。

「あれだ。まだらの牛っこいるべさ」

小男は緊張した面持ちで口を開いた。

「まだらのメンタの牛っこのあそこもまだらだべさ。な、そうだべ。」

かくも単純且つ微妙な質問に答えられる者は誰もいなかった。

けれど、ただならぬ様子の小男を見捨てるには忍びない。

「そう、あんたの言う通りまだらだよ」

誰かが答え、小男の顔に、ぱっと喜色が浮かぶ。

「んだべ。ワシの勝ちだべサ」

その夜遅く、小男が大量のたばこを抱えて礼に来た。たばこは連夜花札博打のチップに使われていて、酒の染みだらけでスカスカになっていた。

「あれ、本当は嘘だべ。ワシを助けてくれたんだべ」

小男が言う。

「いや本当だ」

誰かが答えた。

「ほんとうに本当け」

「ああ」

「ほんとうに本当け」

入寮から東京寮歌祭まで

安藤俊春（昭和45年入寮）

小男はなぜか寂しげに去っていった。
原子力博覧会、糠平ダム水温調査、パイロットファーム予定地測量等々、アルバイトの記憶はまだまだ尽きないが、もはや制限字数を大幅に超えた。筆を擱かねばならぬ。

いまも手元に、一冊の寮歌集がある……「昭和四十五年恵迪寮寮歌集」茶色の表紙が三十有余年の歴史を刻み、変色したページには幾多の汗と思い出が染みついている。

昭和四十五年四月好日、恵迪寮二号室を訪れたのがことの始まりであった。在室された先輩に、応援団に興味があることを告げるとその場で入団が決定した。ちょうどその日が出身校の歓迎会であり、それなら着物を着ていった方がよい……と羽織袴まで貸してもらい、意気揚々と歓迎会に出席したことをいまでも鮮明に覚えている。いきなり、応援団の格好をした新入生が登場したので、先輩方は驚いた……北大応援団に憧れ、高三の夏から髪を伸ばしていたので、形は決まっていた…しかし、まだ魂が入っていない、都ぞ弥生の前口上も出来ない見かけ倒しの応援団員だった。

翌日には、北二十七条の下宿を引き払い、二号室の住人（居候）となった。ほどなく、観桜会、支笏湖の合宿、と楽しい行事が目白押しだった。支笏湖の合宿では、清冽な大気のなか受験で鈍った身体を体力訓練で鍛え、薪による自炊で滋養を摂り……記憶に残るのは、蛇が入っていると云われ恐々食べた生臭い闇鍋、熊に怯えながら走って登った樽前山登頂等々である。夏は、積丹の浜辺でキャンプ、吸い込まれるようなダークブルーの滄海と、真夏というのに冷たい水温と速い潮流に驚いた。七帝戦の九州遠征では、急行乗り継ぎで、丸二日間掛けて博多までたどり着いた。常に体力勝負の毎日だった。

秋の寮祭の後、晴れて正式に入寮を許されたと記憶している。この秋十一月に開催された「第三回北大寮歌祭」のことに触れたい。「第一回北大寮歌祭」は応援団の主催で、昭和四十二年十一月にクラーク会館で開催されたが、その後学園紛争の嵐の中、第二回は中止されていた。第三回北大寮歌祭は、紛争は下火になったとはいえ、このような背景の中、準備には念入りに時間をかけた。趣旨書を携えて、北大教官、ＯＢからのカンパ集めの傍ら、参加してくれる運動部への寮歌指導、会場となった教養食堂の準備など、一年目の応援団員として、フル回転の秋であった。

明けて二月には、札幌雪祭り市民広場に参加。クラーク像の雪像を作った。凍れて動かなくなる手で、必死になって雪像に雪を貼り付けたこと、恵迪ジャンプ大会で赤褌一丁で飛び降りたことなど、冬の良い思い出である。この頃のようすは、同年に発行された「恵迪寮写真集」に収録されており、今も私の宝物の一つとなっている。

年は経て、「なごむねっと」の立ち上げに

触れたい。会社勤めも長くなったが、昔の恵迪の想い出は鮮明である。同時期を恵迪で過ごした家森新一氏が撮り貯めた、当時の恵迪寮の写真集を頂いたのは、平成五年の夏だった。恵迪寮の玄関を見たとたんに昔の感激が蘇り、ホームページを作成しこの感動をかっての寮生諸兄に伝えたいとの想いを抱いた。平成十二年五月、念願叶い、「www.nagom.net」を公開、北大、恵迪寮を主体のホームページ造りを目指して今に至っている。

最後に「東京寮歌祭」の開催について触れたい。平成十四年三月、応援団名誉顧問、山元周行先生の喜寿を祝う会が、東京銀座にて開催された。当日は、応援団ＯＢ、ブラスバンドＯＢ、三十名が杯を挙げ、先生の健康を祝した。この時の参集者が中心となって、東京の地で、かつて北大で実施したような「北大寮歌祭」を開催しようではないかとのおもいから、同年十月、東京蒲田で「第一回北大寮歌祭」が挙行された。今年で六回目を迎える寮歌祭は、手弁当の実行委員会の努力により年々内容も充実し、二〇〇名近い参加者たちは毎年この日が来るのを待ち望んで参加する活況を呈している。

恵迪百年にあたり、お世話になり、また今も心の支えとなっている恵迪寮と、寮生諸兄にこの拙文を贈ります。

吾が人格形成の坩堝・恵迪寮の出会い

喜多祐荘（昭和35年入寮）

十勝平野から石狩平野に転居して、北海道全体の都に立って、農業・政治・教育のことを考え始めた一年の暮、恵迪寮入寮通知を受けた、と思う。

未だ、自分の人生の存在の意味が分からず、これからの必然の生き方も見えない、模索する揺籃期の真只中であった。

私は、祖父母の胸中に眠るという幼児期を経て、仏教が説く、地獄極楽・因果応報・人間の業（ごう）の恐れを感じながら、小中学校の、欧米型の、科学技術、民主主義、両性互恵の現実肯定の社会観をも習得した、政治的社会的に多感な青年であった。そこには、日本の農民の心情と、近代社会の勤労者の価値観の相克を抱えたままの「素」（す）の日本人が孤独に呻吟していた。

恵迪寮生の義務は、寮費・火気水道電気の始末・食事時間であったが、Geld（お金）とEssen（食事）は貧者にとっての課題であった。先輩から譲られた家庭教師というArbeit（仕事）はその双方を与えてくれるが、多感多情な青年にとっては寮内外で安酒をlecken（嘗める）しながら議論し歌うための原資であった。「デカンショー、デカンショーで半年暮らす、あとの半年や寝て暮らす、ヨーイヨーイ、デッカンショ」（Descartes,Kant,…）などと歌いながら、宇宙、社会、人間の奥深さに向かって議論を交わしていたのであった。

「夕食事件」の弁護人になる！

二年生になったある日、突然同室の者が他人の食事を刻限前に食べた科（とが）に対する監査懲罰委員会が開かれることになった。ふだん議論することが少なかった彼であったが、仕事のあとの空腹による過（あやま）ちに対して、情状酌量を訴えて弁護した。委員たちは同室の者の証言に耳傾けてくれ、同情を表わし、放寮処分を猶予してくれた。それ以来、同室の風通しが良くなり、応援団々長とも親しく話したり、北大―樽商戦応援合戦にも加えてもらったりもした。この時、友情を大切にすることの楽しさを味わった。「北大恵迪寮応援団」は「都ぞ弥生」を高唱しながらstorm（ぐるぐる回る）を組みながら踊る、龍虎のような存在と感じたものである。

「寮祭」で百姓の姿になる！

寮祭、定期試験のころ、対抗戦のころ、札幌大通公園から始めて、深夜寮内各部屋（五人）を一巡する。寮生は嫌な顔せず、景気づけを楽しんだ。一体感の寮風が受け継がれていた。

応援団を先頭に全寮生がくり出す寮祭に対し、市民も好意的に見物してくれた。私は仮装して「肥え桶（たご）」を両端にぶら下げた「天秤（てんびん）棒」をかついだ「蓑（みの）笠（がさ）」姿の百姓を演じた。大通公園の噴水池から大杓子（しゃくし）で汲む真似をして喝采をいただいた。学友も珍しがって喜んでくれた。肥え桶、蓑笠、杓子等は知己の農家から貸りたものだった。顔を墨汁で塗った手抜いで頬被（かむ）りした百姓が、学生服で蛮カラ風や紋付羽織高下駄学帽の輩（やから）にまじって踊る様は、異風に見えたかもしれない。市民や学生の胸底に疼くものがあるように感じたのは錯覚か知らん。

「寮連」の役員として

恵迪寮の他に三つの学部寮、一つの女子寮、合わせて北大寮連合があった。学部寮に移ってからも、寮友の誼が広がり、女子寮の寮友からも招かれたり、大学との交渉にも当たり、全国の寮生の気風や考えと触れあうことができた。北大恵迪寮は吾が個性と友垣を見い出す。まさに青年の坩堝であった。（二〇〇七・四）

炊務委員長として苦労

吉見一郎（昭和5年入寮）

私は昭和十一年三月、農学部農業経済学科卒業であるから、逆算すると昭和五年四月の入寮ということになる。当時の恵迪寮は理学部校舎の向い、うっそうたる楡の大木にかこまれた中に建っていた。南側は畜産学科の教室、家畜病院などがあった。寮は南中北新の二階建ての四棟があり私は南寮の一階の部屋に入った。各棟は各運動部ごとに割当てられ南寮の二階は柔道部、一階は無所属と称するどの運動部にも属さない者が割当てられていた。入寮してまず室長格の一年先輩に言われたことは窓枠にはなるべく寄りかからないようにということであった。はじめは何のことかといぶかったが、間もなく二階窓からの所謂寮雨のためと判った。部屋は四人部屋で三

人は新入生一人は室長格の一年先輩が同居していて各人に箱型ベッドと机、椅子が置かれ洗面台、トイレは各棟の端に共同用のものがあった。入寮して間もなく驚かされたのは所謂歓迎ストームなるもので、真夜中裸一つの先輩達が朴歯の高下駄履きでスキーの板で床をど突き、〝札幌農学校はエゾガ島〟と高唱しながら各部屋を乱舞して廻るのであった。こちらは一体何をされるのかと怖さ半分珍らしさ半分でベッドの中からながめていた。やがて各部屋を一巡すると、まさにストームの如く次の棟へと去って行った。

今にして思えば、いかに青春のエネルギーの吐け口とは言え、よくあんな手荒らな行事が許されていたものである。今の寮生活にはおそらく考えられないことであろう。寮生活の最高の楽しみは何といっても食事である。私は二年目の時に炊務委員長なるものを仰せ付かった。炊務委員長は自治会委員長に次ぐ重要な役割で、兎に角、食欲旺盛な胃袋をおいしく充分にしかもなるべく安価に満たすために材料の調達献立分量等に目を通すのであった。勿論、炊事室には専門の調理人がいて一週間分の献立を作ってもってくるのを検分してOK、又は、注文をつけて量、味それに寮費に見合った原価で提供するのが役目であった。

日常の寮生活で一番いやされるのは夕方からの入浴時間で裸の若者一同が、〝春雨に濡るゝアカシヤ花……〟などといっせいに蛮声をはり上げて歌うのが夕闇せまるエルムの茂みにいんいんとこだまして行くのであった。かくて二年の寮生活を終りに三年目の頃から寮の移転新寮の建設の声が伝わって来た。即ち農場北側の新築移転である。二年目終了の三月いよいよこの寮とも訣別ということになり春休みでそれぞれ故郷に帰って物静かになった中庭で残留生のみが集まりファイアの炎を中心にお別れのストームを行った。これが旧恵迪寮との訣別である。このころの恵迪寮の看板と建物の一部は現在野幌の開拓村に移され保存されているはずである。現在の恵迪寮と寮生の生活はどのようになっているのであろうか。女子学生も入寮しているとちょっと聞いたことがあるがそうだとすれば真夜中のストーム等とは思いもよらぬことであろう。善良でつつましい生活が送れているのでなかろうか。私は学部時代馬術をやっていてツキサップの歩兵第二十五聯隊の将校用馬を借りて毎日曜日練習をしていた。先年、現在は北二十四条に移った馬場を訪ねてみたが、新しい恵迪寮には立寄ることがなかった。台風で倒れたポプラの傷跡をながめつつ、去りにし寮生活を偲びホロ苦い懐旧の念にひたったのであった。ちなみに小生の次女は迷わず迪子と名付けた、長女は恵子とはいかなかったが。

平成十九年四月記

クロユリ

剣道など充実した毎日

河合惣吾（昭和10年入寮）

北大予科農類に入学することとなって、昭和十年四月に札幌に行き、先輩の指導で剣道部に入部すると同時に恵迪寮に入ることとした。当時、恵迪寮は新寮・北寮・中寮・南寮に分れており、剣道部は中寮の二階に陣取っていた。私はその中寮の二階の十一号室の住人となった。十一号室には室長（先輩）と吾々新入生三人の四名であった。室に入ると先輩の室長が中学（静岡）の先輩で、かつ顔見知りでびっくりしたしだいである。すべて室長の指示を受けて徐々に寮生活に馴れた。当時の生活を振り返ってみると、朝から午後の二～三時ごろまで授業、その後六時ごろまで道場において剣道の練習、寮に帰って風呂に入り、そして夕食、夕食後は部屋で同僚と雑談にふけり、勉強はほとんどしなかった。入寮当時の夜は入寮式、寮歌の練習など色々な行事が行われた。また、真夜中に歓迎ストームと称して、裸一つで、下駄をはき、スキーを持ってストームの歌を歌いつつ各部屋を回るのである。このストームがしばらく続き、今度は新入生による返礼ストームが行なわれて、一連の真夜中のストームが終わるわけである。このストームの際は、朝はほんとうに眠く、寝すぎて授業に遅刻することが度々あったことを思い出すのである。

朝食と夕食は寮の食堂で、昼は学校の食堂で食べるが、食欲の旺盛なことは、ほんとうに驚くばかりで、「めしびつ」のご飯がたちまちのうちにからになって「お替わり」の声が盛んにとびかったものである。寮に入って初めて経験した一つは、「フンドシ」である。これまでのパンツに代って全寮生が「フンドシ」に変わったのである。この「フンドシ」には桜星会のマークが入っており、寮の売店で「ハンカチ」という名前で売られていた。この「ハンカチ」は誠に具合がよいので、卒業後もしばらくの間使用した。

春には寮を市民に開放して記念祭が行なわれたが、この記念祭は札幌の名物として、一日中、大勢の市民でにぎわった。また、秋には全寮生による定山渓旅行が行なわれたが、昼は寮から定山渓温泉までクロスカントリーが行なわれ、色付くリンゴ畑を見ながら走ったことを思い出すのである。夜は各部ごとの芝居が行なわれ、夜遅くまで楽しい時を過ごした。秋にはさらに寮棟間（南、中、北、新）の対抗試合も行なわれ、水泳、野球、ラクビー等で優勝をきそい、優勝の寮棟には樽詰のビールがおくられ、勝利の美酒に酔ったのも思い出の一つである。

この他、六月には小樽高商との野球定期戦、一月には円山でのスキーの対寮試合など、青春の血をたぎらしたものである。

このように楽しいことばかりでなく、部活での寒稽古、夏の合宿など、苦しいこともあったが、先輩、同僚が兄弟のごとく親しく、助け合い、励まし合って技を磨いたその経験は、私の後の人生生活に大いに役立った。

休みには同僚とともによく街にでかけて、映画をみて、狸小路に行き、飲み、腹一杯食べて寮歌を声高らかに歌いながら、校内の道を下駄の音高く、揚々と寮に帰ったものである。私達の寮生時代は、まだ自由闊達な空気が漲っていた。まさに戦前の一時期で、思う存分に青春を謳歌できたよき時代であった。

青春時代の北大恵迪寮の思い出はつきないが、卒寿というこの年になると、先輩、同僚の多くは既にこの世を去り、寂しい限りである。

何とか思い出をたどりつつ、この拙文をしたためたしだいである。

悠々自適？

湯浅　亮（昭和32年入寮）

定年退職して四年になる。いわゆる【悠々自適】は当初の憧れでもあった。辞典によると、【俗世間のことに煩わされず何にも束縛されないで、自分の思うとおりにゆったりと生活を送る事：「晴耕雨読」して、気ままでのんびりした心静かな生活を送る事】とある…しかし…。

一　まだそんな年ではない、人生の秋の始まりだ。ラジオ深夜便『こころの時代』のファンになり始めのころ、聴いた。人生春夏秋冬、なんとその秋は六十五歳～米寿というのである。確かに…出演者はじめ事例はたくさんある。〝稔りの秋〟というではないか…。

子供は三人とも結婚してFree from Careとなり（孫は各二人）、『そうだ！　これからだ！…』年金ニートにはなりたくない…。

二　あゆみを振り返り足元を掘る

（一）生体機能水研究会：日本獣医師会年次大会開催会場にて実施（今年五回目）

（二）自身で学ぶ皆んなのヘルスアカデミー：自然な交流を継続中

三　もっと何か、〝社会活動・地域貢献〟がしたくなった

現職時代よりも、より健康になった。そこで…

（一）NPO石狩川蓮根：

数人の有志と二〇〇三年定年退職後約半年頑張ったが甘くはなかった。何せ、大学社会しか知らなかった私、コンセプトは出来上がったが、本格的なプランニングと工程表（5W1H）が大事であった。目下休眠状態、「Vision→Venture→Victory」の思いは大切にしている。

（二）統一地方選挙：

今こそ、戦前の社会から体験している〝ジジババ〟の出番！そんな意気込みで半年間、無党派層という党派をターゲットとした、自称：『ほんまもん、このまんま』で理想的選挙（葡萄の房方式）を試みた。右手にソロバン【屋号：ノースアイ】左手に会派【北の眼差し】。諸般の事情で断念した（理由は聞かないで下さい）。

（三）幸町―栄町政経啓育（educationの私訳）研究室：四十二年間の在職の荷物を市内のアパートの一室に運び込み開設?した。退職金の分け前も底をつき始め、目下、大女将の苦情に耐えている。

～定年や　誰が決めたか　妻の部下～（詠み人知らず）

生・老・病・死、人間は課題と悩みの尽きない社会的動物であると思う（脳死は社会的

死）。

人生の秋、健康（身体→お財布→こころ）を保ちつつ如何に過ごすか…目下の、私の課題である。（二〇〇七年四月二十九日湯浅記）

Ps

・湯浅亮：〈健康医学概念図〉

活動→栄養→休息→排泄のリズム〔『健康医学・獣医学』、二〇〇二年度講義資料、pp.21〕

・神山潤：『中高年の眠りと健康』、健康ライフ（NHKラジオ第一）、より（抜粋）

朝の光とリズム運動（ラジオ体操）→脳時計の同期化とセロトニン分泌

昼の光と活動→メラトニン分泌と老化防止

昼寝は三十分以内

夜の光（TV）は良くない

入眠儀式：身の回りの安全確認と翌日の準備→安心

醒めよ迷いの夢醒めよ

高橋・昭雄（昭和54年入寮）

「さ〜め〜よ　ま〜よいのゆめ　さ〜め〜よ〜」という歌い声と、ドン、ドンと低い太鼓の音が遠くから聞こえてくるとストームの始まりである。「あ〜そういえば、今日、初雪が降ったな」。新入生歓迎、カッコウの初鳴き、初雪など、季節ごとにストームがあった。始めた者は、最後の部屋まで続けなければならない。「自分の部屋に来る前に外に行ってしまおう」と同じ部屋の仲間と外へ出て、いい加減自分の部屋を通り過ぎたかと戻って来ると、まだ前の部屋。急いで赤いふんどし締めて、ストームを受ける。「札幌農学校は蝦夷が島。熊が住む…」ストームを仕掛けた方は早くやめたいが、こっちは意地で踊りまくって、長引かせる、こんな調子だから、延々八時間、夜中の十二時にスタートしても五十ほどある部屋を全部まわるころには白々と夜が明けていた。

なんとも賑やかな寮生活だった。私が入寮したのは、昭和五十四年、教養部の裏の木造の寮の時代である。まだ、自主入寮選考が行われていて、書類審査で入寮が認められなかった私は、岩手から札幌へ行って選考担当の寮生に直談判し、ようやく入寮が認められたのだった。入寮の面接の時、「岩手弁で兄弟げんかの様子を一人で演じてみろ！」と言われ、やぶれかぶれで挑戦。けっこううけたことを覚えている。

新入寮生の歓迎から、「暁の大決闘」と銘打ったソフトボール大会、定山渓へ徒歩で行く「観楓会」、寮開放や大掛かりな借物競争などを行う寮祭と、年中行事があった。

雪の「大ジャンプ大会」もその一つ。私も二年生の時参加したが、飛び降りる時、窓枠に足をかけるとけっこう高くて少し勇気がいる。いざ飛んでみると気持いい。マスコミに取り上げられたので有名になったが、真冬に雪がしんしんと降る夜中、寝ていると「ひゃほ〜」という声と「ドサ」という音。大会などしなくても、中庭に積っている真っ白い雪に飛び降りるのは、札幌に住めば起きる遊び心ではないかと思う。

そういう行事や、同じ部屋の友達、先輩達とよく行った討論などを通じて、自分の殻を破ることにつながったのではないかと感じている。部屋や食堂で行われる代議員会でもよく討論が行われた。自主入寮選考や食堂の運営など、自治の伝統を守っていた時代。「恵迪寮」の自治を守れ！と寮生の意気も大いに盛りあがった。行事や討論を通じてそれぞれが自分の殻を破り、心をむき出しにしてぶつかり合うことで、寮生の中に一体感、アイデンティティーのある時代だった。

加えて、「恵迪寮」の寮生の心をつないでいることとして忘れてはならないのは寮歌である。私が在寮中の昭和五十四年度にも寮歌（「うす紅の」）が制定された。毎晩、寮生が作った候補曲が寮内に流れる。おりしも寮の建て替えの話が進んでいたときで、古くなった寮をいたむ曲が選ばれた。確か応援団に所属している寮友が作ったもので、決して歌を作り慣れているわけではなかったと思うが、その「恵迪寮」に対する思いが、そしてそれを歌い継ぐ寮生の思いがその曲を名曲にした。素晴らしい曲である。

卒寮して早や三十年近くの歳月が流れたが、栄えある「恵迪寮」で過ごしたことは誇りであり、多くの卒寮生、現役寮生と思いはつながっていると感じている。できるものなら、「醒めない夢」の中にでも入ってあの頃へ戻りたいものだ。そして、みんなと肩を組んで歌いたい、「尊き野心の教え培い、栄え行く我らが寮を誇らずや、栄え行く我らが寮を誇らずや」。

防雪林

小林大二（昭和32年入寮）

冬の風の吹きすさぶ日に石狩の原野に立つと、地吹雪の調査を生業としてきた私でも途方にくれる。我が身をくるむようにして、一、二丁離れた農家にたどりつくのは大変なことである。そんな日でも、この道を選んだ私は一つの宿命として、雪あらしになると石狩の浜に通った。そうでもしないと、私の場合、自然から教えを乞うことができなくなるからである。

私たちは雪あらしを吹雪とか地吹雪とか呼んでいるが、この地の人は、よく地吹きという。北海道の吹雪は、まさにこの地吹きである。地の底からうなりを上げて襲いかかってくるのである。

飛び去るべき雪が所々でなくなってくると、砂利すら雪あらしの中にまじる。日本海沿岸の苫前に育った友人H氏は、学校に通うのにカバンを頭にかかえ、地吹きから身を守ったという。彼は酒が程よくまわってくるといつもこの話をしてくれる。私はこの話を聞きながら石狩の吹雪を逃れて、林にかけ込み、非常用のウイスキーをなめた時の楽しさをひそかに想い出す。

石狩の浜から続く原野には、海岸から内陸に向かって、延々と続く防雪林がある。石狩を切り開いた人々が風から生活を守るために原生林を切り残したものと聞く。林の幅は五

十間（九十㍍）にも及ぶ。ニレだとかハンノキ、ヤマグワ等、冬には、丸裸になる林で、向こうがすけてみえる寮の原生林と同じものである。ところが、この林の中と風下百㍍ほどは、石狩原野がいかに荒れ狂う吹雪の日でもまさに天国である。

私の手もとに、冬のあらしの翌日写した数枚の航空写真がある。林の風上には、吹きだまりにすっぽり埋まっている農家が、一面の風紋の中に点在しているのがみえるが、林の風下は、吹雪のあとかたもない。

話はとぶが、冬、月に一回は、私は必ず名寄を通ってから深名線に入る。もちろん汽車にのせてもらうのであるが、三十年近くもこれをくり返してきたのは、沿線の見事な防雪林をあきもせずに眺める楽しみがあったからである。札幌からの一時間余りの間もさることながら、塩狩峠を越える時の防雪林には圧倒される。カメラのフィルムとウイスキービンの中身がなくなるのはこのあたりである。

北海道で冬、汽車が走るのは、雪の仕事をしているものからみれば、奇跡に近いと思わされるほど不思議な話である。鉄道ほど雪に弱い交通機関はないからである。塩狩峠の防雪林は大正初期のものと教わった。私に鉄道防雪林のことを教えてくれた国鉄ＯＢのＦ氏は、今もなお、かつての国鉄営林区の誇りを失っていない。そういう方々が営々と、防雪林を育てることによって線路を守ってきたからだと最近気づかされた。

近頃、世間では省エネなどという言葉がはやっている。それでも自動車は、年々、洪水の如く道路にあふれてきた。それとともに、何か、世の中に味気がなくなってきた。汽車で仕事に行くよりも車で行く方が多くなってきている。車の中ではアルコールは飲めない。高速道路においてはなおさらのことである。確かに国道も整備され、高速道も少しずつ延び、冬でも、時には汽車より早く目的地につけるようになっている。せめて、途中で酒が飲めないならば、沿道ぐらいにはもう少し色が欲しいと思う。林の中を車で走っていれば、酒がなくても、気分よく走れる。

近頃、国鉄の数十年の防雪の伝統を無視して、防雪柵なるものが、はやり出してきている。確かに、木が育つまでの十年ぐらいは、防雪柵も交通を確保するために必要であろう。

しかしながら遠い将来を思う時、世の中を住みにくくしてきた世代が、せめて、残せるものの一つは、防雪林であろう。大げさに言えば、防雪柵が防雪林にとってかわった時は、日本は亡んでしまっているのかも知れないとさえ、想うこのごろである。

（冬の地吹雪の夜市電をおりてから、寮にたどりつくのは大変難儀であった。吹きだまりにはまり込むと、遭難の恐れさえ覚えた。この苦しみを想い出して低温研では吹雪をテーマとした）

食堂にあったオルガン

千坂邦弘（昭和33年入寮）

恵迪寮の最初の印象は、入寮の面接だった。無精髭を生やした先輩寮生がいる部屋に入って、凄いところに来た、と感じた。凄い格好をした男達がこちらを凝視していた。何を質問されたか思い出せないが、貧乏学生で、是非この寮に入りたいという事を一生懸命に訴えた記憶がある。

入寮許可をもらい、やっと北大に入れたという感じだった。四月の中旬のこの時季、札幌は雪が降ったりして、凍えた。先輩の下宿では、まだストーブが赤々と燃えていた。主人が煙草に火を灯けるのにマッチを煙突に付けていたのを鮮明に思い出す。

入寮手続きを済ませ、新しい生活が始まる。一部屋に五人の共同生活で、寝食を共にするので、大変な不安があった。しかし、先輩寮生は暖かく迎え入れてくれ、ほっとした。部屋は乱雑の中にも整然とした秩序があった。畳のベッド五個、机五脚、洗面台一ヶ所、そして天井、壁には先輩寮生の生活の証しか、記念碑か、哲学的な文字がいっぱい書いてあった。前衛的な感じのする部屋での生活だった。

新入寮生の歓迎コンパが食堂で開かれた。それにあわせ、寮歌の練習があり、新入りは食堂で先輩寮生の声をまねて、太鼓の響きとともに寮歌を憶えた。食堂に一台のオルガンがあった。行事の時には寮歌の伴奏をしていた。ふだん、オルガンは食堂の片隅に置かれていた。

私は鍵盤楽器に興味があったので、夜静かになった頃に食堂へ行った。足踏み式のオルガンは音を出した。食堂中にいい音が響いた。いつでも使えるようなので、嬉しくなった。食堂は寮生のいる部屋からは少し離れており、オルガンの音はあまり気にしなくて良かったようだ。夜の九時過ぎ、楽譜を持って食堂へ。そして指の練習、旋律の練習をした。遅い晩飯を食べに来る寮生も居たが、互いに気に留めなかったように記憶している。このオルガンは鍵盤が少なく、楽譜通りの練習が出来ず、工夫が必要だった。

この頃、色々なバイトをした。なかでも冬場の鉄材運搬のバイトの時、素手で鉄材を持ち上げ、手に凍傷を負った。自分の手が鉄にへばり付いたのだ。しばらく痛かった。このころから指は大事にしようと思った。

アルバイトの中で、家庭教師もした。ある家庭で、幸運なことにピアノがあった。寮の食堂のオルガンで不足していた鍵盤がチャントある。練習がより楽しくなった。楽譜の読み方は自己流、運指法も自己流であったが、楽譜に近い形での音楽になって来た。この時期に練習した曲は、シューマン、ベートーヴェン、ワイマン、バダジェフスカ、そしてバイエルなどの作曲家のものだった。家庭教師のお宅では時間の余裕があれば、何時でも練習をさせてもらえ、鍵盤楽器の楽しさを十分に味わった。恵迪寮に二年、その後、桑園寮に移り、大学時代の楽しくも苦しい四年は終えた。この恵迪寮でのオルガンの出会いが、自分のその後の鍵盤楽器の練習の礎になっている。我々が居た北十八条の木造二階建ての寮は現在、その影も無いと聞いているが、食堂にあった小さなオルガンは今、どこで余生を送っているだろうか…。

私は今、鍵盤を前にしてショパンの夜想曲

を少しずつ練習している。恵迪寮の夜の食堂に響いたあのオルガンの音とだぶって、流れ出る音を楽しんでいる。自分の指から生れる寮歌、特に都ぞ弥生、瓔珞みがく、校歌などで思い出すのは恵迪寮とバンカラとオルガンの風景と音である。

恵迪寮百年の二年間とオルガンに感謝と有難うの気持ちを現わしたい。ありがとう。

S上S

岡本敏一（昭和37年入寮）

眼前に二組四冊のアルバムがあります。一組は恵迪寮アルバム編纂委員会編纂の「恵迪寮」昭和三十七年度版と同三十八年度版です。他の一組は、「北大ラグビー部の生活」と「北海道の青春」です。後者の二冊は私が写したり、撮ってもらったりした写真の山をラグビー部一年後輩でS上Sで同室だった斉藤孝之君が私の助けを借りず一人で整理して作ってくれたものです。恵迪寮百年記念委員会から案内をいただいたのを機に、この四冊のアルバムを取り出し、恵迪寮生時代の思い出にふけっています。

「北海道の青春」の初めは、二浪してようやく入学でき、上野から初めて北海道に渡り寮生活を始めるまでを載せています。寮生活の最初写真は五月六日の観桜会での、「英語クラブ」のメンバーとの写真です。

南寮中寮間の中庭で二十六号室メンバーとの写真の背景は中寮の板壁と木枠の窓です。父の寮時代（予科時代）の写真にも同じ背景のものがあり、それを意識して撮ったことを思い出します。

札幌に夏の訪れを告げる札幌祭りにバイトとしてエキストラ出演したときの写真があります。私たちの時代は、大学進学者は同年齢人口の二十五％以下でしたから、大学に通学できただけでも恵まれていたと思いますが、それでも私の仕送りは月六千円でした。ラグビーの練習のない日にはバイトに精を出し、月に千円を貯金していました。寮生だからできた生活でした。

父の時代とあまり変わっていないことを父に見せるために、当時のキャンパスの風景、建物を多数撮りました。寮の正面玄関を始め、食堂、風呂、洗濯場、二十六号室の自分の机とベットなども撮っています。寮の玄関の内側に「門限午後十一時四十五分」と墨書された木札がかけられていて、寮友の一人が「日が変わる前十五分だけ寮に帰れないということだ」といっていたのを思い出します。

写真はありませんが、床が傾斜し普段は使われなかった講堂にテレビがあり、当時はまだ実家にはなかったので、冬、暖房の切れた深夜、丹前を着て斜めに線のはいった画面に齧り付いていたのを思い出します。また談話室でラグビー部の先輩達とジンギスカン鍋を囲んだことも、アルバム「恵迪寮」を見て思い出します。

恵迪寮の最後はS上Sで「ラグビー部」として過ごしました。寮生活を経験した人は私たちの世代ではかなりいたと思いますが、七

人部屋で半年暮した経験を持つ人は少ないでしょう。この部屋は父も予科時代過ごしたとのことで、そのときは五～六人部屋だったとのことです。子供の時はひ弱だった父が、よく気のつくおおらかな性格になったのはここでの生活を経験したからだと言っていました。私もこの寮の生活で、自治と協調の精神が培われたと確信しています。

かつての課外活動団体の部長・顧問の委員会で、課外活動は人間形成に資するところが多い、とのことで一致しました。しかし「もっと人間形成に役立つのは寮生活なんだがなあ」という一人の教授のつぶやきに、参加者が皆頷いていたことを思い出します。広島大学でも平成七年に寮が完全に廃止され、個室の学生宿舎に代わりました。今の世相を見ると、寮を復活してもよいのではと思ってしまいます。このようなことを言うと、自民党筋から、究極の団体生活である軍隊生活を体験させるために徴兵制度を復活させようという声が大きくなるかもしれません。そうなったら、今は二人の孫達に申し訳ありませんから、「東広島九条の会」立ち上げに微力を尽くしている今日この頃です。

「都ぞ弥生」と私との縁

小篠守正（昭和17年入寮）

私は昭和十七年北大予科に入学、入寮選考も無事にパスして恵迪寮に入ることができた。寮は各室定員五人で、三人の新入生に二人の上級生が付いて面倒を見ることになっていた。

入寮の日、札幌駅に駅留めにしてあった夜具布団その他の生活必需品が入った大きな重い布団袋をリヤカーに積んで寮まで引っ張って来てくれたのはこれらの先輩たちだったが、生れて初めて親元を離れて幾つもの不安を抱えた新入生にとって、この後引き続いて先輩が示してくれた様々な厚い心遣いほど身に沁みて嬉しく有り難く感じられたことはなかった。微に入り細にわたる親身の世話は、どれ程早く私たち新入生を恵迪寮生活に溶け込ませてくれたことか。

どうしてこんなに親切にできるのだろう。入寮早々、弊衣破帽の外見からは想像できない寮生の一面を知り得たことは、私のような東京育ちの世間知らずにとって得難い幸せであった。

当初、先輩から用意しておけと言われた物の一つに寮歌集がある。

夕食後のひととき、先輩が先ず歌いやすい寮歌を選んで数曲教えてくれた。「都ぞ弥生」は「難しいから、いずれゆっくり教えるけれど、こんな歌だ」と言って一番だけ歌ってくれた。格調の高い歌詞の内容はよく理解できなかったが、聞き終わってから、このメロディーは何となくどこかで耳にしたことがあるような気がしてならなかった。この時には気が付かなかったが、後日「都ぞ弥生」の二番の冒頭に「豊かに稔れる石狩の野に」とあるのを寮歌集で見付けて私はハッとした。

私がまだ小学生の頃、よく母が家事の合間に「豊かに稔れる石狩の野に　雁遙々沈みて

ゆけば…」と口ずさんでいたのを覚えている。母は、これは私の兄が修学旅行で北海道へ行った時に覚えてきた歌なのだと言っていた。何回も聞いているうちに私も「羊群声なく牧舎に帰り」など意味の分かるところを一緒に歌ったものだった。節回しもいい加減で歌詞も間違いだらけだったが、今思うとあの時口ずさんでいた歌は正しく「都ぞ弥生」に相違なかった。何と私は小学生時代から「都ぞ弥生」を歌っていたのだった。

私が入寮した当時、たまたま「恵迪寮小史」の発行が企画されていて、夕食後全寮生を集会室に集めて、編集担当の幹事が札幌農学校創立の歴史を数回に分けて詳説してくれた。

明治五年、札幌農学校の前身である「開拓使仮学校」として使われた東京の芝増上寺方丈は、増上寺の塔頭（たっちゅう）の一つである。私の実家の門の目の前にあって、その跡地は子供の頃のよい遊び場所であったことをこの寮史の話を聞いて始めて知った。

もう一つ恵迪寮に入るまで知らなかった私にとって大事なことがある。それは「都ぞ弥生」の作詞者横山芳介さんが私の出身中学（東京高師付属中）の先輩であったことだ。三大寮歌の随一に推す人も多い名歌の作者。しかも一番身近な母校の先輩である人の名を札幌に行くまで知らなかったことはまことに申し訳ないことであった。

いろいろな点で私は昔から北大と結ばれる深い縁があったような気がしてならない。

「都ぞ弥生」の二番に「おごそかに北極星を仰ぐ哉」とあるが、入寮後間もないころ、初めて同室の新入生三人で町へ夜間外出したとき、先輩が「帰りの道が分からなくなったら北極星を頼りに帰って来い」と助言してくれた。月の無い晩でも南北に真っ直な札幌の道は北極星を目指してさえ来れば、北のはずれにある寮に辿り着ける理屈である。「さすがは北大。アドバイスも雄大だな」と、私たちは入寮以来の拭い切れなかった萎縮した気持ちが一ぺんに吹っ飛んだような気がしたのだった。

札幌に一人も身寄りの無い私だったが、東京の親元では経験できなかったさまざまな人の温かみに触れ、「都ぞ弥生」との深く結ばれた奇しき縁を感じつつ、いつの間にか心の底から札幌を第二の故郷と思うようになっていったのである。

「星影冴かに光れる北を
人の世の清き国ぞとあこがれぬ」
（都ぞ弥生）

座標軸――文化大革命に翻弄された人生

佐藤一正（昭和33年入寮）

第一章　日本の敗戦

私は、満州（中国東北部）のハルビンで生まれた。それは、父が満州警察官を志願して、この地に渡ったのでした。そして、父は、ハルビンから、チチハルに異動したので、私は、チチハル国民小学校に入学した。

暮らしは、父がチチハル警察署の副署長・警察学校の副校長でしたので、わりと裕福な生活をしていました。国民小学校では、良き

軍人になるべく、教育を受けていました。ある時、担任の先生が、家庭訪問に来られた時、三軒の土塀で囲まれた官舎の庭で、兵隊ごっこをしていたら、先生が「偉いわね」と誉めてくれました。そして、昭和二十年八月十五日　日本は、無条件降伏したのです。私達が、家から外を覗くと、ソビエト兵が、門扉をこじ開けて入ってきました。父は、即座に連行され、私たち母子が、残されました。

父は、ソビエトのハバロスクで、重労働に服し、五年後、細菌戦の関係で、中国の撫順で、露天掘りの炭鉱労働と、思想改造の教育を受け、すっかり毛沢東思想になって、いました。十一年の父との離別から、昭和三十一年後戦犯を帰還させることになり、リトクゼン女史の第二次の帰還者名簿に父の名前があったのです。

そのころは、私たち兄妹は、母の実家のある、新潟県五泉町（後市に昇格）に住んでいました。私は、私立新潟明訓高校（漫画のドカベンの高校が、明訓であるのは、作者の永島信二が、隣の中学校にいたからです）に入学しました。私には、下に妹二人と、母が、敗戦で、帰国のため待機していた時、盗賊・強盗団に押し入られ、「お金は無い」と言ったところ、背中を木刀で、何度もたたかれ、母の乳が出なくなり、栄養不良で、末の弟は、一歳の頃死亡しました。

帰還に際して、父は、北京から短波放送で、私に「父ちゃん達は、中国人民にひどいことをしました。然し、偉大な毛沢東主席と人民は、許してくれました。一正君、これからは、中国人民と日本人民の友好のために、共産党の良き働き手になってください」と呼びかけたのです。

第二章　安保闘争と日本共産党への入党

私が、教師になりたくて、学芸大学札幌分校を、志願したのですが、一期校の、北大理類を受けたら、合格したので、父は「一正、北大でも、教師になれないのか?」と問われ、「父ちゃん、交通費が、無駄になるので、北大でも、良いよ。そこでも教師になれるから」と言いましたら、父は「そうしてくれ」と言いました。日雇いで、鮮魚店を営んでいる弟に世話になっているので、分かります。

北大教養部の講義が、始まったころ、「警職法」反対の闘争があり、私の心を奮い立たせました。そして、六十年安保闘争が、始まり、この中で、私は「日本共産党」に入党しました。このことを、室蘭市の父に手紙を書いて、送ったら、「おめでとう」の返事がありました。私は、自分は、本当に幸せだと思ったのです。

第三章　私の、北大卒業後の実践

私は、先ず、労働者の中に拠点と言う考えで、東京江東区旭電化K・Kの研究所に就職しました。しかし、三ヵ月程で、急性腎炎にかかり入院・退院を繰り返し、休職しました。どうも、私には、梅雨のある東京の気候には、馴染めないと思い北海道公立学校教員採用試験を受け、蘭越高校六年・室蘭栄高校定時制十二年・千歳北陽高校五年・苫小牧南高校三年・追分高校四年・北海道友朋高校五年計三十五年高校教師として勤め、平成十一年三月定年退職し、年金生活を送っています。

その中で、私は、蘭越高校在任中、二年間学級担任をしました。私のクラスの生徒の中に起きた、長髪許可要求に対し、クラス討議をさせ生徒会の問題にして、署名運動が始まると、学校側は、「父兄の申し出により校長が許可する」という条件で許可し、抜き打ちで、許可証の検査をすることになったのですが、私のクラスの生徒は、充分に討議をしていたので、一人も違反が、なかったのです。それに反して他のクラスの生徒は、討議が不十分だったため違反者が多勢いました。

また千歳北陽高校では、この学校が、文部省研究開発指定校でしたので、初代校長が六年間も君臨して、理科1・現代社会の教科書を、研究開発しました。しかし、生徒指導の面では、校長が、「この学校は規則の無い学校にしよう」と、言ったにもかかわらず、規則が次々と開発されたのでした。

例えば、自転車の二人乗りを見つけるために、職員室に双眼鏡が置いてあり、見つかりそれにより、停学等の処分が行われました。また、私が初任校の蘭越高校時代、長髪要求と、私が蘭越高校から高教組後志支部の書記長をしたことに対しての報復人事で、室栄定時に発令したのです。でも、定時制での教育と、実践で、楽しい日々を送りました。

第四章　父の毛沢東思想によるマインドコントロールの様

六十年安保のときに、父は、「共産党に入党しました」という私の手紙に「おめでとう」と返事をくれたのに、七十年の文化大革命の時には、「お前は、敵だスパイだ」と言うのです。毛沢東がフルシチョフとか、日本共産党を修正主義呼ばわりしていたのです。私は、悲しかったです。毛沢東こそ変質していたのです。

第五章　共産党からの離党

私は、高校支部にいた時、私が入党させた同志の金銭にからむことを支部長に報告相談したところ、その指導のまずさから、離党し共産党も絶対と言うものはないと考え、相対的に捉えています。以来、選挙では、共産党に投票しますが、絶対ではありません。例えば、北海道知事選挙で、横路さんに投票したけれど、道民の期待と裏腹な結果でした。

第六章　余生を歌とボランティアに生きる

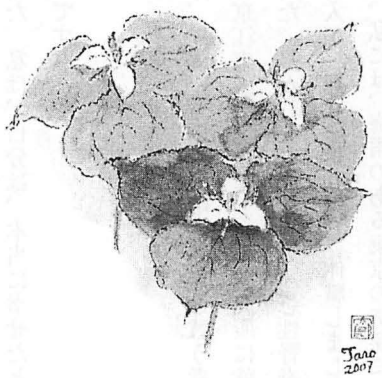
私は、札幌放送合唱団ＯＢ会会員として、月に奇数土曜日札幌北区民センターに練習に行きます。そして、火曜日は、カラオケを歌いに近くのスナックへ行きます。また、「千歳こども見守るボランティアの会」に入り、毎朝登校時には、子供を事故・事件から守るために、交差点に立って、こどもたちと、握手を交わし、「元気に遊び勉強しなさい」と励ましています。子供は、宝です。しっかり見守ります。

あとがき

①父がチチハル警察署の副署長であった時、署長さんは、逃げ隠れしたところ中国人に、見つかり、即刻公開銃殺刑がされました。ドーンという音を耳にしました。しかし、父は、逃げ隠れせず、ソビエト兵に連行されたので、七十歳まで生きることができたのです。

②母が死亡した時の、私の悲しみは、言葉に言い表すことが出来ません。新潟市の信濃川に掛る橋から身を投げて、死のうと思いましたが、下の二人の妹達のことを考えて辛うじて五泉市に着き、妹たちの顔を見るなり、号泣してしまいました。

③涙とは、流してしまえば、涸れるものだということを知った自分でした。



オオバナノエンレイソウ

思い出の中の恵迪寮

小池秀正（昭和43年入寮）

昭和四十三年青森から青函連絡船に乗り札幌に向かった。同じ高校の小田中君と一緒になった。

入学と同時に、高校の先輩内山さんが恵廸寮を勧めてくれていたので、彼と共に入寮を希望し許可された。初めて目にした恵廸寮は、木もれ日の中、長い歴史の空気を吸い込んだような黒光りする木造の建物だった。最初、空いている三人部屋に入った。木製の台の上に布団を敷いたベッドの下に、生協で母が買ってくれた二段のタンスを入れた。暖房用のスチームと上下開閉の窓が珍しかった。

建物の奥には全員が座れるような食堂があり、食事は時間になると四段くらいの棚に置かれる。夕食は十時過ぎるとエッセン開放という放送があり、その時点で残っている食事は自由に食べて良かった。早い者勝ち。この開放前に無くなっていることもあり、エッセンアタックだと教わった。バイトから帰り、棚が空の時はがっかりした。食い物の恨みは恐ろしい。今も忘れられない。

スキーを片手にフンドシ姿で「札幌農学校は蝦夷が島、熊が住む――」と片足ずつ跳ねながらスキーでドンドン床を突くストームには、最初はとてもビックリした。夜中、遠くからだんだんとその音が迫って来るのだ。後日、自分がやる段になり、手拍子が早くならなければずっと繰り返すことになり、しかも全室を回りきらなければならないという過酷なルールを知った。

クラブに入るについて小田中君と、色々な説明会に出向いたが、結果的には、先輩達から勧められていた応援団に入ることとした。彼は団の中でもリーダー部、私は先輩の居るブラスバンド部にした。

応援団の歓迎コンパは裏の農場で車座になり、次から次と先輩達が新入団生の前に置かれた食堂のドンブリに注いで行く。飲めないというとその度に俺のは飲めないのかと睨まれるので、最終的には全員、先輩に抱えられて部屋に運ばれた。せいぜいの抵抗は、ベッドの上から、脱いである先輩の靴に吐寫物を命中させることぐらいだった。ただ救急車騒ぎは無かった。

練習は食堂と反対側の二階の講堂で行う。ブラスバンド部だけでは吹き手が足りないのでリーダー部の有志が参加していた。長い髪と髭だらけの団員がユーフォニューム等を抱えて吹く様はなかなか圧巻だった。基礎体力練習の後など風呂に行くが、円形の風呂の中には沸かしきりのお湯がいつも殆んど残っていなかった。

部屋替えで応援団部屋の南寮二階奥の六人部屋（南上）に移った。新聞紙が床に重なり、弊衣が壁にさがり、独特の雰囲気だった。上にスライドして開ける窓から体を外に乗り出し、片手で後ろ手に窓のヘリをつかみもう一方で放尿する窓ションには慣れるまでにかなりかかった。袴姿の先輩達は、いとも簡単に済ませていた。

冬には南寮でジャンプ大会。ふんどし一丁で二階の窓から積もった雪の中に跳ぶ。その下には、窓ションが染み込んでいるが、雪がきれいなので誰も気にしない。

毎年、水産学部進学の寮生との別れの会が食堂で行われたが、ろうそくの灯りに照らさ

れて、別離の歌を唄う中を彼らが去るところは感動的だった。

寮内に唯一の動物がおり皆に愛されていた。犬のシロで、応援団所属なので大目に見られていて、木製の廊下の上をツメを滑らせながら走っていた。

学生運動のころだったが、寮内では違うヘルメットが笑顔ですれ違っていた。

寮内はいつも活気があった。

団内で共に父親の居ない私と小田中君そして佐々木君の三人は、電車通りの喫茶店タマキによく出かけ、穏やかな時を過ごした。途中の食堂市ちゃんに入り、帰る時に雪が腰程まで増えたこともあった。

そういう二年間を過ごし、応援団から分離した吹奏楽研究部に属していたので、体育会系中心の桑園寮に移った。

卒業後も時折訪れていたが、いつまでもあってくれると漠然と思っていた恵廸寮が平地になっているのを見た時は、周りの草木の風に吹かれる音が変わらないだけに寂しかった。

今も、北海道や札幌という言葉を見る度聞くたびに、恵廸寮での生活が脳裏に蘇り、共に過ごした寮生そして早逝した小田中君が思い出される。あれから三十数年経った。

太洋の海と寮歌CD制作

前野紀一（昭和34年入寮）

この数ヶ月寮歌を歌いながらの毎日を過ごした。百年記念事業の寮歌CD制作に関して、恵迪寮同窓会から北大合唱団OB会に依頼があり、OB会のメンバーのうち約三十名が集まり、五月の収録に向けて準備を進めた。私を含め約十名が元恵迪寮生ということもあるが、久し振りに恵迪寮歌と出会い、それぞれの若き日の想いを蘇えらせながら練習に励んだ。

寮歌を歌いながらの毎日は以前にもあった。私が恵迪寮に入って最初に先輩から教えられたのは、寮生の最低条件は寮歌が歌えることであった。そのため意識して寮歌を覚えたように思う。しかし、もっと決定的だったのは、夜な夜なの集まりだった。私はユーゲントコールの部屋に住んでいたが、夜になるといつの間にか他の部屋からも仲間が集まってきていた。そして、ベッドの上で寮歌集をめくりながら、みんなで寮歌を片っ端から歌った。こんな情景はちょっと滑稽で少し惨めな感じもするが、いま考えるとそうではない。ずいぶん贅沢な時間だったと思う。寮歌を一緒に歌いながら、いろいろと人生を語り合い、教え教えられた。今はやりのカラオケではこんな深くて熱い時間は絶対期待できない。

今度のCDに収録された寮歌は明治から平成までの三十三曲である。北大合唱団OB会では、それぞれの曲の楽譜を精査し、楽譜の誤りを正すだけでなく、作詞者と作曲者の意図がもっとも反映するような歌い方を心がけた。そもそも寮歌は寮生みんなのものとして創られたのであるから、いろいろな歌い方があってよいと思う。しかし、作詞者と作曲者の意図が、印刷された詞と楽譜だけでなく、歌われた音楽として記録されることはさらに大きな意義がある。この意味で今回のCD収

録は画期的な事業といえる。恵迪寮歌が、作者の意図を意識してこれほど音楽的に歌われ収録されるのは、おそらく初めてのことだと思うからである。

寮歌CD制作の中で「茫洋の海」にも新たな発見があった。茫洋の海は、昭和三十五年（一九六〇）に三浦清一郎氏が書いた詞に私が曲をつけたものである。この年は、いわゆる六十年安保の年で、連日デモが繰り返される毎日であった。東大女子学生の死、新安保の自然成立、米国大統領の来日中止、内閣総辞職、という目まぐるしい動きの中で、恵迪寮生は一人ひとりが自分の生き方を探っていた。そんな気持ちをなんとか曲に盛り込もうといろいろ摸索したことを想いだす。一番が二拍子、二番が三拍子、三番が四拍子というのは、そんな意気込みの一つであったと思う。

茫洋の海の収録の中で一つの問題が提起された。それはフレージングの問題であった。音楽的な旋律の区切りと詞の区切りが合わない部分があるというのである。しかし、調べてみると、昭和三十年代当初から寮歌集には三番の詞が間違って印刷されていることがわかった。正しくは、

「移り行く時にはあれど　涙して誓いし言葉
尊しや
若き日の夢　春秋の十年の後に　思い出声もなく偲ばんや」

と印刷されるべきところが、寮歌集には、なぜか、

「移り行く時にはあれど　涙して誓いし言葉
尊しや若き日の夢　春秋の十年の後に
思い出声もなく偲ばんや」

と印刷されてしまっていた。一行目の文章の「尊しや」が二行目の文章に書き込まれてしまったのである。

この誤記は現在の寮歌集でもそのままである。しかし、作曲は正しい詞にしたがっていたため、音楽的なフレージングとの不一致が発見されたというわけである。寮歌集の誤記は訂正する必要がある。

この事件のおかげで私は作詞者の三浦清一郎氏の消息を知ることができた。元気な声を聴くことができた。それは実に四十七年ぶりのことであった。最後に一つ付記する。それは、今度のCD制作で、二番最後の「結ばれし」の音列を「AAFFG」から、「CCFFG」にかえた。この音列がより自然であると思うし、キャンパスで学生たちは勝手にそのようにかえて歌っているらしいからである。

寮生活の思い出——恵迪寮100分の1

浦谷義博（昭和41年入寮）

カン・カン・カン…遠くの踏切で警報器が鳴っている。いや警報器よりももっと鋭い金属音だ。誰かが金槌で鉄パイプを激しく叩いているようだ。誰だろう。こんな時間に？カンカンカン…だんだん近づいて来る。そして耳元でひときわ大きな音がカン！——ワッと驚いて飛び起きる。

何と暖房用のスチームがパイプを通して送られてくる音であった。恵迪寮の冬、朝はこ

の音から始まるのであった。最初のうちは、この早朝の金属音に悩まされた。それもその筈、私はこのスチーム暖房器と並行にベッドを置いていたからたまったものではなかった。しかし、慣れるとは恐ろしいもので最初はびっくりして飛び起きた私もいつしか全く苦にならず、その音が聞えると逆って後に来る暖かさへの期待で、再び安心して深い眠りに入れた。そして遂には、その音さえも聞こえなくなっていった。

やがて、「寮生の皆様お早ようございます。」朝食時間を知らせてくれる恵迪ウグイス嬢の澄んだ声がスピーカーから流れると、それを待っていたかのようにドタバタと廊下を走る大勢の足音で目が醒めるのである。徐ろに顔を洗い、「さて今日はクラーク先生にするか？それとも新渡戸君か、はたまた内村君か…」などと楽しみながら用を足しに行く。（南寮トイレのドアには、全てに『誰々、○分間滞在の間』なる案内書（？）がしてあった。）

スッキリした面持ちで講堂（食堂）に行くと誰かしらの〝自己批判文〟が張り出されてある。何？エッセンアタックしただと？〝寮の自治〟というものをもっと大事にせんかい！なんて偉そうなことを言いながらも、「でも、気持ちは判らんでもないなあ！」などとニヤニヤ読みながらの食事もまた、楽しいものがあった。

恵迪寮の食事は、いろいろ意見もあろうが私にはおいしかった。四月の入詮で落ち、九月の補充入詮まで自炊生活をよぎなくされた私にとっては、それはそれは天国であり、出される献立の全てが〝ごちそう〟であった。中でも八宝菜風中華スープ？（正式名は忘れた。）がおいしかった。モヤシ、ニンジン、大根等野菜タップリにカキや少々の豚肉がカタクリ粉でとじてスープ風にしてあった。これがおいしかった。今でも八宝菜に出会うと恵迪のこの献立を思い出す。それと恵迪の食事で忘れてはならないのがカレーライス。少し遅れて席に着くと、カレーライスが〝カレースープ　ライス〟になるのでこの献立の日はなるべく早く席に着くようにした。カレーの味とジャガイモがおいしかった。後年、我が国の「カレーライス　発祥の地」は他ならぬ恵迪寮（札幌農学校寄宿舎）であり、命名者はクラーク先生であったことを知ったのだが、さらにこの味がなつかしく思い出される…。（現役恵迪寮生諸君、カレーライスだけはタップリ味わっておきなさい！）

食事を終えると部屋の中央に置いた円形テーブルの周りに集まってブレーンストーミングが始まる。わが部屋のテーマは「戦後日本の歴史」―同室の住人がこの時だけは一堂に会し、それぞれ一週間の〝成果〟を披露するはずなのだが決って脱線する…そして、凡そテーマとはかけ離れた所へ行ってしまって終了する。夕方、疲れた身心を癒すべく風呂場へ直行。コンクリート製の円形湯舟につかって循環する湯に心地よく身体を預けていると、何気なく寮歌が口をついて出てくる…。目を閉じてゆっくり寮歌を口ずさみ始めると、あちらからもこちらからも加わってくれる。やがて風呂場は寮歌の大合唱団の舞台と化すのである。

しかし、身心は癒せても胃袋は別物か、深夜ともなると誰が言うともなく「行かないか？」・「おう」これで決まり！…同室の住人打ち揃いモツラ求めて夜な夜な寮を抜け出す。栄養満点・脂肪タップリのモツラで胃袋をも癒した後は再び寮歌放吟しながら帰寮する。ベッドに身を横たえ、フト窓外に目をやると原始林上空には寒月が静かに冴えている。その淡い光に照らされながら今日も静かに目を閉じようと…と、突如、ストームの蛮声と下駄を踏みならす音が！…まあ、いいか。そして熟睡。

私が住居した一年は、恵迪にとって高々百

分の一にしか過ぎない。そんな一瞬とも言える一年だが私にとってどんなに大きなもので

太平洋戦争直前の恵迪寮

杉村興作（昭和13年入寮）

あったか…漆黒の夜空に一極大きく光り輝く星があるとすれば、それはまさしくこの一年の恵迪生活であろう。恵迪寮よ、寮友達よ、有難う！恵迪寮の永遠たらんことを!!

私は昭和十三年四月より三年間、恵迪寮に在籍し、昭和十五年の秋（第二学期）及び昭和十六年の春（第三学期）と続けて二回、寮の炊務委員を経験し、ちょうど戦前の自由謳歌時代より戦時体制下への変遷時であり、大変苦労した記憶があり、この際記憶を元に筆をとった次第です。

（一）デモクラシー時代

昭和十五年の第一学期までは何の苦労もない自由な時代であり、炊務委員が依頼する出入り商店は電話一本で注文品を届けてくれる時代であった。

（二）急に来た締め付け

ところが夏休みが終わり寮に来て見ると、大変な事態となっていた。何しろ、「米」は配給制に移行中であり、市当局は数百人の寮生のことを全く失念していたので、寮には米は全くなくなっており、大根の切れ端混じりの食事だった。

食べ盛りの寮生を何とかすべく、市当局及び配給所との交渉、代替食料の買い出し等に奔走し、授業に出る余裕は全くなくて、後の北大教授「北仰氏」と共に大苦労をしたものだった。

このころの寮費は永年金十六円で、そろそろインフレーションの気配があったが、その値上げには思いつかず、当時の寮生に誠に済まないことをしたと思える。

（三）僅かなレジスタンス

しかし十一月の自治制最後の晩餐会には、鶏一五〇羽を用いての豪華なものとし、自治の力を示す、一種の「レジスタンス」を示したつもりで得意であった。その後、当時の如き豪華な食事はいっさい姿を消した。

（四）今総長の壁塗り替え事件

当時のこと、寮の各室の壁には多くの先輩方の書き置きがあった。

今憶えているのは、哲学的なものが多く、ラテン語で「吾思う故に、吾あり」という類で高尚な思想と云うべきものだった。

当時、今総長がその壁のようすを視察され、このようなところでは学生の勉強によろしくないということで、かなりの予算を使って壁を塗り替えた。

たぶん、昭和十五年九月二十日のことであったが、委員長室の前の壁に「九月二十日壁塗り替え　今　裕」と大変な達筆で、書き込みがあった。

これについて、剣道部の須藤委員長を初めとして大騒ぎとなり、全寮生を集めてこのようなことのないようにとのお達しがあった。

寮生の中には、つい噴き出して笑う者もあったが各委員は大真面目であった。

前記北仰氏は、大変な達筆ということで、水泳部は関係ないといっていた。

（五）犯人判明

しかし当時より約七十年も経過し、その落書の当人は水泳部員であったことがわかった。

当人は、その後大東亜戦争（当時の呼び名）に従軍した元海軍将校であり、現在も健在である。

戦争の始まる当時、戦争に反対の意見のものは、「東条直命」で一切すべて、適法的にこの世から葬られた時代であり、北大予科生も決して例外でない。（例えば、戦後の逓信院総裁、松前重義氏の伝記参照）

このようなささやかな「レジスタンス」を必要とする時代が二度と来ないことを望む。しかし、前記落書の当人はよく生き延びたものと痛感する。

二〇〇七年八月　猛暑の中にて。

北大における恵迪寮の立場（昭和二十五年開催）

出席者

〔司会〕阿部　誉（昭和33年入寮）
有永明人（昭和33年入寮）
佐伯政英（昭和33年入寮）
宝住与一（昭和33年入寮）
神田英夫（昭和33年入寮）
崔　圭亭（昭和33年入寮）
阿竹宗彦（昭和34年入寮）

司会　本日はどうも御苦労様です。恵迪寮という所は、いろいろの面で注目され、問題のある所ですが、きょうは「北大における恵迪寮の立場」と題して、いろいろ話し合っていただきたいと思います。

先日は寮生大会が開かれ安保問題等について討議され、それ以前にも一連の講演会がもたれましたが、まず、歴史上からみた恵迪寮の立場について寮史などを参考に話し合い、今後の恵迪寮が北大において如何なる位置にあらねばならぬかということに論を進めていきたいと思います。なお、安保改定阻止や寮連の委員をやった、本庄君が都合により出席されないのを残念に思います。

〔（一）伝　統〕

神田　恵迪寮の歴史を考えるのに、札幌農学校時代の寄宿舎から考えたらさ、あの頃は全寮制だった。つまり学校の組織の一部だったわけだ。それが戦争の頃になると、下宿するものはして、希望者だけが入寮するようになった。その頃は、下宿しても経済的には変りなかったらしくて本当に寮の好きな奴だけが

寮へ入った。だから、寮生活の特色というか、集団生活というものが強調されたと言えるでしょう。それが終戦後、住宅難ということがおこって、寮が生活の場としてもつ比重が大きくなってきた。つまり、経済的に恵まれない人達が次第に多くなってきた。そういった経済的基盤の共通な人達が集まるということで、ああいった学生運動が盛んになってきたんではないかと思う。

札幌農学校時代の寄宿舎というと、ピューリタニズムそのもので精神挑刺な寮風だったらしいんだ。予科になってから、高校生活の形態が整えられるに従って、内地の旧制高校のバンカラとかバーバリズム・デカダンといったものが入ってきた。それが終戦後までの予科の伝統というやつだ。伝統といっても、どの面をとって恵迪寮の伝統とするか問題だけれどもさ、要するに伝統の形骸だけでなくてさ、底に流れているものをとるのが、本当の伝統主義というものだと思う。

宝住　ある人の話だがね、懐古主義というかそういう空気がいくらかでも残っている寮は全国でも恵迪寮くらいなものだそうだな。

佐伯　そういうことは言われるようだな。

阿竹　第一、寮歌を毎年作っているのは、ここしかないでしょう。

それから、さつき神田さんが言ったけどね、学生運動をやるというのは、経済的に困窮して住宅難で入ってきた人が多くなったからだというようなことですけれどもさ、しかし、豊かな人は全然学生運動に興味がないというわけでもないし、また生活の苦しい人でも、学生運動しない人もありますよね。

神田　共鳴しやすいということ、そういう地盤があるということは言えるね。

阿竹　学生運動をやっているのは、暇と金のある奴だと言ってるのも居ますが……。

宝住　学生運動も経済的に楽になってくれば、参加するのが増えてくるのも事実だな。

神田　実際的な行動にね。そういった意識基盤というか、言うなれば、プロレタリア意識というものが、一時終戦後の流れというものに入ってきたんではないか。

司会　学生運動については、またあとで話してもらうことにいたしますが、所で、恵迪寮の寮歌は全国に名高いものですね。特に「都ぞ弥生」などは。これを慕って遠方から北大へくる人もあるといいますからね。

佐伯　俺もそうなんだ。……北大の寮歌は、何を歌わしても好きだなぁ。

一同　ほんとだなァ。

宝住　初めきいた時は下らんと思ったが、やはり何回も聞いたりするといいな。俺は音痴だから、あんまり歌わんが……。

佐伯　いや、音痴が歌うのがもっともらしい。

（笑声）

阿竹　僕らと同じ年齢の者が作っているというだけ、感受性が一致しているということがあるんでしょうか……。

佐伯　大体、自分で去年の詩を作った時、あの中に手稲のことが入っていたろう、あれを作った後で、寮史を読んだんだ。そうすると恵迪の詩人は叙景詩人が多いってな、しかも手稲山にかかる夕焼に皆魅せられるらしいって書いてあるんだ。思わず苦笑いしたよ。

宝住　本当にそうだな。手稲山とか、自然の美しさを歌ったものが多い。

佐伯　それ以外の歌といったら「時潮の波の」くらいなものじゃないか。

有永　それから、「手をとりて美しき国」とかさ。戦後の連中というのは、皆心の中が虚ろになっていて、自分の生活はどうしたらよいかなどと、心の中に訴える歌というのが、この五、六年は流行している。でもまた、だんだん叙景的になっていくね。

阿竹　「時潮の波の」の後、二十四、五年頃、「春来にけらし」等、当時のいわゆる感傷的な歌ができているんですね。「春静かなる」

とか「さまよえる心のままに」とか。

有永　今年の寮歌を作る時にさ、われわれの生活と結びついた詩にしようという予定があった。われわれの生活を強く生きぬいていく、とにかく今の苦しい社会というものを見つめた歌、叙情的であるという以上のものを作って欲しいとの声もあったわけだけどね、結局できてみたら、そうじゃなかったのが事実だった。寮歌は一般に石狩の野を讃えたのが多い。それだけスケールが雄大であるし、叙情的なものよりも訴える力が強いと言えるね。

司会　また少しマンネリに陥りかけているような気もしますけど……。

佐伯　それもあるけど、自分でね寮歌集を読むとするだろう。読んでしまってから、今度自分が作ろうとすると、同様な言葉しかでてこないのも、同じようにしか思いつかないのも事実じゃないか。

阿竹　寮歌はあれでいいんじゃないかな。一人の人が同じ所に長い間居ると変ってくるけど、二、三年で出ていくし、入ってくる人は新しい気持で入ってくるからね。

宝住　昔と比べたら、大分変っただろうけど、他の大学の囲りほど変ってはいないだろう。昔のおもかげは充分残っている。

阿竹　やっぱり寮歌はこのまま育てて行くべきでしょうね。たとえ、今までのように良いのができないにしても、毎年毎年作っていく……。

神田　寮歌とかストームとかいうものは、寮の伝統の形骸的なものの一つだけどさ、とにかく生活を豊かにするという意味で非常に重要だと思う。昔から残されたものでさ、ストームをとってみてもさ、何の意味があるかと問い正してみても何にもならない。現にそれによって沢山の人が結びつけられている。そういった意味で、俺はストームだとか寮歌というものは非常に有意義だと思う。

佐伯　一週間ほど前に道新に田中澄江って人が書いていたろう。私の兄弟も従兄弟も皆北大へ行っている。で私の思い出の曲は、「都ぞ弥生」って言ってなかったな。恵迪寮の寮歌だって書いていたもな。

阿竹　寮歌は、皆もっと歌って欲しいですね。

［(二)　スポーツ］

司会　次に恵迪寮には北大の応援団とかボート部のように、部室の役目を兼ねている所もあるわけですが、そのような面に関して話して下さい。

有永　今部室を兼ねているのは、ホッケー、ラグビーあたりですが、寮内生というのは、どっちかというと金が無いせいか運動部員が少ないのが現状ですね。

阿竹　運動部のサークルが減ったようですが。

有永　結局寮生が運動部に入らないこと。何故入らないかと言うと、色々問題になると思うけど、何て言うか運動部はある程度プロに近いというか、そんな気がするんだよ。

阿竹　そういうものには多少レジスタンスを感じますね。

有永　運動部に入ると非常に規制されることが多い。金の面なんかでね、非常につらい。第一ね何かのスポーツをやるのにさ、われわれが会費を払わなければやれないと言うのは、これは非常に大きな教育の欠陥なんだ。国立大学におけるスポーツの低調化というものがそこにある。一方私立大学はプロ化するし……。

佐伯　それは試験のせいもあるんだよ。恵迪寮にだって国体に出た奴が結構居るのに、こっちへきてから運動やらないというのは、何かがあるからだろう。

有永　金だよ。私立大学へ行って国体へ出たと言ったら大歓迎だ。

佐伯　それだけで入れる。

阿竹　寮の運動部というのは、前もこんな調

子で、運動しない人も運動部に入っていたというのが多いんじゃないですか。だから精神的な面で力になるのでしょうねぇ。

神田　昔は、大学の運動部の本拠が全部寮にあったんだってね。

宝住　そうらしいな。

阿竹　運動部の本質にも関係すると思うけど、去年の寮と比べて、元気とか気風とかいうものは、二年目の人からよく聞くけど、だんだんおとなしくなってきたということはどうですか。

有永　おとなしいって言うより、何か馬鹿げた奴が多くなったような気がするね。たとえば、一つの仕事を着実にとりくんでやっていこうという奴が居なくなって、とにかく表面的に出て馬鹿げて騒ごうというのが多くなったような気がするんだ。一年生に失礼だが。

佐伯　もち論われわれが入ってきた時は、一年余分に居た連中から見たらさ、そう見えたのかもしれないけどなぁ。恵迪寮に入ってくる運動部の学生の態度もよくないね。土足でがさがさ入ってきたり、風呂場なんかに土足で入られるのはたまらない。ありゃ、やめた方がいいな。入るなとは言わねえんだからな。

有永　僕なんか、そういう奴はもう入れるなと思ったくらいだ。遅かれ早かれ、運動部がさ、恵迪寮を大物顔で使用するというのは、規制されなければならないと思うね。何故かといったらさ、俺達が、食って生きる生活するということが、恵迪寮の第一条件であるということを忘れてしまう恐れがあるからね。必ずそういう事態が起こるということになると思う。運動部が借金払らわずに、もめた事件もあったしね。

　で、今みたいに寮でいろいろな運動の道具を購入してね、つまりテニスコート管理委員会なんかを作って、寮生自体が楽しむという雰囲気を作っているというもので、俺はいいんじゃないかと思うんだよ。それ以上に、マスコミの波に乗るとかいうスポーツはむしろ排除すべきだと思うな。

宝住　する気になってもできないだろう。

有永　元来のスポーツというものの精神というものは、娯楽と、娯楽の中から豊かなものを養っていくという精神でいけば、今みがきつつあるものが正統なものであると。

佐伯　むしろ各部の部室に使われることは、非常に不自然であるというわけだ。

司会　それで、ともかくも恵迪寮生は、運動部にはなかなか参加できない。それから寮外生の運動部員はもう少し寮内においてはつつしんでほしい。あまり我物顔で恵迪寮内を歩いてほしくないというわけです。

［(三)　市民の眼］

司会　次は一般の市民というものは、恵迪寮生をどのような眼で見ているかということですが、北大の中でどんな存在だと思っているのか、左翼の人ばかり集っている、デモの動員個所とでも思っているでしょうか。

佐伯　恵迪寮といっても案外札幌の市民知らねえぞ。かえって恵迪寮だって内地でわれわれが言う方が知ってるくらいだよ。

宝住　北大恵迪寮って言わねえと知らない。

有永　寮祭やって見てしみじみ感じたんだけども、広告集めて廻ったら、恵迪寮知らねえってのが多いんだよ。大きな所でさえ知らねえってんだよな。で、恵迪寮に金出せば学園も出さないとならないし、ほらどこも出さないとならないので、そりゃ大変だというのさ。札幌における恵迪寮の意義というものは、非常に昔は大きかったんだよね。恵迪寮祭一つが、札幌の一つの祭として、札幌市民すべてに親しまれた時代があったのさ。現在ではどうかというとね、俺達はその意気込みでやったとしてもさ、そう受けとってくれない場合が多い。

神田　学生生活そのものがそんな風になって

きているんじゃないか。昔は学生様で、そういった目で皆見た、そういう意識が、今は、ほとんどなくなってきているんだね。

佐伯　アルバイトでな、あなたどこですかっていうから、恵迪寮ですって言ったら、ああ、あのきたない所ですかってきたからな。ひでえもんだ。

有永　でも、住んでみると恵迪寮って実にいい所なんだよね。市民に知らせる必要があるよ、これは。

阿竹　でも知っている人は割に昔風に見ている人も居るよ。特にね、長い間住んでいる人なんか、予科の時代のことなんか今も思っているような人も。僕アルバイトの時に聞きましたがね。

有永　まあ、非常に不潔であるというような目で見ているんだな。だまって見ていりゃ何するかわからない。どぶ水でも飲むんじゃないかと。

佐伯　でもあれだな、きたない所ですねえと言ってもさ、その言い方に、何か、きたない（力を込めて）というような感じじゃなくてな……。

宝住　醜悪感ってのは持ってないな。

阿竹　と思うね。

有永　われわれは寮祭をやってさ、市民との交流が年に一回行なわれるのだけどもさ、おれ達寮生がつまらなかったとぼやいているけど、見る方はけっこうよく見てくれてるんだな。いい寮祭だったって……。

佐伯　ほめているぜ。

宝住　かなり、見にきてくれる人は、恵迪寮には多いぞ、一番多いんじゃないか、ほかの学校祭だの何だのってよりは。

司会　そう自負したいね。

宝住　俺等の年頃で、学生運動にしても何でも、学生の特権意識というのをもっているのを見ると鼻もちならねえっていわれるな。

神田　そうなんだ。

宝住　口では特権意識はないって言うけど、皆鼻もちならねえことやってると思うんだよな。出来るだけそういうのは気をつけたほうがいいと思うな。そうすればおのずから道は開けてくると思う。

有永　特権意識というかさ、自分が学生であるという意識は必要だと思うんだよ。

宝住　そりゃ必要だけどさ、学生だからといって特別に見てくれってさ、バイトに行った時なんか、ろくろく仕事もしねえで金上げろとか、遅れて行っても平気でいたり、そりゃとんでもないと思うんだ。

［（四）学生運動］

阿竹　学生運動にもつながると思いますけども、寮生が一つの思想を打ち出してですね、一つの政治団体みたいにしていくというのはどうでしょう。そういう面が近代性でしょうか。

有永　俺はいいと思うよ。

阿竹　僕は、それには疑問を感じますね。

神田　恵迪寮生というのは、常に一緒に生活しているでしょう。その中で、ほかの学生に比べて一緒に話したり、討論したりする機会が多い。その結果出たことならば、それが政治的であろうと思想的であろうと、当然自分の意志として現わしていいんじゃないか。民主的に行なわれた討論の結果によればね。

阿竹　そういうことは、全員が一致するということではないでしょう。なんでも多数決で決めるのはどうかと思うんですよ。そういう行動を打ち出して恵迪寮の一つの考え方というのを打ち出すというのは、いかに多数の人が居ても、少数者が相当あれば、それが恵迪寮の思想になってはいけないんじゃないかと思うんですがね。

佐伯　だから寮としてやる必要はないと思うものな。

阿竹　だからですね、寮として、ものすごく

政治色の濃いものは、ある程度阻止する必要がある……。

神田　別に規定する必要はないと思うな。

有永　それはね、意識的に阻止しようとしても絶対に阻止できない問題だというわけさ。やはり歴史の必然性というものを考えてほしいということですよ。そういう中で、寮生の大半が動いたならば、一人一人が決して心から乱れることはないだろう。自分の生活というものに、自信をもって暮らしていたらそれで良いんじゃないか。

神田　だから恵迪寮で、政治運動をやるかやらないかを決めることは間違いだよ。

阿竹　そりゃそうですね。

宝住　全員が一致しなければ、まずいというんなら、全体何も打ち出せないということになるんだ。

阿竹　いや、それは違うんだ。問題が違うからね。いったん社会へ打ち出す場合には、それが多かったとしても寮としての意見を打ち出すのは……。意見の合った人だけの団体として出すのならば、ともかくも、あってない人までも含めるというのはどうでしょう。

有永　そりゃ仕方のないことだろう。民主主義としては……。

阿竹　だからそういう意味での民主主義というのは、僕はあまり好きじゃないけどね。

宝住　そうしたら、国家とか国連とかを考えたら、国中全部一致しなかったら何もできなくなるだろう。

阿竹　そこで、社会と学生との性格が違うと思うんですよ。というより俺達が今から全く思想的にからんでしまっては……。

有永　皆さ、選挙権があって、学生であると同時に社会人であるということ、学寮であると同時に、社会の集団生活の場ということが言えると思う。政治や、社会に対して不満があればそれをのべるだけの権利もある。それに対する義務というか、裏付けというものは絶対に必要である。それだけ強固に闘うだけの自由はあると思う。

神田　だからな、自分一人の意見が寮生多数の意見と絶対に違っていても、自分自身で自分の生き方に自信をもっていける。

阿竹　僕はもうちょっと世の中の声を考えているつもりですがね。何かこわいんだ。ある思想的なことを俺達が打ち出すということが。個人的には、こういう考えを持っているからということを言うならいいけど、それを団体生活の上に反映されたらね、ちょっと恐いんですね。そういう点で俺達の恵迪寮としても疑問を持つわけですけど……。そりゃ、多数決って本当に聞こえがいいけど。

有永　俺はね、大学生というものは、ある程度自信をもって生きていっていいと思うんだ。こわいというより。日本の社会の大部分は、知的に低くされているんだよ。公平なのも知らされないし、そういう中で、俺達だけが公平な立場で物を考えるチャンスが与えられて居るんだということも事実だと思うんだ。そういう自信の中に立ってわれわれが仕事をしているというのは、決して、ある程度あやまちであったとしても、われわれの生き方に支障をきたさないと思う。

阿竹　生き方にはね……。しかしそれを出したからには、それだけの責任をもたなくてはならないでしょう。責任を問われた場合には学生だとして逃げる傾向があるんですよ。それがどうなるんです。だからそれを一つの思想として、団体としてまとまって多少の少数者を無視して、でなくて含めて出すという場合、責任を問われた場合、その問題に反対した人達は全く馬鹿を見たわけですね。

有永　学生運動の本質は何かということを考えてほしいんだよ。それは自治組織である。その根本に流れるものは何かというと、あくまでも学生という立場における経済闘争なんだ。われわれはすべての階級からあらゆる人

達が集まっているわけだが、われわれの利益を守るためにわれわれの自治組織が形成されたわけさ。学校側に対して教室が悪いとかが本質の闘いであったわけさ。そういう段階を経て現在の政治運動に学生運動というものは発展してきた。ところが学生運動すなわち政治運動と解釈されている。そこにすでに間違いがある。

阿竹　そうでしょう。そりゃ賛成ですよ。

有永　ところが、やっている人自身にも、そう考えている人もいるわけさ。この考えというのは、根がないわけで、学生運動をやっている人の中には、政治屋と名のつく人ばかりが居て、経済とか自分達の利益を地道に考えてみる人が居なくなった。結局一貫性も、責任もないわけさ。それで学生はいかに結集しているかというと、安っぽい、一貫性のないヒューマニティなのさ。そういう所に今の大きな欠陥があるわけさ。

宝住　この間、河西先生と秋間先生が言っていたんだが、皆身近な問題は全然とり上げようとはしない。そういう身近な問題も取り上げられなかったら社会に出ても何もならないだろうって。自分の生活が守れないで、社会のためになることが出来るかということだよな。

神田　何の立場にも拘束されないで、本当に自由に物を考えることのできる時だと思うんだ。だから今こそ真剣に考えるだけ考えていいと思う。行動というといろいろ制約がかかるけど。その時期においても、考えそのものにさえ回避的になる人がいるわけさ。それはちょっと可哀想に思う。そういう人だって考えるだけ考えたっていいんじゃないかと思う。

有永　非常に恐れて参加しない人が居るんじゃないか。そういうことは事実だと思うんだ。しかしそれ以上に学生生活は四年であるということを真剣に考えてほしい。結局、四年というのは、社会に出る地盤なわけさ、社会にいざ出たら、自分が非常に浮いていたら何もできないと。学生生活においてそういうものを求めるとしたら、その根のついた中から、どういう中にどういう環境に放り込まれても、悠々と生きて行けるだけの人間性というものが必要なわけさ。そういう物を作っていくのが学生運動であり、自治組織であると思う。だから恐れているから皆が参加しないと思ったら間違いだ。

阿竹　僕も考えるんですけど、今やるよりもこの次の時代にやった方がより効果的、その方が立派にやれるという可能性を信じている人物も沢山居ると思いますね。そりゃ恐れているという意味じゃないと思う。

佐伯　でもね、俺なんか、学生運動ノータッチだけど、どうも俺は、知らねえなら知らねえで置いといてもらいたいのさ。俺はあんまり新聞も読まないが、そうすると、人から新聞なんか丹念に読まなきゃだめだって言われるんだけど、俺は読まねえなら読まねえでほっといてもらいてえというところがあるのさ。全く我儘ってば、我儘だけどな。

阿竹　それが通じる時代でしょうしね。

佐伯　うんそうしたいんだ。

阿竹　僕の言いたいのはそこなんだけど。

佐伯　だから、過激な運動やってるとかって言われているようだけども、過激な運動をやっているかどうか、ともかくも真剣に考えている人は、やって良いと思うんだ。やっている人に、おれは関係ないというような顔しているからと言ってやめろとも、何とも言わないわけだよな。また言っちゃいけないと思うよな。

有永　恵迪寮における学生運動というのは、近頃派手になってきたと言われるけど、本質においては全然派手になってきていないということが言えるんだよね。

阿竹　本質においてはね。

有永　ただある程度のＰＲ活動が、頻繁になってきて、活動家がふえただけであると。またこの状態がね、低調の一途をたどってさ、また増していくというような、過去の歴史は常にそういうことをくりかえしてきているわけさ。しかしその中で、寮生が一つ一つの意識を高めていくというのは、恵迪に流れている学生運動の本質だろうと思う。

阿竹　学生運動を組織でやるんなら寮内の自治、学内の自治ということをもっと考えてほしいですね。いわゆる高校における自治会的な面がもっとあっていいんじゃないかと思います。そういう余裕がないんですか。

有永　それを経済闘争というんだよ。そういうものは、政治闘争はすべてのものに優先するという観念からすべてをなすという。

神田　ときにさ、自分自身は全然それに気づかないでさ、そのものを非難したり、批判したりすることによって、自分自身は、非難や批判によってそれを直していこうとする努力がないというような面が多分にあるんだと思うな。

有永　よく言われることだけどさ、現代の学生気質として批判精神に徹しているというんだ。手前で考えることをしないというわけよ。人の考えたことを批判するのはものすごくうまい。それは責任というものを忘れてさ権利ばかりふり廻しているという現象じゃないか。恵迪寮にもよくあるんじゃない。

神田　学生自治会があいった非常に一般学生から離れたような存在になっているのもそこに一つの原因があると思うんだ。

有永　せっかく各寮を単位にすれば動員体制に一番良い。それがまた寮はある治外法権みたいのを持っている。そういう所をねらって色々なものがかけられてくるが、その中で正しいものを取り入れ、まちがったものをはねかえすだけの思考というか力を寮生が持つ必要がある。そしてこそ寮における学生運動がはっきりしてくるし、ある程度皆が高い意識につけると思うのだが。逆に、あいつらは何をしているのか、俺は知らないというのは非常にいけないと思う。

阿竹　そう思わせるようなことしかしないのもどうかと思いますね。

有永　それは受身的な物の考え方ですね。

阿竹　しかし一年目の立場から言うのですが、入ってきた時に、もうそういう形態があったら、それは受身的なものとしてすまされないものがあると思いますね。もうそれだけハンディキャップがあるんだから。

有永　それは認めよう。しかし自信を持ってそれにはむかっていく必要があるね。

阿竹　それはありますね。

神田　例えば俺が今年一年目が入ってきた時に一年目に対する働きが正しいとは言えないよ。だからそれを口実として自分への非難の口実にしてはいけないと思う。自分で考えそこから積極的に独自の方向を出してそれがある方向と一致するなら、それに合流してもいいし、反撥するなら堂々と意見を述べてもいい。

有永　今までの社会の変革というのが一部の指導者とか、上部の人によってなされてきた。これから俺達がするのは、大衆の力によって社会を変革するものだと思う。だから自分が一人の大衆であるからには、そういった意識を持つ必要もあるわけだ。

司会　学生運動は政治闘争と非常に密接なわけですが、その政治闘争について寮の執行委員会が指導的精神を発揮するのは是か非かということですが、宝住君はどうですか。

宝住　それは難しいと思う。俺が考えたのは寮の空気を考えて、やるというものとやらないというもののバランスをとれば、一人でも多く参加するのではないかと思い、執行委員会はこういう方向で打ち出すべきではないかという結論に達した。その線を選ぶというこ

とが難しいんだ。その線というのは、われわれの主観になるけど、全然やるべきでないというのが多くても、少しはずれるということはある。できるだけ多くの寮生が人に抵抗を感じないでできる線を保持してやっていきたい。

有永　宝住がそういう考えを持っているにしても、宝住委員会ができた時にその本質を考えてやって欲しい。政治闘争をやるんだといって委員会を作ったのか、それともやらないんだといってか寮生がやるという奴が居れば何とかついて行こうといって作ったのか、そこをはっきりして欲しい。

宝住　安保改定の問題は、俺達は何も分からなかったわけだけど、楡影寮などで安保問題について議論したわけだが、そこでわれわれは運動に立ち上らなければならないと思い、そこで出来るだけ多くの寮生が参加できるような形態に持って行くべきだと思い、それに対して、今までのように、ただ悪いんだ悪いんだとばかり言うんじゃなくて、自民党や社会党の人を呼んだり、学生運動についても好意的な人や批判的な人を呼んで皆の意識を高め、そこで自分達は行動しなければならないと考えてやったわけさ。

有永　闘争をやらなければならないと、安保阻止実行委員会の方から打ち出されたものをただ君たちが事務的に寮生に受けついだという立場をとりたかったという意味でしょう。そうでなくて、安保の問題について、寮生にＰＲしてさ、戦うように受けついだという面があると思うんだ。執行委員会の活動を犠牲にしてまで、そういう運動に力を注がなければならない所があったと思う。そういう時に、もっと寮長の意識が如実に現われていいと思う。

宝住　やっぱりはじめは、今の学生運動に批判的であり、独自の立場をもってやったと思うが、やっぱり幾分ずるずる引きずられたという所はあると思う。それから、われわれ執行委員会としては、協力できる所は協力して、執行委員会の立場を出してきたつもりだけどもな。

神田　寮の利益を守るという点で行動を進めて行くということ。そしてたとえ寮生の意識がどうのこうのではなくて、常に執行委員会自身研究して、寮に対する問題ってのを分析するわけさ。これが寮にとって重要だと認識したら、寮生の認識がないなら、それについて認識を深めていっしょの運動に出るなり、あるいは行動をとらせるというように、常に執行委員会独自で寮の利益という立場をもっと研究して、いつでもそれを寮生の前に提示できる体制を作ってなければならないと思う。

有永　神田君の言うことはいいと思うけど、その前に寮生の意識が問題になる。政治運動に動けという寮生の意識があったら、執行委員会は動くべきだと思うよ。執行委員会が動くってことは、ある程度寮生の意志を代表するんだ。そういうことを考えて、執行委員会は軽々と動いちゃいけないと思う。

［(五)　学校側の態度］

司会　寮の自治とか経済問題に関して、学校側の恵迪寮に対する態度はどうでしょうか。

阿竹　経済的なことだけど、良く見てくれるんですよ。燃料費なんか、室蘭工大なんかでも持たされているんですが、そういう設備の点で、満足とまでは行かないまでも、けっして悪い待遇じゃないですね。

有永　そうね、寮というものが、一つの組織として認められているんだよね。今の教育法においては。そうする以上はすべてを学校側が見るのが当然であるという考え方なんだけど、非常に寮生が学校によって利益を受けているのも事実だろうし、それ以上に多くの利益を要求しているのも事実でしょうね（笑い

つつ)。また要求してもいいかも知れないね。

宝住　よく行くんだけど、やっぱり予算がないとか何だとかって言われてな。

阿竹　個人的には、もっとしてもらえると思いますけど、相手の立場とこちらの団体的な立場から見ると、それほどの強い要求も打出せない立場なんですよね。

有永　寮を一つの個人生活の場として見たならば、寮に入っている奴と下宿している奴と、国家の予算における比があるということも言えるわけさ。今の社会のアブノーマルな住宅難というものもそこに含まれてくると思うんだけどね。そういう中でさ、俺達がもっと俺達の待遇をよくしろっていうのは、非常に利己主義みたいな感じがしないでもないんだよ。しかし、このような要求は、社会が非常にアブノーマルだからではないかと思う。

神田　室工大の電気料がだんだん上ってきているのは、文部省の方針なんだよ。個人生活は自分のあれで持つという方針がだんだんでてきている場合に俺達はお情け的にそれを受けてはいけない。やっぱり自分の力でそれを守るだけのことは必要だ。

有永　寮生活の予算がけずられて、何所へ行くかというと、結局軍事予算であり、ある種の矛盾した予算に廻される可能性が多いわけだろう。

宝住　厚生課ではな、全部厚生課でやるべきだということは認めているんだけどな。やっぱり予算がなぁ。

神田　で結局政治折衝になるわけなんだ。基本的問題として、われわれの態度も、そこにそういった態度がなけりゃならんと思う。

宝住　この間も石炭のことを要求したんだよな。そしたら、ほかの寮生個人として飯を炊く石炭とか何とかまで学校持ちにしたとしたら、今下宿している学生にまで石炭を配給しないとならないとかって言われるんだ。でやっぱりそのようにすべきだけど、まず最初に寮生という風に考えて……。

有永　それよりもね、われわれが学問する場として、われわれが安全な衣食住の生活が保証されねばならん。それでなかったら、全学生が寮に入る可能性が与えられて、全学生が同じ待遇を与えられる権利があるわけなんだ。ところが学校は金がないからと、寮生がある程度限られてくる。これは非常に国家の弱みなんだ。それに引きかえて、例えば、自衛隊などは、一日の食費が俺達のちょうど倍の一五〇円のものを食ってんだ。俺達が将来の社会に出るためのものとして養成されるのだが、彼等は、少なくとも殺し屋になるよりほかない。そりゃ有用な方面もあるだろうけど。俺達よりも食事も生活もずっと豊かで生きているということは、矛盾があるんじゃないか。

　教育を受けるのに、金が要るということがすでに間違いじゃないか。

神田　だから問題を考える場合、退って考えず、常に前進的に考えるべきだな。

司会　寮の自治ということに関してはどうでしょうか。自治を圧迫するというような態度は現われているのかってことですが。

(この時崔君登場)

宝住　僕はそういうようなことに対して感じないな。鈍感なのかもしれないけど。

有永　でもね、入寮選考を厚生課でするってなことがあったというんだ。そういうことはある程度恵迪寮における自治権の侵害だと見ていいんじゃないか。一つのシステムの支配下にある所だけど、一つの人間がまとまって同じ生活している所に自治が成り立つのは当然で、その中における成因というのはその中で自治しているそれぞれが決めるべきだ。それを上から決めてきて押しつけるってのは、自治権の侵害だと思う。

宝住　そりゃ勿論そうだが、厚生課の方では、そのような事全然言ってなかったぞ。

有永　前に一度言ったことがあるんだよな。

崔　前はあったんだ。入寮選考権を中心として、あらゆる所、全国的な傾向なんだ。何か目標到達点があってね、入寮選考権を中心として、寮は要するに厚生施設ではないと、教育施設であるということをいって、二万円問題（三十三年度前期選考にて）等があったんだ。だけど、僕がやっている時には、大崎さんは、別にそういった意図ではないと、君等の自治は十分認めてやっているし、自治寮を君等にまかすこと自体が一つの教育活動だてな事言っていることは言っているけど、何というか、そういう底意というものはやっぱりあるように思うな僕は。

　このような問題を考える時、問題は北大しかも恵迪寮だけにとらえられない。

有永　社会というかね……。

崔　文部省中心にやってきているから。

有永　今まで獲得してきた自治権というものを放棄してしまうようなことはしたくないね。放棄した時代もあったが。

崔　恵迪の場合、俺一番言いたいのは、恵迪寮の自治は守られていると思うんだ。ある程度は。だけど、もう寮生に与えられたものとしてしかとっていないんじゃないかな。これは寮史の方を見るとわかるけど、大正の頃か昭和の始め頃からずい分闘争しているんだな、自治権獲得の。そういう過程を経てわれわれが勝ちとったという意識そういうものが足りないように思うな。ほっとけばそのまま、すらすらとこう運んでいくんだということを……。

司会　まだまだ問題は残されているようですが、きょうのところはこの辺にして、また次の機会に致しましょう。

　どうもごくろう様でした。

（なお、紙面の都合上一部割愛いたしました。）

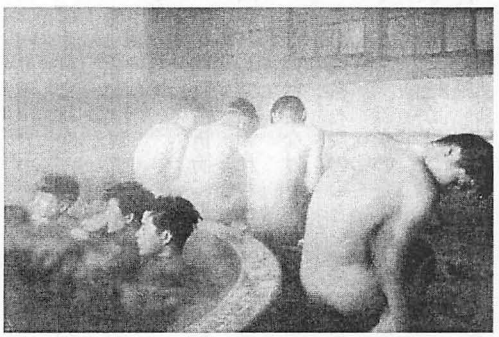
十二月二日午後九時　於図書室

（1960年2月20日発行「恵迪」復刊第5号より）

寮生活あれこれ

工藤哲也君（昭34年入寮）提供

エッセン風景



入浴

寮の従業員

クラーク博士曽孫
スチュー・クラーク夫妻が来札

クラーク夫妻

北海道大学開学百三十周年を迎えて、クラーク博士の曽孫、スチュー・クラーク夫妻が来札。その歓迎レセプションが平成十八年九月二十九日午後六時から札幌ガーデンパレス二階で開かれ、夫妻を囲み、和やかなパーティーが続いた。

北海道・マサチューセッツ協会、北海道大学などの主催。当日は昔から夫妻を知る人や関係者ら約六十人が参加。まず御夫婦が壇上で紹介された後、北海道大学の中村睦男総長が歓迎の挨拶。「W・S・クラーク来道百三十周年に来道され、一同大変光栄に思います。」と言いながら、クラーク博士の功績の一端を紹介した。会場にはスワード市と姉妹提携した帯広市からも関係者が参加した。

クラーク夫妻は壇上で「皆様から大変温かいお声をいただき、有難うございました。深く感謝しています」とお礼の言葉を述べた。さらに、北大と両親のことをくわしく語ったほか、「家族がさまざまな形で日本とかかわっている。今回の訪問でさまざまな日本のエレガンスに出会った」と話し、最後に「BOYS&GILLS・BE・AMBITIOUS」で締めくくった。

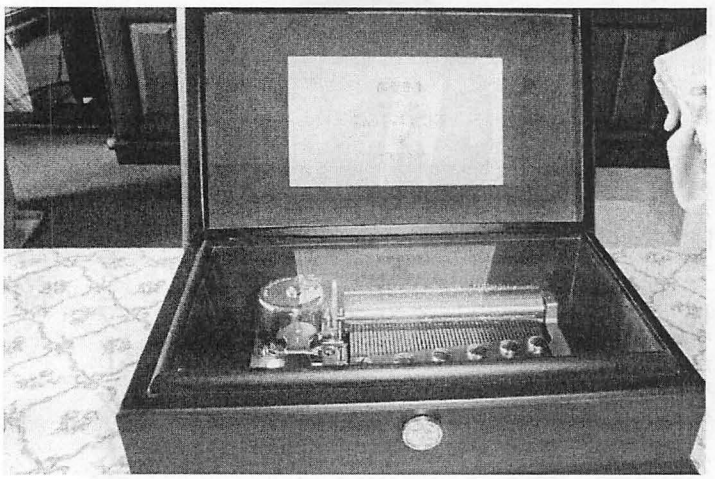
歓迎挨拶する中村北大総長

お礼を述べるクラーク夫妻

乾杯する出席者

台風で倒れたポプラ　次々と楽器に

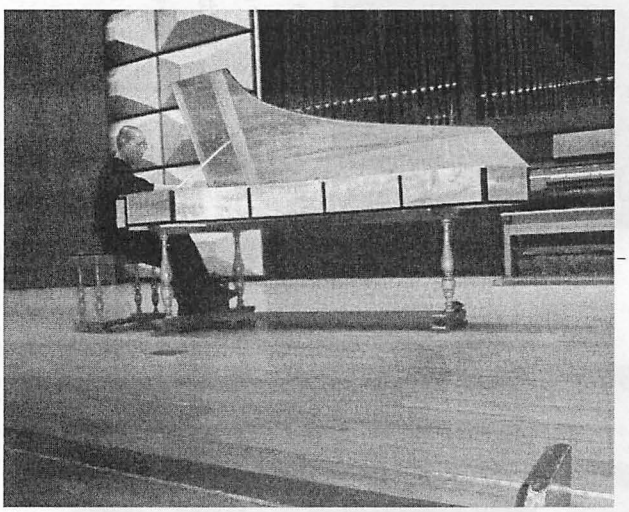
ポプラで作ったオルゴール



二〇〇四年九月の台風十八号で倒れた北大名物のポプラが次々と楽器などになってよみがえっている。暴風に耐え切れずに倒れたのは五十一本の並木のうち十九本だが、道内のそれぞれの専門家などの手で製作されたチェンバロなどは演奏会なども開かれ、北大ＯＢや道民らの目を楽しませた。

最も大きいのはチェンバロ。ヨーロッパでは主にポプラからチェンバロが作られていたことから、埼玉県在住のチェンバロ製作者、横田誠三さんが手がけた。ポプラ七本を約一年かけて二台のチェンバロに仕上げた。

平成十八年九月八日夜、お披露目コンサートが北大クラーク会館で開かれた。演奏したのは北大の前身、札幌農学校一期生大島正健氏の子孫にあたるチェンバロ奏者で埼玉県在住の水氷牧子さん。白いドレス姿で登場し、Ｗ・バードの「鐘」をはじめ、北大寮歌「都ぞ弥生」「時計台の鐘」など十曲ほどを演奏。ピアノとは異なったさわやかな音、やさしい響きが会場に流れた。



立派に作られたチェンバロ

コンサートには市民や卒業生ら約五百人が集まり、昔のポプラ並木に思いをはせて聞き入った。コンサートは札幌コンサートホール・キタラで開かれたほか、旭川でも演奏会があった。

ポプラでは立派なオルゴールも作られた。北大構内で北大グッズを扱う「エルムの森」が一台四万九百五十円で売り出した。曲はおなじみの「都ぞ弥生」で全曲が入っており、柔らかなメロディを奏でる。二百台販売したが、たった二日で完売。店の話ではもう材料のポプラがないため、同じものは今後つくられないそう。

このほか、アメリカ先住民族に伝わる木製の笛「ラブフルート」や三味線もそれぞれの専門家が長い間、研究を重ねて作製した。

恵迪ＯＢ　渡辺　興亜氏が講演

南極観測50周年記念

わが国の南極観測は一九五六年十一月八日に観測船「宗谷」が出港して以来、二〇〇六年十一月で五十年目を迎えた。これを記念した行事が十一月二十六日正午から午後五時まで北海道大学学術交流会館で開かれた。このうち講演会では恵迪寮ＯＢ（昭和三十三年入寮）で元国立極地研究所長の渡辺興亜氏らが興味ある話を次々と披露した。

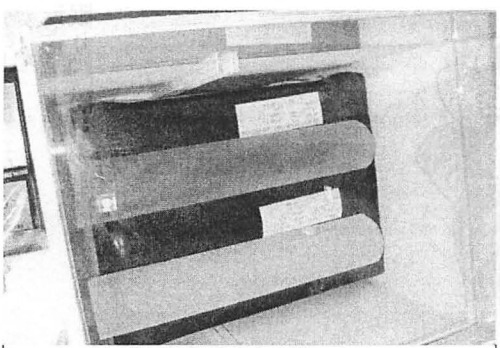
渡辺氏は午後一時半から約一時間、「南極観測の五十年」というテーマで語った。北海道から南極観測に参加した学者らはこれまで約百十人に上るという。渡辺氏も第十一次隊に参加したのを初め、色々な研究に携わっている。昭和三十五年には越冬隊長にもなっている。

北大で開かれた南極観測　50周年記念行事

講演ではスライドを駆使し、身ぶり、手ぶりでわかりやすく話した。非常に少ない物資に苦労しながら船からヘリで荷物を運んだ。とくに燃料輸送が大変で、ヘリで昭和基地に運ぶ時などは悪戦苦闘した。また、厚さ約一・五㍍の氷を砕きながら進む観測船「しらせ」は前進してはバックの連続だった。

現在、越冬隊は四十人強と、初期の二十倍の規模。物資も四㌧を越すようになったなど第四十八次隊までの間、わが国の南極観測は地球科学、惑星科学、生物科学分野で大きな成果を上げて来た。と、南極観測の発展の歴史などをていねいに披露し、集まった二百人余の市民らは感心して聞き入っていた。

一方、講演会場わきのロビーでは数十万―百万年前の大気を閉じ込めた南極の氷が道内で初公開された。この氷は厚さ三十㍍を越す氷床にボーリングして採取したもの。浅い部分は六一〇〇年前のもので、深さ二〇九・〇三㍍から、深い部分は二一二〇〇〇年前のもので、深さ二二〇七・五㍍から採取したもので、長さは合計約五十㌢。南極ＯＢ会道支部が北大低温研から借りたもので、絶対解かさないことが条件だったため、色々な展示方法を試すなど苦労したという。


初公開された南極の氷

このほかロビーでは無人の昭和基地で南極の冬を生き抜いた樺太犬タロの標本がお出迎えしたほか、南極やまと山脈で発見された隕石二個、越冬隊員用の防寒具の試着会、ダイヤモンドダストを作る実験「五十周年記念ビデオ「白い大陸からのメッセージ」も上映されて、会場は一日中、小、中、高校生やお母さんたちでにぎわっていた。

初夏（はつなつ）

小沢久弥

（昭和17年入寮）

春

猟師町子供犬猫（いぬねこ）春の暮

遅（おそ）き日や帰れば妻の友ゐたり

春浅き軽井沢なるジャムの店

夏

踏切りに待つひとときの若葉風

梅雨（つゆ）明けのビルの谷間のコンサート

初夏（はつなつ）のホテルの前の浅間山

秋

雨水（あまみず）の流るるを見て端居（はしゐ）かな

水澄みて音なく回る水車かな

花茣蓙（はなござ）を売る名店街の一（いっ）として

冬

車椅子静かに進む菊花展

人まばら冬の湖畔のレストラン

山眠（ねむ）り陶磁器の町閑（しず）かなり

恵迪寮開識社

青田昌秋氏（昭和33年入寮）が「流氷」について講演

現北大理学部名誉教授でオホーツク流氷科学センター長をつとめておられる青木昌秋氏を講師に迎え「海からの素晴しい贈りもの～流氷～」をテーマにした二〇〇六年度の「恵迪開識社」が二〇〇六年十月七日、北大遠友学舎で開かれた。

遠友学舎での講演会

会場には寮生ＯＢを初め、現役寮生、一般の子供づれ市民ら多数が集まった。始まる前にテープから流氷の音が会場に流れ、奇妙な動物のうなり声のような音に、参加者は驚ろいたようす。ビデオやグラフ、図などを駆使した講演がスタート。

和孝雄開識社部会長（昭和32年入寮）が司会者をつとめ、開識社の歴史をかいつまんで紹介、青田氏の経歴を披露。「流氷の青田、青田の流氷」といわれる第一人者ですと話した。また、恵迪寮同窓会北海道支部長の白浜憲一さん（昭和40年入寮）が「台風が近づいている中、皆様よくいらっしゃいました」と挨拶した。

講演に立った青田氏は開口一番「私は国会議員の定数を人口から面積率に変える会など五つのユニークな会の会長をしている」と笑わせて会場の堅苦しさを抜いた。

本題に入り、「海明けとは」「流氷はどのくらいの速さで動くか」「厚さ一〇センチの氷一キロには一〇～十二グラムの塩分が入っている」「しかし厚さ一〇九センチの氷一キログラムには五～六グラムの塩分しかはいっていません」「氷晶とは海のダイヤモンドダスト」など色々な流氷の様子を身ぶり手ぶりでわかりやすく示しながら説明した。

◇オホーツク海の謎◇
流氷南限の海―オホーツク海―

青田　昌秋

北海道の周りの日本海も北太平洋も凍りません。ふしぎなことに、凍るのはオホーツク海だけです。地図で流氷の限界線を追ってみましょう。オホーツク海は、北半球でもっとも低緯度の凍る海、流氷南限の海です。これには何か理由があるのでしょうか？

四℃以下では、真水は冷たいほど軽く（密度が小）、〇℃で凍り始めます。先に冷える表層の水は下層の水よりも軽い。だから、上下の水の混合（対流）を起こすことなく冷えていき、表面が〇℃になると凍り始めます。一方、海水は冷たいほど、塩分が濃いほど重

く（密度が大）なり、凍る温度は約マイナス一・八℃です。冬、海は対流を繰り返しながら、深くまで冷えていき、マイナス一・八℃になってようやく凍り始めます。海を凍らせるには、池よりはるかに大量の熱を奪わなければなりません。海は深いほど凍りにくいことになります。

オホーツク海の謎

気象データーから、オホーツク海の寒風が一冬の間に海面から奪い取る熱量を見積もりました。その結果は、平均水深八〇〇㍍以上もあるオホーツク海を凍らせることができないことになります。これは、流氷南限の海という事実と矛盾します。これがオホーツク海の謎です。

観測によって、オホーツク海の表層約五〇㍍は、下層に比べて非常に塩分の薄い海水で覆（おお）われていることがわかりました。つまり、オホーツク海は塩分の二重構造の海なのです。このために、オホーツク海の対流は五〇㍍内外で停止するのです。なぜなら、表層水が冷えて重くなっても、下層の塩分の濃い水の密度にはかなわないからです。オホーツク海は、流氷生成という点からは浅く凍りやすい海といえるのです。これに対して、日本海や太平洋では対流が深くまで続き、凍る前に春がきて氷は生まれ得ないのです。流氷南限の原因は表層の低塩分水の存在、二重構造だったのです。

流氷の生みの親―アムール川―

では、なぜ、オホーツク海の表層には非常に塩分の薄い水があるのでしょうか。シベリア大陸には流路四、五〇〇㌔㍍以上の大河アムール川があり、大量の雨水や雪解け水をオホーツク海へ流し込みます。この水がオホーツク海の表面に広がって塩分の二重構造をつくりだすのです。アムール川は流氷の母です。

さらに、冬、西高東低の気圧配置が発達し、シベリア降ろしの寒風が吹き続きます。また、この海は周りを大陸や列島で囲まれているので、塩分の二重構造が保たれやすくなっています。このようにオホーツク海特有の水塊構造、気象学的条件、地形学的条件の三つが揃って、オホーツク海を流氷南限の海にしているのです。

◇流氷の功罪◇

流氷祈願祭

今、冬になるとオホーツク紋別の浜では、流氷早期到来祈願が厳かに執り行われます。一昔前まで、人々は流氷早期退散祈願祭を催して海明けを待ったのです。この浜で三〇余年、流氷を暦に暮らした私には隔世の感です。はたして、流氷は恵みでしょうか、それとも厄介ものなのでしょうか。

流氷は厄介者？

流氷が近づくと、小型漁船は陸に揚げられて春を待ちます。底引きなどの大型船は日本海や太平洋へ回航します。かつて浜の子供たちは出稼ぎから父親が戻る海明けを待ってきびしい冬を過ごしました。流氷は漁民から職場を奪う邪魔者でした。一九七〇年三月、エトロフ島ヒトカップ湾に時化（しけ）を避けた日本漁船団を流氷が急襲、死者行方不明三十人という悲劇が起きました。船乗りにとって流氷は白い恐怖なのです。七十四年一月にはサロマ湖に流氷が侵入、ホタテ漁に壊滅的被害をもたらしました。流氷が昆布を引きちぎったり、ツブ、ウニをすりつぶしたりすることもあります。流氷は漁師にとっても邪魔ものでした。

流氷―海からの贈りもの―

ところが今や氷は貴重な観光資源です。街の人々は流氷到来を待ちわびます。かつて流

氷を目の仇にしてきた漁師たちさえ「今年は流氷が遅いが大丈夫か?」というようになりました。プランクトンを運ぶので、流氷が多い年は漁模様がいいというのです。流氷が乱獲から海を守っているだけだと皮肉をいう人もありますが、宿敵流氷が、いまや浜の救い神となったようです。

流氷の恩恵は、水産や観光だけではありません。海が凍ると波は消えます。流氷が波のエネルギーを吸収するからです。秋からオホーツク海は荒れ狂い波浪が海岸の土砂を流し去ります。漂砂です。もし流氷がなければ、オホーツク海と通じるサロマ湖、コムケ湖などの湖口は毎年塞がれてしまい、海岸線も変わってしまうでしょう。流氷は自然の浮防波堤となって海岸線を守っているのです。

海が荒れると波しぶきが空中に飛び出します。しぶきは急速に蒸発しながら遠くまで飛行して塩分を濃くしていきます。しぶきが付着すると草や樹木は枯れてしまいます。塩害です。流氷はしぶきを抑えて、畑や森林を守っているのです。

コンブなどの海藻を育てるには、海の雑草とり—磯掃除—が重要です。オホーツク海では、この磯掃除という大役を流氷がやってくれます。オホーツクの海辺の人々は、このように功罪両面をもつ流氷とともに暮らしているのです。

よく「流氷を役立てる手は無いのか」と聞かれますが、流氷の存在そのものが恵みであることを理解してほしいのです。流氷あっての豊かな海、素晴らしいふるさとオホーツク海なのです。

◇海の生きものの楽園—凍る海—◇
海の牧草—植物プランクトン—

アミやエビなどの動物プランクトンは植物プランクトンを食べて繁殖します。それを餌にして稚魚、小魚が育ち、さらにそれを求めて大きな魚が集まってきます。魚類を牧場の牛や羊にたとえると、植物プランクトンは牧草です。海の豊かさは植物プランクトンの量で決まります。陸の牧草を育てるためには窒素、燐酸、カリなどの肥料を施します。海の牧草・植物プランクトンにも燐酸塩、硝酸塩などの栄養塩とよばれる海の肥料（養分）が必要です。

海水中に融けている栄養塩は大地から供給されます。昔から日本人は「森が海を育てる」と言い、これを魚付き林とよんで大切にしてきました。木を切り尽くし、川をコンクリートで固め尽くすことは、海を巨大な汚水の貯水池にするだけです。

シベリア大陸は大きな、大きな森です。この原始林の土壌に含まれる豊かな養分は、アムール川からオホーツク海に注ぎ込まれます。アムール川は、オホーツク海の流氷の生みの親であるだけでなく、栄養の運び屋、植物プランクトンの育ての親でもあります。

海の肥料—森は海を育てる—

海の牧草・植物プランクトンは、海水中の養分を摂り、太陽エネルギーによって水と二酸化炭素から有機物をつくりながら生育しています。これを光合成といいます。つまり、植物プランクトンの繁殖には太陽光と栄養の両方が必要です。深くなると光が弱すぎて光合成は行えません。一方、海中の栄養はしだいに沈んでいくので深いほど豊富です。海の底は栄養分の貯蔵庫なのです。

さて、浅いところは光が強いので植物プランクトンは盛んに光合成を行います。しかし、すぐに栄養を食べ尽くしてしまい、それ以上は増殖できません。植物プランクトンが増えるためには、栄養分の補給が必要です。

日本海の大和堆（たい）、オホーツク海の北見大和堆のように海底に突起があるところは好漁場になります。それは、海流が突起に

ぶつかって上昇流が生じ、海底に貯まっている養分を、光が十分な浅いところまで巻き上げてくれるからです。南の深い海では強い日光を浴びて光合成の条件には恵まれていますが、温かい表層の水は軽いので、上下の水の混合、つまり、対流が発達しません。表層の植物プランクトンは盛んに光合成を行いますが、養分の補給がないので、すぐに栄養不足になってそれ以上の増殖はできません。岸から養分が供給される沿岸域や堆のある特別な海域のみが好漁場と成り得るのはこのためです。

栄養塩のリサイクル―凍る海―

ところが、北の海では秋から表層は冷えて密度（重さ）を増し対流が盛んになります。とくに、凍る海では、流氷から排出される濃く、重い塩水（ブライン）が海中深く沈んでいき下層の水と入れ替わります。流氷による海水の鉛直混合―対流―促進です。このとき、海底の養分の浮上、栄養のリサイクルが行われるのです。凍る海が栄養に恵まれているのはこのためです。

植物プランクトンは、光がよくあたる流氷の底に付着して冬を過ごします。日光が強まる春になると爆発的に増殖します。流氷は植物プランクトンの心地よい住みかです。そこには、たくさんの動物プランクトンや小魚が群がります。それを求めて回遊魚、アザラシ、トドがやってきます。氷の隙間の小魚を狙ってオオワシやオジロワシなどの鳥たちが空にも舞います。流氷の海は、生きものたちの楽園です。

◇地球環境と流氷◇

小さな星―地球―

地球の隣の星・金星は太陽に近すぎて灼熱地獄、生命は存在しません。もう一方の隣の星・火星は地球より少しだけ太陽から離れ過ぎているために極寒地獄です。ここにも生命はまだ確認されていません。太陽の周りを回る惑星のなかで、さまざまな生きものが住み、植物が豊かに繁茂する惑星は地球だけです。それは地球が太陽から適度な距離にあること、空気という"ふとん"で包まれ、海という大量の水を蓄えているお陰です。それだけではまだ私たちの豊かな地球環境は保てません。大気と海水の地球規模の循環が必要なのです。

地球のエアコン―大気の動き―

冬、ストーブが燃えている部屋を想像してください。ストーブで温められた空気は軽くなって天井まで上昇し、冷たい窓で冷やされて重くなった空気は床へ沈みます。こうして空気はぐるぐると部屋を回ります。空気を回す駆動力はストーブと窓の外の温度差です。

海は太陽熱のほとんどを吸収するので、その周囲の気温も上がります。ところが海が白い氷原に変わると、太陽エネルギーの大半を反射してしまうので氷海は寒気に包まれます。流氷は太陽熱の反射板です。

寒気がいかに厳しくても氷の下には、つねに暖かい海水があります。しかし、流氷が海面を覆うと、海から大気への熱の流れを抑えるために気温は上がりません。流氷は効率のよい海のフタの役割を担っています。

極地でも、夏になると太陽の光は比較的に強くなります。しかし、太陽エネルギーは氷を融かすため（潜熱）にだけに費やされ、海水の温度を上げるには至りません。

流氷は、太陽光線の反射板、海のフタ、潜熱効果によって地球のクーラーの役目をしています。極地の冷たい空気は、赤道に向かって流れて熱帯の暑さを和らげます。一方、熱帯の温かい空気は極地に向かって流れて寒気を和らげます。こうして地球規模の大気の流れが生み出されます。大気を循環させるベル

ト・コンベアの駆動力（モーター）は、赤道と極地の温度差です。流氷は大気循環のモーターの一翼を担っているのです。

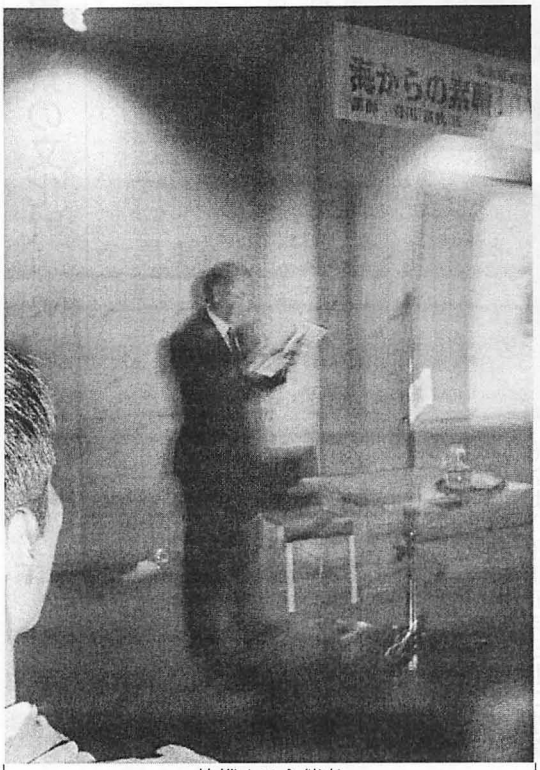
熱の大輸送―世界を巡る大海流―

さきに述べたように、海水が凍ると、ブラインとよばれる濃い塩水が吐き出されます。ブラインは重いので海中深く沈んで深層水となり、ゆっくりと赤道に向かって流れます。これが深層水です。極域生まれの深層水は二〇〇〇年の旅をして太平洋やインド洋で浮上します。この流れは極めてゆるやかですが大量の冷たい水（マイナスの熱）や塩分を熱帯へ移動させます。これと入れ替わって、熱帯の温かい表層の海水は極海に流れていきます。

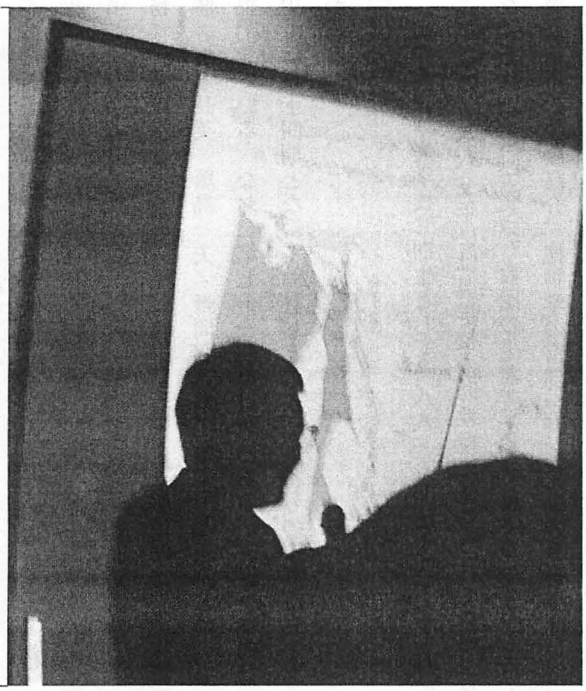
流氷は地球規模の大気と海水の動きを生み出し、地球環境に大きな影響を及ぼしているのです。

豊かな凍る海―流氷は生きものを育む―

氷海を航海していると、しばしば底の部分が茶褐色をした流氷があります。これは植物プランクトンの一種・藻類（アルジー）のためです。流氷の中に住んでいるのでアイス・アルジーとよばれます。このアイス・アルジーは春になると爆発的に繁殖して、アミ、エビなどの動物プランクトン、カニや貝類などの餌となります。さらにこれを餌にする小魚が育ち、これを追って大きな魚やクジラ、あざらし、鳥たちも集まってきます。世界の好漁場が凍る海の周りにあるのはこのためです。流氷は人類の食物資源にも深く関わっているのです。流氷は自然からの贈りものです。



挨拶する主催者


講演する青田氏

恵迪寮の文化財　No.8

南鷹次郎第二代総長揮毫「恵迪寮」看板

第二代恵迪寮舎の玄関、寮務室と守衛室に挟まれた廊下から玄関の下足箱に出る頭上壁面に掲げられていた看板である。現在は、開拓の村「恵迪寮舎」の同窓会寄贈展示室に掲示されている。

恵迪寮看板裏側写真

〔由来〕

理学部前にあった初代恵迪寮舎は、昭和五年三月に閉鎖して北十八条西九丁目に移設工事が始まり、やっと昭和六年十一月二十一日に入寮を再開した。当初落成していたのは南・中寮棟のみであったため、一室六名を収容し、三名はベッドに三名は床上の畳の上に寝た（完成までストーム禁止）。翌々日二十三日は移転改築記念晩餐会、十二月一日北・新寮棟が落成し正常の部屋配置となり、夕刻に新入生歓迎会を催した。恵迪寮史は「予科新入生は、入学以来やっと九ヶ月目にストームの洗礼を受け、あこがれの寮生活に浸たり得た感激こそ、生涯の忘れ得ぬ思い出であらねばならない」と記している。

この看板は、第二代寮舎の開舎入寮記念日、移転改築記念晩餐会を祝って南総長に揮毫頂いた看板である。写真下の看板裏書きは、「昭和六年拾壱月弐拾壱日／恵迪寮再建記念／北大総長／南鷹次郎閣下御執筆／第七拾壱期委員会／瀬野周治（執行委員長）／蜂須賀福造（以下寮務）／木村正良／米沢二夫／富沢正衛／村形友治（以下炊務）／丹羽勝／清水長英／藤島一夫／野間収／園山政吉」と読みとれ、その由来を説明している。なお、第七十一期委員会とあるが、翌々年刊行の恵迪寮史では九十四期となっており、どこかで期番号の振り直しがあったと思われる。

〔揮毫者紹介〕

南先生は、農学校二期生として一八八一（明治十四）年七月に卒業し、二年後の一八八三年には農学校の助教授に任じられて農場主任となった。それ以来、Brooks 教授の後継者として農学の全分野を担当し、農業経済学の佐藤昌介、植物学の宮部金吾両先生の分野を除いて、畜産・獣医学・農芸化学・工学などの講座や学科を創設したこと、農場長を三十一年間勤めて農場解体の危機を救って基礎を築いたことなど、農学部と農場の発展に多大の功績がある。北海道帝国大学になって一年後の一九一八（大正八）年に医学部が出来たため佐藤昌介先生が総長専任になり、南先生が農学部長となって一九二七（昭和二）年三月の定年まで務めた。続いて、一九二九（昭和四）年に理学部ができて総合大学としての体制ができたことから佐藤総長が勇退されることとなり、始めて総長の任期と選出法を定めて第一回の総長選挙を行った結果、南先生が過半数の票を得て一九三〇年十二月に北海道帝国大学第二代総長に就任された。そこで理学部教授陣の増強、厚岸・室蘭実験所の開設、そして農学部本館の改築着工を成し遂げられたが、一九三三（昭和八）年夏に病魔に襲われたため、十月十六日に評議会を召集して辞任された。

恵迪寮同窓会通信

（平成19年9月25日現在）

事務所：062-8611 札幌市豊平区平岸1-1㈱ラルズ気付 電話兼Fax.(011)815-6377

vol.23

第11期総会報告

新会長に横山清君、代表幹事に白浜憲一君を選出

本会の第11期総会は、恵迪百年記念祭に参加した2百余名の会員が参加し、9月22日午後12時30分から北海道大学クラーク会館大集会室に於いて開催された。それに先立ち、日程の都合から昼食を取りながら事業報告することの了承を得て、第10期事業・決算報告と第11期事業計画・予算案の説明が行われ、第11期の前提条件ともなる次の要点が説明された。

① 第9期総会を平成13年9月15日（於：京王プラザホテル）に開催し、いずれも新任となる会長：中瀬篤信君（S26)、代表幹事：横山清君（S31)、監事：大西敞君（S30)、小笠原孝之君（S31）を選出した後、新会長の提案により、名誉会長に繁富一雄君（S6，前会長）を推戴した。

② 平成14年8月31日（於：京都第2タワーホテル）および平成15年1月31日（於：札幌・氷雪の門）に開催した臨時総会で『北海道支部を新設して3支部体制とすると共に、副会長・理事を3支部から均等に選出して理事会を構成する』内容の規約改正と内規制定（副会長は支部長プラス会長代理、理事は各支部均等に5名以内とし、支部推薦とする）を行った。

③ 新選出の理事全員が出席した理事会（平成15年5月10日開催）は、『積極的に同窓会活動を行って会員増強と若い層への業務継承に努力しないと、会の衰退をもたらす可能性があるため、赤字が出た場合は期末決算時に基金を取り崩して充当し、将来、会員が増加した時に補填することにして活性化に努める』こととした。

④ 第10期総会は、平成16年9月19日に開拓の村「開拓使講堂」で開催し、役員はすべて再任とした。

⑤ 総会に先立って開催された理事会は、『本部の業務は、会計業務、広報活動、会員名簿管理、支部活動の調整、同窓会活動の強化など全国共通事項に限定し、第11期から大寮歌祭および開識社を各支部が担当する』。『支部独自の活動領域を拡大し、地域毎に会員増強と活性化を図るため、支部交付金は、前年度に受け入れた年会費と65歳以上会員の終身会費の1／2を納入者の支部に配分する。交付金額が10万円を下回った場合も10万円を支給する』。『会誌「恵迪」は、平成17年発行の第5号から「恵迪通信」との合併号として毎年発行する』。『広報部会を設け、本会ホームページの拡大・充実を図る。』ことを決めた。

以上のように第9期に三支部体制を中核とする組織改革、第10期に本部と支部の会計基盤改革により、地域密着型・支部活動を中核とし、会員増強と若い層への業務継承を可能とする新活動組織が構築された。

＜総会＞

議案1：第10期監査報告および事業報告・決算の承認の件では、別掲の決算書のように各年とも会費・支

援金収入よりも事業支出費が上回り、第一年次（H16）に1,098,521円、第二年次（H17）に688,444円、第三年次（H18）に3,011,361円の赤字を出し、終身会費を積み立てた基本金から合計4,798,326円の補填（収入の部・5.基金戻入収入）を余儀なくされたことが明らかになった。この内で第一年次は、9期3年次と共に全理事に理事会旅費を支出（以降は上限設定で改善）したこと、昨年の第三年次は、恵迪百年記念事業の拠金募集によって年会費等の納入を減らしたことが理由に上げられる。したがって『新しい第11期は、9－10期に行った機構改革の成果を発揮し、会員増強によって収入を増やし、赤字経営を解消する健全財政の体制を構築する。』として承認された。

平　成　10　期　総　括　決　算　書

（平成16年4月1日～平成19年3月31日）

収　入　合　計　10,277,063
支　出　合　計　10,277,063
次年度繰越額　0

＜収入の部＞

科　目	平成16年度 H17.6.4理事会	平成17年度 H18.5.13理事会	平成18年度 H19.4.28理事会	計
1.会費収入				
年度会費収入	747,000	719,000	531,000	1,997,000
組織運営資金	678,000	513,000	711,000	1,902,000
終身会費収入	60,000	150,000		210,000
カンパ収入	163,700	196,350	280,000	640,050
小　計	1,648,700	1,578,350	1,522,000	4,749,050
2.事業収入				0
恵迪グッズ販売収入	92,500	118,200	179,740	390,440
「恵迪」販売収入	4,000	13,900		17,900
広告収入	50,000	633,000	434,000	1,117,000
雑収入	21,000	2,710		23,710
小　計	167,500	767,810	613,740	1,549,050
3.利息収入	619	490	11,760	12,869
当期収入合計（A）	1,816,819	2,346,650	2,147,500	6,310,969
4.繰越金	-832,232			-832,232
5.基本金戻入収入	1,098,521	688,444	3,011,361	4,798,326
収入合計　（B）	2,083,108	3,035,094	5,158,861	10,277,063

＜支出の部＞

科　目	平成16年度	平成17年度	平成18年度	計
1.運営費				0
事務局費	240,000	240,000	240,000	720,000
会議費	304,580	379,999	364,769	1,049,348
通信費	119,365	105,243	111,359	335,967
印刷費	25,000			25,000
雑費	90,517	86,131	263,041	439,689
小　計	779,462	811,373	979,169	2,570,004
2.事業費				0
恵迪発行関係費		1,430,221	1,219,147	2,649,368
同窓会名簿管理費	60,000	60,000		120,000
同窓会名簿発行費				0
同窓会通信関係費	289,146		24,000	313,146
現役関係費	30,000	30,000	30,000	90,000
総会・懇歓祭費	300,000	300,000	300,000	900,000
支部交付金	498,000	403,500	434,500	1,336,000
会員増強対策費	95,000			95,000
恵迪グッズ制作費	31,500		156,125	187,625
小　計	1,303,646	2,223,721	2,163,772	5,691,139
3.借入金返済			15,920	15,920
4.予備費				0
当期支出合計（C）	2,083,108	3,035,094	3,158,861	8,277,063
5.基本金繰入支出				0
6.百年記念事業繰入れ			2,000,000	2,000,000
支出合計　（D）	2,083,108	3,035,094	5,158,861	10,277,063

＜当期収支差額及び次期繰越金＞

科　目	平成16年度	平成17年度	平成18年度	計
当期収支差額（E）＝（A）－（C）	-266,289	-688,444	-1,011,361	-1,966,094
次年度繰越額（F）＝（B）－（D）	0	0	0	0

議案2：役員改選（平成19年4月1日～）の件では、中瀬篤信現会長から役員若返りのために辞任の要請が出されたため役員改選を行い、次の方々が新役員として選出された。その後、横山新会長の提案により、名誉会長に中瀬篤信君（S26、前会長）を推戴し、繁富一雄君と共に2名の名誉会長となった。なお、新体制は即日実施され、本紙の刊行日までに会長の指名により、副会長に厚谷純吉（S30、北海道支部）、高井宗宏（S31、会長代行）が指名され、留任の山中義正（S32,東日本支部）、辻山昌佑（S26、西日本支部）の4名が決定した。また、白浜代表幹事の指名により、副代表幹事に新井三郎（S32）、氏平増之（S38）、皆川吉郎（S43）が就任した。事務局体制や部会の担当者は、留任が多いものの新陣容が決まり、早々に本格的な活動を開始される。

会長：横山清君（S31、現代表幹事、新任）

代表幹事：白浜憲一君（S40、現北海道支部長、新任）

会計監査（2名）：大西敞君（S30、留任）および小笠原孝之君（S31、留任）

議案3：恵迪百年記念事業の経過報告の件では、醵金額が目標額の一千万円を超えたこと、本誌別項記事のように平成19年9月22日午前11時～午後9時に亘って開催された「恵迪百年記念祭」と下記の「記念事業」が行われたことが報告された。

1．都ぞ弥生歌碑の復元、横山・赤木両先輩の子女を迎えて記念祭の中で除幕

2．同窓会管理のクラーク肖像画と総長書額の展示寄贈：北大博物館と折衝中で未完

3．百年記念寮歌の発表：応募作品1点、大寮歌祭の中で発表（本誌に別掲）

4．会誌「恵迪」百年記念号の刊行：記念祭記事を収録して本年11月発行予定

5．恵迪寮歌ＣＤ制作：三河勝彦指揮北大合唱団ＯＢ会演奏、￥2,000、発売開始

6．記念ポストカードの制作：伊藤太郎画伯筆の北大構内風物画、￥525、発売開始

7．記念オルゴールの制作：都ぞ弥生全曲入り特製品、￥40,000、発売開始

なお、本会の協賛により、北海道開拓の村主催の「恵迪寮百年記念花壇」設置行事が行われた。恵迪百年記念祭の前日9月21日（金）午前11時からオープニングセレモニーが開催され、本会会員と黒百合会会員の約50名が参加し、恵迪寮舎前の「恵迪寮百年記念花壇」に、オオバナノエンレイソウ、ミヤマエンレイソウ、クロユリ、キバナノアマナの球根植栽を行った。本会ではこれを祝し、都ぞ弥生歌碑の歌詞面複製プレート、花壇説明版（基礎付）、桜の木一本を寄贈した。

年会費・支援金の払い込みをお願いします

恵迪寮同窓会は、恵迪寮に在籍したことのある方を会員とし、すべての学問分野にまたがる先輩後輩、仲間との交流と親睦を重ねながら、恵迪寮の自治制度を思い、青春の証しを回顧しておのれの発展の糧にして貰うべく活動しています。

恵迪寮ＯＢの皆さん、恵迪寮同窓会の名を始めて聞く方もあるでしょうが、この機会に同窓会に加入し、多様な先輩・後輩や仲間との交流と親睦を深めようではありませんか。同封の郵便振替に新規加入と記載して年会費3000円をお送りください。皆様のご理解をお願い致します。

また、正会員の皆様へお願いします。本会は、年会員の方の会費3000円と終身会員の組織運営支援金2000円およびカンパの供出により、北海道・東西日本の3支部で持ち回る「大寮歌祭」や文化講演会「開

識社」の開催、会誌「恵迪」（同窓会通信併載）の発行、地域に密着した親睦活動など、目的に沿った活動を続けて参りました。これは偏に恵迪寮精神の存続を願う会員各位のご理解と支援の賜物であり、心から厚く御礼申し上げます。

ついては年会員の方には、平成19年度会費として3000円の納入をお願いします。また、終身会員の方には、財政改革策が実を結ぶまで引き続き運営支援費2000円の供出をお願いします。それぞれ同封の郵便振替によりご送金下さるようお願い致します。本会の厳しい財政事情をご理解下さいますようお願いし、各位の特段のご協力をお願い申し上げます。

西日本支部ニュース

異常猛暑の続いた西日本ですが、同窓会の皆さんいかがお過ごしでしょうか？本稿が目にふれるころは秋本番といったところでしょう。

4月、札幌で理事会が開催されて以降、毎月役員会を開き、会員の増強及び来年平成20年に当西日本支部の当番で催される大寮歌祭について意見交換を続けてきました。

今回、恵迪100年記念祭の一環として、雑誌「恵迪」100年記念号が発刊される運びとなり、同窓会の皆さんの目にふれる機会を得ましたので、大寮歌祭の詳細はまったくこれからですが、取り敢えず会場は「京都」、時期は「9月」と考えていることをお知らせいたします。心積りをお願いいたします。

また、多くの同窓生の参加を得て大会を成功裡に導き、併せて会員の増強を図るため北海道支部に倣い西日本支部管内の各府県に最低一名の地域幹事を設けていくことを追求しております。現在のところまだ一部の府県に留まっておりますが、順次空白府県をなくしていく所存です。

下記の方々に地域幹事を引き受けていただいておりますので、当該府県並びに近隣府県の会員の皆様には是非地域幹事にお声をかけていただき、できるところから懇親などを深めていただきたいと思います。

地域幹事一覧

府県名	氏　　名	連絡先
長崎県	杉　山　　勲（S37入）	0958－57－2012
福岡県	外　園　邦　彦（S29入）	092－922－5752
	肥　川　一　元（S44入）	093－741－5735
徳島県	中　川　迪　夫（S30入）	088－625－1493
岡山県	藤　長　恭　常（S45入）	0862－53－8270
富山県	岡　崎　俊　彦（S41入）	076－467－2616
滋賀県	浦　谷　義　博（S41入）	077－589－8290
京都府	千　田　忠　男（S40入）	0774－43－5622
愛知県	深　谷　　勲（S32入）	0566－21－1330

（文責　幹事長：伊藤　靖久）

東日本支部ニュース

◆関東恵迪会と東日本大会◆

恵迪寮命名百年を記念して、記念誌を発行するにあたり、恵迪寮同窓会東日本支部として、当支部の設立から今日までの活動状況を報告すると共に今後の支部運営についての課題と抱負などを記すこととしたい。

平成３年（1991年）10月19日、恵迪寮同窓会第５期定期総会において規約改正が行われ、東日本支部開設が決定した。

もともとこの東日本支部が発足する以前にすでに関東地区には「関東恵迪会」と称する組織が存在していた。

この「関東恵迪会」は北大恵迪寮出身者有志13名が「我等が魂のふるさと“北大恵迪寮”がその懐かしい姿を消す事に、大学当局で決定された由で、この際、恵迪寮で青春を謳歌した我々が往時を偲び次の要領で懇談会を企画しましたので是非ご参加下さい。」と呼びかけ、昭和55年（1980年）11月20日にサッポロビールスターホールに参集し、御手洗毅（大正10）氏を会長に選出して関東恵迪会が発足した。

その２年後の昭和57年（1982年）11月18日には、第２回関東恵迪会が山口健児（大正12）会長のもと開催された。翌58年（1983年）３月に恵迪寮が閉鎖され、これを機会に同窓会が発足することになったが、このときは札幌の本部のみで支部開設には至らず、先に記したように平成３年（1991年）10月に東日本支部が開設されることになったのである。

この間、昭和61年（1986年）10月17日に第３回関東恵迪会が森本忠良（昭12）実行委員長のもと東郷会館で開催されることになった。このとき、先に設立された恵迪寮同窓会の札幌本部から規約では明記されていないものの、いずれ規約改正があるものとして、第３回関東恵迪会と第１回恵迪寮同窓会東日本大会の連名にしてほしいとの要請を受けて、関東恵迪会主催、恵迪寮同窓会後援による「恵迪寮同窓の集い」として寮歌祭を開催した。

さらに、平成２年（1990年）10月20日には中山二郎（昭５）氏を実行委員長として横浜市の氷川丸船上で翌年の支部設立に先駆けて「第２回東日本大会」が開催された。

このときの模様は平成３年（1991年）10月２日に札幌で開催の恵迪寮同窓会理事会資料第２号議案「第Ⅳ期事業報告」に東日本地区交流会の開催「４年に一度めぐり来る東日本地区での交流会は、第２回東日本大会と銘打って、平成２年（1990年）10月20日、横浜の氷川丸船上で開催された。大正９年から昭和61年まで約70年にまたがる入寮生200余人とその家族や会友（寮外生ＯＢ）もまじって、その数なんと250名という大盛況であった。」と記されている。当日は全国各地から参加されたが、札幌から同窓会会長大原久友氏（昭５）もとんで来られた。

こうして、同窓会としては関東恵迪会の協力を得て、相互の親睦を図りつつ、東日本地域での実績を積み重ね、平成３年（1991年）10月の定期総会に東日本支部と西日本支部を開設する旨の規約改正が提案され、承認されたのである。

有難う「都ぞ弥生」

有難う「恵迪寮」

有難う「北海道大学」

東日本支部主催「恵迪百年記念大寮歌祭」

祝「恵迪寮」命名百周年

日時：平成19年10月27日（土）午後２時より

場所：東京海洋大学　構内　楽水會館

◆東日本支部の発足◆

この平成3年（1991年）10月19日の総会決議によって東日本支部が開設されたのを受け、同窓会副会長に選任された東日本在住者の中山二郎（昭5・神奈川）、宍戸昌夫（昭10・東京）、森本忠良（昭12・東京）の3氏を代表に、上野雄靖（昭23・東京）氏を幹事として発足することとした。

そして、東日本支部発足後初めて開催されたのが平成6年（1994年）10月22日「第3回東日本大会」である。

実行委員長は宍戸昌夫（昭10）氏、場所は前回大好評を得た横浜港の氷川丸船上と決まった。前回は予想を超える大勢の参加者があり、不都合があったことから今回は会場を広くとり、恵迪寮同窓会長の繁富一雄（昭6）氏を迎え、全国各地から230名の参加者を得て、4年ぶりの大寮歌祭を開催することができた。

◆寮歌祭は3年毎に変更◆

平成7年（1995年）9月16日開催の札幌における第7期同窓会総会で東日本大会は3年毎（平成7年・札幌、同8年・西日本、同9年・東日本の順）に開催されることになった。これまでは、札幌→西日本→札幌→東日本→札幌→西日本→札幌→東日本…の順で開催されていたので、4年毎の開催であった。従って、第4回東日本大会は平成9年（1997年）10月11日に浜松町・芝弥生会館で開催されることになった。

大会実行委員長・弘田幸弘（昭20）氏から次のような案内文が発せられた。

「恵迪寮同窓会の東日本大会を来る10月11日、場所を前回まで行われた横浜の地から東京に移し、芝弥生会館で装いも新たに開催することになりました。

同じ恵迪寮の釜の飯を食って暮らしたえにしの、年寄りも若者も時代を超えて一緒になって杯を傾け、寮歌を歌い、膝突き合わせて語り合い、楽しいひと時を過ごしたいと思います。

実行委員一同は、時には自分の仕事を忘れて一生懸命に準備を行っておりますので、なにとぞ大挙してご来場ください。お待ち申し上げます。」

今大会は東日本支部設立総会と寮歌祭の二部構成として運営され、席上、東日本支部初代役員として、支部長・弘田幸弘（昭20）、支部長代行・篠原猛（昭29）、幹事長・石川舜（昭32）、本部理事・上野雄靖（昭23）の各氏を選出し、支部会則を承認した。引き続いて寮歌祭に移り盛況のうちに終了した。

この東日本大会の翌日には、大型バスをチャーターして、山梨県大月市の「瓔珞みがく」作曲者星野奇（旧姓　置塩）さん宅、新渡戸稲造、内村鑑三、有島武郎の三先生の墓所（東京・多摩霊園）などを訪ねる恵迪寮同窓会にふさわしい企画が多くの参加者によって実施された。

◆『瓔珞みがく』生誕80周年を祝う◆

前回から3年目の平成12年（2000年）10月1日、再び東日本大会の日を迎えた。この年は「瓔珞みがく」（大正9年桜星会歌）生誕80周年にあたることから、恵迪寮同窓会2000年東日本大会は「瓔珞みがく」生誕80周年記念大会として東京上野池之端文化センターにて北海道大学東京同窓会寮歌委員会の協賛を得て開催された。

札幌の同窓会本部から会長代行の幸健一郎（昭30）氏、事務局長の高井宗宏（昭31）氏を迎え、北大東京同窓会副理事長の鈴木道雄氏から来賓祝辞をいただいた。そして、「瓔珞みがく」の作曲をされた星野奇（旧姓星置）氏のお孫さん、星野喜忠氏に山梨県大月市からお出でいただき、在りし日の星野奇氏の一端をご紹介されながらご挨拶をいただいた。

つづいて、参加者全員（172名）で「瓔珞みがく」の大合唱で寮歌祭をスタートした。更に、「『瓔珞みがく』生誕80年を祝う」（2000.10.1）と題した記念誌を発行し、当日の参加者全員にお配りし好評を得た。

なお、同日の寮歌祭に先がけて行われた東日本支部総会で新役員が承認された。主な役職者は支部長・森谷正三（昭21）、副支部長・石田端（昭25）、同・篠原猛（昭29）、本部理事・上野雄靖（昭23）、幹事長・石川舜（昭32）の各氏。今回の任期は2000年10月1日～2004年3月31日。

大会開会前には作曲者の星野奇（旧姓　置塩）氏宅訪問のバスツアーもあり、より想い出深い寮歌祭となった。

◆『都ぞ弥生』生誕90周年記念祭◆

平成14年（2002年）は「都ぞ弥生」生誕（明治45年、1912年）90周年である。東日本支部はこれを記念して、10月19日（土）、静岡市で「記念祭」を行うことにした。静岡市としたのは①横山芳介（明43）氏のお墓がある。②これまで、首都圏―静岡の同窓生が交流する場が持てないでいた。いいチャンスだ。③静岡でなら名古屋その他東海地方にいる同窓生も参加しやすい。などが理由である。

当日は、横山芳介氏の墓所のお寺、長源院（市内沓谷）で墓前祭、そのあと会場をＪＲ静岡駅近くの「クーポール会館」（市内紺屋町）に移して「祝典・記念祭」を行った。

墓前祭では参加者全員が長源院の本堂へ入堂し、横山芳介氏のご長男・横山芳男氏よりご挨拶をいただき、墓前で長源院住職の方から読経と横山氏の生前のお話をいただいた。つづいて全員が墓前に焼香し、本堂の脇にある「歌碑」に対して『都ぞ弥生』全曲を斉唱した。

記念祭は「クーポール会館」に場所を移して行われ、96名の参加者は90年の永きにわたって歌い継がれ、これからも歌い継がれるであろう『都ぞ弥生』と多くの寮歌を思う存分斉唱して散会した。

今回も、記念誌「『都ぞ弥生』生誕90年に寄せて」（2002.10.1）を発行した。

昭和32年に刊行された恵迪寮誌『恵迪』に寄せられた赤木顕次（明41）氏の『都ぞ弥生』を作曲した頃の話、長男・稔さんの回想、「静岡時代の父・横山芳介」と題した長男・芳男氏からの手紙など『都ぞ弥生』に纏わる貴重な記事満載で、今回も大変好評をいただいた。

なお、この記念祭の開催に当っては、地元静岡市、清水市在住の同窓生に大変ご尽力をいただいた。地元のご理解とご協力の賜物である。

◆『春雨に濡る』生誕80周年記念祭◆

平成15年（2003年）は3年に1回廻って来る「大寮歌祭」の年。

『春雨に濡る』は今年生誕80年を迎えた。そこで、今年の大寮歌祭はその記念大会として、記念誌の発行など『春雨に濡る』を中心とした企画で進めることとした。

場所は今年も交通の便利な東京上野の池之端文化センターとし、開催は9月27日（土曜）と決定した。

当日は大会前に希望者による東京・府中市の「多摩霊園」墓参ツアーがあり、内村鑑三、新渡戸稲造、廣井勇、有島武郎各氏のお墓にお参りをした。

大会は実行委員長の篠原猛（昭29）氏、事務局長の石川舜（昭32）氏を中心にすすめられ、札幌から恵迪寮同窓会会長の中瀬篤信（昭26）氏をはじめ4名、東北から3名、大阪、大分、福岡などの遠方からの同窓生を含め102名の参加者があった。

総会の部では第8期の経過報告と第9期の活動方針の説明が篠原副支部長よりなされ、つづいて東日本支部第9期（任期2004.4～2007.3）役員の選出が行われ、支部長に篠原猛（昭29）、副支部長に山中義正（昭32）、支部幹事長に石川舜（昭32）、副支部幹事長に坂倉雅夫（昭44）、荒木隆夫（昭49）の各氏を選出した。

『春雨に濡る』生誕80周年大会では「春雨に濡る」の作歌・高橋北雄（号空山）（大正8）氏は普化宗尺八の最高権威者で、その後継者である藤由越山師による尺八の演奏があり、つづいて参加者全員で

「春雨に濡る」を斉唱し大寮歌祭に移った。

記念誌「『春雨に濡る』生誕80年」(2003.9.27) も発行され、作歌・高橋北雄氏、作曲・西田貫道氏の人柄や寮歌「春雨に濡る」の誕生秘話など当事者でなければ知りえないエピソードが掲載されている。

平成14、15年と寮歌祭が続いたが、役員会で3年に1度の持ち回り大寮歌祭の谷間にも、年1回は寮歌祭をやろうではないか、そして谷間の寮歌祭は東京ではなく、東日本支部地域内の各県を廻って実施しようとの意見でまとまった。

先の役員会の決定に基づき、平成16年の開催場所、日時の検討に入った。

◆2004　北大寮歌祭in美浦◆

日時は平成16年5月22日、開催場所は茨城県稲敷郡美浦村の「史跡　陸平（おかだいら）貝塚」と決定した。

東日本支部として初めての野外会場における寮歌祭である。雨天の場合の代替会場も手当てしての開催となった。心配された天気も何とか持ちこたえ、野外会場ならではのジンギスカンを楽しみ、ファイヤーストームで寮歌祭を締めくくった。

ファイヤーストームではたまたま陸平貝塚を訪れた7～8人の高校生も一緒に同窓生の輪に入って肩を組みストームの歌「札幌農学校は蝦夷が島　熊が棲む…」で盛り上がった。野外寮歌祭の良いところであった。

今回も地元美浦村と水戸在住の同窓生のご協力とご尽力ですばらしい寮歌祭となった。

◆杜の都で北大寮歌を！◆

「今年の寮歌祭は昨年の茨城からさらに北に移し仙台で開くことになりました。仙台の5月は新緑が最も美しく、杜の都の名が一番ふさわしい季節です。また、数ある北大寮歌の中でも特にこれまで多くの北大関係者に愛唱されてきた寮歌のうち、大正6年の「魔人の呪」と昭和13年の「津軽の滄海の」の作詞者はともに仙台市から、また昭和6年の「別離の歌」の作詞者は宮城県南の角田市から、さらに昭和8年の「タンネの氷柱」の作詞者は県東の石巻市から、“人の世の清き国に憧れて”札幌の地に渡った方々です。

皆さん、宮城の地にぜひお集まり下さい。高らかに唱いましょう。

東日本支部長　篠原　猛（昭和29年入寮）

日時：平成17年5月28日（土）、場所：仙台市青葉区錦町・ホテル白萩」との呼びかけに地元仙台二高出身者9名を含む86名の同窓生が参加され、杜の都に北大寮歌を響かせました。なお、今回も札幌から恵迪寮同窓会会長の中瀬篤信氏をはじめ6名の同窓生が駆けつけてくれました。

また、希望者による、柳生寺（「魔人の呪」の作歌・佐藤惣之助氏の墓参と献歌)、東北大・片平キャンパス（東北帝大理科大学や第二高等学校発祥の地)、北山霊園（「津軽の滄海の」の作歌・二階堂孝一氏の墓参と献歌)、明善寮と東北大農学部（昭和20年までの二高の地）などをめぐるバスツアーも企画され、多くの参加者に楽しんでいただきました。今回も仙台市在住の同窓生のお世話になり寮歌祭が盛会のうちに終了することができました。

◆2006年恵迪寮同窓会東日本大会◆

平成18年（2006年）は3年に1度の東京で開催の東日本大会の年を迎え、役員会で日程と場所の検討を行った。過去2回使った上野の「池之端文化センター」が改築のため使用できなくなり、新たに会場探しをすることになった。

東京都港区・霞ヶ関ビル33階東海大学交友会館を使用することが可能となり、開催日は平成18年（2006

年）９月30日（土）と決まった。

当日は寮歌祭にさきがけ、支部総会が開催された。

①支部役員の任期満了による改選が行われ次のように選任され、それぞれ就・退任した。主な改選内容は次の通り。

相　談　役　篠原　猛（29）氏（前支部長）

支　部　長　山中義正（32）氏（前副支部長）

副 支 部 長　関口光雄（39）氏（前支部幹事長代行）

支部幹事長　坂倉雅夫（44）氏（前支部副幹事長）

前支部幹事長の石川　舜（32）氏は退任。

②平成17年度事業報告・会計報告を行い承認された。

③平成18年度事業計画・予算案の提案を行い承認された。

続いて大寮歌祭が開催された。

北海道・東北・近畿・四国の各地から参加をされ、恵迪寮同窓生のみならず、北大同窓生、旧制二高などのＯＢの方々も参加された。さらに、昭和30年代の恵迪寮女性事務員の参加もあり総数94名に達した。

前日からの小雨も開会時刻には完全にあがり、会場から皇居・霞ヶ関官庁街の鳥瞰を楽しんだ後、寮歌を放歌高吟し、懇親を深める中、互いの健康と次回の再会を約して散会した。

◆2007寮歌祭は東京海洋大学で！◆

平成19年は恵迪寮命名（明治40年・1907年）百年の年を迎え、９月22日（土）に札幌で記念行事が計画されている。札幌は３年に１度の持ち回り大寮歌祭の年に当たり、東日本支部は谷間の年です。本来なら、東京以外の県市で開催する年ですが、準備不足から今年は東京・品川の東京海洋大学内「楽水会館」で開催と決定しました。ＪＲ品川駅至近の閑静な東京海洋大学構内にあり、寮歌放吟にはまたとない恵まれた所です。

日時は10月27日（土）14時～16時30分を予定している。

詳細はこれから詰めて、同窓生にご案内します。

◆東日本支部の課題と今後の抱負◆

今後の東日本支部の課題と抱負ですが、なんと言いましても、会員増強が最大にして唯一の課題と申しても言い過ぎではないと思うほどです。その課題解決には恵迪寮同窓生はもとより北大同窓生皆さんの知恵とご協力が不可欠です。

東日本支部の寮歌祭を東北・関東・甲信越など東京以外の場所で開催することもひとつの方法かもしれません。これまで、静岡、茨城県美浦、仙台等で寮歌祭を開催し、その成果もみられています。

それぞれの地域で、県・市・町・村単位であるいは体育会系など地域を問わず恵迪寮同窓生や北大同窓生が集い、寮歌を歌う組織があればその大小は問いません。是非その情報をお知らせいただきたい。旧制各高校はすべて廃校となって久しく、後継者は皆無に近い。現在も、全国で唯一毎年寮歌を作り続けている恵迪寮の伝統と寮歌祭を守り続けるために。

当支部の今後の抱負として、組織の若返りを図りながら、恵迪精神をしっかりと継承しつつ、寮歌祭を継続して開催していける人材を発掘し、同窓会支部の発展を期したいと思っています。恵迪寮同窓生はもとより北大同窓生の絶大なるご支援をお願い致します。

恵迪寮同窓会東日本支部支部長　中山義正

平成19年（2007年）６月21日

北海道支部ニュース

1．恵迪寮観桜会に同窓会ＯＢも参加

5月13日に行われた恵迪寮観桜会に、今年もＯＢ・ＯＧが参加しました。数日前の嵐で桜も散り小雨模様の一日でしたが、現役寮生は元気よく寮歌を高歌放吟しながら行進し、円山公園へ向かいました。応援団の檄文披露の後、ジンギスカン鍋を囲んで和気藹々の交流が続きました。（6月15日発行の同窓会通信から再録）

2．各地区で寮歌祭を開催

北海道内各地で地区恵迪会が主催する寮歌祭が開かれます。すでに6月9日に第3回道南恵迪寮歌祭（函館市）、6月16日に第3回とかち恵迪寮歌祭（帯広市）、7月7日に第4回道北恵迪寮歌祭（旭川市）、7月14日に第2回日高・苫小牧恵迪寮歌祭（苫小牧市）が開催され、来る10月には、第3回オホーツク恵迪寮歌祭が予定されています。

3．第1回恵迪夏祭り

8月4日午後1時から、狸小路2丁目の札幌ビール・ライオンで、新しい親睦事業として「第1回恵迪夏祭り」（ビール会）が行われました。10余名が参加し、真夏の昼下がりに冷たいビールでのどを潤し、大いに談論風発、高歌放吟して英気を養いました。

（文責：北海道支部長　白浜　憲一〔S40入寮〕）

◆寮歌歌会始めの御案内◆

新春恒例の寮歌歌始めの会は、次により開催しますので、今から日程を明けて是非ともご参加下さい。

集会名：平成20年度「恵迪寮歌歌始めの会」

日　時：平成20年1月26日（土）　17：00～20：30

会　場：氷雪の門（札幌市中央区南5条西2丁目　TEL　011－521－3046）
（地下鉄南北線「すすきの」駅3番出口徒歩4分）
（地下鉄東豊線「豊水すすきの」駅4番出口より徒歩1分）

会　費：6,500円（当日会場にてお支払いください。）

会次第：**第一部**　恵迪寮同窓会北海道支部総会　**第二部**　恵迪寮歌会始めの会

玉稿募集

雑誌「恵迪」部会では平成20年6月に発行予定の次号（第8号）に掲載する皆様の原稿を募集しています。下記の内容、要領で全国のＯＢから多数お寄せ下さい。もちろん、現役寮生も大歓迎です。原稿はパソコンで打ち、フロッピーなどをつけて下さると助かります。なお、フロッピー、写真とも「要返品」と書いていただければ返送いたします。

1．「恵迪百年記念祭について」
百年祭の行事に参加あるいは見て聞いて感激した点、御意見、ＣＤ、オルゴール、ポストカードについての感想その他同祭に関するものなら御自由に書いて下さい。写真を1～3枚つけても結構です。

1．「私の大失敗」
だれでも一生のうちに何らかの失敗をして今でも苦い思い出となっていることがあると思います。恵迪寮時代あるいは北大在学中のススキノなど寮内外の記憶をさかのぼって原稿にしてみませんか。

1．「郷関録」
青春を過ごした故郷のなつかしい思い出と現在のようすをつづって下さい。今昔の写真をつけてもよいと思います。

1．「卒寮して○○年…」
恵迪を出てから早○○年。一生を振り返った苦労話などとともに、現在こんな職業につき、こんな趣味を持っていますという近況を御報告下さい。

1．「同期のつどいなど」
入寮50周年を迎えた年代のＯＢの記念集などを。

1．詩、俳句、写真集（組み合わせ写真）などを。

（お願い）①必ず1行20字で書いて下さい。字数は800字から2000字をメドにして下さい。
②締め切り：平成20年3月末を厳守して下さい。

（送り先）〒062－8611　札幌市豊平区平岸1条1丁目㈱ラルズ内恵迪寮同窓会　TEL＆FAX011－815－6377

特製「恵迪寮百年記念オルゴール」も
恵迪グッズ新たに三種お目見え

恵迪寮同窓会が刊行・製作したグッズは次のとおりです。恵迪百年事業で作成した寮生章・恵迪寮百年記念文字入り「都ぞ弥生」オルゴール、寮歌CD、ポストカードが新しく加わりました。とくにオルゴールは箱素材には、北大総務課の全面的協力により、十分に乾燥した北大雨竜研究林のミズナラを使用しており、荘重な音を反響させると好評です。曲は、都ぞ弥生の1番全曲が再生されます。価格は40,000円（送料・別）で、原材料の関係から百台限定ですが、まだ在庫がありますので完売まで申し込み順に販売します。

事務局までFAXでお申し込み下さるか、郵便振替用紙に注文品を書いて送金ください。

郵便振替　02720—8—7923
恵迪寮同窓会事務局（札幌市豊平区平岸1—1）
（株）ラルズ気付　電話兼FAX（011）815—6377

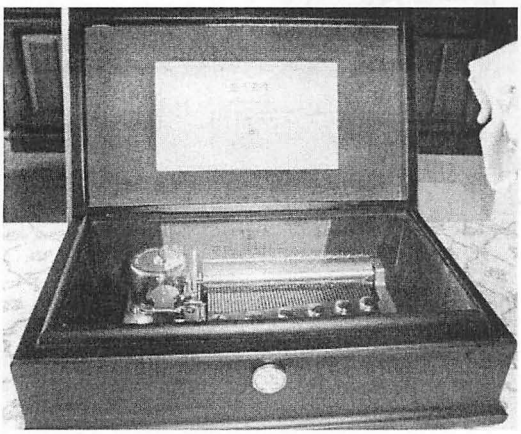
〈グッズ品名〉　〈頒価〉
・「都ぞ弥生」のオルゴール　40、000円
・寮歌CD　2、000円
・ポストカード（8枚組）　525円

ポストカード

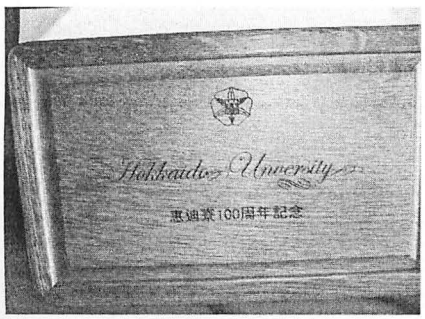
「都ぞ弥生」ほか寮歌のCD

・陣羽織　6、000円
・恵迪タイピン　1、500円
・寮歌テープ　500円
・恵迪絵ハガキ　100円
・写真集「青春の北大恵迪寮」　1、000円
・恵迪寮同窓会名簿（平成9年刊）　1、000円
・同窓会誌「恵迪」　各号共　1、000円

〈仲介グッズ品名〉　〈頒価〉
・寮歌集（北大恵迪寮刊、最新刊）　1、000円
・恵迪寮史（復刻版、昭和7年刊）　6、000円
・恵迪寮史（第二巻、昭和58年刊）　9、000円



「都ぞ弥生」のオルゴール



恵 迪 寮 百 年 史

平成19年 9 月22日

1880年（明治13年）　7月：第一期生13名が卒業（学力不足、病気等で11名が退学）

この頃の食事（腹八分でひもじかったらしい）

朝：カレーライスと鹿肉缶詰のシチュー

昼：米飯と魚

夕：洋食

1882年（明治15年）　食事が3食とも和食になる。

1886年（明治19年）　1月：北海道庁設置

12月：札幌農学校官制発布（勅令84号）、寄宿舎に舎監がおかれる。

舎監制は、自治制度になる明治32年まで続く。

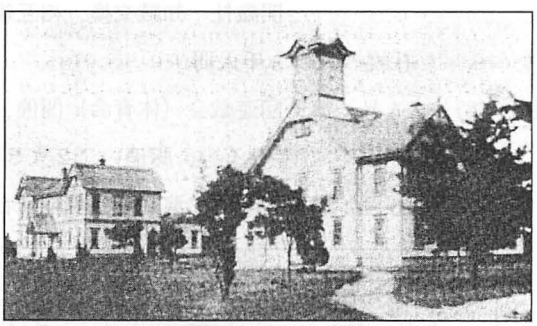
「札幌農学校は理論にとらわれ、実際を蔑にする故、廃止すべし」との内閣書記官金子堅太郎の復命書が出される。

これまでは、自治制ではなく、宿直制度であったが、極めて自由な雰囲気があり、実質的な自治がおこなわれていた。しかし、舎監がおかれたこの頃から、舎生たちの活動に対する規制が厳しくなり、以後の10年間を恵迪寮史は“停滞期”と称している。

1887年（明治20年）　外来者との面会が厳しくなる。

学生数178名、舎生36名（官費63名、貸費33名、私費82名）

1889年（明治22年）　12月：札幌農学校舎則改訂、27ヵ条



明治22年頃の北講堂と演武場

1894年（明治27年）　7月：日清戦争開戦

1895年（明治28年）　戦勝気分で、舎生の気風、規律が乱れ始める。

この頃から開識社が衰退、消滅

1897年（明治30年）　8月：札幌農学校舎則改訂42ヵ条

1898年（明治31年）　寄宿舎拡張、新入舎生14名を加え、舎生数50名

この頃の札幌の人口約3万人

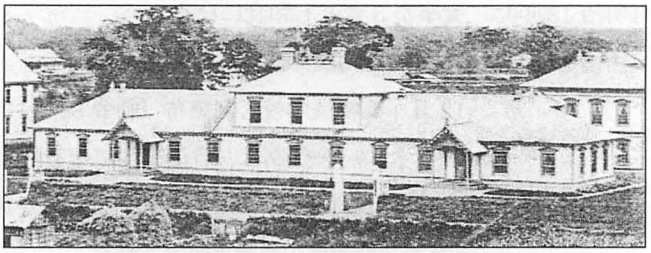
1899年（明治32年）　5月：札幌農学校舎則改訂27ヵ条

6月：北8条西6丁目付近に校舎、寄宿舎新築起工式

・ プレ恵迪寮時代（1872～1906 年）

1872年（明治５年）　北海道開拓の技術者を養成するため、東京芝増上寺境内に北海道開拓使仮学校設置。二つの官園を設けて輸入農作物・農機具の適性試験を開始。

1875年（明治８年）　仮学校を札幌に移設し、札幌学校（後の予習科・予科）と改称。現時計台位置に寄宿舎落成。



現在の札幌時計台（演武場）付近にあった一部２階建ての寄宿舎

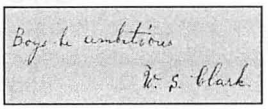
1876年（明治９年）　ウイリアム・S・クラーク博士、ホイーラー教授とペンハロー教授を伴って来道

８月14日：札幌農学校開校式（学士号授与の専門科、北大の創立起点）

1877年（明治10年）　ブルックス教授着任

４月16日：クラーク博士離札、

島松の別れBoys Be Ambitious！



10 月：第一回開識社開催

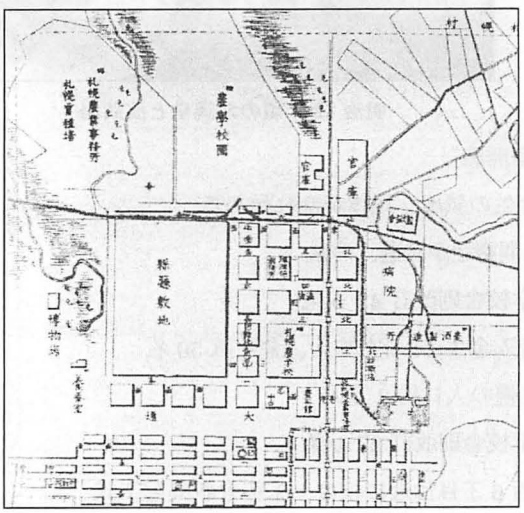
開識社：知識交換、相互親睦を目的とする広義の文学会

札幌の人口３千人弱

1878 年（明治 11 年）　５月：第一回遊戯会（体育会）開催、札幌神社大祭と共に市民の２大催し物

芋ひろい、豚追い、２人３脚、競走、綱引き等

10 月：寄宿舎北隣に演武場（現時計台）落成



明治 16 年頃の札幌市内

農学校園のはずれには鹿、熊などが出没していた

10月：舎生協議の上、寄宿舎自治制をうたった22ヵ条の寄宿舎規約制定

第一期委員会（委員4名）発足、自治寮の基礎が確立

1900年（明治33年）　札幌農学校校歌「永遠の幸」ができる。

寄宿舎に電灯がともる。

1901年（明治34年）　10月：開識社復活

1903年（明治36年）　7月：移転のため、寄宿舎閉鎖

12月：札幌農学校舎則改訂23ヵ条

起床、食事、入浴、門限、消灯等の時間が細かく定められる。

1904年（明治37年）　2月：日露戦争開戦

1905年（明治38年）　4月：北10条西7丁目に新寄宿舎完成、入舎式挙行

南・北2棟、舎生定員128名（本科生、予修科生）

札幌農学校寄宿舎々則制定、クラークの肖像を食堂に掲額

この頃、「ストームの歌」一番の歌詞が作られる。

札幌農学校は蝦夷ケ島　熊が棲む

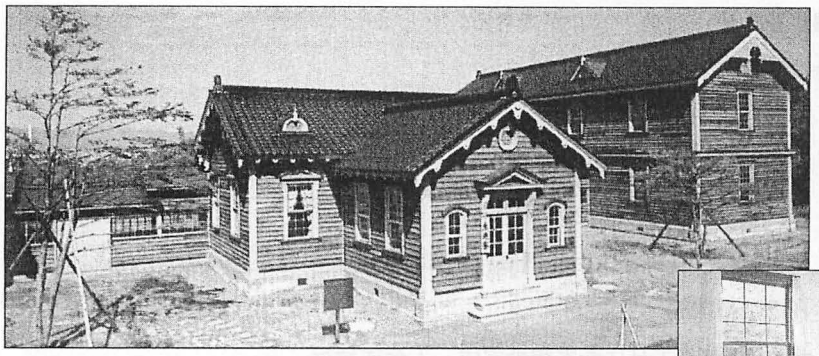
荒野に建てたる大校舎　コチャ

エルムの樹影で真理解く

コチャエ　コチャエ

食堂に掲げられたクラーク像

・ 初代恵迪寮時代（1907～1930 年）



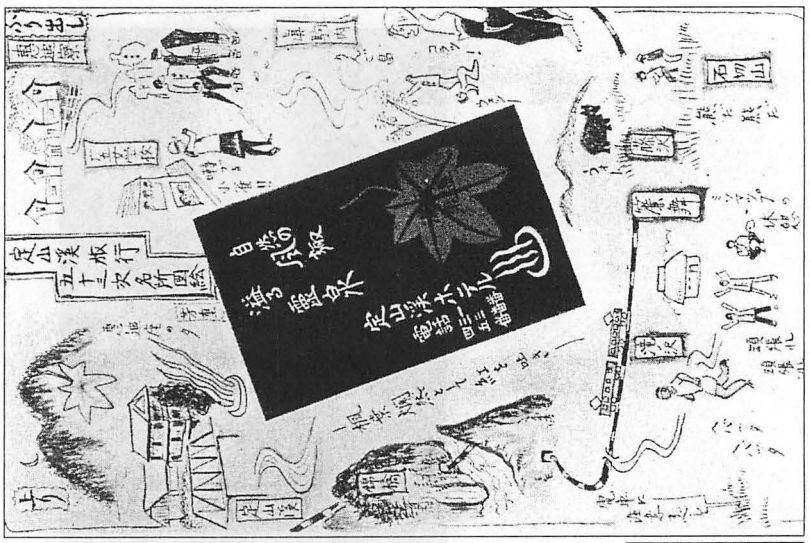
初代恵迪寮　開拓の村に展示されている

1907 年（明治 40 年）　4 月：新寄宿舎を「恵迪寮」と命名

明治 40 年度寮歌「一帯ゆるき」ができる。

6 月：札幌農学校を「東北帝国大学農科大学」（勅令 236 号）とする。

10 月：第一回定山渓旅行実施



定山渓旅行スゴロク

有島　武郎

1908 年（明治 41 年）　3 月：有島武郎が寄宿舎係として入舎、10 月に退舎

6 月：食事を業者委託から自炊制に変更

1910年（明治43年）　4月：電灯、電話設置、卓球台、鉄棒、中庭に土俵を設置

5月：円山での第一回観桜会実施、50名参加

1911年（明治44年）　寄宿舎係の後任見あたらず、やむなく廃止

1912年（明治45年）　明治45年度寮歌「都ぞ弥生」ができる。

開舎7周年記念として、寮誌「辛夷」創刊（大正3年まで続く）

1914年（大正3年）　2月：第1回演武大会開催、剣道、柔道

1915年（大正4年）　10月：小樽高商戦（野球）始まる。

1916年（大正5年）　1月：「恵迪寮々歌集」発刊

1917年（大正6年）　10月：消費組合設立（翌年、購買組合に改名）

商人の出入りを止め、購買自営制にする。

1918年（大正7年）　4月：東北帝国大学農科大学を「北海道帝国大学」（勅令43号）にする。

5月：雑誌「恵迪」創刊号発行

1919年（大正8年）　8月：南寮増設、旧南寮は中寮に改称

1920年（大正9年）　大正9年桜星会歌「瓔珞みがく」ができる。

1921年（大正10年）　4月1日を新学期開始とする（従来は9月1日）。

5月：恵迪寮創立記念祭の一般公開を始める。

北海タイムス、小樽新聞に寮解放を告示、一般観覧者5,000人余

1922年（大正11年）　北側に新寮増築（4棟の寮になる）

6月：舎生は予科生のみとすることを舎生大会で決定

この頃から、バンカラを好む風潮がみられるようになる。

1924年（大正13年）　舎生の未払い増加のため、購買自営制が崩壊、請負制にする。

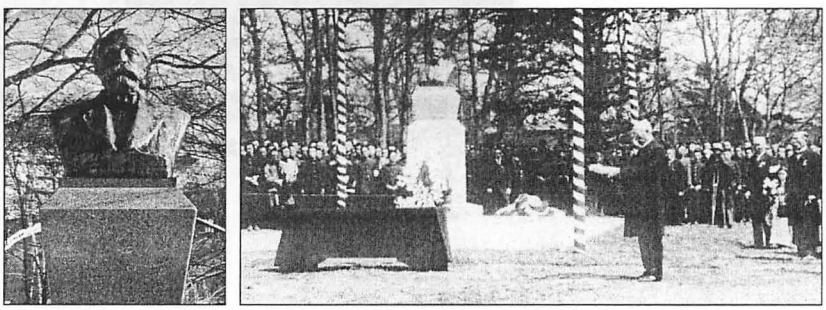
舎生の風紀が乱れ、学校、町からの評判が悪いと寮務部長が述べている。

1925年（大正14年）　5月：寄宿舎開舎20周年記念祝賀会開催

1926年（大正15年）　5月：北海道帝国大学創基50周年式典挙行

クラーク博士の胸像建立

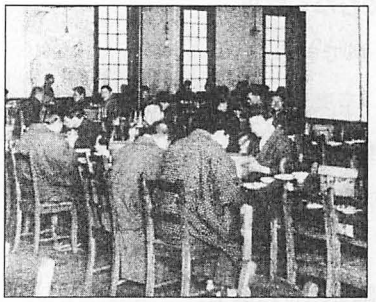
9月：寄宿舎規程改正、14ヵ条（舎生は予科生のみが対象となる）



クラーク博士胸像除幕式で献辞を読む佐藤総長

1927年（昭和2年）　自炊制の崩壊、請負制にする。

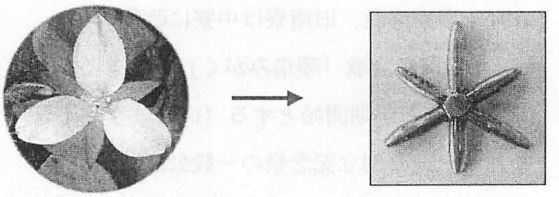
寮生の購買、食費等の未払いによる寮財政難を立て直す必要が生じた。



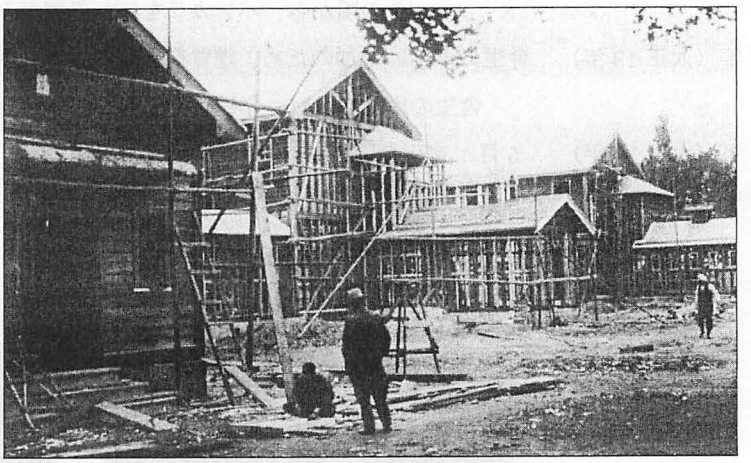
大正末頃の食道、室内風景

1929年（昭和4年）　9月：恵迪寮史編纂細目決定のための審議会設置

寮生章制定（延齢草をデザイン化）



1930年（昭和5年）　12月：音楽部員による寮歌「都ぞ弥生」、桜星会歌「「瓔珞みがく」を日本コロンビヤ蓄音器会社にて吹込む。



新寮建築風景　昭和6年秋

・ 第２代恵迪寮時代（1931～1982 年）

1931 年（昭和 6 年）　昭和 6 年閉寮記念寮歌「別離の歌」ができる。

5 月：寮移転のため閉寮、寮生は市内に散宿

11 月：北 18 条西 8 丁目に 2 代目恵迪寮完成、定員 240 名

プール原始林に囲まれた 2 代目恵迪寮

1932 年（昭和 7 年）　1 月：新寮開寮式挙行、参加者 5 百人余

9 月：プール（防火用水池）新設

水泳大会開催

晩秋のプール

ストーム風景

1933 年（昭和 8 年）　3 月：自炊制復活

11 月：「恵迪寮史」発行

1934 年（昭和 9 年）　4 月：新入寮生に学校当局が初めて口頭試問実施

5 月：記念祭の部屋飾りの一部が反戦思想との指摘で公開禁止

9 月：購買部販売室開店、購買自営制度の復活

1935 年（昭和 10 年）　11 月：寮が運動部の合宿所化傾向にあり、部屋割り制度について討論

1936年（昭和11年）　2月：雪の東京に2.26事件勃発

5月：警察特高課の圧力により、記念祭街頭デモ中止させられる。

1937年（昭和12年）　5月：第30回記念祭公開（戦前最後の解放記念祭）、一般入場者約1万人

9月：定山渓旅行が時局にそぐわずとのことで中止

玄関前での記念式典開会式

1939年（昭和14年）　5月：恵迪寮記念祭が公開中止となる

演劇等も禁止されたが、交渉の末、ようやく認められる。

1940年（昭和15年）　1月：山岳部ペテガリ岳で8名遭難、内、舎生2名

9月：日・独・伊三国軍事同盟締結

9月：米の配給制限：1人（日）1合9勺

10月：定山渓旅行が時勢に相応しくないとのことで支笏湖旅行に変更

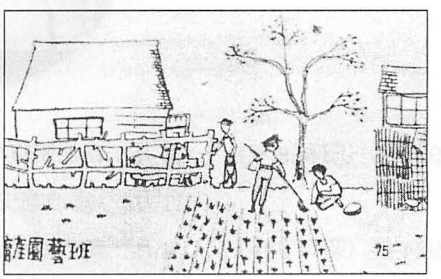
10月：寮の起床時間7:30、門限11:00を舎生大会で議決

1941年（昭和16年）　1月：寮生の選挙による委員会制が予科長任命の幹事会制に移行

2月：寮生規約の「自治」の言葉使用禁止

4月：札幌市内下宿難のため、1部屋4名を5名収容にする。

12月：太平洋戦争開戦



昭和16年の記念祭絵葉書より

1942年（昭和17年）　4月：学生主事が入寮選考実施

1943年（昭和18年）　1月：「恵迪寮小史」発刊

1月：食堂に寮の守護神として神棚設置

4月：ストーム禁止

7月：自炊制度廃止、購買とともに学校側に依頼

1944年（昭和19年）　道内各地へ勤労動員

9月：出征する寮生の壮行会開催

1945年（昭和20年）　8月：第2次世界大戦終戦、内閣総辞職

9月：リンゴ事件、寮生数名がリンゴ園に侵入、厳重警告処分にする。

10月：寮の日課表等の諸規制撤廃

舎生総数328名、人員過剰のため、希望退寮者をつのる。

12月：深刻な食糧難、燃料不足のため、翌3月末までの3ヵ月間余、寮閉鎖

1946年（昭和21年）　4月：幹事会解散、新委員会発足

10月：記念祭復活、一般市民参加千人余

（昭和21年度の授業は、4,5、9～12月の6ヵ月のみ）

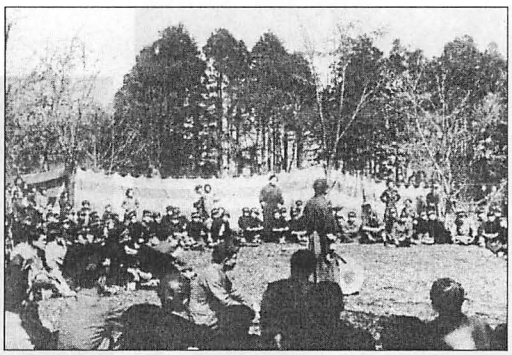
1947年（昭和22年）　10月：1949年度からの「新制北海道大学」の設置が決定（文部省）

1948年（昭和23年）　旧制予科最後の学生入寮

4月：舎生大会で、過激な勉強、運動をした者の1／3が肺病になるとして5項目の予防対策が提案、可決される。

5月：円山公園で観桜会開催（春の恒例行事になる）

11月：「スペシャルエッセン（製麺機を購入しこれで作ったソバ）」始まる。



円山公園での観桜会

1949年（昭和24年）　4月：寄宿舎規程改定、10ヵ条、入寮選考等寮運営は寮生が行うことを明示

5月：国立学校設置法公布により、「新制北海道大学」が設置される。

1950年（昭和25年）　3月：旧制北海道大学予科の廃止

6月：寮生大会で在寮期間を2年間と決定、寮は教養部在籍学生のものとなる。

9月：石炭問題が深刻化（暖房、炊事用石炭の配給、寮生負担で学校と対立）

1951年（昭和26年）　6月：財政難のため、記念祭縮小、非公開とする。

1952年（昭和27年）　雑誌「恵迪」復刊

7月：市職員から住民登録票を強奪した学生活動家5名が寮に逃亡、寮生大会の結果、警察に引き渡す。

9月：寮内に赤痢発生、全寮生が寮内に缶詰

1953年（昭和28年）　6月：食券制度確立、購買部を生協に移管

1954年（昭和29年）　9月：北海道大学々寮規則制定

恵迪寮、進修学寮、北学寮、月寒学寮、桑園学寮、楡影寮が対象

9月：記念祭で初の市中仮装行列実施

秋開催が一般化、寮祭といわれるようになる。

一人1枚の看板アタック、計300枚確保がノルマ（？）

1955年（昭和30年）　10月：リンゴ事件（農園の実験用リンゴアタック）発生、寮生大会で深く反省

11月：北海道大学学生寮連合結成

参加寮：恵迪、進修、北学、月寒、桑園、楡影、女子、秋田

青年寄宿舎、仙台、巌鷲、庄内、学生センター

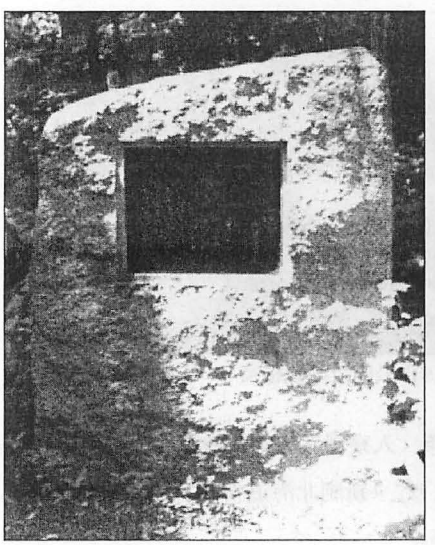
11月：「恵迪寮新聞」発行

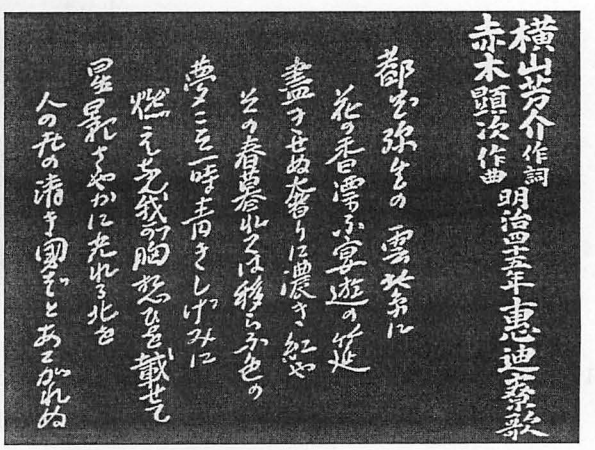
1956年（昭和31年）　9月：北海道大学創基80周年記念式典開催

BBA会「北海道の青春」発行、印税がクラーク会館設立資金に使われる。

1957年（昭和32年）　9月：「都ぞ弥生」の歌碑建立、除幕式

10月：観楓会開催、洞爺湖へ2泊3日





「都ぞ弥生」歌碑と歌詞の拓本

1958年（昭和33年）　10月：寮内に警察法改正反対実行委員会結成

1959年（昭和34年）　4月：恵迪寮安保改定反対実行委員会結成

9月：テレビ設置（札幌テレビからの寄贈）

11月：恵迪寮従業員組合結成

11月：“爐”に対するラーメン値上げ反対運動激化

1960年（昭和35年）　6月：安保反対デモ拡大、寮生100余名参加

10月：警察手配の寮生を含む学生5名を委員会が寮にかくまい篭城

寮生大会では、籠城に対し賛否両論、何れも過半数に達しなかった。

1961年（昭和36年）　関西恵迪会発足

1962年（昭和37年）　10月：大学管理法案反対闘争

1964年（昭和39年）　2月：負担区分通達（大学負担の大半が寮生負担になる）

4月：この頃より新寮建設問題が発生

1965年（昭和40年）　5月：大学祭実施の交渉をめぐり教養部機動隊導入事件発生

1966年（昭和41年）　6月：新寮規則強行決定

1967年（昭和42年）　3月：寮生による入寮選考を新寮規則違反してと寮長無期停学処分公示

4月：入寮選考が大学当局と寮生で別々に実施

1969年（昭和44年）　学園紛争激化、教室封鎖、逆封鎖、機動隊導入・・・

寮も南寮階上にバリケードがはられる。

1970年（昭和45年）　5月：講堂が火災で半焼、売店煙突の過熱が原因

6月：テレビ室天井落下

10月：大正9年桜星会歌「瓔珞みがく」の歌碑を植物園内に建立

1972年（昭和47年）　寮の老朽化顕著、ストームで食堂の床落下

樽商戦応援風景

1973年（昭和48年）　4月：中寮25号の天井板落下

11月：内ゲバを口実に機動隊が寮に強襲

1974年（昭和49年）　11月：北寮階下より出火、6部屋消失

1975年（昭和50年）　11月：恵迪寮史、恵迪寮小史復刻

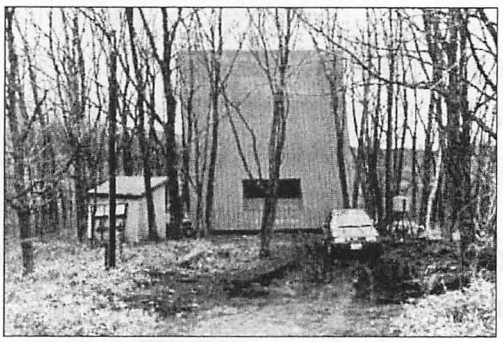
1976年（昭和51年）　8月：北海道大学創基100周年記念式典開催

2月：寮歌集発刊（原詩、原歌に戻す）

1977年（昭和52年）　11月：恵迪寮新寮闘争委員会結成

1978年（昭和53年）　10月：士幌小屋「チセ・フレップ」設立

札幌農学校以来の伝統である地に足の着いた生き方と学問のあり方を模索する場として、士幌町と恵迪寮共同で設立した。



士幌小屋「チセ・フレップ」

1980年（昭和55年）　1月：新寮建設が4条件付きのもと北海道大学評議会で決定

4条件：完全個室、水光熱費寮生負担、入退寮権大学掌握、食堂なし

関東恵迪会発足

1981年（昭和56年）　水光熱費寮生負担となる

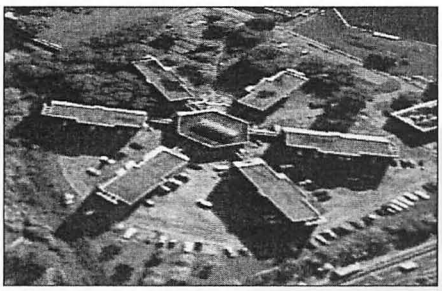
1982年（昭和57年）　10月：閉寮記念、第74回恵迪寮祭開催

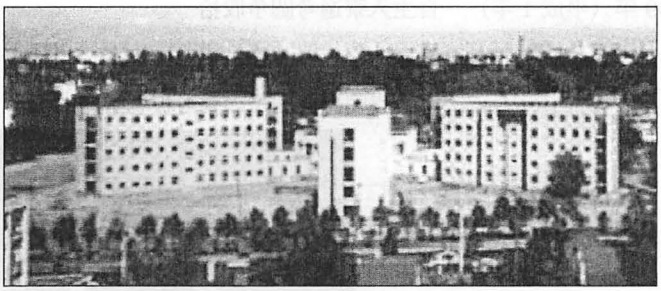
12月：北海道大学学生寮規則改定、18ヵ条

閉寮記年会場

恵迪寮跡の碑

・ 第３代恵迪寮時代（1983～　　）





放射状に配置された３代目恵迪寮

1983年（昭和58年）　3月：恵迪寮同窓会発足、初代会長：星光一
恵迪寮名、寮歌の存続等を大学に陳情
4月：2代目恵迪寮および学部寮、院生寮閉鎖
北学寮、月寒寮、進修寮、楡影寮、桑園寮、有島寮
4月：新寮発足　5階建て、放射状に6棟配置、個室制
収容定員580人
教養部学生270人、学部学生220人、大学院生50人、留学生40人
5月：寮生大会で新寮名を「恵迪寮」と命名
6月：第1期執行委員会発足
8月：恵迪寮舎800㎡を買い取り、開拓の村に寄贈

1984年（昭和59年）　3月：寮生、自主入寮選考実施
大学当局、入寮募集一時停止決定
8月：寮生が寮事務室を占拠、開放、寮運営を実行
12月：「開拓の村恵迪寮舎」落成

1985年（昭和60年）　3月：自主入寮選考方針断念　募集停止解除
6月：恵迪寮同窓会が展示品を寄贈、祝賀会開催
12月：大学評議会で閉寮を前提とした入寮募集停止決定

1986年（昭和61年）　3月：恵迪寮史第二巻・恵迪寮史復刻版発行
恵迪寮同窓会が文集「恵迪の青春」を刊行

1987年（昭和62年）　3月：「恵迪寮史第2巻」発行
寮生が自主入寮選考実施、大学当局は入寮募集停止
恵迪寮同窓会第3期総会で東日本支部、西日本支部を設立

1988年（昭和63年）　自主入寮選考再開、大学当局は入寮募集停止継続

神戸で「大寮歌祭」開催（恵迪寮同窓会西日本支部担当）

以後、大寮歌祭を恵迪寮同窓会本部、西、東日本支部持ち回りで毎年開催

1989年（平成1年）　自主入寮選考闘争収拾

「恵迪寮」の名称が正式に決定

恵迪寮同窓会寄贈の寮名板を玄関に標示

玄関に掲載された恵迪寮同窓会寄贈の寮名板

1990年（平成2年）　8月：寮生有志によるB棟外壁の壁画完成

1991年（平成3年）　秋の補充入寮選考（10月：補充、11月：補充）

12月：恵迪寮同窓会が写真集「青春の北大恵迪」を発行

1993年（平成5年）　語学演習室にビデオプロジェクター導入

L.L.シアターとして利用

1994年（平成6年）　1月：寮生大会で、女子入寮決定、7月女子11名入寮

5月：玄関前に露天風呂建設、大学の申し出により撤去

1995年（平成7年）　1月：恵迪寮同窓会が文芸雑誌「恵迪創刊号」を発行

2月：飲酒事故防止対策特別委員会設置

9月：水産追いコンで飲酒事故発生、寮の行事中止

1996年（平成8年）　11月：飲酒事故後、初めての行事「観楓会」開催

1997年（平成9年）　11月：大学が寮自治会を公認、以後、自治会が公に寮を運営

12月：共同生活のため廊下に敷いてあった畳を撤去、これにより、停止していた大学からの補助費が出るようになる。

1998年（平成10年）　3月：風呂、トイレ修理

6月：「自治とは自炊なり」の精神のもと、半年間、昼食と夜食を100円で提供

9月：寮祭情宣のため、中央ローンで中継中のズームイン朝（STV）に寮生数人が裸体で乱入、注意を受ける。

1999年（平成11年）　恵迪寮同窓会発足15周年記念：開拓の村恵迪寮へ展示品追加寄贈

2002 年（平成 14 年）　4 月：男女の居住形態をブロック分けし、平成１６年までに段階的に定員改訂
（男子 400 人、女子 90 人）を実施

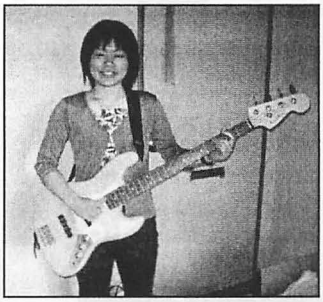
2003 年（平成 15 年）　1 月：恵迪寮同窓会北海道支部発足

2004 年（平成 16 年）　5 月：現寮生と恵迪寮同窓会北海道支部との交流会開催、例年行事となる。

2005 年（平成 17 年）　1 月：「氷雪の門」で恒例の新年歌会始め開催

恒例になった新年の歌会始め

11 月：平成 18 年寮歌「遥かなる迪」を女子寮生が作歌


「遥かなる　」作歌者：福岡　萌

2007 年（平成 19 年）　5 月：円山公園で観桜会開催、恵迪寮同窓会 OB,OG10 数名参加
一時中断していたが、平成 17 年に復活

9 月：恵迪百年記念祭開催

今も続く円山公園での観桜会
最近は、女子寮生、恵迪寮同窓会 OB、OG も参加している

ニッスイは『グローバルサプライチェーン』を発展させます

日本水産の目指す『サプライチェーン』は、ニッスイグループやパートナーが持つ世界の生産拠点と世界の食卓を結ぶグローバルネットワークが、基盤となっています。グループ全体とパートナーが相互に機能し協働する「グローバルサプライチェーン」を構築し、食品・飼料・化成品・医薬品に至るまでの幅広い分野において、水産資源をお客様の価値に変えてお届けします。

日本水産株式会社

代表取締役社長　垣添直也
常務取締役　田中　汎（昭43化）
常務取締役　細見典男（昭48食）
取締役　藤本健次郎（昭54食）
相談役　鈴木賢一（昭36セ）

〒100-8686 東京都千代田区大手町２丁目６番２号　電話：03-3244-7000
http://www.nissui.co.jp

恵迪寮同窓会　役員一同

[名誉会長]：繁富一雄(S6、元会長)、中瀬篤信(S26、前会長)
[顧問]：石塚喜一(S2)、田畑武雄(S3)、中川義一(S3)、青山越男(S4)、山谷幸之助(S5)、小島悦吉(S5)、宍戸昌夫(S10)、星野力(S13)、小篠守正(S17)、安井勉(S18)、池田秀司(S19)、須藤清二(S19)、多田邦雄(S20)、富士野昭典(S20)、板谷実(S21)、森谷正三(S21)、阿澄昌夫(S22)、中野昭信(S22)、村山正(S23)、富永巌(S25)、井口光雄(S28)、篠原猛(S29)、幸健一郎(S30)、河村征治(S32)

【第10期】
[会長]：中瀬篤信(S26)
[副会長]：辻山昌佑(S26;西日本支部)、篠原猛(S29;東日本支部)、井口光雄(S28;会長代行)、白浜憲一(S40;北海道支部)
[監事]：大西敞(S30)、小笠原孝之(S31)
[理事]：伊東孝(S30)、新井三郎(S32)、窪田開拓(S32)、和孝雄(S32)、山崎克彦(S32)、山中義正(S32)、間中俊夫(S33)、伊藤靖久(S38)、関口光雄(S39)、千川浩治(S40)、入江和彦(S41)、坂倉雅夫(S44)、荒木隆夫(S49)、岩井隆郎(S51)、竹下忠彦(S53)
[事務局]
代表幹事：横山　清(S31)
副代表幹事；厚谷純吉(S30；改革)、高井宗宏(S31；事務局)、河村征治(S32；事業)
幹事：永沢昌久(S31)、新井三郎(S32、兼理事)、皆川吉郎(S42)

【第11期】
[会長]：横山　清(S31)
[副会長]：辻山昌佑(S26;西日本支部)、厚谷純吉(S30;北海道支部)、山中義正(S32;東日本支部)、高井宗宏(S31;会長代行)
[監事]：大西敞(S30)、小笠原孝之(S31)
[理事]：伊東孝(S30)、新井三郎(S32)、窪田開拓(S32)、和孝雄(S32)、山崎克彦(S32)、間中俊夫(S33)、伊藤靖久(S38)、関口光雄(S39)、千川浩治(S40)、入江和彦(S41)、坂倉雅夫(S44)、荒木隆夫(S49)、岩井隆郎(S51)、竹下忠彦(S53)
[事務局]
代表幹事：白浜憲一(S40)
副代表幹事:新井三郎(S32)、氏平増之(S38)、皆川吉郎(S42)
幹事：選考中
部会：選考中

【第10期部会】[恵迪部会]平岡義博(S33)、若松幹男(S34)、大隈昭二(S40)、[現寮部会]高橋陽一(S30)、谷口哲也(S48)、[名簿部会]氏平増之(S38)、[広報部会]高野豊(S32)、渕上玲子(H08)

事務局：札幌市豊平区平岸1－1 ㈱ラルズ内

恵迪寮同窓会西日本支部

〒530-0001　大阪市北区梅田１丁目２番2-200
大阪駅前第２ビル２Ｆ・北大会館
ＴＥＬ・ＦＡＸ　06-6343-3736

〔支　部　長〕辻山　昌佑（S26）
〔支部長代行〕窪田　開拓（S32）
〔副支部長〕宮野　正行（S29）
安藤　利孝（S30）
深谷　　勲（S32）
塚崎　喜寿（S32）
間中　俊夫（S33）
徳永　　徹（S33）
牧野　俊一（S33）
〔幹　事　長〕伊藤　靖久（S38）
〔副幹事長〕入江　和彦（S41）
〔事務局長〕岩井　隆郎（S51）
〔会計監査〕植松　高志（S44）
〔常任幹事〕竹田　邦雄（S31）

恵迪寮同窓会北海道支部

〒062-8611　札幌市豊平区平岸１条１丁目9の6
株式会社ラルズ本部内
ＴＥＬ・ＦＡＸ　011-815-6377

〔支　部　長〕白浜　憲一（S40）
〔副支部長〕新井　三郎（S32）
千川　浩治（S40）
〔幹　事　長〕皆川　吉郎（S43）
〔副幹事長〕谷口　哲也（S48）
〔常任幹事〕山崎　克彦（S32）
大隈　昭二（S40）
八重樫幸一（S41）
畑　　博（S42）
〔幹　　事〕佐藤　博昭（S39）
西雪　弘光（S40）
木村　正博（S41）
長谷川　健（H７）
渕上　玲子（H８）
〔名誉支部長〕安井　　勉（S18）
〔　〃　〕幸　健一郎（S30）

祝

「恵迪寮」

命名百周年

恵迪寮同窓会東日本支部

支部役員等：篠原　猛（S29）・山中　義正（S32）・長谷川　久（S32）・松山　哲三（S33）
関口　光雄（S39）・平田　更一（S40）・成ヶ沢憲太郎（S40）・板倉　雅夫（S44）
加藤　秀弘（S46）・佐藤　文雄（S47）・矢野　哲憲（S47）・松岡　繁幸（S48）
荒木　隆夫（S49）・中井　正人（S49）・竹下　忠彦（S53）・新井　桂二（S54）
岩崎　哲也（S54）・橋本　浩典（S54）・小泉　玲（S56）・山村　航也（H3）
今村　康弘（H5）・松本　香織（H7）・坂下　節子（H19）

寮歌を歌い継ぎ
北海道大学を
応援します

連絡先：

〒176-0021　東京都練馬区貫非4-47-47　関口光雄　気付
TEL　03-3926-0082　FAX　03-3926-0080
URL　http://home.att.ne.jp/apple/keit.kei-ob/
E-mail jubesannchinoko@ybb.ne.jp

SOLUDESILE

さいたま県・羽生市の
「ソルデシレ」

私たちの工房は、羽生（はにゅう）という
関東地方の中心に位置した
のどかな田園に囲まれた地域にあります。
農作物や草花に恵まれた羽生の地で
国内だけでなく世界の各地から
厳選した安全で安心な食材を使用し
丁寧にお菓子を作っています。
「ソルデシレ」は
食材を育てる「土からの恵み」の意味が
込められています。

種類：プレーン、ココア、チーズ、抹茶

創作乳菓 Creation Milk Confectionery

さいたま
羽生の黄金麦
[SAITAMA HANYU NO KOGANEMUGI]

1個 105円（税込） 8個入 950円（税込）

牧場の新鮮なミルクで
作ったバターをたっぷ
り使用しました。
のどかに広がる、「さい
たま羽生」の美しい風景
を思い出しながら、優し
く口に広がるミルクの
風味をお楽しみ下さい。

http://www.soludeshire.com 〒348-0032 埼玉県羽生市大字秀安407 TEL.048-560-7020 FAX.048-563-0692 営業時間：9:30～19:00

XYLITOL

お口の恋人
LOTTE

おいしさ、
さらに
透きとおる。

※かんだあとは、紙に包んでくずかごに捨てましょう。

10年目のおいしい進化。新しくなったキシリトールガム。 NEW LOTTE XYLITOL

むし歯のない社会へ

厚生労働省許可 保健機能食品（特定保健用食品）
（財）日本学校保健会推薦 （社）日本学校歯科医会推薦

恵迪寮百年記念

伊東孝法律会計事務所

弁　護　士
公認会計士　伊　東　　孝

〒060－0042　札幌市中央区大通西10丁目　南大通ビル3階

TEL　011-271-2475

KIKKOMAN

キッコーマン めんみ白だし

めんみのおいしさはそのままに
うすいろでだしが香る新しい味

5種類のだしをあわせました
鰹節・こんぶ・煮干・さば節・ほたて

たけのことみつ葉のうどん

だし巻き卵

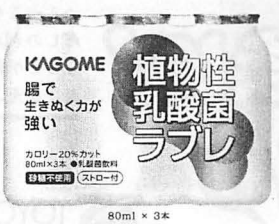
茶わん蒸しん

いろをうすく仕上げたい料理に
よくあいます
関西風うどん・野菜の煮物・茶わん蒸し
だし巻きたまご・炊き込みごはん等

実感！
ラブレ

朝、すっきりを
実感してください。

130ml



80ml × 3本

腸で生きぬく力が強い、カゴメ植物性乳酸菌ラブレ。植物素材をベースに仕上げた、
後味すっきりの爽やかな味わいで、カロリーが気になる方にも、安心してお召し上がりいただけます。
毎朝すっきりを実感するために、一日一本、あなたも続けてみませんか。

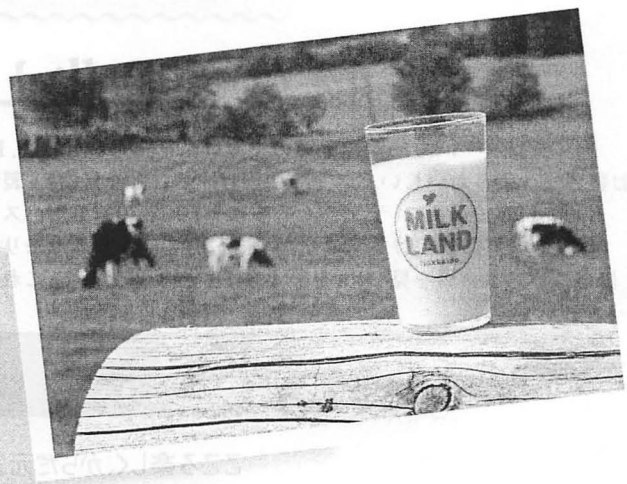
カゴメ 植物性乳酸菌ラブレ

○ラブレ菌（ラクトバチルス・ブレビス菌）使用 ○砂糖不使用、カロリー20%カット（当社ローリーゴールド比）

自然を、おいしく、楽しく。
KAGOME

あなたの
美しさは、
牛乳から。

www.milkland-hokkaido.com



MILK LAND Hokkaido

まいにち まいにち、
あしたのために。

株式会社ホクレン商事

代表取締役　菱谷　巖

本社　札幌市北区北七条西一丁目二―六
NSSニューステージ札幌ビル八階

TEL（〇一一）七五六―三二一一
FAX（〇一一）七〇九―五六四〇

おいしさは、新鮮です。

道産・国産品にこだわった「国産野菜統一宣言」を実施しております。

株式会社ホクレン商事
本　社　札幌市北区北７条西１丁目２－６ NSSニューステージ札幌ビル８階
店舗本部　札幌市東区北４９条東１５丁目７２３－１

ホクレンショップ　ひばりが丘店/中ノ沢店/エスタ店/４９条店/篠路店/屯田店
新琴似店/新発寒店/前田店/元江別店/大麻北町店/ゆめみ野店
祝梅店/東郊店/苫小牧店/函館昭和店/七飯店/森店

生活応援価プライス　里塚店/南２２条店/栄町店/大麻店

ホクレンFoodFarm　東苗穂店/朝里店

日清製粉グループ

ほほえみ約束品質

マ・マー

Fine Quality, Fine Smile

本物は、進化し続ける。

マ・マーが家庭用のマカロニを発売したのは、1955年。それから約半世紀、
お客さまへよりおいしいパスタをお届けすることを目指し、製法や品質の革新に取り組み続けてきました。
日本で最初に、デュラムセモリナ100%の家庭用パスタを発売したのも、マ・マーでした。
業界に先がけパスタ全品（家庭用）をデュラムセモリナ100%に変更したのもマ・マー。
日本のパスタ市場を見つめ、リードするブランドとして、これからもマ・マーはおいしく進化し続けます。

こころ楽しく、からだ元気に。

日清フーズ株式会社

ホクレン肥料株式会社

代表取締役社長　藤田久雄

〒〇六〇―〇〇〇四　札幌市中央区北四条西一丁目（北農ビル）

電話（〇一一）二三一―二四四四

ISO9001：2000認証取得

ホクレンくみあい飼料株式会社

代表取締役社長　久保田厚

札幌市中央区北四条西一丁目一番地
北農ビル十八階

TEL（〇一一）二三一―三三〇一
FAX（〇一一）二三一―三三〇四

Ⓗ ホクレン包材株式会社

代表取締役社長　士反英秋

札幌市中央区北四条西一丁目一番地北農ビル十七階

電話代表（〇一一）二三一―三四〇一

ホクレン運輸株式会社

代表取締役社長　嵯峨井澄雄

〒〇六〇―〇〇〇四

札幌市中央区北四条西一丁目一番地

北農ビル十六F

電話（〇一一）二三一―〇三七七

KOKUBU

新しいカタチに。

結んで、つなげて。
新鮮で安全な
食品のネットワークを
国分は、もっと豊かに実らせます。

食の流通をクリエイトする
K&K 国分株式会社
www.kokubu.co.jp

株式会社　北海道畜産公社
代表取締役社長　土屋雅義
札幌市中央区北四条西一丁目一
共済ビル三階
電　話（〇一一）二四二―四一二九
ＦＡＸ（〇一一）二四二―二九二九

株式会社ホクチクサービス
代表取締役社長　西雪弘光
札幌市中央区北四条西一丁目一
共済ビル三階
電　話（〇一一）二〇七―四一二九
ＦＡＸ（〇一一）二〇七―二九二九

S

新しい価値づくり

～ 意志のあるお菓子の買い場 ～

株式会社サンエス

本社/東京都足立区加平3－2－17 〒121－8633
TEL.03(3605)6161(代)FAX.03(3628)6300
札幌/札幌市東区北37条東27丁目 〒007－8550
TEL.011(781)7351(代)FAX.011(784)0746

おいしさと健康

Glico

江崎グリコ株式会社

ニッポンハム

ゆでて パリッ!!

シャウエッセン 検索

CGC
世界中から良いものを

CGCは、日本全国の
有力中堅スーパーマーケットが協業の旗のもとに、
その総力を結集した大量共同仕入機構です。

北海道のCGCグループ

■北海道の企業数… 12社
■店舗数… 228店
(2007年6月現在)

株式会社北海道シジシー
代表取締役社長 横山　清

2015年プラン
EVOLUTION 21
21世紀 時に進化するリョーショクグループ

リョーショクは“日本の豊かな食”を
美味しくコーディネート。

わたくしたちは、食品中間流通機能にさらに磨きをかけ、
「あらゆる食シーン」にフルラインでお応えします。
「おいしいね」、が行き交う食シーンをお届けするために。

消費と生産を結ぶ価値あるかけ橋
リョーショク

札幌市の台所、札幌市中央卸売市場では消費者の皆さんが求めている、
新鮮で安心安全な青果物を供給しています。

札幌市中央卸売市場

代表取締役　本　田　誠　一

株式会社　丸誠本田誠一商店
札幌市中央区北12条西20丁目２番２号

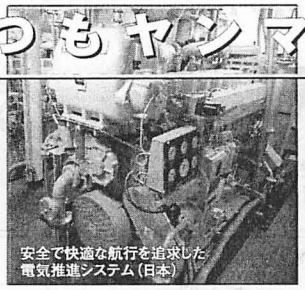
YANMAR

新TNVエンジン搭載
エコトラEF200（イタリア）

高出力で環境にやさしい
パワーボート用エンジン（アメリカ）

世界のどこかで
いつもヤンマー

新TNVエンジンを搭載した
ヤンマーミニショベル（アメリカ）


安全で快適な航行を追求した
電気推進システム（日本）

使い勝手、耐久性に優れた
コンバイン（中国）

美しい自然、限りある資源を有効に活かし、時代を先駆ける新しい価値を求めて
独創的な技術と心に響くふれあいで、人々に新たな喜びと大きな満足を提供しています。

ヤンカマーカ
インターネット天気予報
あの町、この村、20km区域のピンポイント天気予報！
http://www.yanmar.co.jp

ヤンマー株式会社
ヤンマー農機株式会社
大阪市北区茶屋町1番32号（〒530-8311）

エリエール

―品質は、やさしさへ。―

エリエール®

赤ちゃん用 GOO.N グーン

elis

テークケア

大王製紙株式会社 www.elleair.co.jp

115th ANNIVERSARY

使い慣れた文房具、個性溢れる文房具、
オシャレな文房具、使いたい文房具、
文房具のことならセントラルへ。
こころよりお待ち致しております。

CENTRAL
大丸藤井セントラル
札幌市中央区南1西3・電話(011)231-1131(代)
http://www.daimarufujii.co.jp/central/

BF	1F	2F	3F	4F	7F
ペーパー・印鑑	カード・ラッピング	事務用品・万年筆	画材・額縁	和紙・書道用品	ギャラリー

KANKYO
株式会社 カンキョー
地質調査・試験・計測

代表取締役 窪 田 開 拓

大阪市北区中津１丁目17番23号
電話　06－6864－2061
FAX　06－6864－4900
メール　kankyo77@mocha.ocn.ne.jp

第162期　轟委員会　寮務部長
桑園寮（S36年学内へ移転）

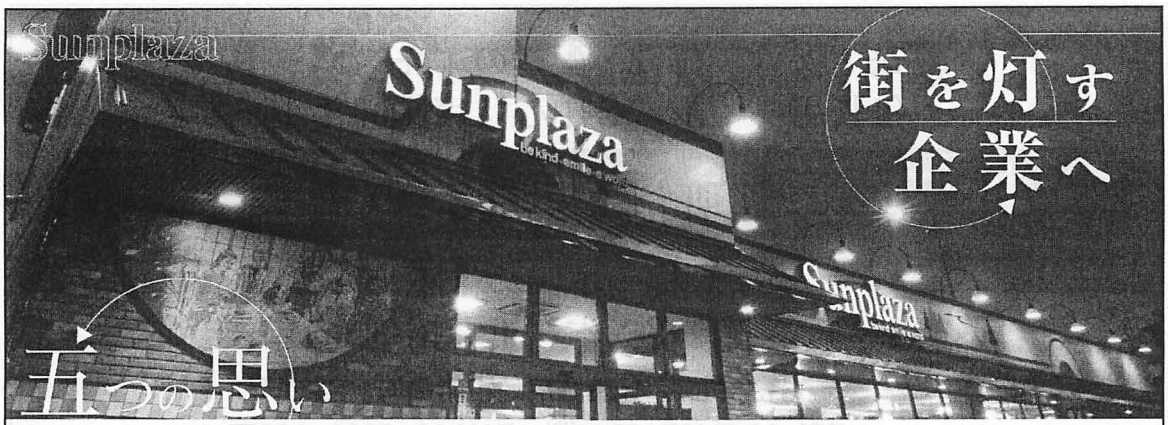
株式会社
ホテル浦島チェーン

ホテル浦島
和歌山県那智勝浦町勝浦1165－2
TEL 0735（52）1011

浦島ハーバーホテル
和歌山県串本町串本2300－1
TEL 0735（62）1011

川湯みどりや
和歌山県田辺市本宮町川湯13
TEL 0735（42）1011

万清楼
和歌山県那智勝浦町勝浦448
TEL 0735（52）0033



食文化の創造と産地開発を通じて日本のスーパーマーケットをリードする企業をめざしています。

健 原な肉体はバランスの取れた食事、安全・安心の食材から生まれます。
単に、食事と食事材料を売るスーパーから、生活者の健康な体作りに貢献できる企業を目指しています。

食品は調理の仕方によって生まれ変わります。単に食事材料を売るだけでなく、調理方法と食育の重要性を含めた情報や知識を商品にも付加していきます。

終 戦直後や食糧難時代、そして高度成長時代の苦しき商売全般からの決別を図ります。
"食は健全な肉体を作る為の源"に他なりません。不要な化学物質（添加物）を出来るだけ排除した食品をメーカーと共に開発し販売して参ります。

看 優・美容野草の販売に留まらず、有機材料を使った加工食品、ナチュラル・フーズの提供を行います。優良な生産者の方々と直接結び付き、力を合わせて安全・安心な食材をリーズナブルな価格で販売できる仕組みを作ります。

減 塩・無添加・フレッシュ材料を使った惣菜の販売に努め、さらに食事も提供できる新業態を計画しています。
サンプラザでは、トレーサビリティー（生産履歴）の確かな生鮮野菜、果物、海産物、精肉を日々調達しています。
このフレッシュな素材を使って、新鮮かつリーズナブルな価格で食事ができるスペースを併設したスーパーマーケットを日本で初めて作りたいと考えています。

新卒採用応募受付中

街を灯す企業に

私たちサンプラザは安全・安心はもちろんのこと、お客様が健康な食生活を営める食材と食事の提供を心がけています。
さらに、店に入ればワクワクする、食に関する知識と情報と感動が得られる店に進化し続けたい——
また、地域に携わる様々な人々やグループと手をつなぎ合わせ、地域社会の灯になりたいと願っています。
そのためには、企業としての社会的責任を果たすことは元より、世の中の大きな変化だけではなく、細部な変化も見逃さないようにしなければなりません。
常に社会に貢献し続ける企業であるため、社会の微妙な変化を受け入れ、お客様へ一歩先の暮らしを実現できるサンプラザであり続けたいと考えています。

代表取締役社長 山口 利昭

内科　小児科　皮ふ科　胃腸科
胃カメラ検査　腹部乳腺エコー検査

駒田医院

北海道大学関西同窓会顧問
北海道大学関西フラテ会会長
院長 駒田 盈郎
（昭14年入寮医昭20年卒）

大阪府東大阪市俊徳町１－３－16
TEL　06－6728－7641
FAX　06－6728－6823

祝
恵迪寮百年記念祭

社会福祉法人　愛知慈恵会

理事長　谷川　喜久雄
（資源52期）

本部事務所
愛知県一宮市浅井町西海戸字余陸寺45－１
TEL0586-78-8438
http://www.iful-jikeikai.com

高齢者福祉施設
尾張一宮・三河安城・飛騨白川郷

輸送・保管・荷役・配送のエキスパート
包装用フィルムを中心に実績50年！

梶本運輸倉庫株式会社

代表取締役　梶　本　　正
副 社 長　梶　本　正　拓（S54・経）

〒661-0964　兵庫県尼崎市神崎町12番28号
TEL.06-6497-2341㈹　FAX.06-6492-1237

株式会社　ケイルート

代表取締役　梶　本　一　郎
専務取締役　梶　本　曜　二

〒338-0825　さいたま市桜区下大久保1256
TEL.048-853-0811㈹　FAX.048-854-5155

恵迪寮百年記念

**恵迪寮の発足百年を祝福するとともに、恵迪寮ならびに
北海道大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。
またフロンティア精神溢れる学生の入社および産学協同による
事業に関して、大学との連携を期待しております。**

CRESCO
株式会社クレスコ
代表取締役社長　熊沢修一
〒108-6026　東京都港区港南2-15-1
品川インターシティA棟 26F
TEL：03-5769-8011　FAX：03-5769-8019
http://www.cresco.co.jp/
【事業内容】
・情報処理システムの設計及びコンサルテーション
・コンピュータ用ソフトウェアの開発・製造及び販売

CRESCO e-Solution
クレスコ・イー・ソリューション株式会社
代表取締役社長　谷口義恵
（工学部資源51期）
〒108-0014　東京都港区芝5丁目31番19号
オーエックス田町ビル2F
TEL:03-5444-4621　FAX:03-5444-4622
http://www.cresco-es.co.jp/
【事業内容】
・ERPシステムの導入、コンサルティング

祝
恵廸寮100周年

代表取締役（昭和31年入寮）
工学博士　大島　聡範
GIA GG（米国宝石学会　宝石鑑定士）

有限会社 ティアラサッポロ
札幌グランドホテル店 ロイヤルミッシェル

〒006-0001 札幌市中央区北1条西4丁目札幌グランドホテル 2F

北大生協は　北大での勉学・教育・研究活動の充実に貢献し
大学生活を豊かにする活動を進めています

好評発売中!!
生協オリジナルグッズ
北海道大学グッズ

おみやげにどうぞご利用ください

生協オリジナルグッズ　生協オリジナルグッズ　北海道大学グッズ

●事業紹介

・購買部
（文具・食品・雑貨　他）
・書籍部
・食堂部
・旅行事業部
・キャリアサポート
（PC・資格取得　他）
・印刷・情報サービス部
・学会イベントサービス
・共済保険
・ルームガイド

北海道大学生活協同組合

〒060-0808 札幌市北区北8条西7丁目　TEL 011-746-6218
E-mail seikyou@coop.hokudai.ac.jp　HP http://www.hokudai.seikyou.ne.jp/

「信頼され、選ばれる ナンバーワン食品卸へ」

当社は、北海道の総合食品卸会社です。ドライ・チルド・フローズン温度帯の商品を幅広く取り扱っており、北海道内の小売店様や外食チェーン様へお届けしております。

当社のスローガンは、**「お客様第一主義」**であり、お得意先様の繁栄が、当社の生き残りにつながると信じて、お客様のために最善を尽くしてまいります。

「信頼され、選ばれるナンバーワン食品卸へ」を合言葉に、北海道の食品流通にチャレンジする、日本アクセス北海道をよろしくお願い致します。

日本アクセス北海道株式会社

〒065-8522 札幌市東区苗穂町9丁目1番1号 電話代表(011)750-3100

JFE

挑戦・柔軟・誠実　JFEグループ

JFEグループは、常に世界最高の技術をもって
社会に貢献します。

JFE ホールディングス 株式会社
〒100-6527　東京都千代田区丸の内1丁目5番1号　TEL 03(3217)4049　URL http://www.jfe-holdings.co.jp/

祝！　恵迪寮命名100周年！

ありがとう「都ぞ弥生」　　ありがとう「恵迪寮」

ありがとう「北海道大学」

サンキュー『北大土木』

FROM　中央ローン会：北大土木43期測量班第6班

班長：沢内　至武
班員（ポール・スタッフ持ち）：島田　　勝・鈴木　佳明・鈴木輝之
髙木　直良　・髙橋　陽一・関口　光雄

中央ローンで学内測量実習を実施。（指導教官：板倉　憲康・稼農　知徳）高

芳賀　嘉幸
昭和三十九年入寮

関口　光雄
昭和三十九年入寮

澤田　和利
昭和三十九年寮

金子　公良
昭和三十九年入寮

有馬桂太郎
昭和三十九年入寮

寮歌を歌い継ぎ
北海道大学を応援します

平田　更一
昭和四十年入寮

原　二郎
昭和四十年入寮

成ヶ沢憲太郎
昭和四十年入寮

関根　喬雄
昭和四十年入寮

鮫島　正純
昭和四十年入寮

飯塚　健三
昭和四十年入寮

営業種目

◎ 水力・火力・原子力発電所工事
◎ プラント設備工事
◎ 環境設備工事
◎ 昇降機・立体駐車設備工事
◎ 変電所工事
◎ 動力・制御・計装・電気工事
◎ 一般土木工事
◎ 建設機械整備・改造

株式会社 繁富工務店

代表取締役会長　繁富一雄 (機械10期)
代表取締役社長　繁富文承 (機Ⅱ修士1期　工博)

本社	札幌市中央区南12条西6丁目1番28号	☎ (011)511-3428
江別事業所	江別市緑町西3丁目10番6号	☎ (011)382-2994
苫小牧事業所	苫小牧市字勇払157番地2	☎ (0144)56-0711
泊事業所	古宇郡泊村大字堀株村字ヘロカルウス789番地 北電(株)泊発電所補修事務所内	☎ (0135)75-3402
知内事業所	上磯郡知内町字元町28番地13	☎ (01392)5-6157
札幌事業所	札幌市西区発寒11条12丁目2番5号	☎ (011)661-3588
旭川事業所	旭川市永山3条9丁目1番5号	☎ (0166)48-2660

編集後記

恵迪寮100周年を迎えて、多数の行事に加えて、記念号を発行することになり、「恵迪の思い出」をテーマに寮ＯＢに投稿をお願いしたところ、昭和５年入寮の大先輩から、昭和54年入寮の若手？まで合計32人のかたからさまざまな話題が寄せられました。

寮の炊務委員としてエッセン確保に走り回った苦労話や寮にあったオルガンへの思い出、あるいは子供に恵迪寮ゆかりの名前をつけた話。また、ラグビーに明け暮れた日々のこと。かたや恵迪寮のことにいっさいふれず、自分史を書いた文など、まさに玉石混交といった文集になりました。なお、各入寮年毎に刊行された文集から名編を数点と、昭和33－34年入寮者が行った座談会も収録しました。さらに、100年を記念した寮歌を作詞作曲して下さったＯＢもいました。

巻末には恵迪寮100年史をまとめました。カラー写真が豊富な、見ごたえあるもので、若松編集委員の力作。永久保存版として残せると思っています。

今号も締め切りを過ぎてからの原稿が多数あり、出来るかぎり掲載しましたが、編集・製本後の申し込みなど、やむを得ずカットしたものもあり、次号にはぜひ早目にご投稿下さい。

今号は100年記念祭などの行事を取り込むことになりました。このためカラーグラビアや式典のもようなどを取材後、追加掲載することになり、例年の発行日より大幅に遅れてＯＢの皆様のお手元に届く結果になったことを報告しておきます。

なお、佐伯北大総長をはじめ、関係者多数のご協力をあおぎましたことに深く感謝し、お礼申し上げます。

〔文責・「恵迪」部会長・平岡　義博（Ｓ33)〕

〔編集委員〕厚谷純吉（Ｓ30）高井宗宏（Ｓ31）河村征治（Ｓ32）高橋陽一（Ｓ30）
若松幹男（Ｓ33）大隈昭二（Ｓ40）佐藤静子（ラルズ）

恵迪百年記念号
平成19年9月

発行　恵迪寮同窓会
〒062－8611　札幌市豊平区平岸1条1丁目9－6
株式会社ラルズ内
☎011－815－6377
E-mail　keiteki.@spa.att.ne.jp

同窓会ホームページ
http://home.att.ne.jp/apple/Keitekiob/

発行者
恵迪寮同窓会・会長
中瀬篤信

印刷者　社会福祉法人
北海道リハビリー
〒061－1102　北広島市西の里507番地1
☎011－375－2116

健康って、おいしい。
MEIJI
明治乳業

健康は、届いていますか？

おいしさは、味わえましたか？

自然のちからを、未来のチカラへ。

明治乳業株式会社 代表取締役会長 中山 悠　〒136-8908 東京都江東区新砂1-2-10

豊かな大地に輝くかけ橋に

株式会社 ラルズ
札幌市豊平区平岸1条1丁目9番6号
☎(011)813-2525

株式会社 福原
帯広市西22条北1丁目13番地
☎(0155)37-3983

株式会社 ふじ
旭川市流通団地1条1丁目33番地1
☎(0166)47-2818

株式会社 道東ラルズ
北見市幸町3丁目3番3号
☎(0157)36-5121

株式会社 道北ラルズ
旭川市東光10条7丁目1番33号
☎(0166)33-1710

株式会社 ホームストア
室蘭市中島本町2丁目8番1号
☎(0143)44-4656

株式会社 道南ラルズ
函館市港町1丁目23番1号
☎(0138)40-2200

全道に広がる168店舗

ARCS アークスグループ

株式会社アークス　代表取締役社長　横山　清
札幌市豊平区平岸1条1丁目9番6号　TEL.011-820-3773

アークスグループは、企業(ARC)が集まって、大きな円となり、地域の豊かな生活に貢献します。
（A Always 常に　R Rising 上昇する　C Community 地域社会に　S Service 奉仕する）

〈関連会社〉
株式会社イワイ
株式会社エルディ
株式会社ライフポート
ホテル福原
アークストラベル